提出スヘシ）

第一條ノ三　郡部外ヨリ轉住シタル者ハ前條各號ノ外前住地及其ノ年度ニ於テ賦課セラレタル戸數割金額ヲ郡部外ニ轉住スル者ハ其ノ年月日及轉住先町村名ヲ其ノ都度町村長ニ届出ツヘシ

第一條ノ四　現住戸數割納稅義務者郡部内他町村ニ轉住スルトキハ其ノ年月日及轉住先町村名ヲ其ノ都度町村長ニ届出ツヘシ

第一條ノ五　戸數割納稅義務者ニシテ賦課期日後其ノ住家ノ場所及坪數ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度異動ノ事實ヲ町村長ニ届出ツヘシ

第一條ノ六　郡部府稅賦課規則第四條ノ九第二項又ハ第一條ノ二第三號但書ノ申請書ニハ年齡十四歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄及不具癈疾ノ事實ヲ記載スヘシ

第二條　營業稅又ハ雜種稅ヲ賦課セラルヘキ者新ニ營業ヲ開始シ物件船車ヲ除ク）ヲ所有シ場所ヲ設置シ行爲ヲ爲シ犬ヲ飼養シ又ハ建物ヲ使用スルトキハ左ノ事項ヲ記載シ即日所轄町村長ニ申告スヘシ增減廢滅其他異動ヲ生シタルトキ又ハ京都府郡部府稅賦課規則第二十八條ニ依リ府稅ヲ賦課セラレサルモノ新ニ賦課ヲ受クルニ至リタルトキ亦同シ

一　業名、類別、商品、職業ノ種類、場所

二　商業第一類第二類、工業、料理屋、飲食店、理髮人、海面及鰾臺網類以外ノ漁業採藻業ハ一ケ年ノ上リ金高卸賣小賣、手數料、貸料貸付金高ノ見積リ額但前年一月以降ニ於テ三ケ年以上同業ヲ營ミタルコトアル者ハ其營業中ノ上リ金高ヲ一ケ年ニ積算セル額

三　商業第一類及工業ハ從業者數、理髮人ハ助手ノ數但シ前年度中營業セシコトアル者ハ該年度中ニ於ケル從業者又ハ助手ノ數數ノ一定セス在リテハ最モ多キ共トキノ數以下同シ

四　湯屋ハ湯壺ノ内法平面坪數竝壺數藝妓ハ藝名生年月日雇仲居及酌婦ハ其ノ開業年月日水車ハ種類臼數杵數及電柱ハ其ノ種類數量私法人使用建物倉庫ハ其ノ位置構造用途間數坪數竝其ノ圖面金庫ハ其ノ外側容積（立方尺トシテ）

五　演劇興行遊覽所及臨時ニ開設スル一時限ノ人寄席ハ最高ノ觀覽料金

六　商業中寶藥請賣ハ方劑數第三類ハ寄寓藝妓ノ數

七　代書人ハ代書ヲ爲スヘキ事件ノ種別

八　飼犬ハ其ノ種類竝頭數

前項ノ申告ヲ爲シタルトキハ町村長ヨリ行商者、遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、幇間、藝妓、雇仲居及酌婦ニ在リテハ證票ヲ受ケ之ヲ携帶シ飼犬ニ在リテハ鑑札ヲ受ケ之ヲ飼犬ノ頸輪ニ附著スヘシ

證票、鑑札ヲ亡失毀損又ハ等級ノ變更其ノ他記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ町村長ニ申告シ再下付又ハ書換ヲ受クヘシ

證票及鑑札ハ其ノ町村ニ於ケル納稅關係ヲ脫シタルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第三條　前年十一月前ヨリ繼續セル商業、第一類、第二類工業、料理屋、飲食店、理髮人、海面及鰾臺網類以外ノ漁業採藻營業者ハ前年中ニ於ケル上リ金高貸付金高從業者又ハ助手ノ數代書人ハ前年中ニ爲シタル事件ノ種別ヲ每年一月三十一日限所轄町村長ヲ經由シ申告スヘシ營業稅法ニ依リ納稅ノ義務ヲ有セシ營業者課稅標準低減ノ爲メ府稅ノ賦課ヲ受クルコトヽナリタルトキ亦同シ

第四條　市場ハ手數料金高、火葬場ハ其上リ金高ヲ每翌月二日限廢業ノトキハ其際所轄町村長ヲ經由シ申告スヘシ

鰾臺網類漁業ハ漁獲ノ都度其上リ金高ヲ所轄町村長ヲ經由シ申告スヘシ

電柱稅ヲ賦課セラルヘキ私法人ハ每年四月一日十月一日現在ノ電柱ニ付

其ノ種類數量（電氣軌道鐵道ノ用ニ供スルモノト其ノ他ニ區分シ）ヲ其ノ月五日迄ニ電柱所在地町村長ニ申告シ每賦課期日前最近ノ決算ヲ賦課期日前十日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第五條　上リ金高貸付金高若ハ手數料ヲ課稅標準トシテ營業稅又ハ雜種稅ノ賦課ヲ受クヘキ者ハ帳簿ヲ備ヘ常ニ其ノ課稅標準トナルヘキ事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第六條　不動產取得稅ノ賦課ヲ受クヘキ者ハ不動產取得後五日以内ニ其ノ取得ノ原因、不動產ノ所在地、種類及賣買價格又ハ時價ヲ不動產所在地町村長ニ申告スヘシ但シ不動產登記法ニ依リ登記ヲ爲シタルモノハ此限ニ在ラス

第七條　府稅ノ賦課ヲ受クヘキ船舶（西洋形海蒸汽船、日本形積石五十石以上船、日本形ニアラサル帆裝船、西洋形川蒸汽船、日本形積石五十石未滿船、漁船、小廻船積石數ニヲ謂フ以下同シ）ヲ新ニ所有シ郡部外ヨリ轉入シ讓受ケ又ハ賦課ヲ受ケサルモノヲ賦課ヲ受クヘキ用途ニ變更シタル者ハ事實發生後五日以内ニ左記事項ヲ船籍港、定繫場、所轄町村長ニ申告スヘシ

一　新造、轉入、讓受又ハ用途變更年月日

二　船舶ノ種類、噸數、石數、間數ヲ課稅標準トスルモノニ在リテハ其ノ至艫梁内側ノ間數

三　番號又ハ名稱アルモノハ其ノ番號、名稱

四　船籍港、定繫場

五　他ノ法令ニ依リ行政廳ノ檢査ヲ受クルモノハ其ノ事實

前項第五號ニ該當スルモノハ其ノ檢査證書又ハ鑑札ヲ寫ヲ添付シ檢査證書又ハ鑑札ヲ呈示スヘシ

第八條　府稅ノ賦課ヲ受クヘキ車ヲ新ニ所有シ郡部外ヨリ轉入シ讓受ケ又ハ賦課ヲ受クヘキ事ヲ新ニ所有シ郡部外ヨリ轉入シ讓受ケ又ハ賦課ヲ受クヘキ用途ニ變更シタル者ハ事實發生後五日以内ニ左記事項ヲ所轄町村長ニ申告スヘシ

一　車（自轉車、自動自轉車、自動車ヲ除ク）ヲ修繕ノ爲メ烙印アル部分ヲ取替ヘタルトキ

二　車（自轉車、自動自轉車、自動車ヲ除ク）ヲ修繕等ニ依リ噸數、石數、間數ニ異動ヲ生シタルトキ

三　人力車又ハ自動車ノ自用營業用交互變更シタルトキ

前項ノ申告ヲ爲シタルトキハ船舶ニ付テハ鑑札ノ書換ヲ車（自轉車、自動自轉車、自動車ヲ除ク）ニ付テハ更ニ烙印ヲ受クヘシ但シ船舶ニシテ他ノ法令ニ依リ行政廳ノ檢査ヲ受クルモノハ此限ニ在ラス

第九條　前二條ニ依リ申告ヲ爲シタルトキハ町村長ヨリ船舶ニ付テハ鑑札ノ交付ヲ、自轉車、自動自轉車又ハ自動車ニ付テハ鑑札ノ附著ヲ、其ノ他ノ車ニ在リテハ烙印ヲ受クヘシ但シ船舶ニシテ他ノ法令ニ依リ行政廳ノ檢査ヲ受クルモノハ此限ニ在ラス

第十條　京都府郡部府稅賦課規則第二十八條ニ依リ府稅ヲ賦課セラレサル車ノ内自轉車、自動自轉車若ハ自動車ヲ新調シ又ハ郡部外ヨリ讓受ケタルトキハ所轄町村長ニ申告シ鑑札ノ附著ヲ受クヘシ鑑札ヲ亡失、毀損シタルトキ亦同シ

第十一條　左ノ場合ニ於テハ事實發生後五日以内ニ所轄町村長ニ申告スヘシ

一　船舶ノ種類ヲ變更シ又ハ修繕等ニ依リ噸數、石數、間數ニ異動ヲ生シタルトキ

二　車（自轉車、自動自轉車、自動車ヲ除ク）ヲ修繕ノ爲メ烙印アル部分ヲ取替ヘタルトキ

三　人力車又ハ自動車ノ自用營業用交互變更シタルトキ

前項ノ申告ヲ爲シタルトキハ船舶ニ付テハ鑑札ノ書換ヲ車（自轉車、自動自轉車、自動車ヲ除ク）ニ付テハ更ニ烙印ヲ受クヘシ但シ船舶ニシテ他ノ法令ニ依リ行政廳ノ檢査ヲ受クルモノハ此限ニ在ラス

第十一條ノ二　左ノ場合ニ於テハ事實發生後五日以内ニ所轄町村長ニ申告スヘシ其ノ事項他町村ニ渉ルトキハ新所轄町村長ニ申告スヘシ

一　船舶ノ船籍港又ハ定繫場ヲ變更シタルトキ

二　船車所有者ノ變更又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ

前項ノ場合ニ於テ船舶ニ在リテハ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ但シ他ノ法令ニ依リ行政廳ノ檢査ヲ受クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　鑑札又ハ烙印ヲ亡失、毀損シタルトキハ所轄町村長ニ申告シ更ニ鑑札ノ交付、附著又ハ烙印ヲ受クヘシ

亡失シタル鑑札ヲ發見シタルトキ又ハ毀損シタル鑑札ハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第十三條　船舶ノ鑑札ハ日本形小船ニ付テハ該船ニ釘付トシ其ノ他ノ船舶ニ付テハ常ニ該船ノ目易キ箇所ニ揭クヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ所轄町村長ニ申告シ其前ニ受ケタル鑑札ヲ返納シ又ハ烙印ノ取消ヲ受クヘシ

一　船車ヲ解廢シタルトキ

二　船舶ノ船籍港定繫場ヲ郡部外ニ變更シタルトキ

三　車ヲ郡部外ノ者ニ讓渡シタルトキ

四　車所有者ノ郡部外ニ轉居シタルトキ

自轉車、自動自轉車、自動車ノ鑑札ヲ取外ス必要アルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄町村長ニ申請シテ取外シヲ受クヘシ私ニ取外シタルモノ又ハ取外シタリト認ムルモノハ其鑑札ヲ無效トシテ沒收ス町村長ニ於テ取外シタルモノニテ其事故止ミタルトキハ町村長ニ申請シテ鑑札ノ付著ヲ受クヘシ

第十五條　船車ヲ亡失シ又ハ亡失シタル船車ヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ所轄町村長ニ申告スヘシ

船車ト共ニ亡失シタル鑑札ニシテ次ノ徵收期迄ニ發見セサルモノハ無效トス

第十六條　第十一條、第十一條ノ二、第十二條第十四條第十五條ノ申告書ニハ船車ノ名稱、種類、噸數、石數、間數、船籍港、定繫場等ヲ記載ス

船車所有者ノ變更ニ依リ申告スル場合ハ新舊所有者連署スヘシ

車ノ修繕其他烙印ノ取替ヲ請フ場合ハ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第十七條　郡部外ノ者ノ所有ニ係ル船車ヲ郡部内ノ者ニ於テ使用シ又ハ其使用ヲ廢シタルトキ及用途變更ノ爲メ府稅ヲ課セラルヽコトヽナリ又ハ課セラレサルコトヽナリタル船車ハ總テ新ニ所有シ又ハ解廢シタルモノト同一ノ例ニ依リ其手續ヲ爲スヘシ

第十八條　筏主又ハ木材ノ一本流シヲ爲ス者ニシテ筏改所若ハ町村役場（筏改所ヨリ上流ニ於テ解筏又ハ陸揚スルモノノ其解筏若ハ陸揚）地、淀川筏ノ其流出又ハ陸揚地所轄町村役場ヲ云フ以下同シ）所在地近傍ニ居住セサルトキハ流出前筏改所又ハ町村役場所在地近傍ニ納稅地ヲ定メ筏改所又ハ町村長（前割書ニ於ケル所轄ノ）（町村長ヲ云フ以下同シ）ニ届出ツヘシ

第十九條　筏ヲ流出スルトキ又ハ木材ノ一本流シヲ爲ストキハ北桑田郡地内ニ於テ村木ヲ陸揚スル　別紙第一號又ハ第二號樣式ノ届書ニ送狀（大堰川筏ヲ艤峨モノハ除ク　筏改所ニ於テ檢査ヲ受ケ其儘淀川筏トシテ流下スルモノハ其檢査濟證ヲ添附）ヲ添ヘ筏改所又ハ町村長ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第二十條　郡部外ノ者ニシテ郡部内ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件又ハ郡部内ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル所得ニ對シ國稅所得稅ヲ納ムヘキ義務アル者及部内ノ者ニシテ郡部外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件又ハ郡部外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル所得ニ對シ國稅所得稅ヲ納ムヘキ義務アル者ハ執レモ所得金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其土地家屋物件營業所ノ所在地及其種類別ノ所得金額ヲ詳記シ前者ハ其所得ノ屬スル地ノ町村長ニ後者ハ其住居地ノ町村長ニ之ヲ届出ツヘシ但大正三年十月京都府令第六十七號ニ依リ届出ヲ要スルモノハ此限ニ在ラス

〔京都警〕

第二十一條　郡部ノ内外ニ渉ル鑛區ニ對シ鑛區稅ヲ納ムヘキ義務アル者ハ鑛區稅納付ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ稅額及鑛區ノ屬スル地表ノ面積ヲ郡部ノ内外ニ區分シ鑛區所在地ノ町村長ニ届出ツヘシ

第二十二條　五月一日ニ於テ郡部内ニ住所ヲ有シ若ハ滯在三ケ月以上ニ及ヒタル者ニシテ府稅所得稅ヲ賦課セラルヘキ所得アル者ハ其種類金額ヲ詳記シ同月三十一日限町村長ニ届出ツヘシ

前項ノ者ニシテ五月二日以降住所滯在ニ異動ヲ生シ又ハ九月三十日以前ニ於テ所得金半額以上減損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ直ニ町村長ニ届出ツヘシ

第二十三條　（削除）

第二十三條ノ二　府稅ヲ賦課セラルヘキ船車ニ對シテハ毎年一回以上其船車體ノ檢査ヲ行フモノトス

前項ニ依ル檢査ノ通知ヲ受ケタル船車所有者又ハ使用者ハ知事ノ指定スル場所ニ於テ檢査ヲ受クヘシ

第二十三條ノ三　本則中自轉車ニ關スル規定ハ犬ニ付之ヲ準用ス

第二十四條　前條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第二十五條　本則ハ明治四十年度ヨリ施行ス

第二十六條　明治三十年二月府令第十五號郡部地方稅納人心得及明治二十九年十二月府令第六十九號郡部船車稅納人心得ハ廢止ス

第二十七條　本年三告示第百四十號ニ依リ名稱ノ變更スル車ハ本則施行後三十日以内ニ郡長ニ届出烙印ノ取替ヲ受クヘシ

（樣式略ス）

●警察上取締ニ屬スル納稅諸營業

第二編　保安　第十一章　租稅　賦金

●賦金徵收規則

認可ノ場合（郡）區役所ヘ通知ノ件

明治三十一年九月訓示第一〇〇號

明治二十年四月四日本甲第五〇號ヲ廢シ自今警察上取締ニ屬スル各種ノ營業ニシテ納稅スヘキモノヲ認許シタル時ハ其都度營業ノ種類及住所氏名等ヲ所轄郡區役所ヘ通知スヘシ

●府稅其他滯納者ノ住所取調ノ件

明治三十九年四月警令第一九五七號

府稅其他府ノ收入ヲ滯納セル者ニシテ住所又ハ居所不明ナルカ爲メ督促狀ノ送達若クハ處分ノ執行ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ郡市役所ハ警察署若クハ警察分署ニ其住所居所ノ調査ヲ依囑シ警察署分署ニ於テ右依囑ヲ受ケタルトキハ出來得ル限リ調査ノ上成ルヘク速ニ其結果ヲ回報セラレ度依命此段及通牒候也

●府稅、使用料ノ不正免脫ニ關スル過料ノ件

大正十五年九月十七日京都府令第百七十三號

府稅、使用料ノ不正免脫ニ關スル過料ノ件府縣制第六十八條第二號ニ依リ郡部參事會ノ議決ヲ經テ左ノ通定ム

詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ府稅ヲ逋脫シタル者ニ對シテハ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脫シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）ノ過料ヲ科ス

明治三十三年十一月十四日
京都府令第百四號

改正　明治三四年京都府令第三一號、三六年第一二號、大正四年第七號、五年第八號、六年第一三號、八年第一七號、一三年第三五號、一五年第八七號

第一條　貸座敷、娼妓ハ此ノ規則ニ從ヒ賦金ヲ納ムヘシ

第二條　貸座敷ハ左ノ二種ニ別ツ

第一種　客ヲシテ遊興セシムルモノ

第二種　客ヲシテ遊興セシメサルモノ

前項第一種ノモノハ上リ金高ニ依リ等級ヲ定メ其ノ藝妓娼妓ヲ寄寓セシムル者ハ尙ホ其ノ寄寓藝妓娼妓數ニ依リ第二種ノ者ハ單ニ寄寓藝妓娼妓數ニ依リ賦金ヲ徵收ス

第三條　賦金額ハ別表ニ於テ之ヲ定ム

第四條　第一種貸座敷ノ等級ハ每年度之ヲ定ム其ノ標準トナスヘキ上リ金高ハ左ノ區分ニ依ル

一　前年一月以前ヨリ引續キ營業セル者ハ前年一月ヨリ十二月迄一ヶ年分ノ額

二　前年十月以前ヨリ引續キ營業セルモノハ開業ノ月ヨリ前年十二月迄ノ上リ金高ヲ一ヶ年ニ積算シタル額

三　前年十一月以後開業引續キ營業セル者ハ開業ノ際見積リタル額

四　新規開業ノ者ハ一ヶ年見積リ額但シ前年一月以後ニ於テ三ヶ月以上營業シタル者ナルトキハ其ノ營業中ノ金高ヲ一ヶ年ニ積算シタル額

第五條　前條第一第二ノ上リ金高ハ每年一月三十一日限リ第四ノ上リ金見積リ高ハ開業ノ際市部ニ在リテハ貸座敷營業者組合事務所ヲ經由シ市長ニ郡部ニ在リテハ同組合事務所及町村長ヲ經知事ニ屆出ツヘシ但シ第二種貸座敷ニ在リテハ開業ノ際本條ノ例（郡部ノ第二種貸座敷ニ在リテハ町村長）ニ依リ其ノ事實ヲ屆出ツヘシ

〔京都警〕

前項ノ屆出ヲ爲ササル者又ハ屆出高不相當ト認ムルトキハ知事市長ニ於テ之ヲ認定スヘシ

第六條　第一種貸座敷廢業ノ後一年以內ニ再ヒ同業ヲ營ムトキハ推定ヲ以テ等級ヲ定ム

第一種貸座敷廢業ノ後其ノ家族又ハ他人之ヲ繼續シ若ハ繼續ト認ムヘキ事實アルモノハ總テ本人ノ再開業ト同視シ第四條及本條第一項ニ依リ等級ヲ定ム

第七條　貸座敷ニシテ種類ヲ變更シタルトキハ其ノ上リ金高ニ對シテハ開廢業者ノ例ニ依ル

第八條　賦金ハ每月五日限リ（五日以前廢業ノ者ハ廢業ノ際、新規開業ノ者ハ開業ノ際、貸座敷ニシテ藝妓娼妓ヲ寄寓セシメタルトキハ其ノ際）第十二條免除ノ如何ニ拘ハラス納付スヘシ但シ當日休暇日ナルトキハ其ノ翌日限リ納付スヘシ

第十二條ニ依リ全月免除セラルヘキ事實ノ判明セルモノニ在リテハ市町村長ノ指示ニ依リ前項ノ期日ニ納付セサルコトヲ得

第九條　賦金ハ其月半途開業又ハ廢業スルモ全月分ヲ徵收ス

第十條　娼妓逃亡シ其ノ月內ニ復歸セサルトキハ之ヲ廢業ト同視シ翌月以降ニ於テ復歸シタルトキハ之ヲ開業ト同視シ賦金ヲ徵收ス

第十一條　賦金ヲ期日ニ完納セサルトキハ其ノ業ヲ停止ス

第十二條　娼妓檢査ヲ受ケ八阪病院又ハ娼妓檢査所附屬病室ニ入リ若ハ自宅又ハ寄寓所ニ於テ治療ヲ命セラレ休業シタル者及稼業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ日數ニ應シ日割ヲ以テ其ノ月ノ賦金ヲ減額ス其全月ニ涉リタル者及疾病其他ノ事故ニ依リ全月休業シタル者ハ其ノ月分ノ賦金ヲ免除ス本項ノ事故交互繼續シ全月ニ涉リタル者亦同シ

前項ニ依リ全額ヲ免除スル場合ニ在リテハ貸座敷賦金ノ內其ノ娼妓ニ係ル分モ亦之ヲ免除ス

〔京都警〕

第十三條　前條ニ依リ減免セラレタル者ハ既納金ノ下戾ヲ市部ニ在リテハ市長郡部ニ在リテハ町村長ヲ經知事ニ請求スヘシ

第十四條　此規則ニ於テ開業ト認ムルハ貸座敷ニ在リテハ許可ノ日（特ニ開業ノ日ヲ指定シテ許可ヲ受ケタルモノハ其ノ指定ノ日）娼妓ニ在リテハ娼妓名簿ニ登錄ノ日廢業ト認ムルハ貸座敷ニ在リテハ廢業屆出ノ日娼妓ニ在リテハ娼妓名簿削除ノ日ヲ以テス

附則

第十五條　本令ハ本年十一月府令第百號貸座敷取締規則施行ノ日ヨリ施行ス

第十六條　貸座敷取締規則第二十四條ニ係ルモノニ對スル本月分賦金ハ該規則施行ノ爲メ此際更ニ徵收セス

賦金額

貸座（名稱：京都）

等級	一ヶ年上リ金高	一ヶ月賦金　甲區	一ヶ月賦金　乙區
一等	四千圓以上	拾貳圓五拾錢	拾圓
二等	參千圓以上	拾壹圓七拾錢	九圓貳拾錢
三等	貳千五百圓以上	拾圓	八圓四拾錢
四等	貳千圓以上	九圓貳拾錢	七圓六拾錢
五等	千七百圓以上	八圓四拾錢	六圓八拾錢
六等	千參百圓以上	七圓六拾錢	六圓
七等	千圓以上	六圓八拾錢	五圓四拾錢
八等	八百圓以上	六圓	四圓八拾錢
九等	七百圓以上	五圓四拾錢	四圓貳拾錢
十等	六百圓以上	四圓八拾錢	參圓六拾錢

座敷（名稱：市各郡）

等級	一ヶ年上リ金高	一ヶ月賦金
一等	五千圓以上	七圓七拾錢
二等	參千圓以上	六圓五拾錢
三等	千圓以上	五圓五拾錢
四等	七百圓以上	四圓五拾錢
五等	五百圓以上	參圓八拾錢
六等	四百圓以上	參圓
七等	參百五拾圓以上	貳圓五拾錢
八等	貳百圓以上	貳圓
九等	貳百圓未滿	壹圓五拾錢

上リ金高六千圓ヲ超ユルモノハ一ヶ月ニ付其ノ超過金額ノ千分ノ二ヲ增加ス

十一等	五百圓以上	四圓貳拾錢	參
十二等	四百圓以上	參圓六拾錢	貳圓拾六錢
十三等	參百圓以上	參圓	貳圓貳拾錢
十四等	貳百圓以上	貳圓六拾錢	壹圓八拾錢
十五等	貳百圓未滿	貳圓貳拾錢	壹圓四拾錢

上リ金高四千圓以上ハ壹千圓ヲ加フル毎ニ一箇月甲區ハ金四圓乙區ハ金貳圓八拾錢ヲ增加ス

藝妓娼妓ヲ寄寓セシムル者ハ藝妓娼妓一人ニ付一箇月金四拾錢

娼妓	一人一箇月ニ付金四圓五拾錢	藝妓娼妓ヲ寄寓セシムル者ハ藝妓娼妓一人ニ付一ケ月金四拾錢
	一人ニ付一ケ月金四圓	

一甲區トハ大和大路通四條以北、四條通八坂神社門前以西及新寺町通ヲ云フ
一乙區トハ甲區以外ノ場所ヲ云フ
一甲區內ノモノト雖トモ表家ニアラサルモノハ乙區ノ額ヲ賦ス
一甲乙兩區間相互移轉ノ場合ニ在リテハ日割ヲ以テ兩區分ヲ賦ス

（京都警）

●賦金徵收事務取扱手續

明治三十三年十一月十四日
京都府訓令第百十八號

改正　明治三四年京都府訓令第二四號、三六年第三九號、大正六年第一一號、八年第六號、一五年第一四號

警察署　八阪病院　娼妓檢査所　市役所
町村役場

第一條　貸座敷、娼妓ノ開業、廢業、休業、復業、轉居、代替、改名、逃亡、復歸若ハ所在發見、入院、退院、入所、退所ノ場合及自宅又ハ寄寓所ニ於テ治療ヲ命シ若ハ之レカ止ミタル場合ハ其ノ年月日及住所、氏名、寄寓主（執レモ新舊共）ヲ其ノ主管ノ署、院、所ヨリ直ニ關係市役所町村役場ニ通知スヘシ

第二條　市町村長ハ規則第五條ノ屆出及知事ノ通知若ハ前條ノ通知竝ニ藝妓營業根帳ニ基キ別紙第一號式第二號式ノ帳簿ヲ整理スヘシ

第三條　賦金ヲ徵收スルハ聞收入收納ノ手續ニ依ルヘシ

第四條　賦金ヲ期日ニ完納セサル者アルトキハ其ノ旨所轄警察署長（又ハ分署長）ニ通知スヘシ但シ廢業者ハ此限ニアラス

警察署長又ハ（分署長）ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ現ニ營業セル者ニ在リテハ直ニ休業者ニ在リテハ復業ノ際其ノ營業ノ停止方ヲ知事ニ具申スヘシ

前項ニ依リ營業ヲ停止セラレタルトキハ其旨市長ニ通知スヘシ

第五條　賦金滯納者ニシテ其ノ業ヲ停止セラレタル後五日ヲ經ルモ仍ホ納付セサルトキハ滯納處分ニ著手スヘシ

廢業其ノ他滯納ノ當時現ニ營業セサル者ニ在リテハ前項ニ依ラス直ニ滯納處分ニ著手スヘシ

第六條　第四條第一項ノ通知ヲ爲シタル者其ノ後滯納金ヲ完納シタルトキ若ハ滯納處分結了シタルトキハ市長ハ其ノ旨更ニ警察署長（又ハ分署長）ニ通知スヘシ

警察署長（又ハ分署長）ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ營業停止ノ解除方ヲ知事ニ具申スヘシ

前項ニ依リ營業停止ヲ解除セラレタルトキハ其ノ旨市長ニ通知スヘシ

第七條　市長ハ滯納處分整理簿ヲ設ケ滯納處分ニ係ル事項ヲ整理スヘシ

前項ノ整理簿ハ府稅滯納處分整理簿ニ準シ調製スヘシ

第八條　規則第五條第二項ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ其ノ認定額ヲ營業者ニ通知スヘシ

第九條　市町村長ハ每年四月、十月ノ各五日限リ第三號式ノ報告書ヲ知事ニ提出スヘシ

第九條ノ二　京都府郡部府稅徵收細則第一條第九條第十五條第十六條第十九條第二十條ノ規定ハ郡部ノ賦金徵收ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第十條　本令ハ本年十一月　府令第百四號賦金徵收規則施行ノ日ヨリ施行ス

（樣式略ス）

（京都警）

●賦金徵收ニ關スル件

大正五年四月
保第三〇九二號

從來貸座敷又ハ娼妓カ營業又ハ稼業ノ場所ヲ變更セムトスル場合ニ於テ賦金徵收事務取扱手續ニ依ル關係郡市長ニ對スル警察署長ヨリノ通知ハ其ノ場所ノ變更カ警察署ノ管轄ヲ異ニスル時ハ舊管轄警察署ニ於テハ之ヲ廢業トシ新管轄警察署ニ於テハ之ヲ開業トシ又其ノ通知ニ接シタル郡市長ニ於テハ賦金徵收規則第九條ニ依リ御取扱相成居候趣ニ候處斯テハ貸座敷又ハ娼妓ハ營業又ハ稼業ヲ中斷スルコトナク單ニ其ノ場所ヲ變更スルノミニシテ同一警察署內ニ於ケル變更ノ場合ト其ノ事情毫モ選フ所ナク警察署ノ管轄ヲ異ニスルノ一事ヲ以テ二重ニ賦金ヲ徵收スルハ甚タ酷ニ失スルノ嫌有之候條自今前記營業又ハ稼業ノ場所變更ノ場合ニ於テハ左ノ通御取扱相成度此段及通牒候也

左記

一、舊營業又ハ稼業地管轄警察署ハ移轉ノ通知ヲ爲スコト
一、新營業又ハ稼業地管轄警察署ハ移轉開業ノ通知ヲ爲スコト
一、前二項ノ通知アリタル場合ニ於テハ舊營業又ハ稼業地ヲ管轄スル郡區役所ハ賦金徵收ノ濟否ヲ新營業又ハ稼業地ヲ管轄スル郡區役所ニ通知シ徵收未濟ニ屬スル分ニ對シテハ新管轄郡役所ニ於テ徵收スルコト
一、從前ノ通牒等ニシテ本通牒ト接觸スルモノハ總ヘテ取消シタルモノトス

第三編　衞生

防疫
醫藥
一般衞生

第一章　防疫

第一節　傳染病豫防

●傳染病豫防法施行細則

大正十四年十二月一日
京都府令第九十五號

改正　大正一五年京都府令第一二七號

傳染病豫防法施行細則左ノ通改正ス

傳染病豫防法施行細則

第一條　醫師傳染病豫防法（以下單ニ法ト稱ス）第三條ニ依リ届出ヲ爲ストキハ第一、二號樣式ニ輸歸ノ場合ニハ第三、四號樣式ニ依ルヘシ

法第四條ニ依ル届出義務者ハ第一、二號樣式ニ準シ届出ツヘシ

第二條　傳染病豫防法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第八條ノ檢査ヲ請求セムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ居住地ノ市町村長又ハ警察官署長ニ提出スヘシ

一　病原體保有者ノ住所、氏名、職業、年齢（未成年者、禁治産者ニ在リテハ保護者トノ關係及其ノ住所、氏名）

二　病原體名

三　材料採取ノ日時

第三條　醫師左記傳染病患者ノ診察又ハ治療ニ從事スルトキハ主要症狀消退ノ日時ヲ記錄シ置キ當該吏員ノ請求アルトキハ之ヲ呈示スヘシ

一　赤痢

二　腸「チフス」、「パラチフス」

三　「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎

第四條　醫師左記傳染病患者ノ診察又ハ治療ニ從事シ自ラ病原體保有者ノ決定ヲ爲ササル場合ニハ其ノ傳染病ノ主要症狀消退後治癒ノ届出ヲ爲サムトスル日ヨリ四日前迄ニ到著スル樣送致ノ二日前ノ期間內ニ於テ患者ニ就キ規則第九條第二項ニ規定セル檢査材料ヲ採取シ第五號樣式送付書ヲ添ヘ之ヲ京都府細菌檢査所ニ送致スヘシ但シ特ニ指定シタル市町村傳染病院若ハ隔離病舍アルトキハ之ニ送致スルヲ妨ケス

一　赤痢

二　腸「チフス」、「パラチフス」

三　「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎

前項本文ニ依ル檢査材料ヲ細菌學的檢査ヲ爲シ得ルモノト認定シタル公私立病院其ノ他ニ於テ檢査ヲ受ケタルモノハ當廳ノ檢査ヲ經タルモノト看做ス

第一項但書ノ指定又ハ前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ別ニ之ヲ告示ス取消シタルトキ亦同シ

第五條　前條第二項ノ認定ヲ受ケムトスル者ハ左記事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由シ願出ツヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　檢査所ノ名稱、位置、建物ノ構造、敷地ノ坪數及圖面

二　檢査スヘキ病原體名、檢査ノ方法、檢査ノ手數料

三　檢査所經營者及主任技術者ノ氏名、履歷

必要ト認ムルトキハ前項ノ認定ヲ取消スコトアルヘシ

第六條　傳染病患者アリタルトキハ市町村長ハ左記ニ依リ規則第九條第二項ノ檢査材料ヲ採取シ第五號樣式送付書ヲ添ヘ京都府細菌檢査所ニ送致シ檢査ヲ受クヘシ

一　「コレラ」ニ付テハ遮斷區域及豫防區域內居住者全部
二　前號以外ノ傳染病ニ在リテハ患者ノ家族
三　病毒ニ感染ノ疑アリト認ムル者

第七條　赤痢、腸「チフス」又ハ「パラチフス」ノ患者規則第三十一條第二號若ハ第三號ノ業務、猩紅熱、「ヂフテリア」又ハ流行性腦脊髓膜炎ノ患者同條第一號ノ業務ニ從事セムトスル場合ニハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　患者ノ住所、氏名、年齡
二　病名、病原體名
三　業務ノ種類
四　從事セムトスル事由
五　病毒傳播防止ノ方法

第八條　「コレラ」、痘瘡、發疹「チフス」又ハ「ペスト」ノ患者アリタルトキハ顏死ノ場合ヲ除クノ外警察官署長ハ市町村長又ハ豫防委員ニ指示シ之ヲ傳染病院、隔離病舍若ハ規定ノ設備アル病院ニ收容セシムヘシ
前項以外ノ傳染病患者アリタルトキ左ノ各號ノ一ニ該ル場合亦同シ但シ土地僻陬人家隔絕シ病毒傳播ノ虞ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
一　患者ヲ隔離スヘキ適當ナル別棟又ハ專用スヘキ室ヲ有セサルモノ
二　患者及看護人ノ專用スヘキ庖厨、便所ノ設備ナキモノ
三　患者ノ專用スヘキ家具、什器ヲ有セサルモノ
四　患家不潔又ハ濕地ニシテ病毒傳播ノ虞アリト認ムルモノ
五　主治醫ナキモノ
六　專ラ從事スヘキ看護人ナキモノ
七　家人豫防方法ヲ遵守セサル虞アルモノ又ハ多數ノ家族同居人ヲ有シ若ハ幼少老衰者等アリテ的確ナル豫防消毒方法行ハレ難シト認ムルモノ

第九條　傳染病患者ヲ自宅其ノ他ノ場所ニ於テ治療セムトスルトキハ事由ヲ具シ所轄警察官署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　前條ニ依リ自宅治療ヲ爲ス場合ニハ左記事項ヲ遵守スヘシ

一　病室ニハ看護人ノ外可成他人ヲ出入セシメサルコト
二　病室內ニ於テハ患者以外ノ者ニ飮食セシメサルコト
三　患者ノ用ニ供セシ飮食器具及病毒ニ汚染シタル物件ハ其ノ都度消毒スルコト
四　患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ハ不滲透質ノ容器ニ收メ其ノ都度消毒スルコト
五　病室ニハ蚊、蠅其ノ他昆蟲類ヲ驅除スル裝置ヲ施スコト
六　病室內ノ塵芥ハ一定ノ場所ニ於テ燒却スルコト
七　患者ノ使用シタル湯水、汚物ヲ洗濯シタル汚水、飮食物ノ殘餘ハ消毒ノ上一定ノ場所ニ投棄スルコト

第十一條　規則第三十二條第一號ニ依ル認可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ住所、氏名、年齡、病名及移轉ノ事由、移轉スヘキ地名、年月日時、通路竝引受者ノ住所、氏名ヲ具シ當該吏員ニ願出ツヘシ
規則第十二條ニ依リ「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者其ノ居住ノ場所ヲ他ニ移サムトスルトキノ屆出事項亦前項ニ同シ

第十二條　規則第三十二條第二號又ハ第三號ニ依リ使用、授與、移轉、遺棄、洗濯又ハ埋葬セムトスル場合ニハ左ノ事項ヲ具シ當該吏員ニ願出ツヘシ

一　使用、授與、移轉、遺棄、洗濯又ハ埋葬セムトスル事由
二　授與先、移轉先又ハ引受者ノ住所、氏名、年齡

三　遺棄、洗濯又ハ埋葬ノ場所
四　病毒傳播防止ノ方法

第十三條　傳染病死者ノ土葬ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一　壙穴ノ深サハ地面ヨリ棺蓋迄五尺以上タルコト
二　棺ハ厚サ一寸以上ノ釉藥ヲ施シタル有蓋甎ヲ用キ又ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ造リ之ヲ密閉スルコト
三　埋棺ノ周圍ハ一尺以上石灰ヲ以テ之ヲ塡充スルコト

第十四條　法第八條及第十九條第二號ニ依リ交通ヲ遮斷シタルトキハ當該吏員ハ適當ノ場所ニ之ヲ標示スヘシ

第十五條　自宅治療中ノ患者、家族、同居者、看護人第四條ノ檢査材料ノ採取ヲ拒ミ又ハ第十條ニ違反シ其ノ他病毒傳播ノ虞アリト認ムルニ至リタルトキハ第九條ノ許可ヲ取消シ規則第二十八條、第三十八條ニ依リ之ヲ處置スヘシ

第十六條　市町村ハ傳染病院ヲ設置スヘシ
市町村ノ狀況ニ依リ傳染病院ヲ設置スルコト能ハサル場合ニハ隔離病舍ヲ設置スヘシ
必要ト認ムルトキハ隔離所又ハ消毒所ノ設置ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條　傳染病院又ハ隔離病舍若ハ隔離所、消毒所ヲ建設セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　建設地及地名、地番、地目、段別等ヲ記入セル圖面及近隣三町以內ノ見取圖
二　敷地、建物及溝渠ノ配置平面圖
三　建物ノ平面及斷面圖
四　建物及溝渠等ノ構造方法書
五　使用水ノ水質試驗成績書

六　建設費豫算仕譯書

改築、增築、移轉又ハ模樣替其ノ他ノ修繕ニシテ一廉ノ工費百圓以上ヲ要スルトキ亦前項ニ準ス但シ此ノ場合ニ於テハ工事ニ關係ナキ部分ノ書類及圖面ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第一項第二項ノ工事落成シタルトキハ屆出檢査ヲ受ケ使用ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　傳染病院ノ建物ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一　重症患者室
二　輕症患者室
三　快復期患者室
四　疑似症患者室
五　附添人用食堂、醫員、事務員ノ詰所、調劑所、使夫詰所、炊事場及其ノ附屬浴場竝便所
六　消毒場（未消毒品置場、既消毒品置場ニ區別スルコト）
七　食器消毒場
八　洗濯場
九　浴場（患者用）
十　屍室
十一　汚物置場及燒却所
十二　物置場
十三　井戸（炊事用、病室用ニ區別スルコト）

前項第一號乃至第四號ノ建物ハ可成別棟トシ各別ニ便所ヲ設ケ適當ノ位置ニ看護人詰所ヲ設クヘシ

第十九條　傳染病院ノ位置及構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　土地高燥ニシテ患者ヲ運搬スルニ便利ナル場所

二　周圍ハ高サ六尺以上ノ柵又ハ牆壁ヲ設ケ門戸ニ相當ノ締リヲ施スコト

三　病室ノ床下及屍室ノ床ハ「コンクリート」、「セメント」、漆喰叩等不滲透質ノ材料ヲ以テシ適當ノ勾配ヲ附シ消毒及汚水ノ流出ニ便ナラシムルコト

四　炊事場ハ病室ヨリ相當隔絶スルコト

五　病室ニハ適當ノ場所ニ手洗場及洗面場ヲ設クルコト

六　病室内ノ側壁ハ板張、「セメント」塗其ノ他適當ナル構造トナシ消毒洗滌ニ便ナラシムルコト

七　汚水溜及汚水溝ハ不滲透質材料ヲ以テ築造シ覆蓋ヲ設クルコト

第二十條　隔離病舍ハ前二條ヲ參酌シ適宜設備ヲ爲スヘシ

第二十條ノ二　傳染病院又ハ隔離病舍若ハ隔離所、消毒所ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　知事ハ傳染病院、隔離病舍、隔離所、消毒所ニ對シ傳染病豫防上必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　傳染病院又ハ隔離病舍ヲ開始シタルトキハ市町村長ハ左ノ人員ヲ置クヘシ

一　醫　師　若干名
二　調劑員　若干名
三　事務員　若干名
四　看護婦但シ患者五人毎ニ一人以上ヲ置クコト
五　小　使　若干名
六　炊事人　若干名
七　消毒人夫　若干名

隔離病舍ニ在リテハ前項第二號、第六號及第七號ヲ置カサルコトヲ得

〔京都警〕

第二十三條　市町村ハ傳染病豫防救治ノ爲メ市町村醫ヲ置クヘシ

市町村長ハ市町村醫ノ住所氏名ヲ當廳ニ届出且之ヲ所轄警察官署ニ通報スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第二十四條　管理者ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ傳染病院、隔離病舍、隔離所、消毒所ニ出入シ又ハ飲食物、飲食器具其ノ他ノ物品ヲ搬入出スルコトヲ得ス

第二十五條　警察官署長ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ左ノ各號ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一　傳染病ノ疑アル患者死者若ハ病毒感染ノ疑アル者、規則第三十一條所定ノ業務ニ從事スル者又ハ傳染病患者發生シタルトキ必要ト認ムル區域内ニ於ケル居住者ニ對シ健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

二　傳染病ノ病原體保有者又ハ「ペスト」、「コレラ」、赤痢、腸「チフス」、「パラチフス」、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎ノ疑アル患者若ハ其ノ保護者ニ對シ細菌學的檢査材料ノ提出ヲ命シ又ハ直接之ヲ採取スルコト

三　一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ五日以内制限若ハ停止スルコト

前項第一號、第二號ノ場合ハ市町村醫ヲシテ之ニ從事セシムルコトヲ得

第二十六條　住宅居住者ハ毎年一回五月ヨリ十月ニ至ル期間内ニ市町村長ノ指定スル日時ニ於テ規則第十八條ニ定ムル方法ニ依リ清潔方法ヲ施行スヘシ但シ居住者ナキ住宅、宅地若ハ共同便所其ノ他ノ箇所ハ其ノ所有者若ハ管理者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十七條　市町村長ハ當廳ノ指示アリタルトキハ臨時當該市町村内ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

〔京都警〕

第二十八條　警察官署長及市町村長ハ清潔方法施行ノ場合ニハ警察官吏、市町村吏員ヲシテ監視セシメ當該吏員不完全ト認ムルトキハ期日ヲ指定シ再施行ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　市町村ハ何時タリトモ清潔方法、消毒方法及昆蟲等ノ驅除ノ施行ニ差支ナキ樣常時消毒藥品、消毒ニ關スル器具類ヲ備ヘ且消毒人夫其ノ他ノ消毒設備ヲ爲シ置クヘシ

第三十條　法第二十一條第五號ニ關シテハ其ノ事由及金額ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條　檢疫委員ノ職務章程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十二條　第二十四條ノ規定ニ違反シタル者、第二十五條第一號第二號ノ命令若ハ處分ヲ拒ミタル者、同條第三號ノ命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十三條　既設ノ傳染病院、隔離病舍ニシテ第十八條、第十九條ノ規定ニ適合セサルニ至リタルモノ又ハ豫防救治上支障アリト認メタルモノニ對シテハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ隔離所、消毒所ニシテ支障アリト認メタルトキ亦同シ

附　則

第三十四條　第四條及第六條（第一號ヲ除ク）ハ當分ノ中左ノ地域ニ限リ之ヲ適用ス

京都市
愛宕郡（久多村、花脊村ヲ除ク）
葛野郡
乙訓郡
紀伊郡
宇治郡（笠取村ヲ除ク）
久世郡
綴喜郡
南桑田郡（畑野村、樫田村ヲ除ク）
相樂郡木津町、棚倉村、祝園村
何鹿郡綾部町
加佐郡中舞鶴町、舞鶴町、新舞鶴町
船井郡園部町、八木町、須知町、園部村、桐ノ庄村
與謝郡宮津町
天田郡福知山町

第三十五條　本令施行前認可ヲ受ケタル傳染病院、隔離病者、隔離所、消毒所ハ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ傳染病院ニ在リテハ大正十七年十二月末日迄ニ第十八條、第十九條所定ノ設備ヲ爲ササルモノハ爾後隔離病舍ト看做ス

第三十六條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條　左ノ府令ハ之ヲ廢止ス

明治十八年京都府甲第百六十四號傳染病吐瀉排泄物取締ノ件
明治三十年京都府令第六十號傳染病豫防法施行細則
明治三十年京都府令第百九十二號清潔法施行規則
明治三十五年京都府令第五十號ペスト病疑似症ニ傳染病豫防法全部適用ノ件
明治三十五年京都府令第五十一號鼷鼠捕鼠取扱方
大正五年京都府令第四十六號虎列剌疑似症ニ傳染病豫防法全部適用ノ件

第三編　衛生　第一章　防疫

第一號樣式

傳染病患者診斷發生屆

病名
發病月日
初診月日時
死體檢案月日時
診斷月日時
右及御屆候也
年月日
備考

氏名年齡
職業別
現住所
發病地
戶主氏名職業及續柄
郡（市）町（區村）大字　番地
醫師（屆出義務者）氏　㊞

〔京都醫〕

第二號樣式

菌保有者診斷發生屆

病原體名
材料種別
採取月日時
檢查月日
主要症狀消退月日時

氏名年齡
住所
職業別

第三號樣式

傳染病患者轉歸屆

病名
診斷月日
轉歸別
右及御屆候也
年月日
備考

現住所
氏名
轉歸月日時
郡（市）町（區村）大字　番地
醫師　氏　㊞

〔京都醫〕

檢查ノ成績
檢查ノ場所
屆出又ハ通知月日
右及御屆候也
年月日
備考

發生地
戶主氏名職業及續柄
郡（市）町（區村）大字　番地
醫師（屆出義務者）氏　㊞

第四號樣式

病原體保有者轉歸屆

病原體名		現住所	
決定月日		氏名年齡	
消失月日		檢査回數	

右及御屆候也

郡(市)　町(區村)大字　番地

醫師　氏　名㊞

備考

第五號樣式

檢査材料送付書

年月日

醫師　住所　氏　名㊞

市町村　名㊞

病原體名	材料種別	採取月日時	主要症狀消退月日時	患者 病原體保有者 注意患者 健康者 等ノ別	住所	職業 氏名 年齡	檢査回數

〔京都警〕

備考

〔京都警〕

●傳染病豫防法施行手續

大正十四年十二月一日
京都府訓令第三十號

改正　大正一五年京都府訓令第三七號

警察部　警察署　市役所　町村役場

傳染病豫防法施行手續左ノ通改正ス

傳染病豫防法施行手續

第一條　當該吏員傳染病豫防法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第一條ニ依リ書面ヲ以テ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ餘白ニ受理ノ年月日時及官公職、氏名ヲ記錄捺印シ豫防委員ハ市町村長ニ、警察官吏ハ警察官署長ニ進達スヘシ

口頭ヲ以テ屆出ヲ受ケタルトキハ細則第一號乃至第四號樣式ノ事項ヲ錄取シ前項ニ準シ取扱ヲ爲スヘシ

第二條　市町村長又ハ警察官署長ハ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ又ハ傳染病豫防法（以下單ニ法ト稱ス）第一條第二項ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀竝發生蔓延ノ狀況等ヲ詳具シ且法中其ノ適用スヘキ規定及適用スヘキ地域ニ關スル意見ヲ附シ速ニ當廳ニ報告スヘシ

第三條　警察官署長傳染病患者ノ發生若ハ其ノ死者ノ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ電話ヲ以テ細則第一號樣式及第二號樣式ノ屆出事項ヲ報告スヘシ其ノ患者又ハ死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實カ他署管内ニ係ルトキハ細則第一號、第二號樣式各事項ヲ關係警察官署ニ急報スヘシ

第四條　警察官署長ハ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ豫防上必要ナル事項ニ付市町村長ト協議シ其ノ事項ヲ當廳ニ報告シ流行ノ狀況ヲ隣接地ノ警察官署、最寄兵營、學校、工場、最寄港灣碇泊ノ艦船等ニ通報スヘシ

第五條　警察官署、市役所、町村役場ニハ第一號樣式及第二號樣式ノ各臺帳ヲ備ヘ病類別ニ見出ヲ附シ所定ノ事項ヲ記入整理スヘシ

第六條　「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アリ警察官署長其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ法ノ全部若ハ一部ノ適用ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ狀況ヲ即報スヘシ

第七條　細則第二條ニ依リ檢査ノ請求アリタルトキハ市町村若ハ町村組合ノ管理ニ係ル場所ニ隔離中ノモノニ付テハ其ノ管理者、其ノ他ノモノニ付テハ警察官署長檢査材料ヲ採取シ京都府細菌檢査所ニ送付スヘシ

檢査ノ結果ハ速ニ警察官署長ニ通知シ市町村若ハ町村組合管理者ノ取扱ニ係ルモノハ所轄警察官署長ヨリ當該管理者ニ即報スヘシ

第八條　細則第七條ニ依リ從業ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ同條各號ノ事項ヲ具申シ稟議スヘシ

第九條　傳染病豫防法施行規則第十二條ニ依リ通知又ハ屆出ヲ受ケタルトキハ移轉先ノ所轄警察官署長ニ細則第二號樣式ノ各事項ヲ通報スヘシ

第十條　所轄警察官署長ハ左ノ場合ニ於テ速ニ現場ニ臨ミ清潔方法、消毒方法十分ナラスト認ムルトキハ再施行ヲ命スヘシ

一　傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實ヲ

知リタルトキ

二　傳染病患者死亡シタルトキ

三　傳染病患者ノ死體ヲ他ニ移ストキ

四　傳染病患者ヲ傳染病院、隔離病舍其ノ他ノ場所ニ入ラシムルトキ

第十一條　豫防上消毒ノ必要他ノ市町村又ハ警察官署ノ管轄ニ屬スル區域ニ及フトキハ急報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル警察官署長、市町村長ハ直ニ吏員ヲ派シ消毒方法ヲ施行スヘシ

第十二條　警察官吏ハ患者若ハ死者アリタルコトヲ知リタル場合ニ於テ警察官署遠隔ノ地ニシテ急報シ難キトキハ直ニ現場ニ臨檢シ患者、死者ニ對スル處分及應急消毒ヲ了シタル後速ニ報告スヘシ

第十三條　市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ市町村醫ヲシテ檢診セシムヘシ

一　途上發病者ニシテ傳染病ノ疑アルトキ

二　醫師ノ診察ヲ受クル資力ナキ病者又ハ主治醫ナキ死者ニシテ傳染病ノ疑アルトキ

三　醫師ノ診斷ニ疑アルトキ

四　醫師カ五ニ診案ヲ異ニスルトキ

第十四條　夜間患者發生ノ場合ハ應急消毒ヲ行ヒ翌日更ニ全部ノ消毒ヲ施行セシムヘシ

第十五條　細則第六條第一號ニ依ル進斷及豫防區域ハ明治三十六年京都府訓令第十五號ノ規定スル所ニ依ル

第十六條　市町村長、警察官署長細則第一條、本手續第一條ニ依ル屆出又ハ進達ヲ受ケタルトキハ互ニ卽報シ警察官署長ハ第一號樣式ノ各事項ヲ調査シ報告スヘシ

第十七條　傳染病院、隔離病舍ニハ日誌及病床日誌ヲ、隔離所ニハ日誌ヲ備付クヘシ

第十八條　市町村長、警察官署長ハ交通遮斷、隔離又ハ自宅治療中ノ患者ニ付キ市町村吏員又ハ警察官吏ヲシテ之カ取締ニ從事セシムヘシ

第十九條　官公署ニ奉職スル者交通遮斷又ハ隔離セラレタルトキハ警察官署ハ速ニ其ノ旨當該官公署ニ通報スヘシ

第二十條　交通遮斷中ハ左ノ各號ニ依リ取扱ヲ爲スヘシ

一　遮斷中ノ者ニシテ外出ヲ請フトキハ事情已ムヲ得サル場合ニ限リ醫師ヲシテ檢診セシメ異狀ナキニ於テハ消毒ノ上許可スヘシ

二　遮斷中ノ者ニ對シ面會ヲ求ムル者アルトキハ事情已ムヲ得サル場合ニ限リ許可シ退去ノ際消毒方法ヲ行ハシムヘシ

三　遮斷區域内ノ物品ヲ他ニ搬出セムトスルトキハ相當ノ消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第二十一條　交通遮斷又ハ隔離中ノ者ニ對シ市町村長ハ醫師ヲシテ時々健康診斷ヲ爲サシムヘシ解除ノ場合亦同シ

第二十二條　警察官署長細則第二十五條ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ報告スヘシ

第二十三條　市町村長ハ細則第二十六條及第二十七條ニ依ル清潔方法施行ニ關シテハ所轄警察官署長ト協議ノ上日割ヲ定メ豫メ部内ニ公示スヘシ

警察官署長前項ノ協議ヲ受ケタルトキハ其ノ狀況ヲ報告シ清潔方法施行後十日以内ニ第三號樣式ニ依リ其ノ成績ヲ報告スヘシ

附　則

第二十四條　左ノ訓令ハ之ヲ廢止ス

明治二十八年京都府訓令第七十七號市町村避病院設備標準

明治二十八年京都府訓令第八十八號市町村避病院管理方

明治三十年京都府訓令第百六十號傳染病豫防法施行手續

明治三十二年京都府訓令第百九十二號汽車船檢疫心得

明治三十三年京都府訓令第五十號傳染病患者明細簿用紙調製ノ件

明治四十年京都府訓令第四十三號傳染病院、隔離病舍、隔離所、消毒所設置屆出ノ件

第一號樣式

傳染病患者臺帳

病名	氏名 年齡
發病月日時	職業別
初診月日時	現住所
死體檢案月日時	發病地
診斷月日時	戶主氏名及續柄
屆出月日時	瘵養ノ場所
主治醫住所氏名	轉歸月日
誘因及系統	
備考	

第二號樣式

傳染病病原體保有者臺帳

病原體名	決定月日	主要症狀消退月日時	發病月日	病原體消失月日	現住所	氏名 年齡

病原體檢査成績	一回	二回	三回	四回	五回

第三號樣式

清潔法施行成績報告 年　月　日 市町村名	施行戸數	再施行ヲ命シタル數	施行シタル下水溝渠延間數	施行日數	警察署

●傳染病豫防法施行細則第四條第二項ニ依ル細菌學的檢査所認定

大正十五年七月十三日
京都府告示第三九七號

京都市上京區岡崎西福ノ川町十番地
京都徽生物研究所

右大正十五年七月八日傳染病豫防法施行細則第四條第二項ニ依ル細菌學的檢査ヲ爲シ得ルモノト認定セリ

〔京都警〕

大正十五年八月二十四日
京都府告示第四百七十六號

京都市上京區田中西浦町十五番地
鐘淵紡績株式會社京都支店內
私立鐘紡京都病院細菌檢査所

右大正十五年八月十八日傳染病豫防法施行細則第四條第二項ニ依ル細菌學的檢査ヲ爲シ得ルモノト認定セリ

●傳染病豫防法ニ依ル水ノ使用停止地域

大正十三年十二月十九日
京都府令第百五號

〔京都警〕

明治三十年四月法律第三十六號傳染病豫防法第十九條ニ依リ當分ノ內食用ニ供スル目的ノ蔬菜類ヲ洗滌スル爲左記地域內ニ於ケル河川、細流、下水、溝渠、池、水溜其ノ他之ニ類スル場所ノ水ノ使用ヲ停止ス但シ所轄警察官署ノ承認ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

本令ニ違反シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

記

一京都市一圓

●傳染病豫防法施行規則實施ニ關スル注意事項

大正十一年十月
衞第一二三三八號

〔郡〕市長　警察署長

今般傳染病豫防法中改正法律ノ施行ト共ニ同法施行規則モ改正施行相成候處其實施上注意スヘキ事項左記ノ通リ內務省衞生局長ヨリ通牒有之候條御了知相成度右依命通牒候也

一、第四條ノ規定ハ既ニ屆出アリタル事項ニ付重複シテ屆出ヲ爲スノ必要ナキニ基クモノナルヲ以テ他ノ醫師ヨリ屆出ナキ限リハ法ニ從テ屆出ツル義務アル次第ニ付同條ノ規定ニ關シ醫師ニ於テ誤解ナキ樣取計ハレタキコト

一、第八條ハ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニ對シ檢査ヲ請求スルコトヲ得ルノ途ヲ開キタルニ止マルヲ以テ病原體保有者ニ對スル檢査ハ其ノ請求ノ有無ニ拘ラス之ヲ行ヒ病原體ノ消失シタル者ヲシテ猶從業禁止其他ノ制限ヲ受ケシムルコトナキ樣致度

一、第三十一條ニ揭クル業務ニ從事スル者ニシテ傳染病ニ罹リ又ハ病原體ヲ保有スルニ至リタルトキハ法第八條ノ二ノ規定ニ依リ當然其ノ業務ニ從事スルコトヲ得サル義ナルモ一應之ニ對シ其ノ從業ヲ繼續スヘカラサル旨ヲ警告スル樣致度

一、舊施行規則第十三條第二項、第十四條ニ規定セル事項ハ自明ノコトヽシテ改正施行規則中ヨリ削除セラレタルモ之ヲ不必要トシタル趣旨ニハ無之候念

●傳染病患者誘因系統調査ノ件

明治三十一年九月
訓示第九一號

傳染病患者ニ對シ誘因系統ヲ調査スルハ其根原ニ遡リ病毒ノ所在ヲ探究シテ撲滅ノ方法ヲ措盡スルノ趣旨ニ外ナラス候處近來傳染病初期報告書中往々誘因系統ヲ明ニセサル向モ有之不都合ニ付自今親シク患者又ハ其家族或ハ主治醫ニ就キ詳密ニ病因ヲ聽取リ報告スヘシ

●傳染病ニ罹リタル在監人放免引渡方

明治二十九年二月
衞第一三〇號

傳染病ニ罹リ居ル在監人放免方ニ付警保局長ヨリ別紙ノ通々牒有之候ニ付此段及通牒候也

警三甲第一二九號（明治二十九年一月二十一日）

傳染病ニ罹リ居ル在監人放免方ニ付三重縣伺ニ對シ左記ノ通指令相成候條爲御參考此段及通牒候也

三重縣稟申（明治二十八年十二月十八日）

在監人刑期滿限ニテ放免ノ際虎列拉、發疹チブス、痘瘡、赤痢等ノ如キ傳

染病ニ感染シ居ル者チシテ之チ各原籍地ニ輸送スルトキハ病毒散蔓ノ虞有之候ニ付右等患者ハ放免ノ際引取人ノ有無ニ拘ハラス總テ監獄署所在地ノ市町村役場ニ引渡シ其市町村ニ於テ相當ノ取扱チ爲サシメ可然儀ト下差掛リ候儀モ有之且監獄署所在地ノ市町村ト患者ノ輸送チ受ケル市町村トノ間ニ於テ往々異議チ生シ可申ト存シ候ニ付此段相伺候條電報ニテ御指令相成候樣致度此段稟申候也

内務省指令（明治二十九年一月十七日）

明治二十八年十二月十八日伺傳染病ニ罹リタル在監人放免ノ件警察官ニ引渡シ同官ヨリ監獄所在市町村長ニ引渡サシムヘシ

●傳染病豫防消毒施行ノ際警察署長臨檢ノ件

明治三十年八月訓示第一九一號

傳染病豫防消毒方ノ儀ハ已ニ法律命令ノ規定有之候ニ付無遺漏執行スヘキハ勿論ニ候處一タヒ患者チ發生シタルトキハ其未タ他ニ傳染セサルニ先チ特ニ機敏ノ處置チ施シ之カ病毒チ撲滅スルニアラサレハ忽チ蔓延ノ勢チ增長シ防遏スヘカラサルニ至ルコト其實例ノ長ルヘキモノアリ是チ以テ警察署警察分署ニ於テ患者發生ノ屆ニ接シタルトキハ直ニ署長（署長差支アルトキハ警部、警部差支アルトキハ巡査部長）ハ該患家ニ臨檢シ神速ニ充分ノ豫防消毒チ施行セシメ毫モ缺點チ遺サヽル樣注意シ且其發病ノ原因系統等詳細調査シ直ニ報告スヘシ

●傳染病患者死體排泄物運搬人夫火葬場ニ於テ消毒ノ件

【京都警】

火葬場ニ於テハ簡易消毒器具及浴場ノ設ケアリテ虎列剌病患者ノ死體又ハ排泄物運搬人夫ニ於テハ相當ノ消毒チ爲シタル上歸ヘラシムヘキ筈ノ處往々自儘ニ渉リ不消毒ノ儘散歸スル者有之趣ニ相聞ヘ候ニ付護送巡査ニ於テ嚴重ノ監督チナシ消毒チ施行シタル上ニアラサレハ遣歸セシメサル樣取締チナスヘシ

市部警察署

●赤痢疑似症ニ傳染病豫防法全部適用ノ件

明治四十年五月二十八日京都府令第三十四號

改正　明治四五年京都府令第四〇號、大正二二年第一一號

赤痢疑似症ニ對シ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部チ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●ペスト豫防心得

明治三十八年八月一日京都府訓令第三十二號

改正　明治四一年京都府訓令第五一號

「ペスト」豫防ニ就テハ從來屢々訓令セシチ以テ遺憾ナク措置シアルヘキモ去ル明治三十二年該病ノ神戸及廣島ノ兩市ニ侵襲セシ以來東京、大阪、神奈川、靜岡、和歌山等ノ府縣ニ其猛威チ逞フシ幾多ノ生命チ害シ巨萬ノ財力チ消耗セリ然ルニ本年春期ノ交ヨリ東京、大阪及神戸ノ三市ニ於テハ有菌鼠ノ續出スルノミナラス時ニ或ハ患者チ發生シ又近來香川縣綾歌郡王越村ニ於テ數多ノ患者チ續發スルニ至レリ今後ニ於ケル病毒蔓延ノ狀勢ハ夙夕寒心ニ堪ヘサルナリ加之臺灣及海外諸港ノ有病地方トノ交通日ニ月ニ頻繁ナルニ從ヒ病毒舶齎ノ危險愈々大ナラントス今ニシテ銳意豫防撲滅ノ策チ講シ關戸チ綢繆スルニ非スンハ遂ニ之レカ病毒チシテ牢固タル根底チ下サシムルニ至ルナキチ保セス事玆ニ臻ラン乎國家ノ不幸焉ヨリ大ナルモノナカルヘシ故ニ該病豫防ニ關シテハ相互協力盡瘁シ左記豫防心得ニヨリ周到ナル用意チ以テ緩急其ノ宜シキチ察シ病毒ノ侵襲チ防ク コトニ努ムヘシ

【京都警】

第一條　「ペスト」發生ノ虞アルトキハ一般人民ニ對シ家屋内外ノ清潔保持、鼠族驅除ノ持續施行等「ペスト」豫防上必要ノ事項チ諭告スヘシ

第二條　市町村長ハ死亡診斷書ニ注意シ「ペスト」ニ疑ハシキ急性病ナルトキハ市町村醫チシテ死體檢案チ行ハシムヘシ

第三條　貨物集散場、勞働者居住地、不潔部落、其他必要ト認ムル地域ニ對シテハ特ニ除鼠的清潔方法チ施行セシムヘシ

第四條　海港地及福要ナル市街地ニ於テハ棉花、穀類、豆粕、革皮、襤褸、古綿、古著、古麻嚢、古敷物、古羽毛、古紙等チ貯藏スル倉庫ニ對シ可成其底面チ石又ハ煉瓦ニテ舖キ若クハ「コンクリー」敲トナシ其外部ニ通スル孔隙ニハ金網チ被ヒ又天井ハ勿論重壁チモ設ケサラシムル等鼠族ノ交通棲息チ防禦スルノ設備チ爲サシムヘシ

第五條　「ペスト」ノ疑アル患者若クハ死者アリタルトキハ假ニ病毒ノ散逸チ防クヘキ相當ノ手當チ爲シ當廳ニ急報スヘシ

第六條　「ペスト」患者ハ直チニ之レチ傳染病院又ハ隔離病舍ニ收容スヘシ

第七條　「ペスト」患者アリタル家有菌鼠續出等ニ依リ著シク病毒ニ汚染セル家及同上ト棟チ同フスル家其他患者又ハ鼠ノ交通ニ依リ病毒ニ汚染セリト認ムル家ニ交通遮斷チ施行シ遮斷區域ノ周圍ニハ亞鉛板チ繞ラシ下水口ニ金網チ施ス等鼠ノ交通チ杜絶スルノ設備チ爲スヘシ

第八條　遮斷區域内ノ居住者ハ其被服携帶品チ消毒シタル後之レチ隔離所又ハ適當ノ場所ニ隔離シ同區域内ニハ二日以上數多ノ殺鼠劑及捕鼠器チ配置シタル後除鼠的清潔方法チ施行スヘシ

第九條　遮斷區域ニ接續セル地域又ハ有菌若クハ有菌ノ疑アル鼠アリタル等ニ依リ豫防措置チ必要トスル地域ハ之レチ豫防區域ト定メ除鼠的清潔方法チ施行ス可シ但有菌若クハ有菌ノ疑アル鼠アリタル家又ハ病毒汚染ノ疑アル物件其他必要ト認ムル部分ニ對シテハ消毒方法チ施行スヘシ他ノ地ニ於テ感染シタルノ系統分明ナル者發病シ直ニ之レチ發見シタル場合等病毒ノ鼠族ニ傳播シタル範圍未タ狹少ナリト認ムル場合ニハ前項ノ措置チ省略スルコトチ得

第十條　第八條ニヨリ隔離シタル居住者及豫防區域内ニ對シテハ相當ノ期間市町村醫チシテ健康診斷チ爲サシムヘシ

除鼠的消毒方法ニ從事セシムル人夫ニ對スルモ亦前項ニ準スヘシ

第十一條　「ペスト」患者又ハ有菌鼠發生シタル地及同地又ハ海外諸港臺灣ト交通頻繁ナル地ニ於テハ左ノ各號ニ依リ豫防措置チ施行スヘシ

一　鼠ノ買收、抽籤的懸賞等ノ方法チ設ケ鼠族ノ驅除チ勵行スルコト

二　貨物集散場附近、勞働者居住地、不潔部落其他豫防上注意チ要スヘキ部落ニ對シ檢病的戸口調査チ行ヒ急性發熱患者アルトキハ市町村醫チシテ檢診セシムルコト

三　左ニ揭ケル場所ニ對シテハ特ニ除鼠的清潔方法チ施行セシムルコト

（イ）貨物陸上場、停車場其他貨物集散場及其附近

（ロ）貨物運送店、棉花、穀類、豆粕、革皮、襤褸、古綿、古著、古麻嚢、古敷物、古羽毛、古紙等ノ商店及同上倉庫物置
（ハ）勞働者居住地及不潔部落
（ニ）紡績、製絲、織物、製紙、釀造、精穀、製粕、革皮、羽毛、製品類ノ工場
（ホ）貨物運送船

第十二條　除鼠的消毒方法清潔法施行ノ際鼠ノ交通棲息ノ虞アル箇所ハ相當修理セシメ且剔除シタル箇所ハ可成原形ニ復サシムヘシ

第十二條ノ二　豫防上必要ト認ムルトキハ其地域内ノ各戸ニ對シ又ハ數戸共同シテ相當ノ防鼠設備ヲナサシムヘシ

第十二條ノ三　病毒ノ限局セリト認ムル地域又ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル地域ニ對シテハ市町村ハ相當ノ防鼠設備ヲナスヘシ

第十三條　「ペスト」流行地ニ於テハ樞要ナル船舶發著所及停車場ニ於ケル旅人ノ健康ニ注意シ異狀アルモノニ對シテハ市町村醫ヲシテ檢診セシムヘシ

第十四條　「ペスト」患者又ハ有菌鼠續出シ病毒蔓延ノ虞アリト認ムルトキハ傳染病豫防法第十九條ノ第二ノ交通遮斷ヲ要求シ除鼠的消毒方法ヲ嚴行スヘシ

第十五條　「ペスト」流行地域ニ於ケル塵芥ハ之レヲ燒却シ襤褸、紙屑、古綿、古著、古敷物類ハ消毒方法ヲ施行シタル後ニ非ラサレハ他ニ輸送セシムヘカラス但シ無病地ヨリノ輸送ニ係リ未タ包裝ヲ解カサル者等ニシテ警察官署ニ於テ病毒汚染ノ虞ナシト認メタルモノハ此限リニアラス

第十六條　「ペスト」流行地ト交通アル地ニ於テハ第十三條ニ準シ旅人ノ健康ニ注意スルノ外流行地ヨリ來リ又ハ其地ヲ經過セル船舶汽車内ノ塵芥ハ一定ノ場所ニ於テ之レヲ燒却セシムヘシ

第十七條　船舶又ハ汽車内ニ「ペスト」患者、死者、又ハ有菌鼠アリタルトキハ左ノ各號ニ據リ豫防措置ヲ施行スヘシ但シ海港檢疫法第一條ノ船舶ニ對シテハ同法及其施行ニ關スル規定ニ依リ措置スヘシ

一　患者ハ傳染病院又ハ隔離病舍其他適當ノ場所ニ收容シ死者ハ必要ナル處置ヲ爲シタル後引取者ニ引渡シ若引取者ナキトキハ明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ據リ處置スルコト

二　患者又ハ死者アリタル船舶及有菌鼠ノ續出等ニ依リ著シク病毒ニ汚染セル船舶ニハ除鼠的消毒方法ヲ施行シ乘客乘組人ハ消毒方法ヲ施行シタル後隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル船内其他適當ノ場所ニ隔離スルコト但シ病毒感染ノ虞ナシト認ムルモノハ此限リニアラス

三　船舶ニ有菌若クハ有菌ノ疑アル鼠アリタルトキハ除鼠的消毒方法ヲ施行シ乘客乘組人ニ對シ周密ナル健康診斷ヲ行フコト

四　汽車内ニ在リテハ患者又ハ死者アリタル車室及病毒汚染ノ疑アル車室ハ之レヲ取離シテ消毒方法ヲ施行シ病毒感染ノ疑アル乘客ハ消毒方法ヲ施行シタル後隔離所其他適當ノ場所ニ隔離スルコト

五　患者又ハ死者ノ手荷物及病毒汚染ノ疑アル積荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行スルコト

六　消毒其他設備ノ都合等ニヨリ前各號ノ事項ヲ施行スルコト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ相當ノ手當ヲ爲シ他ノ港又ハ他ノ停車場ニ於テ其處置ヲ爲スコト

七　船舶ノ寄港シタル地又ハ汽車ノ停車シタル地名竝ニ關係事項ヲ當廳ニ急報スルコト

第十八條　船客乘組人ノ上陸後及積荷ノ陸揚後ニ於テ船舶ニ「ペスト」病毒汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタル場合ハ上陸人員ノ住所氏名行先地及貨物ノ數量種類記號（精確ニ調査シ相違ナキ樣注意ヲ要ス）取扱店荷主及發送月日等ヲ當廳ニ急報スヘシ

當該船舶ノ出港後ニ在リテハ尙其行先地ヲ當廳ニ通報スヘシ

海港檢疫法第一條ノ船舶又ハ汽車ニ關シテモ亦本條ニ準ス

第十九條　第十七條第七又ハ第十八條ノ通報ヲ受ケ又ハ船舶汽車ニ病毒汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタルトキハ病毒潛伏ノ疑アル期間上陸人員及貨物運搬人夫其他當該船舶汽車ニ關係アル向等ニ對シ其健康狀態ヲ注意スヘシ

第二十條　病毒ニ汚染セル家屋、倉庫、船舶、汽車内等ニ在リタル貨物ニシテ他ニ移シアルモノハ一時搬出輸送ヲ停止シ其間積入倉庫及關係アル家屋ニ對シ殺鼠劑捕鼠器ノ配置其他適當ノ方法ニ依リ鼠ノ驅除ヲ嚴行シ且ツ驅除シタル鼠ハ細菌檢査ノ爲メ當廳ニ直送スヘシ

細菌檢査ノ上「ペスト」菌發見ノ通報ヲ受ケ又ハ調査ノ結果病毒汚染ノ跡アリト認メタルトキハ當該貨物同積入倉庫及當該貨物ノ運搬用ニ供形タル艀船貨車等ニ對シ消毒方法ヲ施行スヘシ

第二十一條　病毒汚染ノ疑アル貨物ト同一ノ倉庫内ニ在リ又ハ同一ノ艀船貨車ニテ運搬セラレタル他ノ貨物ニ對シテハ當該倉庫艀船貨車内ニ於テ有菌鼠ヲ發見シタル等ニ依リ病毒汚染ノ疑アリト認メタル場合ハ消毒方法ヲ施行スヘシ

第二十二條　警察署長警察分署長ハ「ペスト」發生狀況、豫防措置ノ大要ヲ其都度又ハ繼續施行セル豫防事務ノ成績ハ每月別紙雛形ニ準シ之レヲ當廳ニ報告スヘシ

（甲號）

「ペスト」患者報告

住所		職業		姓名	男女　年齡
診斷		發病	月　日	發見	月　日
發見ノ方法				發見	月　日確定　月　日
住家及周圍ノ狀況有菌鼠又ハ疑ハシキ鼠ノ有無					
發病前ノ健康狀態					

病毒ノ系統傳染ノ原因機會等ノ認ムヘキモノ	
發見當時ノ症候大要	
發病地域ニ對スル豫防措置	

（注意）本表ハ患者發生ノ順序ニヨリ番號ヲ附スルモノトス
轉歸月日ハ其都度報告ヲ要ス死後ノ發見ニ係ルトキハ本報告中ニ死亡月日ヲ附記スヘシ

（乙號）

號有菌「ペスト」生斃鼠報告

發見ノ場所				
發見	月　日	確定	月　日	發見方法
發見場所附近ノ狀況				
病毒系統ト認ムヘキモノ				
發見區域ニ對スル豫防措置				

〔京都警〕

（注意）本表ハ有菌鼠發見ノ順序ニヨリ番號ヲ附スルモノトス
同一所ニ於テ數頭ヲ發見シタルトキハ其頭數場所ヲ明記シ且ツ號數ヲ自何號至何號ト記スヘシ

〔京都警〕

（丙號）

ペスト遮斷區域內豫防事務成績

區域ノ位置		戶數	人口	倉庫
除鼠的清潔方法ニ從事シタル人員				
同上開始竝ニ終了月日				
除鼠裝置ノ配置個數				
同日數				
除鼠數	生鼠	同上ノ內有菌	生鼠	斃鼠
檢診報告	普通患者	ペスト患者		
消費シタル消毒藥ノ概量				

（丁號）

月一般豫防事務成績報告

一　除鼠成績

市區町村名	除鼠數			內譯				
	買收	其他	計	細菌檢査ヲ行ヒタルモノ	ペスト菌ヲ有スルモノ	細菌檢査ヲ行ハサルモノ	內 乾固又ハ腐敗セルモノ	其他

二　死體檢案成績

市區町村名	男女	腦膜炎	肺炎	肋膜炎	脚氣衝心	心臟出血症	敗血症膿毒症	腺腫痲痺	筋肉炎	丹毒	ペスト	其他ノ傳染病	其他	計
計														
累計														

三　除鼠的清潔方法施行成績

市區町村名	住家	市場	工場	停車場	貨物揚場	倉庫	除鼠數
計							
累計							

四　檢診成績

〔京都醫〕

市區町村名	檢診ヲ行ヒタル戶數	檢診ニヨリ發見シタル ペスト患者	同疑似患者	注意患者	其他傳染病患者
計					
累計					

除鼠的消毒方法清潔方法施行手續

一　除鼠的消毒方法清潔方法ヲ施行セントスル區域内ニハ先ツ二日以上日々殺鼠劑捕鼠器等ノ除鼠裝置ヲ配置シ日々其成績ヲ檢査スルコト

二　前項ノ除鼠裝置ハ天井裏、床下、流シ下、棚上等ニ常ニ鼠ノ交通スル場所ニ配置スヘク其個數ハ家屋ノ大小ニ依リ一定シ難キト雖モ殺鼠劑ハ一戶平均十個以上トシ倉庫物置等ニアリテハ一坪ニ付約一個ノ割合トナス事

三　除鼠的消毒方法清潔方法ノ施行ニ從事セシムル人員ハ人夫五名乃至十名ヲ以テ一組トナシ警察官及市町村吏員ヲシテ之ヲ監督セシメ施行區域ノ廣狹ニ依リ若干組ヲ設置セシムルコト但シ毎組ノ人夫中ニハ可成大工及屋根職ノ心得アル者各一名ヲ加フルコト

四　前號ノ人夫ヲシテ除鼠的消毒方法ノ施行ニ從事セシムル場合ニハ其衣服ヲ相當ノ消毒衣ト著替シメ又足袋、手袋、帽ヲ用ヒシムルヲ要スル要アルトキハ呼吸器若クハ棉花ヲ以テ鼻口ヲ被ハシムル等ノ方法ニヨリ塵埃吸入ノ豫防ニ注意セシムヘシ區域外ニ出ツル場合ニハ其都度相當消毒沐浴ノ上原服ニ更メシムルコト

五　除鼠的消毒方法施行區域大ナル場合ハ毎日ノ施行小區域ヲ更ニ亞鉛板塀其他鼠ノ交通ヲ杜絶スル裝置ニ依リ之レヲ區劃スルコト

六　除鼠方法施行ノ際ハ左ノ各號ニ注意スルコト

(イ)　天井ノ一部全部ヲ取外シ鼠及其ノ巢ヲ搜査シ掃除ヲ行フコト

(ロ)　床板及臺所流シハ其一部ヲ取外シ鼠ノ搜査ヲ行ヒ孔穴アルトキハ之レヲ發掘スルコト

但シ土地ニ密著セル床板及臺所流シハ其全部ヲ剝離スルコト

(ハ)　羽目板、下目板等ハ其全部若クハ一部ヲ壁ハ必要アルトキハ其一部ヲ剝離シ間隙内ニ於ケル鼠ノ搜査ヲ行フコト

(ニ)　屋根及屋根裏ハ間隙ノ有無ヲ檢シ孔穴アルトキハ瓦屋根ニ在リテハ其全部若クハ一部ヲ藁屋根ニ在リテハ其全部ヲ剝離シ鼠及其巢ヲ搜査スルコト

(ホ)　倉庫物置等ニ在リテハ貨物其他ノ物品ヲ搬出シ若クハ相當ノ方法ヲ施シタル後特ニ其ノ地盤ヲ精査シ孔穴アルトキハ之レヲ發掘シ鼠ノ搜査ヲ行フコト

（ヘ）密閉シ得ヘキ倉庫類ニ在リテハ可成「フオルムアルデヒード」又ハ亞硫酸瓦斯ヲ用ヒ鼠ヲ燻殺スルコト

（ト）溝渠ハ之レヲ精査シ孔穴アルトキハ之レヲ發掘シテ鼠ノ捜査ヲ行フコト

七　消毒方法施行ノ要領左ノ如シ

（イ）屋根裏、天井板、羽目板類ハ石炭酸水又ハ昇汞水等ノ消毒藥液ヲ以テ處置スルコト

（ロ）戸障子押入レ棚類ハ消毒藥液ヲ以テ拭淨スルコト

（ハ）疊、蓙、敷物類ハ消毒藥液ヲ以テ拭淨シ若クハ之レヲ撒布シタル後日光ニ曝露スルコト

（ニ）常用ノ衣類、寢具ハ蒸汽消毒又ハ煮沸消毒ニ附シ常用ノ什器ハ其ノ品類ニ應シ熱汽消毒藥液消毒又ハ日光消毒ニ附スルコト但シ箪笥、長持其ノ他一定ノ容器内ニ藏セル衣服、什器類ニシテ病毒汚染ノ疑ナシト認ムルトキハ此ノ限リニアラス

（ホ）床下地盤、臺所流シ下、下水、溝渠、便所、芥溜其ノ他不潔ナル場所ハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト

（ヘ）井戸、井戸流シハ病毒汚染ノ疑アルトキハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト

（ト）患者ノ排泄物又ハ排泄物ヲ以テ汚染シタル物品ハ之レヲ燒却若クハ熱汽消毒ニ附シ塵芥ハ必ス之レヲ燒却スルコト

（チ）包裝シタル貨物ハ包裝ノ儘蒸汽消毒ニ附シ若クハ其外表ヲ消毒藥液ヲ以テ所置シ穀類及其ノ他ノ食料品ハ其ノ外包ヲ熱汽消毒又ハ燒却ニ付スルコト

（リ）前號ノ消毒方法ヲ施行シ能ハサルモノハ反覆日光ニ曝スコト

（ヌ）包裝ノ内部ニ至ル迄病毒汚染ノ疑アル貨物ハ其包裝ヲ解キ相當ノ消毒方法ヲ施行スルコト

（ル）煉瓦倉庫、土藏、洋風建物等ノ密閉シ得ヘキ室内ニハ「フオルムアルデヒード」ヲ以テ消毒スルモ妨ナキコト

（ヲ）船舶鐵道客車、貨車等ニ消毒方法ヲ施行セントスルトキハ前各號ニ準據スルコト

八　清潔方法施行ノ要項左ノ如シ

（イ）第六ニヨリ鼠ノ驅除ヲ行ヒタル後掃除ヲ行フコト

（ロ）鼷鼠ノ在リタル場所其他ノ病毒汚染ノ疑アル不潔ナル場所ハ消毒方法ヲ行ヒタル後掃除ヲ行フコト

（ハ）汚水停滯ノ場所ニ對シテハ溝渠ヲ浚渫スルコト

（ニ）屋根裏、壁、床下、臺所流シ、溝渠等ニ鼠ノ交通棲息ノ虞アル孔穴アルトキハ之レヲ塡塞シ必要ノ場合ニハ修理改造ヲナスコト

（ホ）塵芥ハ之レヲ燒却スルコト

●船舶内除鼠的清潔方法施行ノ件

明治三十八年四月
衛調第六號

今般遞信省令第十七號ヲ以テ明治三十三年十二月同省令八十八號船舶檢査規程中改正相成候處主トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ヲ航行スル汽船ニ對シテハ定期檢査ノ準備トシテ特ニ除鼠的清潔方法施行ノ件追加セラレ檢査ノ場所期日等ハ其ノ都度當該海事局又ハ海務署ヨリ其ノ地ノ警察官署ニ通報相成ル筈ニ候條右通報アリタル場合ハ左記施行手續ニヨリ施行シ其船名船鼠驅除數等速ニ報告セラルヘシ

一　食料品置場、物置、納等ニ鐚メ捕鼠器ヲ配置シ又ハ硫黄ノ燻蒸其ノ他適當ノ方法ニヨリ船鼠ノ驅除ヲ行フコト

二　外板中張間ノ腔隙パイプ被箱及食料品置場物置ノ床板下等ハ必要ト認ムル部分ヲ剝離シ鼠巢及鼷鼠ノ捜査ヲ行フコト

三　飲水箱ノ内部ハ石灰乳（生石灰一分水九分）ヲ以テ消毒シタル後清水ニテ洗滌スルコト

四　塗水道ハ汚水ヲ排除シタル後海水ヲ以テ洗滌スルコト

五　便所其他不潔ナル場所ハ石灰乳又ハ石炭酸水（結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ以テ消毒スルコト

六　船内一般ニ掃除ヲ行ヒ蕙集シタル汚物塵芥ハ之レヲ燒却スルコト

●虎列剌病ニ對スル取扱事項

明治三十六年五月一日
京都府訓令第十五號

一　患者發生シタルトキハ左ノ各項ニ該當スルモノヲ進隔區域トナスコト

（イ）患者及患家ト交通シタルモノ其他患家ニ近接ノ家屋ニシテ病毒潜伏ノ虞アルモノ

（ロ）患者發病ノ原因ト認ムヘキ事項ヲ共ニシタルモノ

（ハ）患家ニ屬スル不完全ナル下水溝ノ附近ニ井戸ヲ存スルモノ又ハ患家ニ近接シタル水流ヲ使用シタル疑アルモノ

二　水質不良且下水ノ排除不完全ナル不潔部落ヲ注意區域ト定メ其戸數人口等ヲ調査シ防疫上特ニ注意ヲ嚴密ニスルコト

三　患者發生シタルトキハ發病ヨリ少クモ五日以前ニ溯リ系統其他ノ調査ヲナスコト

四　進隔區域内ニ消毒方法ヲ施行セシメ豫防區域内及注意區域内ニハ清潔方法ヲ持續セシメ進隔區域内ノ井戸ニハ消毒方法ヲ施行スルコト

五　前項ノ消毒方法ハ水量五十分ノ一以上ノ生石灰ヲ濃乳トシテ投入シ丁寧ニ攪拌シ少クモ四十八時間放置シ後浚渫セシムルコト

但蒸汽ヲ以テ消毒スルノ方法ヲ設クルトキハ本項ノ消毒方法ニ換ルコトヲ得

六　進隔區域内豫防區域内ニハ煮沸水一日一人ニ付一斗以上ヲ供給スルコト

七　進隔、豫防、注意ノ三區域内ハ一日一回以上市町村醫ヲシテ健康診斷ヲ行ハシメ患者ノ發見ヲ敏速ナラシムルコト

八　前項區域以外ハ檢病的戸口調査ヲ勵行スルコト

九　有病地ノ旅舍、飲食店、料理店、貸座敷及湯屋、營業者其他衆人ノ集合スル場所ニ對シテハ適當ナル濾過裝置ヲ以テ濾過シタル水若クハ攝氏七十度以上ニ熱シタル水ヲ用ヰシムルコト

十　患家ノ井戸又ハ便所ヨリ三間以内ノ井戸ヲ使用スルモノ

十一　左ノ各項ニ該當スルモノヲ豫防區域トナスコト

（イ）患家ノ井戸又ハ便所ヨリ五間以内ノ井戸ヲ使用スルモノ

（ロ）患家ト交通シタル疑アルモノ

●流行性感冒豫防要項

大正十年一月二十一日
京都府訓令第二號

内務大臣ヨリ本月六日左ノ通流行性感冒豫防ニ關スル訓令アリタリ幸ヒ府下ニハ今ノ本病ハ未タ甚シキ流行ヲ見サルモ其ノ旺盛ナラサルニ當リ之カ防遏ニ努ムルハ最善ノ處置ナリト信ス從テ此ノ際適當ナル計劃ヲ立テ各種團體其ノ他ヲ督勵シ一般府民ニ對シ之カ趣旨ノ普及徹底ヲ圖リ以テ自衞的覺醒ヲ促シ往年ノ慘禍ヲ再現スルカ如キコトナキ樣一層努力セラルヘシ

内務省訓令第一號

流行性感冒ハ幸ニシテ昨今未タ甚シキ流行ヲ見サルモ今ニ於テ注意警戒ヲ嚴ニシ之ヲ未然ニ防止スルニ非スムハ再ヒ曩年ノ如キ慘禍ヲ反覆スルノ虞ナキヲ保セス本病ノ豫防ニ關シテハ從來其ノ最善ト認ムル施設ノ勵行ニ努ムル所アリシト雖尙豫防方法ノ十全ヲ期セムカ爲曩ニ官吏ヲ海外ニ派遣シ又醫員ヲ省内ニ特設シテ專ラ内外ノ文獻及施設ニ關シ調査考究セシメシムルト共ニ一面全國ニ於ケル學者實際家ノ意見ヲモ需メ更ニ精覆審議ヲ重ネテ別紙要項ニ示スカ如キ成案ヲ得タリ之カ實行ニ關シテハ固ヨリ各般ノ事情ヲ參酌シ機宜ヲ制スルノ必要アルヘシト雖大體本要項ニ基キテ豫防ニ關スル計劃ヲ確立シ以テ之カ遂行ニ努ムルト共ニ公共團體ヲ始メ公私諸團體及篤志家ノ活動ヲ促シ相俟テ本病豫防ノ效果ヲ擧ケムコトヲ期セラルヘシ

大正十年一月六日　　内務大臣

流行性感冒ノ豫防要項

第一　病原及傳染徑路

一　病原體トシテプファイフエル氏菌、濾過性病原體又ハ他ノ菌ヲ擧クル者アルモ現今ニ於テハ未タ學者間ニ意見ノ一致ヲ見ス

二　重症ノ流行性感冒ニハ肺炎ヲ伴フモノ最モ多シ

流行性感冒肺炎ニハプファイフエル氏菌及肺炎雙球菌重要ナル意義ヲ有ス

三　病原體ノ排泄口及侵入門戸ハ主トシテ口腔及鼻腔ナリ

四　感染ハ主トシテ咳嗽、噴嚔等ノ際ニ於ケル飛沫傳染ニ因ル唾液、鼻汁其ノ他寢具、食器、手拭等感染ノ媒介ヲナスコトアリ

五　病原體保有者カ傳染源トナルコトアリ

第二　豫防方法

甲　飛沫傳染ノ防止

一　咳嗽、噴嚔ニ關スル注意

イ、咳嗽、噴嚔ノ際ハ「ハンケチ」、手拭、紙片等ニテ口鼻ヲ覆フコト

ロ　對談ノ際ハナルヘク三四尺ノ間隔ヲ保ツコト

ハ　飛沫傳染ノ危險ナルコトヲ周知徹底セシムルコト

二　「マスク」ノ使用

イ　患者ニ接スルトキ使用スルコト

ロ　群集ノ中（電車、汽車、劇場、寄席、活動寫眞館、集會等）ニ入ルトキ使用スルコト

ハ　患者又ハ罹患ノ疑アル者ハ人ニ接スルトキ又ハ外出ノ際使用スルコト

ニ　理髮業者ノ如キハ從業中使用スルコト

三　「マスク」ニ關スル注意

イ　「マスク」ハ清潔ナル布片ニテ製シ其ノ厚サハ「ガーゼ」六枚ノ程度ヲ標準トスルコト

ロ　「マスク」ハ口鼻ヲ完全ニ覆フ大サヲ要スルコト

ハ　「マスク」ハ時々取換ヘ又ハ煮沸、洗濯スル等常ニ清潔ニスルコト

乙　患者ノ隔離

一　一般家庭

イ　患者ハナルヘク別室ニ隔離シ別室ナキトキハ屛風、衝立ノ類ヲ以テ健康者ト隔ツルコト

患者ハナルヘク早期ニ入院スルヲ可トス

ロ　患家トノ交通ヲ差控フルコト

二　寄宿舍及工場等

イ　流行ノ兆アルトキハ健康診斷、外出禁止、面會謝絕其ノ他出入ノ警戒ヲナスコト

ロ　隔離室ヲ設ケ患者及罹患ノ疑アル者ハ早期ニ隔離スルコト

ハ　工場通勤者ニシテ罹患セルモノ又ハ罹患ノ疑アルモノアルトキハ相當期間就業ヲ差控ヘシムルコト

三　旅店、下宿屋其ノ他宿泊所

イ　患者又ハ罹患ノ疑アル者ニハ速ニ醫療ヲ受クヘキコトヲ勸メ他ノ宿泊人トノ交通ヲ差控ヘシムルコト

ロ　患者ニハナルヘク早期入院ヲ勸ムルコト

四　病院其ノ他患者收容所

流行性感冒患者ト他ノ一般患者トハ同室ニ收容セサルコト

五　客ニ接スル業務者

患者又ハ罹患ノ疑アル者ハ相當期間就業ヲ差控フルコト

丙　集會、集合ノ制限

一　演說會、講演會、說教等

流行時ニハナルヘク此ノ種ノ會合ヲ見合ハスコト

二　學校、幼稚園等

（一）　昇校停止

イ　職員、生徒、兒童ニシテ罹患セルモノ又ハ罹患ノ疑アルモノハ直ニ昇校ヲ停止スルコト

ロ　患者ノ發生セル家庭又ハ部落ヨリ來ル職員、生徒、兒童ニ對シテハ必要ト認ムルトキハ直ニ昇校ヲ停止スルコト

（二）　學校閉鎖

學校内、學校所在地及其ノ近傍ニ於テ患者發生ノ場合ハ狀況ニ依リ速ニ全校又ハ其ノ一部ヲ閉鎖スルコト

（三）　流行時ニハ遠足、運動會、早朝ノ昇校等ニ付考慮スルコト

（四）　幼稚園ニ於テハ前記各號ニ準シ處置スルコト

三　劇場、寄席、活動寫眞館等

流行時ニハ入場者ノ「マスク」使用ヲ奬勵シ衞生施設ヲ一層嚴密ニシ狀況ニ依リ興行ヲ見合ハスコト

四　祭禮、祝賀會、法會、葬式等ニ於ケル多人數ノ集合ハナルヘク之ヲ避クルコト

五　交通機關

咳嗽、噴嚔ニ關スル注意、「マスク」ノ使用、唾痰ノ處置ヲナルヘク勵行スルコト

丁　消毒

一　唾痰ノ處置

唾痰ハ唾壺、布片、紙片又ハ下水、便池等ノ外ニ咯出セサルコト

唾痰、鼻汁ニテ汚染セル布片、紙片及唾壺内ノ唾痰ハ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

二　患者ノ使用セル居室、寢具、衣類、食器等ノ消毒

イ　居室ノ消毒
疊及器具ハ濕布ヲ以テ拭淨シ室内ハ日光ノ射入、空氣ノ交換ヲ充分ニスルコト
ロ　寢具、衣類等ノ消毒
屢日光消毒ヲ行フカ又ハ煮沸消毒、蒸汽消毒等ヲ行フコト
ハ　食器ノ消毒
食器ハ專用トシ使用ノ都度熱湯消毒ヲ行フコト
ニ　患者又ハ罹患ノ疑アル者ノ使用セル物件ハナルヘク健康者用ノモノト區別シ消毒セル後ニ非サレハ他人ニ使用セシメサルコト
三　旅店、下宿屋、飲食店、料理店等ニ於テ營業上使用スル物件ニ付テハ前記各號ニ準シ處置スルコト
戊　含嗽
含嗽ハ食鹽水（百分中食鹽一）、重曹水（百分中重曹一）、硼酸水（百分中硼酸二）、微温湯等ヲ使用シ一日數回殊ニ外出ノ後、食事ノ前後及就眠前ニ行フコト

第二　豫防注射
流行ノ兆アル時ハナルヘク速ニ豫防注射ヲ受クルヲ可トス
注射ヲ受ケムトスル者ニシテ心臟疾患、脚氣、腎臟疾患、肺結核、妊娠、發熱其ノ他身體ニ異常アルモノハ豫メ特ニ醫師ニ協議スルコト

第三　一般衛生
一　精神ヲ爽快ニ保チ皮膚ヲ練固シ腸胃ヲ健全ニシ適度ノ運動ヲナシテ抵抗力ノ增進ヲ計ルコト
二　徒歩ヲ奬勵スルコト
三　老幼、虚弱者ハ特ニ寒氣ニ冒サレサルコトニ注意スルコト
イ　ナルヘク早朝、深夜ノ外出ヲ避クルコト
ロ　寒氣甚シキ時ハ戸外ノ遊戲、運動等ヲ差控フルコト
ハ　防寒設備ニ注意シ湯冷、寢冷等ヲ避クルコト
四　强壯者ト雖豫防注意ヲ怠ラサルコト
五　過勞ヲ避ケ休養ヲ充分ニスルコト
六　室内ノ採光、換氣、清潔ニ注意シ寢具、衣類等ノ乾燥其ノ他清潔ニ努ムルコト
七　頭痛、發熱身體ニ異常アルトキハ速ニ醫師ノ診療ヲ受ケ其ノ注意ヲ嚴守スルコト
八　妊婦、産婦ハ特ニ豫防ニ注意スルコト
九　劇場、寄席、活動寫眞館其ノ他多衆集合ノ場所ニ立入ルヲ差控フルコト

第三　醫療及看護等
一　醫療ノ普及
イ　診療所、診療班等ノ活動及臨時組織ヲ促スコト
ロ　軍醫ノ援助ヲ求ムルコト
ハ　醫學校、醫學研究所、醫師會、藥劑師會等ノ活動ヲ促スコト
二　病院其ノ他患者收容所ノ利用
イ　傳染病院、隔離病舍ヲ利用スルコト
ロ　官公私立病院ノ收容力增加ヲ促スコト
ハ　公會堂、寺院、教會其ノ他適當ノ建物ヲ臨時收容所トシテ利用スルコト
ニ　病院其ノ他患者收容所ニ於ケル病床ノ需給ヲ調節スルコト
三　看護ノ普及
イ　看護婦ノ需給ヲ調節スルコト
ロ　巡回看護ノ方法ヲ講スルコト
ハ　看護婦會ノ活動ヲ促スコト
四　治療材料類ノ供給
藥品其ノ他豫防又ハ治療ノ必要ナル物件ノ製造能力ヲ增進シ其ノ配給ヲ按排シ買占、賣惜其ノ他不當行爲ノ取締方法ヲ講スルコト
五　豫防又ハ治療ニ困難ヲ感スル者ニ對シテハ相當ノ援助救濟ノ方法ヲ講スルコト

●市町村傳染病豫防費補助規程

大正十二年五月八日
京都府令第四十八號

市町村傳染病豫防費補助規程左ノ通定ム
市町村傳染病豫防費補助規程

第一條　傳染病豫防法第二十四條ノ規定ニ依ル府費補助ハ左ノ區別ニ依リ支出精算額ニ對シ之ヲ爲ス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ之ヲ控除シタル支出精算額トス
一「コレラ」及「ペスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ對シテハ三分ノ一
二　傳染病院、隔離病舍、隔離所、消毒所ノ建築、改築、移轉、增築若ハ修繕ニ要シタル費用ニ對シテハ四分ノ一
三　前各號以外ノ費用ニ對シテハ六分ノ一

第二條　支出ニ伴フ收入及寄附金ヲ控除シタル一會計年度ノ支出精算額五拾圓未滿ナルトキハ補助セス

第三條　市町村又ハ町村組合ノ支出額其ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキハ第一條ノ制限ニ拘ラス補助スルコトアルヘシ

第四條　補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ金額ニ換算スルモノトス

第五條　市町村又ハ町村組合ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルコトアルヘシ

附　則

第六條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條　明治三十一年京都府令第四十號傳染病豫防費補助規程ハ之ヲ廢止ス

第八條　本令ハ大正十一年十月一日以後市町村ニ於テ支出シタル費用ニ對シ之ヲ適用ス

第九條　本令公布前認可ヲ受ケ工事ニ著手シ大正十三年三月三十一日迄ニ竣工スヘキ傳染病院、隔離病舍、隔離所、消毒所ノ建築、改築、移轉、增築ノ諸費用ニ對シテハ仍從前ノ規程ニ依ル

●市町村傳染病豫防費補助申請手續

大正十二年五月八日
京都府訓令第十二號

改正　大正一五年京都府訓令第三九號

市町村傳染病豫防費補助申請手續左ノ通定ム
市町村傳染病豫防費補助申請手續

第一條　市町村又ハ町村組合傳染病豫防費補助申請ハ左記樣式ニ依リ毎年六月三十日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

第二條　市町村又ハ町村組合ニ於テ支出シタル傳染病豫防費精算額其ノ市

市町村　町村組合

町村内ノ地租戸数ニ對スル割合地租三分ノ一及戸數一戸ニ付金五圓ヲ超過シタルトキ又ハ特別ノ事由（非常ノ水、火、風、震等ノ災害）アルトキハ市町村傳染病豫防費補助規程第一條歩合以上ノ補助ヲ申請スルコトヲ得

前項前段ノ場合ハ其ノ費用ノ屬スル年度ノ四月一日現在ノ地租額竝戸數調書、後段ノ場合ハ被害ノ戸數若ハ地目段別及其ノ損害見積價額調書ヲ添付スヘシ

第三條　市町村又ハ町村組合ニ於テ現品ノ補助ヲ必要トスルトキハ其ノ品目、數量及事由ヲ具シ申請スルコトヲ得

（様式略ス）

衛生組合設置規則

明治四十年四月十二日
京都府令第二十三號

改正　大正一一年京都府令第七一號、一五年第一三二號

第一條　傳染病豫防救治ニ關シ鄰保協同相互扶助ノ爲衛生組合ヲ設置スヘシ

第二條　組合内ニ一戸ヲ構フル者又ハ組合内ニ於ケル會社、工場、製造所等ノ首長若ハ管理人ハ組合ニ加入スヘシ

第三條　衛生組合ハ市ハ每町、町村ハ每大字ノ區域トシ一組合ヲ組織スヘシ但町又ハ大字ニシテ戸數二十戸未滿ノモノハ他ノ町又ハ大字ニ合スルコトヲ得

衛生組合ハ一市町村内ニ於テ他ノ組合ト聯合シ聯合衛生組合ヲ組織スルコトヲ得

第四條　衛生組合（聯合衛生組合ヲ含ム以下之ニ倣フ）ハ清潔方法、消毒方法ノ施行其他傳染病豫防救治ニ關シ規約ヲ設ケ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　衛生組合ハ組合内ノ事務ヲ取扱ハシムル爲メ左ノ役員ヲ置クヘシ

一　組合ノ區域但第三條但書又ハ第三條第二項ノ場合ニ限ル

二　組長委員ノ選舉方法

三　衛生事務ノ管理方法及組合費ノ賦課徵收方法竝決算報告ニ關スルコト

四　組合規約ニ違背シタル者ノ處分方法

五　塵芥掃除汚水ノ疏通其他家屋内外清潔方法ノ施行ニ關スルコト

六　井戸、便所等ノ修繕及井戸浚ニ關スルコト

七　煮沸水ノ使用及其供給ニ關スルコト

八　傳染病ノ疑アルトキハ直ニ當該吏員ニ屆出且醫察ヲ受クシムルコト

衛生組合ハ組長一名委員（凡十戸ニ對シ一名ノ割合）若干名トス但聯合衛生組合ニハ衛生委員ヲ置クヲ要セス

衛生組長及衛生委員ノ任期ハ三箇年トス

第六條　衛生組長又ハ衛生委員ハ其組合内ニ住居スル成年以上ノ者ノ内ヨリ組合員之ヲ選舉ス但聯合衛生組長ハ衛生組長之ヲ選舉ス

第七條　衛生組長ノ住所氏名ハ當選者ヨリ市町村長ニ報告スヘシ

衛生委員ノ住所氏名ハ衛生組長ヨリ市ニ在リテハ區長ニ町村ニ在リテハ町村長ニ報告スヘシ

第八條　衛生組長及衛生委員ハ正當ノ事由アルニアラサレハ當選ヲ辭シ任期中辭任スルコトヲ得ス

第九條　衛生組長又ハ衛生委員ニシテ不適任ト認ムルトキハ衛生組長ニ在リテハ市町村長、衛生委員ニ在リテハ區町村長之ヲ改選ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ命令ヲ受ケタル衛生組合ニハ十日以内ニ改選スヘシ

第十條　衛生組合規約ニ於テ規定スヘキ事項概目左ノ如シ

ト

九　傳染病アリタル家若ハ傳染病流行地方ヨリ來客又ハ歸宅シタルモノアルトキハ直ニ衛生組長又ハ衛生委員ニ通報セシムルコト

十　貧困者ニシテ傳染病ニ罹リタル場合ノ救護方法

十一　傳染病患家ニハ猥リニ交通ヲ爲サヽルコト

十二　傳染病ノ隱蔽ヲ防キ且其發見ヲ速ニスル方法ヲ設クルコト

十三　種痘ノ周到ヲ期スル方法ニ關スルコト

十四　傳染病豫防其他衛生上ニ關スル法令類ハ速ニ周知セシムル方法ヲ設ケ且其實行ヲ期セシムルコト

第十一條　衛生組合ニハ清潔方法、消毒方法施行ニ要スル左記ノ器具及藥品ヲ設備スヘシ但市町村長ノ認可ヲ得テ聯合衛生組合ニ設備スルコトヲ得

一　結晶石炭酸五瓶以上

二　生石灰五鑑以上

三　昇汞一磅以上

四　豫防衣三著以上

五　消毒藥溶解器其他ノ附屬品

前項ノ外市町村長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時設備ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條　衛生組合ハ市町村長ノ認可ヲ得テ組合事務所ヲ設備スルコトヲ得

第十三條　衛生組合經費ノ收入豫算ハ其時々決算ハ每會計年度後二十日以内ニ市町村長ニ報告スヘシ

第十四條　（削除）

第十五條　市長ニ差出スヘキ書類ハ區長ヲ經由スヘシ

第十六條　市區町村長ハ衛生組合ヲ監督スヘシ

第十七條　市町村長第四條ノ認可ヲ爲シタルトキハ其寫ヲ添ヘ又ハ第七條ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ所轄警察署長ニ通報スヘシ

第十八條　市町村長ハ衛生組合ノ名稱ヲ設立後十日以内ニ當廳ニ報告スヘシ其變更シタルトキ亦同シ但第三條ノ但書又ハ第三條第二項ノ場合ハ其區域ヲ併記スヘシ

衛生組合經費ノ收支ニ係ル報告ヲ受ケタルトキハ第十三條ニ揭クル期日後十日以内ニ全部取纏メ當廳ニ報告スヘシ

第十九條　本則第二條ニ違背シタル者又ハ第十條第四號ノ處分ニ服セサル者ハ科料ニ處ス

衛生組合設置規則改正ニ關スル件

大正十一年九月
衛第一〇五五八號

〔郡市長　警察署長〕

今回衛生組合設置規則中改正相成リ衛生組長及衛生委員ノ任期ハ從來一ケ年ヲ三ケ年ニ延長セラレタルニ付テハ此等組合役員ヲシテ一層責任ヲ重シシテ組合ノ改良發達ニ盡サシメ以テ改正ノ要旨ニ副ハシムヘク尙事情ノ許ス限リ汎ク一般保健衛生方面ニモ活動ノ歩ヲ促シ府民ノ健康增進ニ努メシムル樣督勵ヲ加ヘラレタク此段依命通牒候也

清潔法施行ノ際警察官出張ノ件

明治三十年九月
訓第二百七號

市町村又ハ衛生組合又ハ各自ニ於テ清潔法施行ノ場合之カ成績ヲ調査セサル時ハ每ニ不完全ヲ免カレス就テハ自今警部又ハ巡査部長衛生專務巡査ヲ

現場ニ出張監督セシメ施行ノ周到粗漏ナキ樣取計フヘシ

●防疫員、防疫監吏徽章

大正八年二月四日
京都府告示第七十二號

當府防疫員、防疫監吏ハ左腕ニ「防」ト黃書セル絲布ヲ纏ヒ徽章トス絲布ハ幅一寸二分質ハ絨トス

●外國航通船舶健全證書申請手續

明治三十五年七月二十九日
京都府令第四十一號

明治三十五年三月內務省令第九號ニヨリ外國航通船舶健全證書ノ交付ヲ申請スル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ出港地所轄警察署ニ差出スヘシ

一　國籍、船名、船種、噸數
一　船主又ハ代理人及船長ノ氏名
一　出向ノ地名
一　出帆ノ日時
一　船客船員ノ員數
一　積荷ノ種類員數

第二節　種痘

●種痘法施行ニ關スル件

明治四十三年一月十八日
京都府訓令第四號

改正　明治四三年京都府訓令第二五號、大正三年第三號、一年第五一號

〔郡〕役所　警察署　警察〔分〕署

〔京都書〕

明治四十二年四月法律第三十五號種痘法ハ本月一日ヨリ實施セラレ之カ施行方法竝ニ施術心得等既ニ夫々省令ヲ以テ規定セラレタルニ就テハ此機會ヲ逸セス土地ノ狀況ト實際ノ必要トヲ斟酌シ左記各號ヲ遵守シテ益々事務ノ刷新ヲ圖リ一致協力以テ種痘ノ普及ヲ期シ防疫上遺算ナキヲ期スヘシ

一　區町村長ハ第一號樣式ノ種痘名簿ヲ備ヘ出生死亡轉籍寄留其他異動ノ都度洩ナク記入スヘシ但從前ノ名簿ニシテ使用ニ堪ユルモノハ其破損ニ至ル迄訂正襲用スルコトヲ得

二　區役所町村役場ニハ第二號樣式ノ通知書及ヒ第三號樣式ノ養生書ヲ備ヘ通知書ハ種痘施行前、養生書ハ種痘施行ノ際種痘義務者ニ交付スヘシ

三、四　（削除）

五　警察署長警察分署長ハ戶口調査ヲ勵行シ種痘義務者ニシテ寄留屆ノ手續ヲ爲ササル者其他種痘ニ洩レタル者ノ發見ニ努メ每種痘施行前各關係區町村長ニ通知スヘシ

（樣式略ス）

●京都市定期種痘ノ件

明治四十三年一月十八日
京都府告示第二十二號

京都市ノ定期種痘ハ左記期間內ニ施行セシム但本年ニ限リ一月二十日ヨリ七月十五日迄、九月十二日ヨリ十二月十五日迄トス

每年〔自二月十五日 至七月十五日〕〔自九月十五日 至十二月十五日〕

第三節　癩豫防

〔京都書〕

●癩豫防ニ關スル法令施行手續

明治四十二年三月十六日
京都府訓令第十九號

改正　明治四二年京都府訓令第四三號

第一條　法律第一條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ現場ニ臨檢シ左記各號ノ消毒及ヒ豫防方法ヲ施行セシメ且第一號樣式ニ依リ速ニ當廳ニ報告スヘシ

一、患者ノ居室ハ別ニ之ヲ定メ可成他ノ家人ト雜居セシメサルコト
二、患者ノ衣類、寢具、日用器具等ハ專用トシ他ト混同セシメサルコト
三、患者常用ノ衣類、寢具、敷布等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯セシムルコト
四、患者ノ居室ハ常ニ淸潔ヲ保持セシムルコト
五、患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ常置セシムルコト
六、病毒ニ汚染シタル繃帶、手巾ノ類ハ消毒ヲ行ヒ且患家ノ紙屑、襤褸等ハ燒却スルコト
七、患者ハ可成外出ヲ避ケシメ若シ止ムヲ得ス外出セントスルトキハ淸潔ナル衣服ヲ著用シ潰瘍アルモノハ特ニ其繃帶ヲ更メシムルコト
八、患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ殊ニ劇場、興行場、寄席、料理店、飮食店、貸座敷、理髮店、湯屋、乘合船車其他公衆ノ出入スル場所ニ立入ラシメサルコト
九、患者ハ飮食物、飮食器具（金屬陶器ノ類ヲ除ク）玩具ノ調製、販賣其他病毒傳播ノ虞アル業務ニ從事セシメサルコト
十、患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ賣却、授與又ハ他ニ使用セシメサルコト

第二條　規則第二條ニ該當スル癩患者又ハ其同伴者若クハ同居者アルトキハ警察官署ハ第三號樣式ノ簿冊ニ登錄シ市町村長ヲシテ救護セシムル爲メ引渡シタル場合ハ其引渡ノ年月日時ヲ記入シ受領者ノ證印ヲ取リ置クノ外速ニ必要ノ事項ヲ取調ヘ第二號樣式ニ依リ當廳ニ報告スヘシ

第三條　救護ノ爲メ前條ノ癩患者又ハ其同伴者若クハ同居者ノ引渡ヲ受ケタル市町村長ハ第四號樣式ノ簿冊ニ登錄シ同時ニ傳染病院、隔離病舍其他消毒ニ便ナル場所ニ收容救護スヘシ

第四條　救護中ノ癩患者ニ對シ療養所ニ送致又ハ扶養義務者ノ引取ニ關スル當廳ノ通達ヲ受ケタルトキハ左記ニ依リ取扱フヘシ

一、送致ノ場合警察官署ノ救護中ニ係ルトキハ勿論市町村長ノ救護中ニ係ルモノハ警察官署之ヲ受領シ第五號樣式ノ送致書ヲ作製シ所屬巡

査ヲシテ療養所ニ直送セシメ第三號樣式ノ簿册ニ其送致ノ年月日時ヲ記入シ受領者ノ證印ヲ取リ置クコト

二、前號ニ依リ癩患者ヲ警察官署ニ引渡シタル市町村長ハ第四號樣式ノ簿册ニ其引渡ノ年月日時ヲ記入シ受領者ノ證印ヲ取リ置クコト

三、引取ノ場合警察官署ノ救護中ニ係ルモノハ第三號樣式市町村長ノ救護中ニ係ルモノハ第四號樣式ノ簿册ニ其引取ノ年月日時ヲ記入シ扶養義務者又ハ其代理者ノ證印ヲ取リ置クコト

四、引取ノ命令ヲ受ケタル扶養義務者其期限内ニ引取ヲ爲サヽルトキハ警察官署又ハ市町村長ハ其事由ヲ具シ當廳ニ報告スルコト

第五條　救護中ノ癩患者死亡シ若クハ療養所ニ送致シ又ハ扶養義務者引取ヲ爲ストキハ其同伴者若クハ同居者ニ對シ左記ニ依リ取扱フヘシ

一、死亡又ハ送致ノ場合其同伴者若クハ同居者ニシテ特ニ引續キ救護ヲ要スル事由アルモノヽ外同時ニ救護ヲ停止シ警察官署ノ救護中ニ係ルモノハ第三號樣式市町村長ノ救護中ニ係ルモノハ第四號樣式ノ簿册ニ其停止ノ年月日時又ハ引續キ救護ヲ要スル事由ヲ記入スルコト

二、引取ノ場合其同伴者若クハ癩患者ト共ニ扶養義務者ニ引取ラシメ警察官署ノ救護中ニ係ルモノハ第三號樣式、市町村長ノ救護中ニ係ルモノハ第四號樣式ノ簿册ニ扶養義務者又ハ其代理者ノ證印ヲ取リ置クコト

第六條　癩患者ヲ療養所ニ送致スル場合ハ鐵道、船舶ノ輸送等速達ノ方法ニ依リ可成途中ノ宿泊ヲ避クヘシ

前項送致ノ途中宿泊ヲ要スル場合ハ其地警察官署ト協議シ消毒ニ便ナル場所ニ宿泊セシムヘシ

第七條　法律第九條第一項第二項ニ依リ檢診ノ必要アルトキハ警察醫又ハ市町村醫ヲシテ檢診セシムヘシ

【京都警】

第八條　救護ニ要セシ費用ニシテ被救護者又ハ其扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル場合ハ救護止ミタルトキヨリ三ケ月以内ニ第六號樣式ニ依リ當廳ニ請求スヘシ

第九條　被救護者ノ救護ニ關シ繰替支辨スヘキ費目竝ニ其定額ハ左ノ各號ニ據ルヘシ

一時救護費

(イ) 檢診又ハ檢案料　一回金壹圓以内
(ロ) 施術料　一回金參拾錢以内
(ハ) 診斷書又ハ檢案書料　一通金貳拾錢以内
(ニ) 藥價(内外用劑及繃帶材料)　一人一日金拾貳錢以内
(ホ) 食費　一日三食一食金四錢以内
(ヘ) 消毒費　一人分金壹圓五拾錢以内
(ト) 寢具費　一人一日分金參拾錢以内
(チ) 薪炭油費　一人一日分金拾錢以内
(リ) 埋火葬費　一人分金壹圓五拾錢以内
(ヌ) 墓標費　一個金拾錢以内
(ル) 番人費　日給金四拾錢以内
(ヲ) 雜費　最低額實費

第十條　癩患者ノ送致ニ關シ繰替支辨スヘキ費目竝ニ其定額ハ左ノ各號ニ據ルヘシ

送致費

(イ) 船車賃　最低額實費
(ロ) 送致途中ニ於ケル食費其他ノ雜費ハ第九條雜費ノ定額範圍内ニ依ル

【京都警】

第一號樣式（用紙半紙二ツ切）

癩患者初期轉歸報告

病類別	何々癩	本籍現住所職業氏名年齡			
主治醫氏名			診斷年月日時	轉歸年月日時	屆出年月日時

右報告候也

年　月　日

署長名

知事宛

初期報告ハ轉歸及轉歸年月日時ヲ朱消シ轉歸報告ハ初期及診斷年月日時ヲ朱消入スルコト

第二號樣式（用紙半紙）

救護ヲ要スル癩患者調査報告書

患者本籍住所氏名年齡	
發見年月日時場所	
檢診又ハ檢案セシメタル年月日時及ヒ醫師職氏名	
病況	
患者ノ同伴者又ハ同居者ノ氏名年齡及患者トノ關係	

扶養義務者ノ住所氏名竝ニ患者又ハ死者トノ關係
扶養義務者ノ資產竝ニ生計ノ程度
其他參考トナルヘキ事項

右報告候也

年　月　日

知事　宛

第三號樣式（用紙半紙）

第　號		
患者（死者）	所氏名 年齡	救護ニ著手シタル年月日時
	本籍住所	市町村長ニ引渡シタル年月日時及受領者證印
		扶養義務者ニ引取ラシメタル年月日時及受領者證印
		療養所ニ送致ノ爲メ市町村長ヨリ引取リタル年月日時
		療養所ヘ送致シタル年月日時及受領者證印
		送致巡査氏名
		救護中死亡シタル年月日時
同伴者 同居者 氏名年		救護ニ著手シタル年月日時
		市町村長ニ引渡シタル年月日時及受領者證印
		救護ヲ停止シタル年月日時

【京都警】

署長名

第四號樣式（用紙半紙）

患者	警察官署ヨリ引渡ヲ受ケタル年月日時

被救護者ノ所持金品及其品質竝ニ數量	被救護者ノ所持金品ハ患者、死者、同伴者、同居者等各所有者ヲ區別シテ記載スルモノトス 救護中金品ヲ費消シタル時ハ其事由ヲ附記シ本人ニ署名捺印セシムヘシ 若シ署名捺印スル事能ハサルトキハ代書捺印セシムルヲ妨ケス
備考	

扶養義務者ノ本籍住所氏名年齡及患者死者トノ關係	扶養義務者ノ引取タル年月日及受領者證印 療養所ヘ送致シタル年月日時及受領者證印 救護中死亡シタル年月日時
同伴者同居者等ノ關係	

【京都警】

（死者）本籍住所氏名年齢	第　號　同伴者同居者氏名年齢及患者又ハ死者トノ關係	扶養義務者本籍住所氏名年齢及患者、死者、同伴者、同居者等ト同居者トノ關係
扶養義務者ニ引取ラシメタル年月日時及受領者證印		
療養所ヘ送致ノ爲メ警察官署ニ引渡シタル年月日時及受領者證印		
救護中死亡シタル年月日時		
	警察官署ヨリ引渡ヲ受ケタル年月日時	
	扶養義務者ニ引取ラシメタル年月日時及受領者證印	
	療養所ヘ送致ノ爲メ警察官署ニ引渡シタル年月日時及受領者證印	
	救護中死亡シタル年月日時	

〔京都警〕

被救護者ノ所持金品	備考
被救護者ノ所持金品ハ患者、死者、同伴者、同居者等各所有者ヲ區別シテ記入スルモノトス 救護中金品ヲ費消シタルトキハ其事由ヲ附記シ本人ニ署名捺印セシムルヲ妨ケス	
並ニ品質數量	
救護中死亡シタル者ノ所持金品ノ處分ハ規則第八條ノ規定ニ依ル	
末分ノ品類	

〔京都警〕

第五號樣式ノ一（用紙半紙罫紙）

送致書

癲患者

右者療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ニ付身柄及別紙目錄ノ金品ト共ニ及送致候也

年　月　日

本籍住所
氏名
年齢

京都府何々警察署長
官氏名　印

第三區府縣立外島保養院長宛

第五號樣式ノ二（用紙半紙竪紙）

金品目錄

一現金	何程		
一綿入衣	一枚		
一單衣	一枚		
一手拭	一筋		
一何々	何枚		
計	何點		

所有者　氏名

第六號樣式ノ一（用紙半紙竪紙）

一金　何程

癩患者（死亡者、同伴者、同居者）救護費用請求書

但癩患者（死亡者、同伴者、同居者）氏名救護ニ關スル分

外金　何程　何々ニ依リ辨償ヲ得タル分（辨償ヲ得ルモノナキトキハ其旨ヲ記載スルコト）

右ハ　年　月　日富（所）（役場）（署）ニ於テ救護シタル費用ニ候處何々（辨償ヲ得サル事由）ニ付下附相成度關係書類相添ヘ此段請求候也

年　月　日

請求高

知事宛

市町村長名

（警察署長名）

〔京都誉〕

癩患者（死亡者、同伴者、同居者）救護費用計算書

名稱	員數	單價	金額
診斷料	一	回	、
衰ノ患料	一	人分	、
何々	、	、	、
	、	、	、
	、	、	、
	、	、	、
	、	、	、
	、	、	、
	、	、	、
合計金何程			

右之通ニ候也

年　月　日

市町村長名

（警察署長名）

〔京都誉〕

第六號樣式ノ三（用紙半紙竪紙）

癩患者（死亡者、同伴者、同居者）救護費用辨償調書

一金何程　死亡者遺留金、患者、同伴者、同居者ノ所持金等ノ區別

一金何程　前ニ準ス

一金何程　死亡者遺留品、患者、同伴者、同居者ノ所持品賣却代等ノ區別

一金何程　扶養義務者ヨリ徵收金

合計金何程

右之通ニ候也

年　月　日

市町村長名

（警察署長名）

●癩豫防ニ關スル法令施行手續中ノ食費薪炭油費及番人費ノ件

大正七年八月
京都府訓令第二十三號

（郡役所）警察署　市役所　町村役場

明治四十二年三月京都府訓令第十九號癩豫防ニ關スル法令施行手續第九條中食費薪炭油費及番人費ハ當分ノ內左ノ通支給スヘシ

ホ　食費一日三食一食六錢以內

チ　薪炭油費一人一日拾四錢以內

ル　番人費日給金六拾錢以內

第四節　結核豫防

●結核豫防法施行細則

大正十年七月一日
京都府令第六十九號

改正　大正一一年京都府令第六八號、一二年第一一四號、一五年第一二九號

第一條　結核豫防法（以下單ニ法ト稱ス）第二條ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他豫防方法ハ結核豫防法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條ノ規定ニ依リ口頭ヲ以テ指示スルノ外其ノ事項ヲ記載シ之ヲ交付スヘシ

第二條　住家又ハ居室ヲ貸貸セムトスル者ハ居住者ヲ更ムル每ニ其ノ居住前之ニ對シ消潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　電車、輕便鐵道、自動車、馬車、船舶等ノ客ヲ輸送スル營業者ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ時々消毒方法ヲ施行スヘシ

第四條　結核患者ニシテ療養ノ途ナキ者ハ其ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ

〔京都警〕

屆出ツヘシ

第五條　規則第四條ニ依ル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ノ地域ハ別ニ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第六條　前條ノ指定地域內ニ於ケル住家、居室ヲ貸貸スル者ニシテ寢具及器具ヲ貸與シ又ハ飲食物ヲ供給スル者ニハ規則第四條第一項及本則第八條第五號第七號ヲ準用ス

第七條　規則第四條第一項ノ規定ハ貸座敷、貸蒲團其ノ他警察官署ニ於テ必要ト認メタル營業者若ハ場所ノ管理者又ハ之ニ代ルヘキ者及第五條地域外ノ宿屋營業者ニ之ヲ準用ス但シ規則第四條第一項第二號ノ規定ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル者ニ限リ之ヲ準用セス

第八條　學校、幼稚園、育兒院其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ在リテハ左記第一號乃至第五號ヲ病院其ノ他患者ヲ收容スル場所ニ在リテハ同第一號及第五號ヲ劇場、興行場及寄席ニ在リテハ同第六號乃至第八號ヲ各其ノ管理者又ハ之ニ代ハルヘキ者ニ於テ遵守スヘシ

一　室ノ內外共常ニ塵埃ノ飛散ヲ防止スヘキ適當ノ方法ヲ講スルコト

二　小學校尋常科第三學年以下又ハ之ニ相當スル兒童ニシテ場內ノ掃除ヲ爲サシメサルコト

三　每年一回以上醫師ヲシテ生徒又ハ兒童ノ健康診斷ヲ行ハシムルコト

四　寄宿舍ニハ一定ノ隔離室ヲ設ケ且相當ノ消毒器具及消毒藥品ヲ常備スルコト

五　飲食器及飲食物容器類ハ其ノ使用ヲ終ル每ニ煮沸消毒若ハ蒸氣消毒ヲ行ヒ又ハ各自ノ專用ト爲スコト

六　販賣スル食品類ニハ包裝又ハ覆蓋ヲ施スコト

七　座蒲團ハ白布ヲ以テ之ヲ被包シ常ニ清潔ヲ保持シ時々日光ニ曝スコ

〔京都警〕

ト

八　場內ハ常ニ清潔ヲ保持シ換氣採光ヲ良好ナラシメ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒方法ヲ行フコト

第九條　職工徒弟等十人以上ヲ傭使スル製造所ノ管理者又ハ之ニ代ルヘキ者ハ前條第一項第一號及第五號ニ依ルノ外警察官署ノ指示ニ從ヒ豫防ニ關スル施設ヲ爲スヘシ但シ十人未滿ヲ傭使スル製造所ト雖モ特ニ必要ヲ認メ指示セラレタルトキ亦同シ

第十條　古著、古寢具、古家具、古本、紙屑、襤褸其ノ他之ニ類スル古物ノ營業者ハ之ヲ消毒シタル後ニ非サレハ同業者以外ノ者ニ讓渡スコトヲ得ス但シ特ニ警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ揭クル物件ノ消毒ヲ爲シタルモノニハ警察官署ニ於テ證明ヲ與フルコトアルヘシ

第十一條　當廳ニ於テ結核豫防上必要ト認メタルトキハ警察官署ヲシテ健康診斷ヲ受クヘキ者ノ種別及健康診斷ヲ施行スヘキ區域日時場所ヲ指定セシム

第十二條　前條指定ヲ受ケタル者ハ其ノ日時場所ニ於テ健康診斷ヲ受クヘシ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ前項ノ健康診斷ヲ受クルコト能ハサル者ハ指定日時前ニ結核ニ關スル醫師ノ診斷書ヲ警察官署ニ差出スヘシ

第十三條　警察署ハ必要ト認メタルトキハ法第四條第一項第一號該當者ニ對シ指定シタル醫師ノ診斷書若ハ必要ト認メタル材料ノ提出ヲ命シ又ハ健康診斷ヲ施行スルコトヲ得

第十四條　規則第二條ニ依リ唾壺ヲ配置スヘキ場所左ノ如シ

一　參籠所、教會所、集會所

二　取引所、銀行、勸商場、新聞雜誌縱覽所

三　興行場、觀物場

四　貸座敷、貸席、待合茶屋、飲食店

五　工場、建造物內ニ於テ開設スル市場

六　工場ノ寄宿舍竝病舍、醫師ノ病室、患者ノ控所

七　客ヲ輸送スル汽船及發動汽船

第十五條　規則第二條ニ依リ配置シタル唾壺ハ不潔ナラサル樣時々之ヲ掃除スヘシ

第十六條　結核豫防法施行令（以下單ニ施行令ト稱ス）第一條ノ規定ニ依ル申請ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ但シ建物ノ所有者ト其ノ使用者ト異ナル場合ハ連署ヲ要ス

一　申請者ノ住所氏名及建物所有者竝使用者ノ住所氏名

二　損害ノ事由、金額及其ノ細目

三　所有者及使用者ヲ除クノ外建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ住所氏名及其ノ權利ノ種類

第十七條　施行令第十四條ノ規定ニ依ル申請ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一　申請者ノ住所、氏名、職業

二　生活費ノ補給ヲ受クルニ非サレハ生活シ能ハサル事由

三　同一ノ家ニ在ル者ノ數及各自ノ職業竝收入ノ狀況

四　從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ノ氏名

五　本人及同一ノ家ニ在ル者ノ直接國稅納稅額竝動產不動產ノ各見積價格

六　戶籍謄本

第十八條　（削除）

第十九條　施行令第十六條ニ依ル生活費補給ノ程度、方法、期間、廢止及停止ニ關スル事項ハ別ニ定メ之ヲ告示ス

第二十條　第二條、第三條、第十二條ニ違反シ又ハ第十三條ノ命ニ從ハサル者ハ科料ニ處ス

第二十一條　前條ノ罰則ハ未成年者又ハ禁治産者ニ對シテハ法定代理人ニ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附　則

第二十二條　本令ハ明治四十四年法律第四十六號工場法及明治三十八年法律第四十五號鑛業法ノ適用セラルル工場及鑛業ニ對シテハ該法ニ特別ノ規定アル範圍內ニ於テ之ヲ適用セス

結核豫防法施行細則執行手續

大正十年十一月十八日
京都府訓令第二十六號

改正　大正一一年京都府訓令第三六號、一二年第二四號、第四〇號、一五年第四〇號

警察署　市役所　町村役場

第一條　（削除）

第二條　警察官署、細則第二條但書ノ許可ハ其ノ家屋居室竝其ノ附屬物ノ新ニ建設シタルモノナルトキ又ハ前居住者ノ居住當時ニ於テ結核患者ニ非サリシコトヲ認メタル場合ニ限ルモノトス

第三條　警察官署ハ細則第三條ノ營業者ニ對シ適當ナル消毒方法ヲ指示シ乘客ナキ場合ニ於テ之ヲ施行セシムヘシ

第四條　警察官署、細則第七條但書ノ許可ハ土地其ノ他ノ狀況ニ依リ特ニ必要ヲ認メサルモノニ限ルモノトス

前項ノ許可ヲ與ヘタル場合ト雖モ常ニ清潔ヲ保持シ時々日光ニ乾曝セシムヘシ

第五條　結核豫防法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第四條第一項第一號ノ被包ハ寢具ノ全部ニ及ハサルモノハ左ノ各號ニ依リ設備セシムヘシ

一　敷蒲團ハ人體ニ接觸スル部面ニハ白布ヲ以テ全部ヲ覆フコト

二　掛蒲團ハ前號ニ依ルノ外標ニ當ル一端ハ蒲團面ノ四分ノ一以上折返スコト

第六條　規則第二條及細則第十四條ニ規定セル場所ニ配置セシムヘキ唾壺ノ個數ハ概ネ左ノ標準ニ依ルヘシ

一　室內ニ在リテハ一室每ニ一個以上但シ十坪ヲ超ユルトキハ十坪ヲ增ス每ニ一個以上ヲ加フ

二　廊下ニ在リテハ十間每ニ一個以上

三　宿屋、寄宿舍、合宿所、貸座敷、料理屋、飮食店、貸席、待合茶屋ニ在リテハ室每ニ一個以上、湯屋ニ在リテハ脫衣場、浴場各別ニ一個以上ヲ備付ケシムルコト

四　前各號以外ノ場所ニ在リテハ其ノ狀況ヲ參酌シテ其ノ個數ヲ定ムヘシ

第七條　警察官署ハ細則第九條該當ノ工場ノ管理者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ對シ每年二回以上醫師ヲシテ其ノ職工、徒弟其ノ他ノ從業者ノ健康診斷ヲ行ハシムヘシ

第八條　細則第十條第一項但書ノ承認又ハ第二項ノ規定ニ依リ消毒ノ證明ヲ願出タルトキハ事實調査ノ上病毒ニ汚染若ハ汚染ノ疑ナキモノニハ第四號樣式消毒濟ノモノニハ第五號樣式ノ證票ヲ其物件ニ貼付スヘシ

第九條　警察官署、細則第十一條ノ指定ヲ爲シタルトキハ健康診斷ヲ受クヘキ者ニ對シ周知ノ方法ヲ講スヘシ

前項健康診斷ノ結果結核患者ト診斷セラレタル者ニ對シテハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クヘキコトヲ懇諭シ規則第一條各號ノ消毒及其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

第十條　警察官署ハ每月一回以上前條第二項該當患者ノ治療及消毒其ノ他豫防方法實行ノ狀況ヲ視察シ且之ヲ督勵スヘシ

〔京都警〕

第十一條　警察官署、第九條第二項該當患者及結核豫防法（以下單ニ法ト稱ス）第四條第一項ニ依リ從業ヲ禁止セラレタル患者所轄外ニ轉住シタルトキハ速ニ轉住地所轄警察官署ニ通報スヘシ

第十二條　警察官署、細則第四條及第十三條ニ依リ發見シタル結核患者ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ法第四條第一項第二號又ハ法第七條第一項ノ處分ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ報告スヘシ

一　肺結核ニシテ咳嗽喀痰アリ且喀痰中ニ結核菌ヲ證明シ得ルモノ

二　喉頭結核ニシテ咳嗽頻發スルモノ

第十三條　警察官署ニ於テ細則第十三條ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキ法第四條第一項第一號ノ該當者トハ左ノ各號ニ揭クル者ヲ謂フ

一　產婆、看護婦、鍼術、灸術、按摩術、マッサージ術業者

二　藝妓、娼妓、酌婦、雇仲居

三　劇場、興行場、貸座敷、料理屋、飮食店、貸席、待合、喫茶店等ノ營業者及其ノ從業者

四　寄宿舍、合宿所、宿屋等ノ營業者、從業者及其ノ止宿者

五　質屋、古物商、古綿商、紙屑商、襤褸商及其ノ從業者

六　貸蒲團、貸衣裳、貸本等ノ營業者及其ノ從業者

七　電車、馬車、自動車ノ乘務員及船舶ノ乘客取扱者

八　獸肉、獸乳ノ營業者及其ノ從業者

九　飮食物製造又ハ販賣業者及其ノ從業者

十　箸、楊枝、折箱ノ製造又ハ販賣業者及其ノ從業者

十一　疊職、裁縫業、洗濯業、理髮營業者及其ノ從業者

十二　前各號ノ外知事ニ於テ必要ト認メ指示シタル者

第一號樣式（消滅）

〔京都警〕

第十四條　（削除）

第十五條　市町村長、細則第十七條ノ申請ニ對スル生活費補給ノ許可アリタルトキハ其ノ旨本人ニ通知シ、補給ノ請求ヲ受ケタルトキハ「結核豫防法施行令第十六條ノ規定ニ依ル生活費補給ノ程度方法其ノ他ニ關スル件」ニ依リ調査シ速ニ通達スヘシ

第十六條　市町村長、補給額及期間ニ變更ヲ生シ又ハ之カ廢止、停止ノ事由ヲ生シタルトキハ速ニ報告スヘシ

第十七條　警察官署、細則第十一條ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ第二號樣式ニ依リ健康診斷名簿ヲ調製シ之ヲ整理スヘシ

第十八條　警察官署、細則第十一條ノ健康診斷ヲ終リタルトキハ第三號樣式ニ依リ成績表ヲ作リ十日以內ニ報告スヘシ

第十九條　警察官署、法第四條第一項第三號第四號、同第五條第一項ノ處分ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ報告スヘシ

第二十條　警察官署ハ建物ヲ新築變更又ハ修理スル者ニ對シ豫メ換氣採光其ノ他ノ關係ニ於テ衞生上不良ナラシメサル樣懇諭シ適當ノ方法ヲ設ケシムヘシ

第二十一條　結核療養所設置ノ市町村ハ入所患者ニ異動ヲ生シタルトキ其ノ住所氏名及異動事項ヲ速ニ關係市町村ニ通知シ知事ニ報告スヘシ

第二十二條　市町村長、結核患者ノ死亡アリタルトキハ直ニ其ノ住所氏名、職業、年齡及死亡年月日竝主治醫ノ住所氏名ヲ所轄警察官署ニ通報スヘシ

第二十三條　警察官署ハ前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ法第三條ニ依リ速ニ消毒其ノ他豫防方法ニ關シ適當ニ措置スヘシ

第二號樣式

健康診斷名簿

診斷月日	成績	住所	職業	氏名	年齡	備考

注意

一　成績欄內ニハ肺結核ト喉頭結核トヲ區別シ頭字ヲ朱書ニテ表示シ其ノ疑似症ハ之ヲ括弧書スヽ之ニ該當セサルモノハ記入セス

二　備考欄內ニハ患者ノ轉住死亡其ノ他ノ異動及不參事由等ヲ記入ス

三　第十一條ニ依リ通知ヲ受ケタル患者ハ別ニ口座ヲ設ケ之ヲ記入ス

第三號樣式

結核診斷成績表

診斷月日	施行區域	被檢診者種別	同上人員	診斷實人員	同上ノ內患者 肺結核	喉頭結核	計	備考

何警察官署

注意

一　被檢診者ノ種別欄內ニハ職業別ヲ記入ス

〔京都警〕

二　患者欄內ニハ結核患者ハ朱書其ノ疑似症ハ墨書ス

三　第十二條各號ノ一ニ該當スル患者ノ病種及住所氏名年齡等ハ備考欄內ニ朱記ス

第四號樣式

消毒省略證票

消毒省略承認證

大正　年　月　日

何警察署

縱一寸五分
橫一寸ス

第五號樣式

消毒證票

京都府
何警察署
證票

縱一寸橫一寸五分トシ消毒證票ノ四字ハ打拔トス

〔京都警〕

●結核豫防法施行令第十六條ノ規定ニ依ル生活費補給ノ程度、方法其ノ他ニ關スル件

大正十年十一月十八日
京都府告示第五百五十七號

第一條　生活費ノ補給額ハ一人一日金參拾八錢以內トシ一家總額一日金壹圓貳拾錢ヲ超エサル範圍內ニ於テ之ヲ定ム

第二條　生活費ノ補給ハ入所又ハ從業休止ノ事實アリタル翌日ヨリ起算シ補給廢止又ハ停止ノ當日迄日割計算ニ依リ之ヲ支給ス

補給ヲ減額シ又ハ補給ノ停止ヲ解除シ若ハ停止期間滿了シタルトキ又前項ニ準ス

第三條　生活費補給ノ許可ヲ受ケタル者ハ翌月五日迄ニ其ノ前月分ヲ請求スヘシ但シ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ補給ヲ廢止若ハ停止セラレタルトキハ期日ニ拘ラス請求スルコトヲ得

第四條　生活費補給許可ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ效力ヲ失フモノトス

一　入所ヲ命セラレタル者退所又ハ死亡シタルトキ

二　從業ヲ禁止セラレタル者之ヲ解除セラレ又ハ死亡シ若ハ管外ニ移轉シタルトキ

第五條　生活費ノ補給ヲ受クル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之カ補給ヲ廢止又ハ減額スルコトアルヘシ

一　結核豫防法施行令第十三條第二號第三號ニ該當スル者死亡シ又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキ

二　他ニ公私救恤ノ途アルニ至リタルトキ

三　廢止又ハ減額スルモ生活シ得ヘシト認メタルトキ

四　本人ノ申請アリタルトキ

五　怠惰又ハ素行不良ト認メタルトキ

第六條　生活費ノ補給ヲ受クル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其

ノ間補給金ノ全部又ハ一部ヲ停止ス
一　逃走又ハ所在不明トナリタルトキ
二　拘留若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ刑事被告トシテ留置セラレタルトキ

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ本人、戸主又ハ法定相續人ヨリ三日以内ニ其ノ旨所轄市町村長ニ屆出ツヘシ
一　第四條各號ニ該當シタルトキ
二　第五條第一號第二號ニ該當シタルトキ

第八條　生活費補給ノ許可效力ヲ失ヒ又ハ廢止若ハ減額ノ事由發生シタル者ニシテ前條ニ依ル屆出ヲ怠リ補給金ノ支拂ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ補給金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシム
生活費ノ補給ヲ停止シタル場合ニ於テ既ニ交付シタル補給金アルトキ亦前項ニ同シ

第五節　トラホーム豫防

●「トラホーム」豫防法施行細則

大正十年七月二十六日
京都府令第七十七號

第一條　市町村住民ハ市町村長ノ指定シタル日時、場所ニ於テ「トラホーム」ノ有無ニ付檢診ヲ受クヘシ
前項ノ檢診ヲ受クヘキ者ノ保護者ハ被保護者ヲシテ檢診ヲ受ケシムヘシ
疾病其ノ他ノ事故ニ因リ本條ノ檢診ヲ受クルコト能ハサル者又ハ其ノ保護者ハ指定日時前ニ「トラホーム」ニ關スル醫師ノ診斷書ヲ市町村長ニ提出スヘシ

〔京都警〕

第二條　「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受クルノ途ナキ者又ハ其ノ保護者ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ治療ヲ受ケ又ハ受ケシムヘシ

第三條　病院、鑛泉浴場、水浴場、宿屋、貸座敷、貸席、料理店、飲食店、理髮店、無料宿泊所、遊技場其ノ他警察官署ノ指定シタル客ノ來集ヲ目的トスル場所又ハ多衆ノ集合スル場所ニ於テハ「トラホーム」豫防法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條ノ規定ニ依ルノ外左ニ揭クル事項ヲ遵守スヘシ
一　營業用ニ供スル洗面器ハ每日炭酸曹達、石鹼又ハ木灰ヲ用ヒテ之ヲ洗滌スルコト
一　營業用ニ供スル寢具及衣類ハ常ニ清潔ヲ保タシメ且使用者ヲ更ムル每ニ日光ニ曝スコト
一　「トラホーム」患者ノ使用シタル物品ハ相當ノ消毒方法ヲ行ヒタル後ニ非サレハ之ヲ他人ニ使用セシメサルコト

第四條　學校、幼稚園、育兒園其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ在リテハ管理者又ハ之ニ代ルヘキ者ハ其ノ生徒兒童ニ對シ每年一回以上「トラホーム」ノ有無ニ付醫師ヲシテ檢診セシメ發見シタル患者ニ對シテハ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ

第五條　社寺、佛堂、教會所、講所其ノ他各種禮拜所ノ管理者又ハ之ニ代ハルヘキ者ハ參拜者ノ自由ニ使用スルコトヲ得ヘキ場所ニ手拭又ハ之ニ類スル布片其ノ他警察官署ノ指示スル物件ヲ備付クルコトヲ得ス

第六條　職工徒弟十人以上ヲ使用スル工場ノ管理者又ハ之ニ代ルヘキ者ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ「トラホーム」豫防治療ニ關スル施設ヲ爲スヘシ但シ十人未滿ヲ使用スル工場ト雖モ特ニ必要ヲ認メ指示セラレタルトキ亦同シ

第七條　當廳ニ於テ必要ト認メタルトキハ警察官署ヲシテ檢診ヲ受クヘキ者ノ別及檢診ヲ施行スヘキ區域、日時、場所ヲ指示セシム
前項ノ指定ヲ受ケタル者ニ對シテハ第一條ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ在リテハ同條第三項ノ診斷書提出先ハ警察官署トス

第八條　警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得
一　「トラホーム」ノ疑アル患者ニ對シ檢診ヲ施行シ又ハ指定シタル醫師ノ診斷書ヲ提出セシムルコト
二　客ニ接スル業務ニ從事スル「トラホーム」患者ノ從業ヲ停止スルコト

第九條　第一條第七條ニ依リ施行スル檢診又ハ第一條第三項第七條第二項ニ依ル醫師ノ診斷書ニ於テ「トラホーム」患者ト診斷セラレタル者ニ對シテハ治療票ヲ交付ス
前項ノ治療票ハ警察官吏又ハ當該吏員ノ需メアルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十條　市町村ニ於テ「トラホーム」豫防治療ノ爲支出シタル費用年額三十圓以上ナルトキハ左ノ區分ニ依リ府費ヨリ之ヲ補助ス
一　治療ニ關スル費用ハ支出額ノ四分ノ一
二　豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ六分ノ一
前項各號ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第十一條　支出額市町村ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ又ハ特別ノ事由アルトキハ前條ノ歩合制限ニ依ラスシテ之ヲ補助スルコトアルヘシ

第十二條　市町村ニ於テ一時ニ多額ノ支出ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ決議額ニ對シ六分ノ一ヲ限度トシ概算ヲ以テ補助金ヲ交付スルコトアルヘシ

〔京都警〕

第十三條　市町村ノ支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ査定額ニ對シ之ヲ補助ス

第十四條　第一條、第二條、第五條、第七條第二項、第九條第二項ニ違反シ又ハ第八條ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十五條　本令ニ於テ保護者ト稱スルハ「トラホーム」豫防法第十一條各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

附　則

第十六條　本令ハ明治四十四年法律第四十六號工場法及明治三十八年法律第四十五號鑛業法ノ適用セラルル工場及鑛業ニ對シテハ該法ニ特別ノ規定アル範圍ニ於テ之ヲ適用セス

●「トラホーム」豫防法施行細則執行手續

大正十年十一月十八日
京都府訓令第二十七號

改正　大正一五年京都府訓令第二八號

警察署　市役所　町村役場

第一條　市町村長「トラホーム」豫防法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第一條ノ檢診ノ日時、場所ノ指定ハ知事ノ指示ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條　市町村長ハ細則第一條ノ檢診ニ依リ「トラホーム」患者ト診斷セラレタル者ニ對シ第一號樣式ノ治療票ヲ交付シ其ノ注意事項ヲ懇示スヘシ

第三條　市町村長、細則第一條第三項ニ依リ診斷書ノ提出アリタルトキハ之ヲ調査シ「トラホーム」患者ト診斷セラレタル者ニ對シテハ前條ニ準シ取扱フヘシ
警察官署ハ細則第七條第二項ニ依リ同第一條第三項ヲ準用スルトキ亦前項ニ同シ

第四條　市町村長ハ豫防及治療ニ必要ナル醫師、場所、器具、藥品其ノ他ノ施設ヲ爲スヘシ

第五條　警察官署ニ於テ細則第二條該當ノ「トラホーム」患者ヲ認メタルトキハ患者又ハ其ノ保護者ニ對シ第二項ニ依ル救療ヲ受クヘキコトヲ指示シ其ノ患者ノ住所、氏名、職業、年齢及生活ノ狀況ヲ詳記シ速ニ市町村長ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル市町村長ハ適當ナル方法ヲ設ケ患者ヲ治療スヘシ

第六條　警察官署「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受ケス又ハ怠ルコトヲ認メタルトキハ患者又ハ其ノ保護者ニ對シ期日ヲ指定シ醫師ノ治療ヲ受クヘキコトヲ命スヘシ

前項ノ命ニ從ハサル患者又ハ其ノ保護者ニ對シテハ行政執行法第五條第一項第二號ニ基キ治療ヲ强制スヘシ

第七條　警察官署ニ於テ細則第三條ニ依リ客ノ來集ヲ目的トスル場所又ハ多衆ノ集合スル場所ヲ指定シタルトキハ適宜公示ノ方法ヲ執リ速ニ報告スヘシ其ノ指定ヲ解除シタルトキ亦同シ

第八條　警察官署ニ於テ「トラホーム」豫防法第四條各號ノ事項ヲ施行スルノ必要アリト認メタルトキハ報告スヘシ

第九條　警察官署ハ細則第六條該當ノ工場ノ管理者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ對シ毎年二回以上「トラホーム」ノ有無ニ付キ醫師ヲシテ其ノ職工、徒弟其ノ他ノ從業者ヲ檢診セシメ患者ニ對シテハ適當ナル方法ヲ設ケ治療セシムヘシ

第十條　警察官署、細則第七條ノ指定ヲ爲シタルトキハ檢診ヲ受クヘキ者ニ對シ周知ノ方法ヲ講スヘシ

前項檢診施行ノ場合ニ在リテハ警察官署ニ對シ第二條ヲ準用ス

〔京都警〕

第十一條　細則第八條第二號ノ處分ヲ爲サントスルトキハ意見ヲ具シ稟議スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ該當スル業態及症狀ニ限ルモノトス

一業態

宿屋、料理屋、飲食店、理髮店、喫茶店其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者ニシテ直接客ニ接スル者及產婆、看護婦、按摩術、マッサージ術、鍼術、灸術業者、藝妓、娼妓、雇仲居、酌婦其ノ他客ニ接スル業務ニ從事スル者

二症狀

結膜ニ汎ク顆粒簇生スルモノ、顆粒ノ發生ト共ニ乳嘴ノ增殖著シキモノ又ハ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ

第十二條　警察官署、市町村長ハ「トラホーム」患者所轄外ニ轉住シタルトキ速ニ轉住地所轄警察官署又ハ市町村長ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル警察官署又ハ市町村長ハ其ノ患者ニ對シ治療票ヲ交付シ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ

第十三條　警察官署、市町村長ハ毎月一回以上患者ノ治療票ヲ調査シ其ノ治療ヲ督勵スヘシ

第十四條　警察官署、市町村長ハ第二號樣式ニ依リ「トラホーム」檢診名簿ヲ調製シ之ヲ整理スヘシ

第十二條第二項該當患者ハ前項ノ名簿ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ

第十五條　警察官署ハ細則第一條及同第七條ニ依ル檢診ヲ終リタルトキハ第三號樣式ニ依リ「トラホーム」檢診成績表ヲ作リ十日以內ニ報告スヘシ

第十六條　町村長ハ毎年一月二十日迄ニ市長、警察官署ハ毎年一月三十一日迄ニ第四號樣式ニ依リ前年中ノ治療成績表ヲ作リ報告スヘシ

〔京都警〕

第十七條　細則第十條ニ依ル補助申請ハ第五號樣式ニ依リ毎年四月三十日一迄ニ提出スヘシ

第一號樣式（表）

郡　町大字　番地
市　村　業　氏　名
當年

檢診月日	全治月日	主治醫　氏　名
月　日	月　日	

備考

トラホーム治療票

注意事項

一　速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ全治ニ至ル迄其ノ治療ヲ持續セラルヘシ
二　醫師ヨリ指示ヲ受ケタル事項ハ堅ク守リ成ルヘク群集ノ場所ニ立入ラサル樣注意セラルヘシ
三　治療ヲ受ケタルトキハ其ノ都度裏面ノ月日欄ニ主治醫ノ認印ヲ受ケラルヘシ
四　全治シタルトキハ其ノ月日及主治醫ノ署名捺印ヲ受ケ返戻セラルヘシ
五　他町村ニ轉住其ノ他ノ異動ヲ生シタルトキハ備考欄ニ其ノ事由ヲ記シ速ニ返戻セラルヘシ
六　本票ハ警察官吏又ハ當該吏員ヨリ時々調ヘラルヽコトアリ其ノ際ハ示サルヘシ
七　本票ハ大切ニ保存セラルヘシ若シ紛失シ又ハ餘白ナキニ至リタルトキハ更ニ請求セラルヘシ

大正　年　月　日

何町村役場
何市役所
何警察署

第一號樣式（裏）

月別＼日別	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日
月										
	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日
	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日
月										
月										
月										
備考										

第二號樣式

檢診名簿

檢診月日	成績	治療月日	住所職業	氏名	年齡	備考

〔京都警〕

月日	月日	月日
月日	月日	月日

〔京都警〕

注意

一成績欄ニハ重症、輕症、疑似症ノ三種ニ區別シ各其ノ頭字ヲ以テ之レヲ表示シ否ラサルモノハ之ヲ記入セス

一患者及疑似症ノ分類ハ左ノ標準ニ依ル

重症トハ

一　結膜ニ汎ク顆粒簇生スルモノ、顆粒ノ發生ト共ニ乳嚢ノ增殖著シキモノ又ハ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ

二　「トラホーム」性、「パンヌス」ヲ起シ其ノ進行中ニアルモノ

輕症トハ

一　顆粒ノ發生乳嚢ノ增殖等「トラホーム」性病變カ瞼結膜ノ內外背部、半月狀皺襞又ハ穹窿部ニ限局スルモノ

二　結膜ニ於ケル病變輕度ニシテ分泌少キモノ

疑似症トハ

一　「トラホーム」ニ類似スル症狀アルモ直ニ「トラホーム」ト診定シ難キモノ

二　結膜ニ「トラホーム」經過ノ疑アル瘢痕アリテ炎症ヲ伴フモノ

一備考欄內ニハ保護者ノ氏名續柄又ハ患者ノ轉住、死亡等ノ異動及不參事由其ノ他參考事項等記入ス

一職業欄內ニハ本人ノ職業（若シ職業ナキ場合ハ家計ノ主ナル職業ヲ記入ス）

第三號樣式

「トラホーム」檢診成績表

檢診月日	施行區域	被檢者種別	同上人員	檢診實員	同上ノ內患者數			備考
					重症	輕症	計	疑似症	

何警察官署

注意

一患者ノ分類ハ第二號様式注意事項參照

一被檢診者種別欄内ニハ一般住民、壯丁、特種業態（宿屋、料理屋、理髮店）ヲ記入ス

第四號様式

「トラホーム」治療成績表（大正　年分）

何町村役場
何市役所
何警察官署

町村名	被檢診者種別	患者數	前年度ヨリ患者繰越人員	全治 重症	全治 輕症	全治 計	未治 重症	未治 輕症	未治 計
備考									

注意

一本表ハ治療票ヲ交付シタル患者ヲ記入ス

一被檢診者ノ種別ハ第二號様式注意事項參照

一第五條第二項該當患者及死亡、轉住、行衞不明等ノ別竝其ノ數ヲ備考欄ニ記入ス

（京都警）

第五號様式

何年度「トラホーム」豫防及治療費補助申請書

一金

内譯

金　　　　但シ治療費精算額ノ四分ノ一

金　　　　但シ豫防費精算額ノ六分ノ一

右支出精算書及收入明細書添付此段及申請候也

年　月　日

市　町　村　長印

知事宛

何年度「トラホーム」豫防及治療費支出精算書

（京都警）

種別	費目	金額		摘要
豫防費	醫師給	圓		月給何圓ノモノ何人何月分何圓日給何程ノ者何人延何日分何圓等算出ノ基礎ヲ明記スルコト以下之ニ倣フ
	雇員給			
	傭人給			
	備品費			
	消耗品費			
	何々			
	、、			
	合計			

費目		金額	摘要
治療費	醫師給	圓	月給何程ノ者何人何月分金何圓日給何程ノ者何人延何日分金何圓等算出ノ基礎ヲ明記スルコト以下之ニ倣フ
	雇員給		
	小使給		
	何々		
	備品費		
	藥品費		
	消耗品費		
	何々		
	合計		
總計			

何年度「トラホーム」豫防及治療費收入明細書

費目		金額	摘要
豫防費收入	寄附金	圓	寄附ノ年月日及寄附者ノ住所氏名等ヲ記載スルコト
	何々		
	、、		
	計		
治療費收入	寄附金		寄附ノ年月日及寄附者ノ住所氏名等ヲ記載スルコト
	何々		
	、、		
	計		
總計			

〔京都警〕

●「トラホーム」豫防方法

明治四十二年十月
京都府告諭第一號

「トラホーム」豫防ニ關シテハ從來屢機關ニ命シテ防禦策ヲ講セシメ又ハ專門醫ヲ派遣シテ檢診並ニ治療ノ途ヲ説カシムル等專ラ防遏ニ努ムト雖モ實效現ハレサルノミナラス却ツテ蔓延ノ著シキモノアルハ每年施行スル徵兵檢査及學校生徒ノ體格檢査成績ニ徵シ明瞭ナリ加之統計ノ示ス所ニ依レハ本病ハ主トシテ少壯者ヲ侵スヲ以テ或ハ研學ノ方針ヲ阻害シ若クハ就職ノ途ヲ失ハシムル等單リ個人ノ不幸ニ止マラス惹テ國家生產力ヲ萎靡シ陸海軍ノ充實ニ多大ノ障害ヲ及ホス如キ洵ニ憂慮ニ堪ヘサルナリ抑モ本病ハ觸接傳染病ニシテ其病毒タル常ニ病眼ノ分泌物中ニ包含セラレ之カ排泄ニ當リ各種ノ物體例令ハ洗面器手拭手巾等ノ類ニ汚染シ有ユル機會ニ依リテ他ニ傳播ス而シテ一旦本病ニ罹リ治療ノ時機ヲ愆ルトキハ頗ル緩慢ノ經過ヲトリ甚シキニ至リテハ往々不治症ニ陷ルコトアリ然レトモ初期ノ場合ニ於テ速ニ醫治ヲ加フルトキハ治癒亦遲カラサルモノナレハ各自宜シク此主旨ヲ體シ左記豫防方法ノ實行ヲ期シ遺憾ナキ樣注意スヘシ

一　患者ノ注意

（イ）「トラホーム」ニ罹リ又ハ其疑アルトキ其他眼病ニ罹リタル者ハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケ之カ治療ヲ怠ラサルコト

（ロ）患者ハ常ニ爪ヲ剪除シ手指ノ清潔ヲ保チ且ツ病眼ニ接シタルトキハ必ス手指ヲ洗滌シタル後ニアラサレハ他物ニ觸レサル樣注意スルコト

（ハ）患者入浴ノ際ハ豫メ浴槽外ニ於テ面部殊ニ眼瞼ヲ充分洗滌シタル後入浴スルコト

（ニ）病眼ヲ拭フニハ清潔ナル一定ノ布片又ハ棉花ヲ用ヒ一旦使用セシモノハ必ス熱湯ヲ注キ放冷ノ後再ヒ使用シ其使用ニ堪ヘサルニ至リタルモノハ燒却スルコト

（ホ）洗面器、手拭、衣類、寢具、食器、書籍、玩具ノ類ハ患者ノ專用トシ嚴格ニ健康者トノ區別ヲ爲シ其種類ニ應シテ時々熱湯中ニ浸漬スルカ又ハ日光乾燥ヲ怠ラサルコト

（ヘ）患者ハ公德ヲ重ンシ成ヘク群集雜沓ノ場所ニ立入ラサル樣注意スヘキハ勿論ナルモ止ムヲ得ス交通スル場合ハ必ス眼鏡ヲ使用スルコ

ト

一患家ノ注意

(イ)家族中「トラホーム」ニ罹レル者アルトキハ手指ヲ洗滌シタル後ニアラサレハ眼邊ニ觸レサル樣注意スルコト

(ロ)患家ノ家族ハ特ニ身體衣類ノ清潔ニ注意シ且ツ家屋内ノ清潔方法ヲ持續シ光線ノ射入竝ニ空氣ノ流通ヲ充分ナラシムルコト

(ハ)衣服ノ袖、前垂等ニテ顏面ヲ拭ハサル樣注意スルコト

(ニ)患家ニ於ケル手拭、布巾、雜巾ノ類ハ時々熱湯ヲ注キテ消毒的洗淨ヲ爲スコト

(ホ)患家家族ノ手拭手巾ノ類ハ各自專用トシ便所手洗場ノ手拭類ハ凡テ備付セサルコト

(ヘ)患家ノ家族ニシテ眼ニ異狀ヲ感シタルトキハ特ニ速ニ醫療ヲ求ムルコト

一一般ノ注意

(イ)健康者ハ常ニ他人ノ眼病ニ心シ若シ眼病者ニ遭遇シタルトキハ成ヘク患者ノ身體衣類竝ニ所持品ニ觸レサル樣注意シ止ムヲ得ス接觸シタルトキハ速ニ其部分ヲ消毒又ハ洗淨スルコト

(ロ)家宅内ノ清潔方法竝ニ空氣ノ流通ニ注意シ室内ハ常ニ充分ニ光線ノ注入ヲ圖リ手洗水ハ成ヘク「カラン」付ノ貯水器ヲ備ヘテ使用ノ都度容器ヨリ流出スル裝置ヲ爲シ且ツ手拭類ノ共用ヲ爲サヽルコト

(ハ)塵埃、煤煙、日光燈火ノ直射、其他過度ニ目ヲ使用スル職業ニ從事スルモノハ保護眼鏡ヲ使用スルコト

(ニ)神社、佛閣、學校、工場、劇場、興業場、旅人宿、料理屋、飮食店、湯屋、理髮店、席貸、待合茶屋、其他多人數集合ノ場所ニアリテハ特ニ手拭類ノ使用ヲ禁スルコト

〔京都警〕

●「トラホーム」豫防ニ關スル件

明治四十二年十月
京都府訓令第四十四號

「トラホーム」豫防ニ關シテハ屢指示スルアリト雖モ何等成績ノ見ルヘキモノナク年ヲ逐フテ益々蔓延ノ兆アルハ頗ル遺憾トスル所ナリ而シテ實際ノ狀況ヲ視ルニ罹病者ハ主トシテ少壯者ニ多ク而カモ治療ノ時機ヲ逸シテ重症ニ陷レル者尠ナカラス斯クテハ研學ノ方針ヲ惹リ又ハ稼業ノ途ヲ失フ者等續出スルニ至リ惹イテ國家ノ生産力ト陸海軍ノ充實トニ多大ノ障害ヲ釀スニ至ラン之レ畢竟本病ニ對スル豫防方法ノ普及セサルト衞生思想幼稚ニシテ病毒ノ恐ルヘキヲ覺ラス徒ラニ看過スルノ結果ナリト認メラルヽニ依リ更ニ救濟法ノ徹底ヲ期シ特ニ告諭第一號ヲ發シ一般ニ警告セシ次第ナレハ此機ヲ逸セス各機關聯絡ヲ通シ一致協力豫防ノ普及ヲ圖リ以テ本病ノ撲滅ヲ期スヘシ

第六節　檢徽

●娼妓健康診斷施行規則

大正元年十二月二十七日
京都府令第三十七號

第一條　娼妓ハ其住居地所屬娼妓檢查所ノ指示ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ

第二條　娼妓ハ前條ノ健康診斷ヲ受ケ健全證ヲ携帶スルニアラサレハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第三條　健康診斷ヲ分チ定日及ヒ臨時ノ二種トス定日健康診斷ノ日時及場所ハ娼妓檢查所長之ヲ告示ス

第四條　臨時健康診斷ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

〔京都警〕

一　新ニ稼業ニ就カントスルトキ
二　疾病休業中ノ者治癒シ稼業ニ就カントスルトキ
三　事故ノ爲メ定日健康診斷ヲ受クルコト能ハサル者其事故止ミタルトキ
四　疾病ニ罹リタルヲ自覺シタルトキ
五　稼業停止中ノ者解除セラレタルトキ
六　失踪中ノ者復歸シタルトキ
七　前各號ノ外必要ト認メタルトキ

第五條　娼妓健康診斷ヲ受クルトキハ前ニ付與セラレタル健全證ヲ係員ニ提出スヘシ

第六條　休業中ト雖モ免許地域内ニ在ル者ハ定日健康診斷ヲ受クヘシ

第七條　健康診斷上傳染性若ハ傳染ノ虞アル疾患アリト診斷セラレタル者ハ直ニ市ハ八阪病院郡ハ其住居地所屬娼妓檢查所附屬病室ニ入ルヘシ

第八條　疾病ノ爲メ定日健康診斷ヲ受クルコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書及健全證ヲ添ヘ定刻前係員ニ届出ヘシ但必要ト認ムルトキハ其住居ニ就キ健康診斷ヲ行フコトアルヘシ

第九條　健康診斷ヲ行フ場所ニ於テハ係員ノ指示ニ遵フヘシ

第十條　健全證ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第十一條　健全證ヲ毀損喪失シタルトキハ其旨届出再渡ヲ受クヘシ

第十二條　入院又ハ入所中ノ患者ハ院長又ハ所長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ出院、出所スルコトヲ得ス

第十三條　入院又ハ入所中ノ患者治療上自他ノ障害トナルヘキ行爲ヲ爲シ又ハ院長、所長ノ指示ニ違背スルコトヲ得ス

第十四條　左ノ事項ニ該當スルトキハ健全證ヲ添ヘ其事由ヲ記シ直ニ住居地所屬娼妓檢查所ニ届出ヘシ

一　稼業ノ禁止若ハ停止ヲ命セラレタルトキ
二　旅行セントスルトキ
三　稼業ヲ廢止シタルトキ
四　其他身上ニ異動ヲ生シタルトキ

第十五條　娼妓名簿登錄申請ノ爲メ健康證書ヲ受ケントスル者ハ住居地所屬娼妓檢查所ニ願出健康診斷ヲ受クヘシ

第十六條　第二條第四條第六條第七條第八條第十條第十二條第十三條第十四條ニ違背シ又ハ第九條第十三條ノ指示ニ遵ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●娼妓健康診斷施行規則取扱手續

大正二年一月七日
京都府訓令第一號

警察署　娼妓檢查所

第一條　娼妓ノ健康診斷ヲ行ヒタル場合其健全ナル者ニハ第一號樣式ノ健全證ヲ交付スヘシ

第二條　定日健康診斷ハ毎十日二回之ヲ施行スヘシ
定日健康診斷施行ノ日時及場所ハ各娼妓檢查所長ニ於テ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ
臨時健康診斷ハ其事故ノ生シタル毎ニ之ヲ行フヘシ

第三條　健康診斷ヲ行ヒタル場合左ノ疾患アル者ハ入院又ハ入所セシメ治療ヲ施スヘシ
(一)(二)(三)
黴毒
淋病及淋毒性諸疾患
軟性下疳及之ニ因スル疾患

(四)陰部及其周圍ノ剝脫糜爛
傳染性皮膚病
「トラホーム」ニシテ分泌物ノ著明ナルモノ
(五)結核性ノ疑アルモノ及癩ノ疑アルモノ

第四條　稼業ニ耐ヘスト認ムル疾患アル者ハ諭示ノ上休業セシムヘシ

第五條　結核性疾患、癩病、精神病等ニ罹リ稼業ヲ禁止若ハ停止スルノ必要アリト認ムルトキハ病名及事由ヲ住居地所轄警察官署ヘ通報スヘシ

第六條　健康診斷施行規則ニ違背シ其情狀稼業ヲ禁止若ハ停止スヘキ必要アリト認メタルトキハ住居地所轄警察官署ヘ通報スヘシ

第七條　入院又ハ入所中ノ患者重患ニ罹リ又ハ最近親族ノ重患、死亡、其他止ムヲ得サル事由ノ爲メ假ニ出院又ハ出所ヲ願出タルトキハ事實ヲ調査シ許否スヘシ

第八條　健全證ノ再渡ヲ請フ者アルトキハ其事由ヲ取調タル上更ニ交付スヘシ證書面記載事項ニ異動ヲ生シタル場合亦同シ

第九條　左ノ場合ニ於テハ健全證ヲ領置シ事故止ミタルトキ之ヲ交付スヘシ
(一)稼業停止ヲ命セラレタルトキ
(二)入院之ハ入所ヲ命シタルトキ
(三)稼業休止中ニ係ルトキ
(四)旅行中ニ係ルトキ

第十條　娼妓名簿登錄申請ノ爲メ健康診斷ヲ願出タルトキ其健康ナル者ニハ第二號樣式ノ健康證書ヲ交付スヘシ

第十一條　第三條各號ノ一ニ該當スル者ニハ健康證書ヲ交付スヘカラス

〔京都警〕

第十二條　左ニ該當スル事實アリタルトキハ當該警察署、娼妓檢査所ハ其都度五ニ住所氏名竝其事由ヲ通報スヘシ
(一)娼妓名簿ニ登錄セシトキ
(二)稼業ノ禁止、停止、又ハ停止ノ解除アリタルトキ
(三)失踪中ノ者復歸シタルトキ
(四)五日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキ
(五)娼妓名簿ヲ削除セシトキ
(六)入院、入所ヲ命シ又ハ退院退所セシメタルトキ
(七)休業セシメタルトキ
(八)健康診斷定日出頭セサルトキ

第十三條　規則ニ違背シ處罰ノ必要アリト認メタルトキハ娼妓檢査所長ハ住居地所轄警察官署ヘ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第一號樣式　二寸五分

表

二寸

健全證	
第　號	
娼妓	何郡區町番地 何某方寄寓 妓名
何年月日名簿登錄	氏名 生年月日

裏

何年何月　日　何娼妓檢査所

但板製又ハ厚紙製トス
裏面板製ニ係ルモノハ烙印厚紙製ニアリテハ所印ヲ押捺ス

第二號樣式（用紙半紙半折）

健康證書

何郡區町村番地何某方
氏名
生年月日

右者當所ニ於テ健康者ト診定シ此證ヲ付與ス

年　月　日

何娼妓檢査所印

〔京都警〕

第一條　警察官署ヨリ密賣淫受刑者ノ治療方通知ヲ受ケタルトキハ直ニ入院入所ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條　警察官署ノ照會アリタルトキハ密賣淫受刑者ニ對シ梅毒ノ有無ヲ檢診スヘシ

第三條　患者ハ娼妓ト區別シ別室ニ收容スヘシ

第四條　患者ノ取締其他取扱方ハ總テ娼妓ト同一ニ措置スヘシ

第五條　患者治癒シテ退院退所ノ必要ヲ認メタルトキハ警察官署ヘ通知シ其手續ヲ爲スヘシ

第六條　患者ニシテ尊屬親又ハ兄弟姉妹ノ吉凶及看護其他止ムヲ得サル事故アリテ一時退院退所ヲ要スルトキハ警察官署ノ處置ニ任スヘシ

第七條　入院入所中ハ患者一人一日ニ付食費藥價其他ノ實費トシテ左ノ區別ニ依リ金四拾錢ヲ收入スヘシ
但衣服類ハ本人ノ自辨トス

一本人又ハ媒合者ニ資力アルモノハ本人又ハ媒合者ヨリ納入セシムヘシ

一警察官署ニ於テ本人又ハ媒合者ニ資力ナシト決定シタルモノハ入院入所ヲ命シタル所轄警察官署ニ要求スヘシ

第八條　前條ノ金額ハ雜收入トシテ整理スヘシ

●密賣淫取扱手續

明治三十三年七月三十日
京都府訓令第九十七號

改正　明治三七年京都府訓令第四二號

第三編　衛生　第一章　防疫

●密賣淫犯罪者健康診斷ノ件

明治三十三年六月
警第三六三號

各署

行政執行法第三條ニ係リ密賣淫ノ罪ヲ犯シタル者ノ健康診斷ハ警察醫服務心得第二條四號ニ準シ警察醫ヲシテ之レヲ爲サシムル筋ニ候爲心得及通牒候也

●密賣淫犯罪者入院費用負擔ノ件

明治三十三年六月
訓示第一九號

警察署

行政執行法第三條ニ依リ密賣淫ノ罪ヲ犯シタル者病院ヘ入ラシメタルトキ其費用ハ本人又ハ媒合者ニ於テ負擔スルハ勿論ナルモ萬一本人又ハ媒合者ニ其資力ナシト認ムルモノハ其事實ヲ具シ府知事ヘ認定ヲ請フヘシ

●行政執行法ニ依リ入院セシムヘキ病院

明治三十四年四月十二日
京都府訓令第三十三號

警察署【警察分署】

明治三十三年六月訓令第八二號第四條ノ病院、驅徴院又ハ驅徴所ヲ左ノ通リ指定ス

但場合ニ依リ特ニ臨時指定スルコトアルヘシ

八阪病院　市内各警察署、警察分署
伏見娼妓檢査所　伏見警察署、下鴨警察署、醍醐警察署、大久保警察署、淀警察分署、井手警察署、八幡警察分署、向日町警察署、桂警察署、木津警察署、笠置警察分署、周山警察署、宮島警察分署、龜岡警察署、園部警察署、檜山警察分署
福知山娼妓檢査所　福知山警察署、上六人部警察分署、綾部警察署、河守警察分署
舞鶴娼妓檢査所　舞鶴警察署、志楽警察分署
宮津娼妓檢査所　宮津警察署、養老警察分署、加悦警察分署、峰山警察署、網野警察署、間人警察分署、久美濱警察署

〔京都警〕

第二章　醫藥

第一節　醫事

第一款　醫師　齒科醫師

●醫師法及齒科醫師法施行細則

大正七年四月十六日
京都府令第三十一號

改正　大正一一年京都府令第七八號

第一條　醫師法施行規則第一條、第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、齒科醫師法施行規則第一條、第三條、第四條、第六條、第七條、第八條ノ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條　醫師法施行規則第七條、齒科醫師法施行規則第七條ノ住所變更又ハ醫師法施行規則第八條、齒科醫師法施行規則第八條ノ醫業開始若ハ異動ノ届出ハ左ノ樣式ニ依リ免許證寫ヲ添付シ提出スヘシ

附　則

本令ハ大正七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

（何々）届

本　籍	
前住所	
前開業所	

〔京都警〕

現住所

届出事實ノ發生年月日

業務狀態　（例）

官公署、學校、病院勤務又ハ自宅開業、休業、診察所、治療所其ノ住所ト異リタルトキ又出張所若ハ他人ノ診察所、治療所、出張所ニ於テ醫業ヲ開始スルトキハ其旨詳記スヘシ其ノ休止、廢止、場所異動等亦同シ

右御届及候也

大正　年　月　日

右

醫師（齒科醫師）　氏　名印

知事宛

〔京都警〕

●醫師法及齒科醫師法施行細則取扱手續

大正七年四月十六日
京都府訓令第十二號

樣式（用紙美濃）

免許資格

醫籍登録番號　第　號

免許年月日　年　月　日

本籍
住所

記

族稱
氏名
生年月日　年　月　日生

警察署

第一條　醫師法施行規則第一條齒科醫師法施行規則第一條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一　申請書記載事項ハ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ト相違ナキヤ否

二　醫師法第二條第三條、齒科醫師法第二條第三條ニ抵觸スル者ニ非サルヤ否

三　申請書記載ノ資格及其ノ取得年月日ハ本證書ト相違ナキヤ否

第二條　醫籍訂正、醫籍登録抹消、免許證再下付申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第三條　警察署ニハ別記樣式ニ依ル醫師、齒科醫師名簿ヲ備ヘ異動ノ都度訂正スヘシ

第四條　醫師法施行規則第七條第八條、齒科醫師法施行規則第七條第八條ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ進達スヘシ

管内ニ於ケル住所變更ニ係ルトキハ前住所所轄警察署ヘ通報スヘシ

●死亡診斷書死體檢案書等書式及記載方

明治三十三年十一月二日
京都府令第九十九號

本年九月内務省令第四十一號規定ニ依リ醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書死體檢案書及醫師又ハ産婆ノ作爲スヘキ死産證書死胎檢案書ノ樣式竝其記載方左記ノ通定ム

第一　死亡診斷書、死體檢案書

樣式

死亡診斷書（死體檢案書）

一　氏名
二　男女ノ別
三　出生ノ年月日
四　職業　死亡者ノ職業
　　家計ノ主ナル職業
五　病死、自殺其他ノ變死、中毒ノ別
六　病名（自殺者ニ手段及中毒者ニ在テハ種類）
七　發病ノ年月日（變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク）
八　死亡ノ年月日時
九　死亡ノ場所

右證明（檢案）候也

年　月　日

住所
醫師　何　某印

記載方

一戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

二經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

三自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歲ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

四死亡者家計ノ主働者ナル場合ニテハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業ナシト記スヘシ又死亡者一定職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

〔京都書〕

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

五病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス

同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ詳記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死刃傷入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以下ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死壓死燒死他殺河豚中毒「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

七病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

八病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラス死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

九死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戸番屋敷）ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

第二　死産證書、死胎檢案書

樣式

死産證書（死胎檢案書）

一　父ノ氏名（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名）
二　父ノ出生年月日（私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク）
三　母ノ出生ノ年月日
四　父ノ職業（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ職業
五　姙娠ノ月數
六　分娩ノ年月日時
七　分娩ノ場所
八　死胎男女ノ別
九　死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明（檢案）候也

年　月　日

住所
醫師（産婆）　何　某印

記載方

一死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ

二死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

三死胎ノ何タルニ拘ハラス其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

四死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ

〔京都書〕

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

五　娙娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル娙娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日チ一月ト做シタル第幾月目ニ該當スルカチ記スヘシ

六　分娩ノ年月日時チ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時チ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字チ冠セシムルチ要ス

七　分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戶若屋敷）ノチ記スヘシ

八　死胎ノ男女孰レニ屬スルカチ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別チ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由チ添ヘテ不詳ト記スヘシ

九　死胎ハ嫡出子ナルトキ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別チ記スヘシ

●醫師開業禁停止意見添申方

明治二十七年十一月
警訓第一三號

醫師其業ニ關スル犯罪ニ付裁判確定又ハ不正ノ所爲ニ由リ禁ノヘカラスト認メ禁停業意見上申ノ節ハ左ノ取調書チ添付スヘシ

一　裁判宣告書寫（犯罪ノ場合ニ限ル）
一　本人平素ノ行狀
一　近傍開業醫ノ多少（村落等ノ場合ニ限ル）
一　其所爲ノ故意懈怠
一　傳染病ニ係ルトキハ成規ノ屆チ爲サヽルモ消毒ハ法ノ如ク充分ニ施行セシヤ否及爲ニ他ニ病毒チ傳播セシ事實ノ有無（若シアラハ傳染ノ系統其廣狹緩急病者死者等ノ事チ詳記スルチ要ス）

●醫師出張診療所ニ於テ無免許者

〔京都警〕

醫術施行取締方

明治二十九年十一月
訓示第八一號

開業醫師ニ於テ所在ニ出張診療所チ設置シ而シテ其實未タ醫術ノ免許チ得サル者證リニ其內部ニ於テ醫業チ營ム者有之ノ聞モ不少就テハ該出張所ニ對シテハ平素探偵チ遂ケ無免許ニテ醫業チ營ムノ證跡アル者ハ相當ノ處分ニ付シ其都度顚末チ報告スヘシ

●中毒患者屆出規則

大正十二年三月十六日
京都府令第十八號

明治二十四年京都府令第二十八號中毒患者報告規則左ノ通改正ス

中毒患者屆出規則

第一條　本則ニ於テ中毒ト稱スルハ飮食物及其著色、藥品、藥物、繪具、染料ニ因ル急性中毒、職業ニ因ル慢性中毒ノ爲疾病又ハ死亡シタル者チ謂フ

第二條　急性中毒ノ爲疾病又ハ死亡シタルモノチ診斷シタル醫師ハ第一號樣式ニ依リ卽時當廳ニ屆出ツヘシ但シ口頭チ以テ屆出タルトキハ十二時間以內ニ書面チ提出スヘシ

第三條　醫師急性中毒患者チ治療中患者治癒又ハ死亡シタルトキハ第二號樣式ニ依リ三日以內ニ前條ニ準シ屆出ツヘシ

第四條　職業ニ因ル慢性中毒患者ノ診斷チ爲シタル醫師ハ第三號樣式ニ依リ三日以內ニ屆出ツヘシ其轉歸ノ場合亦同シ

第五條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ屆書ハ患者又ハ死體所在地ノ所轄警察署チ經由スヘシ

第六條　本則ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

〔京都警〕

第一號樣式

中毒患者屆

患者ノ住所戶主トノ續柄職業
何　某
生年月日

何々急性中毒

一　中毒ノ理由（誤用又ハ自殺チ謀リテ故用或ハ他殺等服用ノ主因チ記ス）
一　服量　何程
一　服用　月日時
一　診斷　月日時（死後檢案ニ係ルトキハ診斷ノ文字ニ替フルニ檢案ト記ス）倘死亡ノ月日時チ記入スルコト

右及御屆候也

年　月　日

住所
醫師　何　某

知事宛

第二號樣式

（急）（慢）性中毒患者轉歸屆

住所　職業
何　某
生年月日

一　何々（急）（慢）性中毒
一　服用月日時
一　轉歸月日時
一　經過日數

右及御屆候也

年　月　日

住所
醫師　何　某

知事宛

第三號樣式

慢性中毒屆

住所戶主トノ續柄職業
何　某
生年月日

一　取扱フ物品名
一　取扱ヒ始メタル年月日
一　取扱フ場所
一　中毒症狀チ呈シ初メタル年月日
　又ハ發病年月日トスルモ可
一　症狀
一　豫後
一　診斷年月日時

右及御屆候也

年　月　日

住所
醫師　何　某

知事宛

●中毒患者屆出規則第二條ニ依ル報告ノ件

大正十二年三月十六日
京都府訓令第五號

警察署

中毒患者屆出規則第二條ニ依ル屆ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ報告スヘシ

一　患者死者ノ原籍住所職業氏名年齢
二　中毒物ノ種類
三　中毒物ノ所持ノ由來及服用ノ原因

（所持ノ由來例セハ工業用消毒用治療用殺鼠用等トシテ購入シタルモノ又ハ何町何番地何職何某ノ職業用トシテ購入シタルモノヲ窃取シタルモノ等服用者ノ所持スルニ至リタル徑路ヲ記ス服用ノ原因ヲ例セハ自殺ヲ謀リ故意ニ用ユ何々品ト誤リ服用他殺等ト記ス）

四　劇毒物劇毒藥ナルトキハ其購入先及藥品營業並藥品取扱規則第三十條第三十一條又ハ毒物劇物取締規則第八條第九條ノ規定ニ基キ正當ニ賣渡シタルモノナリヤ否ヤ

●醫師會令施行細則

大正八年十二月二十三日
京都府令第八十二號

改正　大正一〇年京都府令第三四號、一五年第一三〇號

第一條　醫師會設立ノ認可申請書ニハ會議錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二條　醫師會ハ總會ヲ開催セムトスルトキハ開會五日前ニ其ノ日時、場所及議案ヲ屆出ツヘシ但シ臨時緊急ノ場合ハ開會當日迄ニ之ヲ屆出ツヘシ

第三條　醫師會會則變更ノ認可申請書ニハ會議錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四條　醫師會ハ左ノ事項ヲ議決シタルトキハ十日以內ニ申請認可ヲ受クヘシ

一　財產又ハ營造物ノ處分ニ關スル事項
二　醫事衛生ノ施設ニ關スル事項
三　救療ニ關スル事項

第五條　醫師會ハ左ノ事項ヲ十日以內ニ屆出ツヘシ

一　事務所ノ位置及其ノ變更
二　代議員、議員竝豫備議員ヲ選擧シタルトキハ其ノ住所、氏名
三　醫師會令第二十二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ被處分者ノ住所、氏名、違反ノ事實及處分ノ要領

第六條　醫師會ハ醫師會令又ハ本則ニ依リ認可又ハ屆出ヲ要スルモノノ外議決シタル事項ハ之ヲ十日以內ニ報告スヘシ

第七條　醫師會ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　醫師會ハ豫算ヲ年度開始前別記第一號、第二號書式ニ依リ決算ヲ翌年度內ニ別記第三號、第四號書式ニ依リ屆出ツヘシ

第九條　必要ト認ムルトキハ醫師會ノ會議ニハ當該官吏ヲ臨席セシムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔京都書〕

大正　年度　何醫師會歲入豫算書

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較增減	備考
第一款　諸收入	圓	圓	圓	
第一項　經費收入				
第一目　會費				
第二目　寄附金				
第三目　預金利子				
第四目　何々				
第二項　雜收入				
第一目　過怠金				
第二目　不要物賣拂代				
第三目　何々				

第二號書式

大正　年度　何醫師會歲出豫算書

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較增減	備考
第一款　諸給及諸費	圓	圓	圓	
第一項　諸給				

〔京都書〕

第三號書式

科目	本年度決算高	本年度豫算高	比較増減	備考
	圓	圓	圓	
第一目　給料				
第二目　諸手當				
第三目　旅費				
第四目　諸傭給				
第五目　何々				
第二項　會議費				
第一目　雜給				
第二目　議場費				
第三項　需用費				
第一目　備品費				
第二目　消耗品費				
第三目　圖書及印刷費				
第四目　通信運搬費				
第五目　雜費				
第四項　何醫師會分擔金				
第一目　何醫師會分擔金				

〔京都醫〕

第四號書式

大正　年度　何醫師會歲入決算書

科目	本年度決算高	本年度豫算高	比較増減	備考
	圓	圓	圓	
第一款　諸收入				
第一項　般收入				
第一目　會費				
第二目　寄附金				
第三目　預金利子				
第四目　何々				
第二項　雜收入				
第一目　過怠金				
第二目　不用物賣拂代				
第三目　何々				

〔京都醫〕

第四號書式

大正　年度　何醫師會歲出決算書

科目	本年度決算高	本年度豫算高	比較増減	備考
	圓	圓	圓	
第一款　諸給及諸費				
第一項　諸給				

項	目					
	第一目　給料					
	第二目　諸手當					
	第三目　旅費					
	第四目　諸備給					
	第五目　何々					
第二項　會議費						
	第一目　雜給					
	第二目　議場費					
第三項　需用費						
	第一目　備品費					
	第二目　消耗品費					
	第三目　圖書及印刷費					
	第四目　通信運搬費					
	第五目　雜費					
第四項　何醫師會分擔金						
	第一目　何醫師會分擔金					

●齒科醫師會令施行細則〔京都齒〕

大正十五年七月一日
京都府令第百三十五號

齒科醫師會令施行細則左ノ通定ム

齒科醫師會令施行細則

第一條　齒科醫師會ノ設立又ハ會則變更ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スベシ

一　會則案
二　會員ノ總數
三　代議員ノ總數
四　出席者ノ氏名
五　表決權委任者及被委任者ノ氏名
六　會議錄ノ謄本

第二條　郡市齒科醫師會ハ其ノ名稱ニ郡、市ノ文字ヲ冠スベシ但シ郡市ノ區域ニ依ラザルモノハ此限ニ在ラズ

第三條　齒科醫師會總會ヲ開催セムトスルトキハ五日以前ニ其ノ日時、場所及議案ヲ屆出ヅベシ但シ臨時緊急ノ場合ハ開會當日迄ニ之ガ屆出ヲ爲スヲ妨ゲズ

第四條　齒科醫師會ハ左ノ事項ヲ議決シタルトキハ十日以内ニ申請認可ヲ受クベシ

一　財產又ハ營造物ノ處分ニ關スル事項
二　齒科醫事衞生ノ施設ニ關スル事項
三　救療ニ關スル事項
四　會員ノ業務ニ關シ議決ヲ以テ規定ヲ設クル場合

第五條　齒科醫師會ハ左ノ事項ヲ十日以內ニ屆出ヅベシ

一　事務所ノ位置及其ノ變更
二　役員、代議員及日本齒科醫師會議員、豫備議員ヲ選任、改任シタルトキハ其ノ住所、氏名
三　齒科醫師會令第二十二條ノ懲戒ヲ爲シタルトキハ被懲戒者ノ住所、氏名、違反ノ事實及懲戒ノ要領

第六條　齒科醫師會令第二十一條ノ意見書又ハ本令第四條ノ申請書竝第五條第三號、齒科醫師會解散ノ屆書ニハ第一條第二號乃至第五號ノ事項ヲ記載シタル書類、會議錄ノ謄本ヲ添付スベシ

第七條　齒科醫師會ハ齒科醫師會令又ハ本令ニ依リ認可又ハ屆出ヲ要スルモノノ外議決シタル事項ハ之ヲ十日以內ニ報告スベシ

第八條　齒科醫師會ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條　齒科醫師會ハ其ノ豫算ヲ年度開始前ニ第一號、第二號樣式ニ依リ決算ヲ翌翌年度內ニ第三號、第四號樣式ニ依リ屆出ヅベシ

第十條　必要ト認ムルトキハ齒科醫師會ノ會議ニハ當該官吏ヲ臨席セシムルコトアルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

大正　年度　何齒科醫師會歲入豫算書

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較 增	比較 減	備考
第一款　諸收入	圓	圓	圓	圓	

第二號樣式

大正　年度　何商科醫師會歲出豫算書

科目	本年度豫算高 圓	前年度豫算高 圓	比較增減 圓	備考
第一款　諸給及諸費				
第一項　諸給				
第一目　給料				
第二目　諸手當				
第三目　旅費				
第四目　諸傭給				
第五目　何々				
第二項　會議費				
第一目　雜給				
第二目　議場費				
第三項　需要費				
第一目　備品費				
第二目　消耗品費				
第三目　圖書及印刷費				
第四目　通信運搬費				
第五目　雜費				
第四項　日本商科醫師會分擔金				
第一目　日本商科醫師會分擔金				

〔京都醫〕

第三號樣式

大正　年度　何商科醫師會歲入決算書

科目	本年度決算高 圓	本年度豫算高 圓	比較增減 圓	備考
第一款　諸收入				
第一項　一般收入				
第一目　會費				
第二目　寄附金				
第三目　預金利子				
第四目　何々				
第二項　雜收入				
第一目　過怠金				
第二目　不用物賣拂代				
第三目　何々				

〔京都醫〕

第四號樣式

大正　年度　何商科醫師會歲出決算書

科目	本年度決算高	本年度豫算高	比較増減	備考
第一款　諸給及諸費	圓	圓	圓	
第一項　諸給				
第一目　給料				
第二目　諸手當				
第三目　旅費				
第四目　諸傭給				
第五目　何々				
第二項　會議費				
第一目　雜給				
第二目　議場費				
第三項　需要費				
第一目　備品費				
第二目　消耗品費				
第三目　圖書及印刷費				
第四目　通信運搬費				
第五目　雜費				
第四項　日本商科醫師會分擔金				
第一目　日本商科醫師會分擔金				

〔京都醫〕

科目	本年度決算高	本年度豫算高	比較増減	備考
第一項　一般收入				
第一目　會費				
第二目　寄附金				
第三目　預金利子				
第四目　何々				
第二項　雜收入				
第一目　過怠金				
第二目　不用物賣拂代				
第三目　何々				

〔京都醫〕

第二款　産婆　看護婦

●産婆規則施行細則

明治三十二年九月二十七日
京都府令第九十八號

改正　大正三年京都府令第一四號

第一條　産婆名簿ノ登錄、登錄事項ノ訂正及登錄ノ取消ニ關スル願書ハ別記第一號乃至第三號樣式ニ依リ區町村長ノ調印ヲ受ケ郡市役所ヲ經テ當廳ヘ差出ヘシ

第二條　産婆名簿登錄事項ノ謄本ヲ受クントスルモノハ第四號樣式ニ依リ

備考　各號樣式中ニ揭載シタル款項目ハ例示ニ過ギズ

當廳ニ願出ヘシ

第三條　産婆ハ郡市毎ニ組合ヲ設ケ規約ヲ定メ郡市役所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

（樣式略ス）

●産婆試驗規則施行細則

明治三十二年九月二十七日
京都府令第九十九號

改正　大正三年京都府令第二〇號、九年第五三號

第一條　産婆試驗ハ毎年春秋二回之ヲ擧行ス

但試驗願出ノ期日擧行ノ期日及場所ハ一ケ月前之ヲ告示ス

第二條　産婆試驗ヲ受ケントスル者ハ願出期日中ニ別記樣式ニ依リ當廳ニ願出ヘシ

第三條　試驗中一科以上缺席ノ者ハ其期ノ試驗ヲ終ルコトヲ得ス

（樣式略ス）

●看護婦規則施行細則

大正十三年十月七日
京都府令第八十四號

看護婦規則施行細則左ノ通改正ス

看護婦規則施行細則

第一條　看護婦免許ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ本籍、住所、族稱、氏名及生年月日ヲ記シ左記各號ノ書類竝手數料ヲ添ヘ願出ツヘシ

一　看護婦規則第二條ノ資格證書寫

二　戸籍謄本又ハ戸籍抄本

三　看護婦規則第三條ノ疾患ニ關スル醫師ノ診斷書

第二條　看護婦規則（以下單ニ規則ト稱ス）第七條ノ屆書ニハ本籍、前後住所、移轉ノ年月日、族稱、氏名及生年月日ヲ記スヘシ

第三條　當府管內ニ於テ其ノ住所ヲ移轉シタルトキハ十日以內ニ前後住所、移轉ノ年月日ヲ記シ後ノ住所地ノ所轄警察官署ヲ經由シ屆出ツヘシ

第四條　規則第八條第二項ノ願書ニハ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添付スヘシ

第五條　看護婦三箇月以上休業セムトスルトキハ其旨ヲ屆出ツヘシ

第六條　看護婦ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　從業中ハ必ス淸潔ナル白色ノ被服ヲ著用スヘシ

二　故ナク看護ノ依賴ヲ拒絕シ又ハ從業中患家ヲ詐リ看護ヲ辭去スヘカラス

三　從業中ハ免狀ヲ携帶シ當該官吏又ハ需用者ノ求メアルトキハ之ヲ呈示スヘシ

四　免狀ヲ他人ニ貸與スヘカラス

五　認可ヲ受ケタル看護料其ノ他ノ費用ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢物品ヲ受クヘカラス

第七條　看護婦試驗ハ毎年二回（第一回五月第二回十一月）之ヲ施行ス

試驗願書ハ第一回ハ三月中第二回ハ九月中ニ提出スヘシ

試驗ノ場所及日時ハ受驗者ニ通知ス

第八條　看護婦試驗ハ學說及實地ニ就キ之ヲ行フ

試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ交付ス

不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムトシタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違反シタル者ハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス試驗合格決定後發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第九條　看護婦試驗ヲ受ケムトスル者ハ別記樣式ノ願書ニ修業履歷書、修業ニ關スル師ノ證明書、寫眞（手札形）及試驗手數料ヲ添ヘ提出スヘシ

（京都警）

第十條　當府管內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルモノノ受驗ニ關スル書類ニ限リ直接當廳ニ提出スルコトヲ得

第十一條　看護婦學校又ハ看護婦講習所ニシテ規則第二條第一項第二號ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ願出ツヘシ

一　經營者又ハ代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日、法人ニ在リテハ定款又ハ寄附行爲

二　名稱、位置、設立年月日

三　學則

四　敷地建物ノ平面圖、教室ノ數、其坪數竝生徒ノ定員

五　實習ニ供スル入院患者ノ室數及定員

六　生徒寄宿舍ノ設備アルトキハ其ノ室數、坪數竝寄宿生徒ノ定員

七　各數師ノ擔當科目

八　維持ノ方法

九　實習用器具、器械、標本竝模型等ノ目錄

十　現在生徒ノ學期別人員竝卒業生員數

十一　經費及最近三箇年間ノ豫算、決算額竝卒業生ノ成績

十二　教師及職員ノ履歷書

前項第二號乃至第六號又ハ第八號ノ事項竝經營者、代表者、教師及職員ヲ變更セムトスルトキハ屆出テ認可ヲ受クヘシ但シ經營者、代表者變更ノ場合ハ繼承者ト連署スヘシ

第一號第七號第九號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以內ニ屆出ツヘシ

第十二條　指定セル看護婦學校又ハ看護婦講習所ニ於テ學期試驗又ハ卒業試驗ヲ施行セムトスルトキハ試驗期日十日前ニ屆出ツヘシ當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ試驗問題ノ提出又ハ其ノ變更ヲ命シ又ハ官吏ヲ立會ハシムルコトアルヘシ

（京都警）

第十三條　指定セル看護婦學校又ハ看護婦講習所ハ卒業試驗終了後卒業者ノ本籍、住所、族稱、氏名、生年月日及試驗成績表ヲ十日以內ニ屆出ツヘシ

第十四條　指定セル看護婦學校又ハ看護婦講習所ニシテ管理及維持ノ方法不確實又ハ成績不良ナリト認ムルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條　看護婦ハ所轄警察官署ノ區域ニ從ヒ又ハ土地ノ狀況ニ依リ數警察官署ノ區域ヲ通シテ一組合ヲ設クヘシ

第十六條　看護婦ハ其ノ住所地ノ組合ニ加入スヘシ

病院ニ勤務スル者ト雖公衆ノ需ニ應シ出張看護ニ從事スル者亦同シ

第十七條　看護婦組合ヲ設立セムトスル者ハ左ノ事項ニ付規約ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

一　名稱、區域、事務所

二　目的、事業

三　役員ノ職限及選任解任ノ方法

四　會議ニ關スルコト

五　經費ノ負擔、徵收方法竝會計ニ關スルコト

六　看護料其ノ他ノ料金ニ關スルコト

七　違約者ニ關スルコト

八　前各號ノ外必要ナル事項

前項ノ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十八條　看護婦組合會議ヲ開カムトスルトキハ會議ニ附スヘキ事項及其ノ日時、場所ヲ十日前ニ屆出ツヘシ但シ緊急ノ場合ハ此ノ限ニアラス

會議ニ於テ議決シタル事項ハ十日以內ニ屆出ツヘシ

組合ノ議決若ハ役員ノ選舉又ハ施行スル事項カ法令若ハ規約ニ違反シ又ハ公害アリト認ムルトキハ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　看護婦ニシテ看護婦會ヲ設立セムトスルトキハ市ニ在リテハ十五名郡ニ在リテハ十名以上ヲ以テ組織シ發起人ヨリ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ受クヘシ但シ郡ニ在リテハ會員數ヲ土地ノ狀況ニ依リ十名以下ト爲スコトヲ得

一　名稱
二　位置
三　會則（目的、役員、會員ノ監督、教養及會員ノ負擔、會費ノ收支、會員派遣ニ關スル事項）
四　設立後ノ代表者
五　會員ノ署名捺印及免狀寫

第一號乃至第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ會員ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度屆出ツヘシ

第二十條　看護婦會ヲ解散シタルトキハ五日以內ニ屆出ツヘシ

第二十一條　看護婦會ニシテ其ノ定員ヲ缺キ二十日以內ニ之ヲ補充セサルトキ又ハ公安風俗ヲ害シ若ハ其ノ虞アルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十二條　看護婦周旋業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

一　事務所又ハ營業所
二　本籍、住所、氏名、生年月日、經歷
三　所屬看護婦ノ住所、署名捺印及免狀寫
四　規定（周旋料、看護婦ノ負擔看護婦派遣ニ關スル事項）

前項第一號第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

〔京都警〕

第一項第二號第三號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度屆出ツヘシ

第二十三條　左ノ事項ニ該當スル者ハ前條ノ業ヲ營ムコトヲ得ス但シ改悛ノ狀顯著ナル者ハ認可スルコトアルヘシ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　私ニ醫業ヲ營ム罪ニ因リ處罰セラレタル者
三　猥褻姦淫若ハ密賣淫ニ關スル罪ニ因リ處罰セラレタル者
四　看護ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正行爲アリタル者
五　素行不良ノ者

第二十四條　看護婦周旋業者又ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人等ニシテ其ノ業務ニ關シ公安風俗ヲ害シ又ハ其ノ虞アルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十五條　規則及本令ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

組合ニ係ル事項ニシテ數警察官署ノ區域ニ涉ルモノハ組合事務所所在地警察官署ヲ經由スヘシ

第二十六條　第三條、第五條、第六條各號ノ一、第十九條第二項第三項、第二十二條第二項第三項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第十九條第一項、第二十二條ノ認可ヲ受クシテ看護婦會ヲ組織シ又ハ看護婦周旋業ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第二十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條　大正四年京都府令第五十八號看護婦規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二十九條　本令施行前認可ヲ受ケタル看護婦組合又ハ看護婦會若ハ看護婦周旋業者ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ看護婦會ニ在リテハ大正十四年十月三十一日迄ニ本令ニ依リ屆出テ認可ヲ受ケサルモノハ其ノ效ヲ失フモノトス

第三十條　本令ハ准看護婦及男子タル看護人ニ之ヲ準用ス

（樣式）

看護婦試驗願

本籍
居所　　氏　　名　　生年月日

右看護婦試驗相受度規定書類及手數料相添此段願出候也

年　月　日　　右　　氏　　名㊞

京都府知事宛

〔京都警〕

●看護婦規則施行細則取扱手續

大正十三年十月七日
京都府訓令第二十五號

警察署

大正四年京都府訓令第二十九號看護婦規則施行細則取扱手續左ノ通改正

第一號樣式

免許資格			
免狀下附	年　月　日		
免狀番號	第　號	本籍	
		住所	
族稱			
氏名			
年齡	年　月　日生		

異動記事

第二號樣式

名稱	
位置	
會則概要	
備考	（設立後異動事項其ノ他ノ沿革ヲ明記スヘシ）

會員

氏名	備考	氏名	備考	氏名	備考

（入會、退會等ノ年月日ヲ明記スヘシ）

〔京都醫〕

〔京都醫〕

●看護婦養成所指定ノ件

大正五年二月二十九日
京都府告示第九十四號

改正　大正一三年京都府告示第五九〇號

京都府立醫科大學附屬產婆看護婦教習所（看護婦科）

右ハ大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ本月二十五日指定セリ

大正五年四月十八日
京都府告示第百九十六號

京都帝國大學醫科大學附屬看護婦講習科

右ハ大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ四月十七日指定セリ

大正五年四月十八日
京都府告示第百九十七號

京都府立八阪病院附屬看護婦養成所

右ハ大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ四月十七日指定セリ

大正五年四月十八日
京都府告示第百九十八號

市立京都病院附屬看護婦養成所

右ハ大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ四月十七日指定セリ

大正五年四月二十八日
京都府告示第二百二十九號

私立岩倉病院附屬看護婦學校

右ハ大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ四月二十五日指定セリ

大正五年八月四日
京都府告示第三百七十二號

私立京都看病婦學校本科

右ハ大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ八月二日指定セリ

大正十四年一月九日
京都府告示第四號

海軍共濟組合舞鶴病院看護婦養成所

右ハ大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ大正十三年十二月二十六日指定セリ

大正十四年五月五日
京都府告示第二百十八號

京都市上京區丸太町通日暮西入西院町
京都市醫師會附屬產婆看護婦學校

改正　大正一四年京都府告示第六四二號

右大正四年六月內務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ本月一日指定ス

第三款　鍼灸　按摩　口中療治

●鍼術灸術營業取締細則

明治四十五年一月六日
京都府令第一號

改正　大正一二年京都府令第八三號

第一條　鍼術及灸術試驗ハ每年二回（第一回四月第二回十月）之ヲ擧行ス

試驗願書ハ第一回ハ二月中ニ第二回ハ八月中ニ提出スヘシ試驗ノ場所日時ハ受驗者ニ通知ス

第二條　鍼術又ハ灸術試驗ヲ受ケントスル者ハ本籍住所族稱氏名生年月日ヲ記シタル願書ニ敎師ノ證明アル修業履歷書及寫眞ヲ添ヘ當廳ニ提出スヘシ

第三條　鍼術又ハ灸術營業者其業務ニ從事スルトキハ免許鑑札ヲ携帶スヘシ

第四條　鍼術又ハ灸術營業者ハ左記雛形ノ門標ヲ揭出スヘシ

鍼（灸）術營業　氏名

縱二尺五寸
橫七寸

第五條　鍼術又ハ灸術營業者ハ左記事項ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　醫師治療中ノ患者ニ對シ其承諾ヲ經スシテ施術スルコト
一　免許鑑札ヲ他人ニ貸與スルコト
一　藥品ヲ取扱フ營業ヲ爲スコト
一　鍼療醫、灸治醫又ハ鍼療院、灸治院其他類似ノ名稱ヲ付スルコト

第六條　鍼術又ハ灸術營業者當府管內ニ於テ其住所ヲ移轉シタルトキハ十日以內ニ後ノ住所地警察官署ニ屆出ヘシ

第七條　鍼術又ハ灸術營業者其出張所ヲ設クルトキハ五日以內ニ其場所及出張ノ日時ヲ出張所々在地警察官署ニ屆出ヘシ他ノ道府縣ニ於テ免許鑑札ヲ受ケタル者當府管內ニ出張所ヲ設クルトキ亦同シ

第八條　鍼術、灸術營業取締規則又ハ本則ニ據リ當廳ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ但シ京都府管內ニ住所、居所ヲ有セサルモノ、受驗ニ關スル書類ニ限リ直接當廳ニ提出スルコトヲ得

第九條　第三條乃至第七條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本令施行前當廳ノ免許ヲ受ケタルモノハ明治四十五年三月三十一日迄ニ屆出テ免許鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

明治四十年十月京都府令第六十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔京都警〕

●鍼術灸術營業取扱手續

明治四十五年一月六日
京都府訓令第一號

警察署

第一條　規則第一條ノ願出ヲ受ケタルトキハ試驗合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ檢閱シ願書ノ餘白ニ其資格取得ノ年月日及地方廳若ハ學校、講習所名ヲ記入捺印シタル上證書ハ本人ニ返付シ且ツ精神病又ハ傳染性疾患ニ關スル醫師ノ診斷書ヲ添附セシムルノ外左記事項ヲ調査シ意見ヲ具シ速ニ進達スヘシ

一　素行不良ニシテ免許鑑札ヲ交付スヘカラサル者ニアラサルヤ否
二　藥品ヲ取扱フ營業者ニアラサルヤ否
三　刑罰ヲ受ケシ者ニアラサルヤ否若シ刑罰ヲ受ケシコトアルトキハ其罪名、刑名、刑期及改悛ノ有無

第二條　細則第二條ノ願出ヲ受ケタルトキハ其修業履歷書記載ノ事項竝ニ敎師ノ證明ハ虛僞ニアラサルヤ否ヲ調査シ意見ヲ具シ速ニ進達スヘシ

第三條　規則第八條第九條第十條ノ願屆ヲ受ケタルトキハ速ニ進達又ハ送附スヘシ

第四條　規則第十一條第一項ノ處分ヲ必要ト認メ又ハ第二項ニ該當スルモノト認ムルトキハ其事實ヲ具シ上申スヘシ

第五條　細則第六條第七條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ當廳ニ報告スルノ外前ノ住所地警察署ヘ通報スヘシ

第六條　警察署ニハ鍼術、灸術營業者臺帳（左記樣式）ヲ備ヘ其異動ヲ生スル每ニ加除訂正スヘシ但營業別ニ口座ヲ設クルヲ要ス

第七條　鍼術、灸術營業者ハ時々臨檢シ規則違背又ハ不正行爲ナキヤ否嚴重監視スヘシ

附則

明治四十年十月衛訓第二十號鍼、灸術營業取締規則執行手續ハ廢止ス

（用紙美濃紙）

種別	鍼術	現住所		族籍	
鑑札下付年月日	明治　年　月　日	本籍		氏名	
鑑札番號	第　號			年齡	年　月　日生
摘					

要	種別	摘要
	鑑札下付年月日　明治　年　月　日	
	鑑札番號　第　號	
	本籍	
	現住所	
	族籍	
	氏名	
	年齡　年　月　日生	

備考

一　臺帳保存期限ハ永久トス

一　種別欄ニハ營業ノ種別ヲ記入スヘシ

一　臺帳ハ鍼術、灸術ノ部門ヲ分チ整理スヘシ

一　同一人ニシテ鍼術、灸術ヲ爲ス者ハ其種別ニ從ヒ各別ニ登錄シ種別欄外ノ上部ニ「兼」ノ符號ヲ朱記スヘシ

一　住所其他ノ異動、出張所ノ設置又ハ營業ノ禁停止處分ヲ受ケタルトキハ摘要欄ニ登錄スヘシ

〔京都警〕

●按摩術營業取締細則

明治四十五年一月六日
京都府令第二號

改正　大正九年京都府令第八〇號、一二年第八四號

第一條　按摩術、マッサージ術、柔道整復術試驗ハ每年二回（第一回四月第二回十月）之ヲ擧行ス

試驗願書ハ第一回ハ二月中ニ第二回ハ八月中ニ提出スヘシ

試驗ノ場所日時ハ受驗者ニ通知ス

第二條　按摩術、マッサージ術、柔道整復術試驗ヲ受ケントスル者ハ本籍住所族稱氏名生年月日ヲ記シタル願書ニ教師ノ證明アル修業履歷書及寫眞ヲ添ヘ當廳ニ提出スヘシ但シ按摩術試驗ヲ受ケントスル者ハ願書ニ甲種乙種ノ別ヲ明記シ又柔道整復術受驗者ハ四箇年以上柔道整復術ヲ修業シ現ニ一定ノ道場ニ於テ柔道教授ヲ爲ス者ニ限ル

第三條　按摩術、マッサージ術、柔道整復術營業者（以下單ニ營業者ト稱ス）其業務ニ從事スルトキハ免許鑑札ヲ携帶スヘシ

第四條　營業者ハ各其ノ業種ニ依リ左記雛形ノ門標ヲ揭出スヘシ但シ二以上ヲ兼營スル者ハ併記スヘシ

營業	氏名

縱二尺五寸
横七寸

第五條　營業者ハ左記事項ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　醫師治療中ノ患者ニ對シ其承諾ヲ經スシテ施術スルコト

一　免許鑑札ヲ他人ニ貸與スルコト

一　他人ニ藥法ヲ指示シ若クハ投藥スルコト

一　藥品ヲ取扱フ營業ヲ爲スコト

第六條　營業者當府管內ニ於テ其住所ヲ移轉シタルトキハ十日以內ニ後ノ住所地警察官署ニ届出ヘシ

第六條ノ二　營業者ニシテ規則第七條第二項ニ依リ免許鑑札ノ書換ヲ要スルトキハ願書ニ戸籍抄本ヲ添付スヘシ

第六條ノ三　柔道整復術營業者柔道教授ヲ止メタルトキハ二十日以內ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第七條　按摩術營業取締規則又ハ本則ニ據リ當廳ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ但シ京都府管內ニ住所、居所ヲ有セサルモノ、受驗ニ關スル書類ニ限リ當廳ニ直接提出スルコトヲ得

第八條　第三條乃至第六條及第六條ノ三ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

〔京都警〕

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本令施行前當廳ノ免許ヲ受ケタル者ハ明治四十五年三月三十一日迄ニ届出テ免許鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

明治十四年九月府甲第百六十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●按摩術營業取扱手續

明治四十五年一月六日
京都府訓令第二號

改正　大正九年京都府訓令第四九號

第一條　規則第一條ノ願出ヲ受ケタルトキハ試驗合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ檢閱シ願書ノ餘白ニ其資格取得ノ年月日及地方廳若ハ學校、講習所名ヲ記入捺印シタル上證書ハ本人ニ返付シ且ツ精神病又ハ傳染性疾患ニ關スル醫師ノ診斷書ヲ添附セシムルノ外左記事項ヲ調査シ意見ヲ具シ速ニ進達スヘシ　警察署

一　素行不良ニシテ免許鑑札ヲ交付スヘカラサル者ニアラサルヤ否

二　藥品ヲ取扱フ營業者ニアラサルヤ否

三　刑罰ヲ受ケタル者ニアラサルヤ否若シ刑罰ヲ受ケタル者ナルトキハ其罪名、刑名、刑期及改悛ノ有無

第二條　細則第二條ノ願出ヲ受ケタルトキハ其修業履歷書記載ノ事項竝ニ教師ノ證明ハ虛僞ニアラサルヤ否ヲ調査シ意見ヲ具シ速ニ進達スヘシ

第三條　規則第六條第六條ノ三第七條第八條ノ願届ヲ受ケタルトキハ速ニ進達又ハ送附スヘシ

第四條　規則第九條第一項ノ處分ヲ必要ト認メ又ハ第二項ニ該當スルモノ

ト認ムルトキハ其事實ヲ具シ上申スヘシ

第五條　細則第六條ノ届出ヲ受ケタルトキハ當廳ニ報告スルノ外前ノ住所地警察署ヘ通報スヘシ

第六條　警察署ニハ按摩術、マツサージ術、柔道整復術（以下單ニ營業者ト稱ス）營業者臺帳（左記様式）ヲ備ヘ其異動ヲ生スル毎ニ加除訂正スヘシ

第七條　營業者ハ時々臨檢シ規則違背又ハ不正行爲ナキヤ否嚴重監視スヘシ

〔京都警〕

種別	術
鑑札下付年月日	明治　年　月　日
鑑札番號	第　號
本籍	
現住所	
族籍	
氏名	
年齡	年　月　日生
摘要	

備考

一　臺帳保存期限ハ永久トス

一　各其ノ業別ニ依リ種別欄ニ按摩、柔道整復又ハ「マツサージ」ト記入シ二以上ヲ兼營スル者ハ併記スヘシ

一　住所其他ノ異動又ハ營業ノ禁停止ニ係ルモノハ摘要欄ニ登錄スヘシ

〔京都警〕

●鍼灸按摩マツサージ柔術整復術試驗ニ關スル件

大正十年九月　衛第九六四四號　各警察署長

標記試驗願書提出ニ關シ出願者ハ概シテ手續キ不案内ノ者多ク爲ニ從來添付書類又ハ書類中主要事項ノ記載ヲ欠缺シ之カ補充竝ニ更正ノ爲一再ナラス手數ヲ要シ煩雜ヲ來ス場合尠ナカラス候條今後當該願書提出者及代書業者等ニ注意ヲ加ヘラレ願書ノ整備ハ勿論他管ヘ照會ヲ要スルモノニ付テハ之カ調査ヲ了シ期間内ニ書類進達セラルヘク尚柔道整復術ノ受驗願人ニシテ現ニ一定ノ道場ニ於テ柔道教授ヲ爲スモノナリヤ否往々疑ハシキ場合有之候ニ付此點ニ付テハ特ニ精査シ遺憾ナキ樣措置相成度爲念通牒候也

●盲學校卒業者鍼術、按摩術營業ニ關シ指定ノ件

明治四十五年三月十九日　京都府告示第百十七號

改正　大正一四年京都府告示第二二二號

京都市立盲學校

右ノ明治四十四年八月内務省令第十號第一條同第十一號第一條ニ依リ〔同院〕卒業者ハ無試驗鍼術、按摩術營業免許鑑札ヲ受クル資格アルモノト指定セリ

●盲學校卒業者灸術營業ニ關シ指定ノ件

大正四年一月八日　京都府告示第十九號

改正　大正一四年京都府告示第二二二號

京都市立盲學校

右ハ明治四十四年八月内務省令第十一號第一條ニ依リ〔同院〕灸術科程卒業者ハ無試驗灸術營業免許鑑札ヲ受クル資格アルモノト指定セリ

●入齒齒拔口中療治接骨營業取締假規則

明治十八年九月　京都府甲第百五十二號

第一條　入齒齒拔口中療治接骨營業ハ府廳ノ免許鑑札ヲ所持スル者ニ限ルヘシ

第二條　前條營業者ハ其局部療法ノ外藥劑ヲ與フルハ勿論藥方ヲ指示スルヲ許サス

第三條　出張所ヲ設ケ營業セントスル者ハ其旨届出ヘシ其廢止スルトキ亦同シ

第四條　他府縣ニ於テ免許ヲ得タルモノ當管内ヘ轉籍寄留又ハ出張所ヲ設ケ營業セントスル者ハ履歷書相添ヘ願出ヘシ

第五條　轉居又ハ改氏名シタルトキハ其都度鑑札書換願出ヘク廢業死亡又ハ他管下ヘ轉籍シタルトキハ速ニ鑑札返納スヘシ

第六條　鑑札ヲ遺失毀損又ハ水火盜難ニ罹リ紛失シタルトキハ速ニ其事由ヲ具シ鑑札ヲ願受クヘシ

第七條　此規則ニ違背シタルトキハ刑法第四百二十六條ニ據リ罰セラルル外營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第四款　病院

●私立病院取締規則

明治四十一年一月三十一日
京都府令第五號

改正　明治四三年京都府令第一一號、第二四號、大正三年第四號、八年第一一號、九年第六〇號、一三年第一〇三號

第一條　私立病院（分、支院ヲ含ム）ヲ新設セントスル者ハ左記事項ヲ具シ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ其事項（第六號ヲ除ク）ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　病院ノ位置（郡、市、町、村、字、番地）
二　病院ノ名稱
三　敷地建物ノ坪數、敷地内建物ノ位置竝ニ其距離及建物内各室ノ間取ヲ示シタル圖面、構造仕樣書、但增築、改築其他構造ノ變更ニ係ルモノハ既設ノ圖面ニ其增築、改築、變更ノ部分ヲ朱記スヘシ
四　收容スヘキ病者ノ定員
五　飲料水ノ試驗成績書
六　法人組織ニ係ルモノハ其定款
七　落成期日

第二條　病室ノ構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　建物ノ屋根ハ不燃質ノ材料ヲ以テ葺クコト
二　病室ハ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ存スルコト但シ建物ノ種類若ハ防火設備又ハ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ
三　病室ハ男女ニ依リ區別スルコト
四　病室床ノ高サハ地盤ヨリ一尺八寸以上天井ハ床上七尺以上トスルコト
五　病室ハ採光、換氣ノ爲メ各室出入口ノ外適當ノ窓ヲ設クルコト
六　病室ノ廣サハ病者一人ニ對シ一坪半以上ノ割合トスコト但一室一人ヲ收容スルトキハ二坪以上トス
七　病室ノ廊下ハ幅三尺以上トスコト但中廊下ナルトキハ四尺以上トス
八　二階病室ニハ適當ノ階段ヲ設ケ其幅ハ三尺以上傾斜四十度以下踏上七寸以下踏敷八寸以上トシ兩側ニ堅牢ナル手摺ヲ附スルコト
九　病室ノ採暖及燈火ハ危險ノ虞ナキ方法ヲ採ルコト
十　病室及ヒ外牆ニハ適當ナル非常口ヲ設ケ其扉ハ外開キトスコト
十一　病室便所ノ溜壺ハ内外ニ釉藥ヲ施シタル甕又ハ其他ノ不滲透質ノ材料ヲ以テ造リ其周邊ハ漏斗狀ニシテ厚サ三寸以上ノ「コンクリート」「モルター」又ハ漆喰敲トスシ適當ノ臭氣拔ヲ設クルコト
十二　浴室及炊事場ノ火焚場ハ不燃質ノ材料ヲ以テ構造スルコト
十三　病院ニハ適當ノ防火具及避難器ヲ備フルコト
十四　前各號ノ外必要ト認ムルトキハ隨時改築、修繕又ハ其他ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　傳染病者ヲ入院セシムル病院ニ在リテハ前條ニ依ルノ外左ノ制限ニ從フヘシ

一　傳染病室ハ平屋建トスコト
二　傳染病室ハ別棟トシ他ノ建物トノ間ニ土塀又ハ板塀ヲ設ケ且完全ナル消毒裝置ヲ爲スコト
三　傳染病室ノ床下ハ「コンクリート」「モルター」又ハ漆喰敲トス爲シ適當ノ勾配ヲ附スルコト
四　傳染病室ノ浴室及便所ハ別ニ設クルコト

第四條　病院ヲ開始セントスルトキハ左記事項ヲ具シ當廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　院則
二　醫員、調劑員、看護婦ノ員數及其勤務方法
三　病者避難ノ順序方法
四　汚物ノ排除、下水ノ疏通、便所ノ防臭等清潔保持ノ方法
五　夜警ノ方法
六　入院料

第五條　病院ニハ病牀日誌及處方錄ヲ備フヘシ但其保存ノ期間ハ十箇年トス

第六條　傳染病室ノ設ケアル病院ト雖モ病症ノ種類又ハ管理不行屆ト認ムルトキハ其收容ヲ差止ムルコトアルヘシ

第七條　傳染病者ノ看護ハ一定ノ看護婦ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第八條　病室用ノ寢具及病者ノ被服ハ常ニ清潔ナラシムヘシ

第九條　本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ病院ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第十條　左記事項ノ一ニ該當スルトキハ其業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　第一條ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三ケ月以内ニ工事ニ著手セサルトキ
二　落成期日ヲ過キ工事竣成ノ見込ナシト認ムルトキ
三　院内ノ設備又ハ管理不行屆ト認ムルトキ
四　休業六ケ月以上ニ亙リタルトキ
五　本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ
六　前各號ノ外公害アリト認ムルトキ

第十一條　第一條第六號ノ定款ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ院長、醫員ヲ雇入レ若クハ解雇シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ但其雇入レニ係ルトキハ履歷書ヲ添付スヘシ

第十二條　病院ハ左記樣式ニ依リ病院表ヲ製シ每翌年四月三十日限リ當廳ニ提出スヘシ

第十三條　廢院、休業又ハ賣買、讓與等其他院主ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ法人組織ニ係ルトキハ其代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ但賣買、讓與等ニ係ルトキハ雙方連署、相續ノ場合ハ相續人ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ病院所在地ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十五條　第一條第四條第五條又ハ第六條ノ命令ニ違背シ若クハ第十條ノ停止ヲ犯シタル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ第七條第八條第九條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

第十六條　院主カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ第十五條ノ罰則ヲ法定代理人ニ適用ス

院主カ法人ナルトキハ第十五條ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其代表者ヲ被告人トス

第十七條　醫員、調劑員、看護婦ノ監督及病者ノ治療上ニ關シテハ院長其他ノ事項ニ關シテハ院主ヲシテ其責ニ任セシム

附則

第十八條　既設ノ病院ニシテ其構造設備本則第二條又ハ第三條ノ制限ニ適合セサルモノハ將來改造又ハ修繕ヲ施ストキ其制限ニ從フヘシ

第十九條　安靜治療ヲ要スル病者三名以下ヲ一時滯留セシムルハ本則ニ據ルヲ要セス

病院表　（大正何年）

年報	所在地	診療スヘキ科名	病床數	入院患者數		外來患者數		記載例
				前年ヨリ越本年入	同上延人員	同上延人員		何病院

一　所在地、診療スヘキ科名、病床數ハ年末ノ事實ヲ記入シ患者ハ年中ノ事實ヲ記入スヘシ

二　診療スヘキ科名ハ一般病院（專門科ニアラサルモノ）ニ在テハ一般ト記入シ專門病院ニ在テハ其專門科名ヲ記入スヘシ

三　病床數ハ收容シ得ヘキ患者ノ定員數ヲ記入スヘシ

四　精神病室、傳染病室又ハ特ニ結核病室ヲ有スルモノハ其病床數ヲ合算セス次ニ左ノ符號ヲ用ヒ列記スヘシ

精神病室ハ「□」傳染病室ハ「△」結核病室ハ「○」トス

五　施療ノ患者又ハ施療病院ニ於テ自費患者アルトキハ入院患者、同上延人員及外來患者、同上延人員ニ合算セス次ニ※ヲ付シ記入スヘシ

●私立病院取締規則執行手續

明治四十一年二月十二日
京都府訓令第六號

改正　大正九年京都府訓令第三八號

第一條　規則第一條ノ願出ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ警察署　警察分署　進達スヘシ

一　願書記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否

二　規則第二條第二號但書ニ依リ斟酌許可スヘキモノト認ムルモノハ其理由

三　出願地三町以內ニ離宮、御用邸、御陵墓、官公署、社寺、學校、會社、工場等ノ有無及其距離

第二條　規則第四條ノ届出ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一　届書記載事項ハ具備スルヤ且其適否

二　病室其他ノ構造ハ許可ノ通リ落成シ居ルヤ否

三　病院ノ設備ハ完成シ居ルヤ否

第三條　規則第六條同第十條ニ依リ病者收容ヲ差止メ又ハ業務ノ停止若ク

〔京都警〕

ハ許可取消ヲ必要ト認ムルトキハ其理由ヲ具シ報告スヘシ

第四條　規則第十一條同第十三條ノ届出ヲ又ハ第十二條ニ依リ統計表ノ提出ヲ受ケタルトキハ速ニ進達スヘシ但口頭届出ニ係ルモノハ直ニ報告スヘシ

第五條　警察署長分署長ハ一ケ年一回以上病院又ハ娙婦、產婦ヲ收容スル場所ニ臨檢シ左ノ各號ヲ視察シ尙警部又ハ巡查部長ヲシテ時々視察セシムヘシ

一　規則違背ノ行爲ナキヤ否

二　規則第三條各號ノ事項ハ適當ニ行ハレ居ルヤ否

三　構造設備ニ關シ危險ノ廉ナキヤ否

四　前各號ノ外必要ト認ムル事項

●公立私立精神病院取締規則

明治四十年十月二十五日
京都府令第五十九號

改正　明治四三年京都府令第一二號、第二五號、四五年第四一號、大正三年第三號

第一條　公立私立精神病院（公私立病院內ノ精神病室ヲ含ム以下之ニ倣フ）ヲ新設セントスル者ハ左記事項ヲ具シ當廳ニ願出ツヘシ其事項（第六號ヲ除ク）ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　病院ノ位置（郡、市、町、村、字、番地）

二　病院ノ名稱

三　敷地建物ノ坪數、敷地內建物ノ位置竝ニ其距離及ヒ建物內各室ノ間取ヲ示シタル圖面、其構造仕樣書

但增築、改築其他構造ノ變更等ニ係ルモノハ既設ノ圖面其增築、改築、變更ノ部分ヲ朱記スヘシ

四　收容スヘキ病者ノ定員

五　飮料水ノ試驗成績書

六　法人ノ組織ニ依ルモノハ其定款

七　落成期日

第二條　病室ノ構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但第二號及ヒ第四號ノ制限ハ構造ノ模樣又ハ土地ノ狀況ニヨリ斟酌許可スルコトアルヘシ

一　建物ノ屋根ハ不燃質ノ材料ヲ以テ葺クコト

二　敷地ノ周圍ニハ石、煉瓦又ハ土壁ヲ以テ高サ七尺以上ノ牆壁ヲ設クルコト

三　病室ハ男女ヲ區劃シ普通室、監置室及ヒ傳染病室ヲ設クルコト

但監置室及ヒ傳染病室ハ平屋建トス

四　病室ハ別棟トシ其前面ニハ五間以上後面及ヒ側面ニハ二間以上ノ空地ヲ存スルコト

五　病室床ノ高サハ地盤ヨリ二尺以上天井ハ床上八尺以上トスコト

六　病室ハ採光、換氣ノ爲メ各室出入口ノ外其坪數五分ノ一以上ノ窓ヲ設クルコト

七　病室ノ廣サハ病者一人ニ對シ一坪半以上ノ割合トスコト

但一室一人ヲ收容スルトキハ二坪以上トス

八　病室ノ廊下ノ幅四尺以上トスコト

但中廊下ナルトキハ六尺以上トス

九　二階病室ノ階段ハ一棟二ケ所以上ヲ設ケ其階段ノ幅ハ五尺以上傾斜四十度以下踏上七寸以下踏敷八寸以上トシ兩側ニ堅牢ナル手摺ヲ附スルコト

十　監置室及ヒ其廊下ノ窓ニハ堅牢ナル格子ヲ設クルコト

十一　監置室ヨリ他室若クハ室外ヘノ出入口ニハ堅固ナル鎖鑰ヲ設ケ其

〔京都警〕

鍵ハ男女ニ依リ區別スルノ外各室共通ノモノト爲スコト

十二　傳染病室ト他ノ建物トノ間ニハ土壁又ハ板塀ヲ設ケ且完全ナル消毒裝置ヲ爲スコト

十三　傳染病室ノ床下ハ「セメント」「コンクリート」「モルタル」又ハ漆喰敲ト爲シ適當ノ勾配ヲ付スルコト

十四　病室ノ便所ハ內外ニ石炭酸ヲ施シタル不滲透質ノ材料ヲ用ヒ其周邊ハ漏斗狀ニシテ厚サ三寸以上ノ「セメント」「コンクリート」「モルタル」又ハ漆喰敲ト爲シ適當ノ臭氣拔ヲ設クル外監置室ノ便所ニアリテハ病者ノ逃走ヲ妨ク構造トナスコト

但監置室ノ模樣ニ依リ挿入裝置ノ便器ヲ備付クルコトヲ得

十五　浴室及ヒ炊事場ハ不燃質ノ材料ヲ以テ構造スルコト

但浴室ハ傳染病室ト他ノ病室ト各別ニ設クルコト

十六　病室及ヒ外牆ニハ適當ノ非常口ヲ設ケ其扉ハ外開キト爲スコト

但二階非常口ニハ幅五尺以上傾斜三十五度以下ニシテ兩側ニ堅牢ナル手摺ヲ附シタル上リ階子ヲ設クルコト

十七　病院內ニハ適當ノ運動場及ヒ慰樂、作業ニ充ツヘキ場所ヲ設クルコト

十八　病室ノ採暖及ヒ燈火ハ危險ノ虞ナキ方法ヲ取ルコト

十九　病院ニハ適當ノ防火具及ヒ避難器ヲ備フルコト

二十　病室用ノ枕ハ護謨製若クハ綿布製等ニシテ危險ノ虞ナキモノヲ用ユルコト

二十一　前各號ノ外ト雖モ必要ト認ムルトキハ隨時改築、修繕又ハ其他ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　病院ヲ開始セントスルトキハ左記事項ヲ具シ當廳ニ屆出ヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　院則

二　院長、醫員、調劑員、看護人ノ員數及ヒ其勤務方法

三　看護人ノ監督方法

四　病者看護ノ方法（運動、慰樂、作業等ノ方法ヲ指ス）

五　病者避難ノ順序方法

六　清潔保持ノ方法（汚物排除、下水疏通、便所、防臭等ノ方法ヲ含ム）

七　入院料、診察料、藥價其他收受スヘキ種目、金額

第四條　病院ニハ左ノ記錄ヲ備フヘシ

但保存期限ハ滿十ケ年トス

一　病者明細簿、病者ノ住所、氏名、身分、職業、生年月日、監置許可ノ年月日、入院年月日、退院年月日、既婚、未婚、實業繼父母ノ關係、宗教、教育、遺傳、誘因、飲酒及ヒ生活ノ狀態竝ニ看護義務者ノ住所、氏名ヲ記スモノトス

二　病牀日誌

三　處方錄

四　看護日誌

第五條　左ノ場合ニアリテハ卽時病院所在地ノ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

一　病者ノ死亡、逃亡又ハ變死傷アリタルトキハ其住所氏名、年齡及ヒ死亡ニアリテハ病歷、逃亡又ハ變死傷ニアリテハ事件ノ顚末

二　他府縣ニ於テ監置ノ許可ヲ受ケタルモノヲ入院又ハ退院（全治未治ノ區別ヲ要ス）セシメタルトキハ其住所、氏名

第六條　看護人ハ男病室ニハ男子、女病室ニハ女子ヲ附シ且夜間ハ不寢番ヲ置クヘシ

第七條　看護人ニハ清潔ニシテ一定ノ標識アル被服ヲ著用セシムヘシ

第八條　病室用ノ寢具及ヒ病者ノ被服ハ常ニ清潔ナラシムヘシ

第九條　左記事項ノ一ニ該當スルトキハ其業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　第一條ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三ケ月以內ニ工事ニ著手セサルトキ

二　落成期日ヲ過キ工事竣成ノ見込ミナシト認ムルトキ

三　院內ノ設備又ハ管理不行屆ト認ムルトキ

四　病者ノ待遇上又ハ治療上ニ就キ不適當ト認ムルトキ

五　休業六月以上ニ渉リタルトキ

六　本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ

七　前各號ノ外公害アリト認ムルトキ

第十條　第一條第六號ノ定款ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ院長、醫員、調劑員、看護人ヲ雇入レ若クハ解雇シタルトキハ五日以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ

但院長、醫員、調劑員ノ雇入レニ係ルトキハ其履歷書ヲ添附スヘシ

第十一條　院長、醫員、調劑員又ハ看護人ニシテ不適任ト認ムルトキハ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條　廢院又ハ賣買、讓與其他院主ヲ變更シ又ハ院主ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ五日以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ法人組織ニ係ルトキハ其代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ

但賣買、讓與ニ係ルトキハ雙方連署シ相續ノ場合ハ相續人ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　病院ハ左記樣式ニ依リ病院表ヲ製シ每翌年四月二十日限リ當廳ニ提出スヘシ

第十四條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ病院所在地ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十五條　第四條第五條第六條第七條第八條第十條第十二條第十三條ニ違背シタル者又ハ第二條第二十一號第十一條ノ命令ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

第十六條　院主カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ第十四條ノ罰則ヲ法定代理人ニ適用ス院主カ法人ナルトキハ第十四條ノ罰則ヲ法人ニ適用ス法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其代表者ヲ被告人トス

第十七條　醫員、調劑員、看護人等ノ監督及ヒ病者ノ監護竝ニ治療上ニ關シテハ院長其他ノ事項ニ關シテハ院主ヲシテ其責ニ任セシム

附　則

第十八條　既設ノ精神病院ニシテ其構造設備本則第二條ノ制限ニ適合セサルモノハ明治四十五年十月三十日迄ニ改造スヘシ

（發送期日四月二十日）

（用紙美濃紙）

病院表　（大正何年）

何病院

年報	所在地	診療スヘキ科名	病床數	入院・患者數	前年ヨリ越	本年入	同上延人員	外來患者數	同上延人員

記載例

一　所在地、診療スヘキ科名、病床數ハ年末事實ヲ記入シ患者ハ年中ノ事實ヲ記入スルモノトス
二　診療スヘキ科名ハ一般病院（專門科ニアラサルモノ）ニ在テハ一般ト記入シ專門病院ニ在テハ其專門科名ヲ記入スヘシ
三　病床數ハ收容シ得ヘキ患者ノ定員數ヲ記入スヘシ
四　精神病室、傳染病室又ハ特ニ結核病室ヲ有スルモノハ其病床數ヲ合算セス次ニ左ノ符合ヲ用ヒ列記スヘシ
　精神病室ハ「□」傳染病室ハ「△」結核病室ハ「○」トス
五　施療ノ患者アルトキハ入院患者、同上延人員及外來患者、同上延人員ニ合算セス次ニ※ヲ付シ記入スヘシ

●公私立精神病院取締規則執行手續

明治四十年十月
衞訓第一九號

第一條　規則第一條ノ願出ヲ受ケタルトキハ左記各號ニ依リ精密調査ヲ遂ケ意見ヲ具シ進達スヘシ
一　願書記載ノ事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否
二　規則第二條但書ニ依リ斟酌許可ノ必要アリト認ムルモノハ其理由
三　出願地三町以内ニ離宮、御用邸、御陵墓、官公署、社寺、學校、公園、人家、道路河川竝ニ會社、工場等ノ有無及其距離

第二條　規則第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ左記各號ニ依リ精密調査ヲ遂ケ意見ヲ具シ進達スヘシ
一　届書記載ノ事項ハ具備スルヤ且其各號ニ於ケル適否
二　病室其他ノ構造ハ許可ノ通リ落成シ居ルヤ否
三　院内ノ設備ハ完整シ居ルヤ否

第三條　規則第五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ卽報スヘシ

第四條　規則第九條同第十一條ニ依リ業務ノ停止若クハ許可ノ取消又ハ院長以下ノ解雇ヲ必要ト認ムルトキハ其事由ヲ詳具シ報告スヘシ

第五條　規則第十條同第十二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ報告スヘシ但

〔京都警〕

第六條　病院ハ明治三十三年七月當府訓令第九十五號精神病者監護法令取扱手續第十三條ニ據ルノ外左記ノ事項ヲ視察スヘシ
一　規則第三條各號ノ事項ハ適當ニ行ハレ居ルヤ否

第二節　藥事

第一款　藥劑師　藥種商　製藥者

●藥劑師法施行手續

大正十五年七月六日
京都府訓令第五十一號

藥劑師法施行手續左ノ通定ム

警察署

藥劑師法施行手續

第一條　藥劑師法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條第一項、第三條第一項、同第二項、第四條第一項、第六條ノ申請書竝藥劑師法施行細則

〔京都警〕

（以下單ニ細則ト稱ス）第五條ノ願出ヲ受ケタルトキハ其ノ記載事項ヲ具備スルヤ及事實相違ナキヤヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

申請書ニ貼用セル收入印紙ニハ消印スヘカラズ

第二條　規則、第七條第一項、第九條又ハ細則第八條ノ届出ヲ受ケタルトキハ記載事項ヲ具備スルヤ及事實相違ナキヤヲ調査シテ進達スヘシ

藥劑師免許證寫ヲ添付スルモノハ本證ト相違ナキヲ確認セシ後其ノ末尾ニ「照合濟」ト朱書スヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル警察官署ハ其ノ届出人ノ前住所、營業所、住所地カ當府管内ニ於ケル他ノ警察官署ノ所轄ニ屬スルトキハ届出ノ事項ヲ當該警察官署ニ通報スヘシ

第三條　規則第四條第三項、第十八條、第十九條ノ免許證ノ提出アリタルトキハ速ニ進達スヘシ

第四條　藥劑師ニシテ藥劑師法第三條各號ノ一又ハ第四條各號ノ一ニ該當スル事實ノ發生シタル者アルトキハ速ニ其ノ事由ヲ具申スヘシ

藥劑師免許ノ取消ヲ受ケタル者ニシテ藥劑師法第三條第二號又ハ第三號ノ原因止ミタルトキ若ハ改悛ノ情顯著ナリト認ムルトキ亦前項ニ同シ

第五條　警察官署ニハ左記樣式ニ依ル藥劑師名簿ヲ備ヘ其ノ異動ヲ生ズル毎ニ整理スヘシ

附　則

大正十一年京都府訓令第四十號藥劑師取締規則取扱手續ハ之ヲ廢止ス

藥劑師名簿樣式

免狀ヲ得タル事由		住所	
免狀下付ノ日	大正　年　月　日	本籍	
免狀番號	第　號		
異動記事			
免狀ヲ得タル事由		住所	
免狀下付ノ日	大正　年　月　日	本籍	
免狀番號	第　號		
異動記事			

族稱		族稱	
氏名		氏名	
年齡	年　月　日生	年齡	年　月　日生

●藥劑師法施行細則

大正十五年七月六日
京都府令第百四十七號

藥劑師法施行細則左ノ通定ム

藥劑師法施行細則

第一條　藥劑師法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條第一項、第三條第一項、同第二項、第四條第一項、第六條ノ申請及第七條第一項、本令第八條ノ屆出、規則第四條第三項、第十八條、第十九條ノ免許證提出ハ住所地所轄警察官署ヲ第九條ノ屆出ハ藥局所在地所轄警察官署ヲ經由スベシ

第二條　藥局ノ名稱ハ之ヲ見易キ箇所ニ標示スベシ

第三條　藥局ニ備フル醫療用藥品ハ他ノ藥物又ハ物品ト區劃シテ貯藏スベシ

第四條　規則第八條第二號ニ依ル許可ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限ル

一　藥局開設者死亡シタル場合ニ於テ特別ノ事情ニ因リ其ノ相續人ヲシテ一定ノ期間當該藥局ヲ繼續開設セシムル必要アリト認ムル場合

二　公益ノ目的ヲ以テ藥局ヲ開設スルトキ又ハ公益上必要アリト認ムル場合

三　土地ノ狀況ニ依リ公衆衞生上必要アリト認ムル場合

四　法人ノ代表者藥劑師ノ資格ヲ有シ自ラ其ノ事業ノ經營監督ノ任ニ當リ事實上藥劑師ノ開局ト認メ得ル場合

第五條　規則第八條第二號ニヨリ藥局開設ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ヅベシ

一　藥局ヲ開設セムトスル者ノ住所、氏名、生年月日法人ニ在リテハ事務所所在地、名稱、代表者ノ氏名、定款

二　藥局開設ノ場所

三　藥局開設ノ事由

第六條　規則第十三條ノ調劑ニ必要ナル器具ト稱スルハ左ニ揭グルモノヲ謂フ但シ醫師、齒科醫師、獸醫ノ調劑所ニ就テハ掛酌スルコトアルベシ

一　調劑臺

二　十立方センチメートル、二十立方センチメートル、百立方センチメートル、二百立方センチメートルノ各液量器、五百立方センチメートルノ熱湯計、三十立方センチメートルノ滴瓶

三　硝子製乳鉢、磁製乳鉢、藏丸器、成丸器、浸漬劑器、坐劑器

四　匙（金屬製、角製）篦（金屬製、角製）漏斗（硝子製、磁製）膏藥板、篩器（六ツ組日本藥局方規定ノモノ）碎粉器

五　滅菌器

第七條　規則第七條第一項ノ屆出ヲ爲ス場合ニハ第一號樣式ニ依リ藥劑師免許證ノ寫ヲ添付スベシ

第八條　藥劑師藥劑師タル資格ニ伴フ業務ニ從事シ又ハ其ノ業務狀態ニ異動ヲ生ジタルトキハ事實發生ノ日ヨリ十日以內ニ第一號樣式ニ依リ屆出ヅベシ

第九條　規則第九條ニ依ル屆出ハ第二號樣式ニ依ルベシ但シ藥局開設者自ラ管理セザル場合ニ於テハ管理者タル藥劑師連署ヲ要ス

第十條　第二條、第三條及第八條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

藥劑師法附則第三項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師、獸醫ニ於テ調劑ヲ爲ス場合ニ關シテハ第三條竝其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

明治三十四年京都府令第九十一號藥劑師取締規則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

〔京都警〕

藥劑師住所變更（業務異動）屆

本籍	
前住所	
前營業所	
現住所	
屆出事實發生年月日	
業務狀態	

右及御屆候也

年　月　日

知事宛

氏　名㊞

年月日生

第二號樣式

藥局何々屆

藥局ノ所在地	
藥局ノ名稱	

開局者氏名

管理者氏名

屆出事實發生年月日

異動事項

右及御屆候也

年　月　日

知事宛

氏　名㊞

●藥劑師會令施行細則

大正十五年七月一日
京都府令第百三十六號

藥劑師會令施行細則左ノ通定ム

藥劑師會令施行細則

第一條　藥劑師會ノ設立又ハ會則變更ノ認可申請ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スベシ

一　會則案

二　會員ノ總數

三　代議員ノ總數

四　出席者ノ氏名
五　表決權委任者及被委任者ノ氏名
六　會議錄ノ謄本

第二條　藥劑師會總會ヲ開催セムトスルトキハ五日以前ニ其ノ日時、場所及議案ヲ届出ヅベシ但シ臨時緊急ノ場合ハ開會當日迄ニ之ヲ届出ヲ爲スヲ妨ゲズ

第三條　藥劑師會左ノ事項ヲ議決シタルトキハ十日以内ニ申請認可ヲ受クベシ

一　財産又ハ營造物ノ處分ニ關スル事項
二　藥事衛生ノ施設ニ關スル事項
三　施藥ニ關スル事項
四　會員ノ業務ニ關シ議決ヲ以テ規定ヲ設クル場合

第四條　藥劑師會ハ左ノ事項ヲ十日以内ニ届出ヅベシ

一　事務所ノ位置及其ノ變更
二　役員、代議員及日本藥劑師會議員、豫備議員ヲ選任又ハ改任シタルトキハ其ノ住所、氏名、違反ノ事實及懲戒ノ要領

第五條　藥劑師會令第二十三條ノ懲戒ヲ爲シタルトキハ被懲戒者ノ住所、氏名、違反ノ事實及懲戒ノ要領

第六條　藥劑師會ハ藥劑師會令又ハ本令ニ依リ認可又ハ届出ヲ要スルモノノ外議決シタル事項ハ之ヲ十日以内ニ報告スベシ

第七條　藥劑師會ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　藥劑師會ハ其ノ豫算ヲ年度開始前ニ第一號、第二號樣式ニ依リ決算ヲ翌年度内ニ第三號、第四號樣式ニ依リ届出ヅベシ

第九條　必要アリト認ムルトキハ藥劑師會ノ會議ニハ當該官吏ヲ臨席セシムルコトアルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

大正　年度何藥劑師會歲入豫算書

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較増	比較減	備考
第一款　諸收入	圓	圓	圓	圓	
第一項　一般收入					
第一目　會費					
第二目　寄附金					
第三目　預金利子					
第四目　何々					
第二項　雜收入					
第一目　過怠金					
第二目　不用物賣拂代					
第三目　何々					

第二號樣式

大正　年度何藥劑師會歲出豫算書

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較増	比較減	備考
第一款　諸給及諸費	圓	圓	圓	圓	
第一項　諸給					
第一目　給料					
第二目　諸手當					
第三目　旅費					
第四目　諸備給					
第五目　何々					
第二項　會議費					

第一目	雜給
第二目	議揚費
第三項	需要費
第一目	備品費
第二目	消耗品費
第三目	圖書及印刷費
第四目	通信運搬費
第五目	雜費
第四項	日本藥劑師會分擔金
第一目	日本藥劑師會分擔金

第三號樣式

大正　年度何藥劑師會歲入決算書

科目	本年度決算高	本年度豫算高	比較增	比較減	備考
第一款 諸收入	圓	圓	圓	圓	
第一項 一般收入					
第一目 會費					
第二目 寄附金					

〔京都誓〕

第三目	預金利子
第四目	何々
第二項	雜收入
第一目	過怠金
第二目	不用物資拂代
第三目	何々

〔京都誓〕

第四號樣式

大正　年度何藥劑師會歲出決算書

科目	本年度決算高	本年度豫算高	比較增	比較減	備考
第一款 諸給及諸費	圓	圓	圓	圓	
第一項 諸給					
第一目 給料					
第二目 諸手當					
第三目 旅費					
第四目 諸備給					
第五目 何々					
第二項 會議費					

第一目　雜　給			
第二目　議　場　費			
第三項　需　要　費			
第一目　備　品　費			
第二目　消　耗　品　費			
第三目　圖書及印刷費			
第四目　通信運搬費			
第五目　雜　費			
第四項　日本藥劑師會分擔金			
第一目　日本藥劑師會分擔金			

備考

各號樣式中ニ揭載シタル款項目ハ例示ニ過ギズ

●藥種商竝製藥者取締細則

明治四十一年二月二十一日
京都府令第十號

第一條　藥種商、製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケントスル者ハ其營業所ノ位置竝製藥品目及族籍、住所、氏名、生年月日（法人、組織ニ係ルモノハ其名稱、事務所々在地、代表者竝主任者ノ氏名ヲ記シ且主任者ノ經歷書及定款ヲ添付スヘシ）ヲ記シ經歷書ヲ添ヘ當廳ニ願出ヘシ

第二條　藥種商、製藥者ニシテ支店ヲ設ケントスルトキハ位置及管理人ノ氏名生年月日ヲ記シ其經歷書ヲ添ヘ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ管理人ヲ變更セントスルトキ亦同シ

藥種商、製藥者其支店ノ位置ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ

第三條　藥種商、製藥者タラントスル者ニシテ藥品取扱ノ經歷又ハ製藥ノ技能不充分ト認ムルモノハ免許鑑札ヲ下付セサルコトアルヘシ

第四條　藥種商、製藥者免許鑑札ヲ毀損、亡失シ又ハ鑑札記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ十日以内ニ鑑札ノ書換又ハ訂正ヲ當廳ニ願出ヘシ

第五條　藥種商、製藥者、廢業、死亡又失踪シタルトキハ十日以内ニ、他

管下ニ移轉セントスルトキハ其以前ニ當廳ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ、但死亡、失踪ニ係ルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ其手續ヲ爲スヘシ

第六條　藥種商、製藥者ノ免許鑑札ハ賣買、讓與又ハ貸借スヘカラス

第七條　製藥者ハ製造藥品ヲ適當ノ容器ニ收メ且其據ル所ノ藥局方名、藥品名及自己ノ氏名ヲ記シタル封緘ヲ施スヘシ但内務省衛生試驗所又ハ明治三十九年九月内務省令第二十六號ニ依リ藥品ノ檢査證明ヲ業務ト爲ス者ノ封緘アルモノハ此限ニアラス

前項藥品ノ容器又ハ製造ノ年月日ヲ記入スヘシ

日本藥局方及外國藥局方ニ記載セサル藥劑類ハ前二項ニ依ルノ外主藥ノ含量ヲ附記スヘシ

第八條　藥種商、製藥者ハ醫療藥品ト工業用藥品トヲ區劃シ貯藏又ハ陳列スヘシ

第九條　藥種商ハ毒藥、劇藥ノ封緘ヲ開キ又ハ容器ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　藥種商、製藥者ハ住所、氏名ノ上ニ「藥種商」又ハ「製藥者」ノ三字ヲ記シタル標札ヲ其店頭ニ掲クヘシ

第十一條　製藥者ハ一ケ年間製造シタル藥品ノ名稱及其數量ヲ毎翌年一月三十一日迄ニ當廳ニ届出ヘシ

第十二條　明治四十年十二月内務省令第二十七號又ハ本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十三條　第一條第二條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第十四條　藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品ノ製造販賣ヲ爲ス者ハ本則ヲ準用ス

第十五條　本則施行以前ニ於テ免許鑑札ヲ受ケタル藥種商、製藥者ハ明治四十一年六月三十日迄ニ其營業ノ種類、鑑札番號竝鑑札下附ノ年月日、製藥品目及住所氏名ヲ記シ當廳ニ届出ヘシ但明治四十年四月法律第三十五號附則第二項ニ依リ指定藥品ヲ販賣セントスル者ハ其旨附記スヘシ

前項ノ期限内ニ届出ノ手續ヲ爲サヽル者ハ免許ノ效ヲ失フモノトス

第十六條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●藥種商竝製藥者取締細則執行手續

明治四十一年二月二十八日
京都府訓令第八號

第一條　細則第一條第二條第一項及第四條ノ願出ヲ受ケタルトキハ其記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否ヲ調査シ意見ヲ具シ遲遠スヘシ

第二條　細則第二條第二項第五條第十一條及附則第十五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ遲達スヘシ

但口頭届出ニ係ルトキハ其事項ヲ記シ報告スヘシ

第三條　警察署警察分署ニハ左記樣式ニ依リ臺帳ヲ備ヘ營業別ニ口座ヲ設ケ其異動ヲ生スル毎ニ加除訂正スヘシ

第四條　警察署長警察分署長ハ藥品監視員ト共ニ時々臨檢シ規則違反ノ行爲ナキヤ否ヲ視察スヘシ其差支アルトキハ警部又ハ巡査部長ヲシテ視察セシムルコトヲ得

（用紙半紙）

種別	藥種商（製藥者）	住所		免狀下付ノ日	明治　年　月　日	免狀番號	第　號	本籍		族稱		年齡	年　月　日生
摘要													
種別	藥種商（製藥者）	住所		免狀下付ノ日	明治　年　月　日	免狀番號	第　號	本籍		族稱		年齡	年　月　日生
摘要													
種別	藥種商（製藥者）	住所		免狀下付ノ日	明治　年　月　日	免狀番號	第　號	本籍		族稱		年齡	年　月　日生
摘要													

備考　摘要欄ニハ免許取消營業停止其他免許證ノ異動ヲ記載スヘシ

第二款　賣藥　賣藥部外品

●賣藥取締法令施行細則

〔京都警〕

大正三年十一月十七日
京都府令第七十三號

第一條　賣藥發賣免許申請書ハ第一號樣式ニ依ルヘシ

改正　大正一一年京都府令第八三號

賣藥法第六條ノ資格者ニアリテハ其免狀又ハ免許證寫同法第二十四條ノ資格者ニアリテハ免許鑑札寫（二方以上ヲ有セル者ハ一方ニテ可ナリ）ヲ添附スヘシ

第二條　免許事項變更申請書ハ第二號樣式ニ依ルヘシ

第三條　賣藥免許證書換ノ申請書ハ第三號樣式ニ依ルヘシ但相續及讓受ノ場合ニアリテハ雙方連署シ賣藥法第二十五條ノ賣藥ヲ除クノ外本則第一條ニ倣ヒ資格證明書ヲ添附スヘシ
死亡ニ依ル相續ノ場合ハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ニ於テ前項ノ手續ヲナスヘシ

第四條　賣藥法第三條ニ依ル屆書ハ第四號樣式ニ依ルヘシ
他府縣ノ賣藥營業者ニシテ管內ニ營業所ヲ設ケタルトキハ前項屆書ニ當該營業所ニ於テ調製又ハ販賣スヘキ賣藥ノ免許證寫ヲ添附スヘシ

第五條　賣藥發賣ヲ廢止シタルトキハ第五號樣式ニ依リ當該賣藥免許證ヲ添ヘ三十日以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ

第六條　賣藥法施行規則第八條ニヨリ藥劑師ヲ置キタルトキハ免狀寫ヲ添附シ第六號樣式ニ依リ屆出ツヘシ

第七條　賣藥法施行規則第八條第一項但書ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ當廳ニ願出ツヘシ
一、願出ノ事由
二、營業者ノ住所、氏名
三、主タル營業所ノ位置
四、各調製所ノ位置竝ニ相互ノ距離
五、當該調製所ニ於ケル作業ノ種類、方法竝ニ程度

第八條　賣藥法施行規則第十條但書ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ藥劑師連署當廳ニ願出ツヘシ
一、願出ノ事由
二、營業者ノ住所、氏名
三、藥劑師カ賣藥營業者ノ營業所、調製所以外ニ於テ從事スル業務竝ニ業務所

第九條　賣藥請賣ノ屆書ハ第七號樣式ニ依ルヘシ

第十條　賣藥請賣營業者營業所ヲ變更又ハ廢止シタルトキハ二十日以內ニ屆出ツヘシ

第十一條　賣藥請賣營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ニ於テ事由ノ發生シタル日ヨリ三十日以內ニ屆出ツヘシ

第十二條　賣藥法施行規則第十五條ニ依ル賣藥行商ノ屆出ハ第八號樣式ニ依ルヘシ
前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ行商屆濟證ヲ下附ス
行商廢止ノ屆出ハ行商屆濟證ヲ添附シ廢止ノ日ヨリ三十日以內ニ之ヲ返スヘシ

第十三條　賣藥行商者屆濟證ヲ毀損、亡失シ又ハ其記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其事由ノ發生シタル日ヨリ三十日以內ニ屆出書換又ハ再下附ヲ受クヘシ但亡失シタル行商屆濟證ヲ發見シタルトキハ速ニ之ヲ返納スヘシ

第十四條　前五條ノ屆出ハ營業所管轄郡市長ニ之ヲ爲スヘシ

第十五條　賣藥行商者ハ就業中行商屆濟證ヲ携帶シ當該官吏ノ求メアリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十六條　賣藥法施行規則第十五條ニ依ル賣藥行商者ニシテ他府縣ニ屆出其行商屆濟證ヲ所持セル者ノ管內行商ニ付テハ特ニ其屆出ヲ免除シ行商

届済證ハ當府ニ於テ下附セシモノト見做ス

第十七條　賣藥營業者ハ賣藥原料品中日本藥局方ニ於テ特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從ヒ且毒藥、劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第十八條　賣藥營業者免許取消ノ處分ヲ受ケタルトキハ直ニ請賣營業者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十九條　賣藥營業者免許ヲ取消サレタルトキハ五日以内ニ其免許證ヲ當廳ニ返納スヘシ

第二十條　賣藥法及賣藥法施行規則竝ニ本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願、届書及返納スヘキ免許證等ハ營業所管轄郡市長ヲ經由スヘシ

第二十一條　本則第四條第三項、第五條、第十條、第十一條、第十三條、第十五條、第十七條、第十八條、第十九條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附則

第二十二條　從來ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル賣藥ニシテ賣藥法實施後ニ於テ尚免許ノ效力ヲ有スル賣藥ノ免許鑑札ハ賣藥法施行規則第二條ノ規定ニ依リ下附シタル賣藥免許證ト見做ス但賣藥規則第二條但書ニ依リ下附シタル賣藥免許鑑札ハ本則施行後三十日以内ニ返納スヘシ

第二十三條　從來ノ規定ニ依リ賣藥請賣免許證ヲ有スルモノハ本則第九條ニヨリ届出タルモノト見做ス

第二十四條　從來ノ規定ニ依ル賣藥行商又ハ賣子ナシテ行商セシムル者ニシテ本則實施後尚引續キ之ヲ爲シ又ハ爲サシメントスル者ハ本則第十二條ニ依リ本則施行後二十日以内ニ届出テ行商届済證ヲ受クヘシ

前項ノ届出ヲ爲サヽル者ハ之ヲ無效トス

從來ノ規定ニ依リ受ケタル賣藥行商鑑札ハ本令發布ノ際直ニ返納スヘシ

【京都警】

（様式略ス）

●賣藥取締法令取扱手續

大正三年十一月十七日
京都府訓令第四十號

改正　大正一一年京都府訓令第四二號

【郡役所】市役所　町村役場

賣藥取締法令取扱手續左ノ通定ム

賣藥取締法令取扱手續

第一條　（削除）

第二條　賣藥法施行規則第五條ノ手數料ハ收入印紙トシ當該申請書ノ餘白ニ貼附セシムヘシ但消印スヘカラス

第三條　郡市長ハ賣藥行商届出ヲ受ケタルトキハ行商人（賣子）毎ニ第一號樣式ノ行商届済證ヲ交附スヘシ

第四條　郡市長ハ第二號乃至第四號樣式ニ依ル賣藥營業者臺帳、賣藥請賣營業者臺帳、賣藥行商者（賣子）臺帳ヲ備ヘ左ノ各號ニ依リ整理スヘシ

一、賣藥營業者臺帳ニハ當廳ヨリ賣藥營業ニ關スル免許證竝ニ指令等ノ送達ヲ受ケタルトキハ其交付前、又賣藥營業者ヨリ單ニ當廳ニ提出竝ニ返納スルニ止マリ別段ノ處分ヲ要セサル届書等ヲ受ケタルトキハ其進達前、其所要事項ヲ登載スルコト

二、賣藥請賣營業者臺帳賣藥行商者臺帳ニハ届出ノ都度其所要事項ヲ登載スルコト

三、營業者ノ死亡、廢業又ハ免許取消アリタルトキハ一條ノ朱線ヲ引キテ消除シ且欄外又ハ備考欄ニ各其事由ヲ朱記スルコト

第五條　郡市長ハ賣藥法施行規則第十七條ニ依リ所定ノ事項ヲ所轄稅務署ヘ通知スヘシ

【京都警】

第六條　郡市長ハ賣藥取締法令施行細則第十三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ事實調査ノ上行商届済證ヲ書換又ハ下附スヘシ

第七條　賣藥法及賣藥法施行規則竝ニ賣藥取締法令施行細則ニ依リ當廳ニ提出スヘキ願届書等ハ其都度進達スヘシ

第八條　郡市長ハ賣藥營業者、賣藥請賣營業者ノ營業所又ハ賣藥行商者ノ住所ノ變更ニヨリ郡市ノ管轄ヲ異ニシタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一、營業所（住所）變更ノ届出（賣藥免許證書換經由ノ場合ヲ含ム）ヲ受ケタル郡市長ヨリ前ノ營業所（住所）管轄郡市長ヘ其旨ヲ通知シ營業者臺帳謄本ノ廻附ヲ俟チテ臺帳面ニ其所要事項竝ニ其事由ヲ登載スルコト

二、前ノ營業所（住所）管轄郡市長ハ前號ノ通知ヲ受クルト同時ニ當該營業者臺帳ノ謄本ヲ作製シ通知ヲ受ケタル郡市長ヘ送附シ併テ臺帳面ニ一條ノ朱線ヲ引キテ消除シ且欄外又ハ備考欄ニ其事由ヲ朱記スルコト

第九條　賣藥法第十一條ニ依ル處分ノ通知ヲ受ケタルトキハ臺帳面ニ其事由ヲ朱記スヘシ

第十條　郡長ヲ經テ當廳ニ差出スヘキ願届書等ハ便宜町村長ニ於テ受理セシムルコトヲ得

第十一條　明治四十四年六月京都府訓令第四十五號ハ之レヲ廢止ス

第一號樣式（用紙厚紙）

賣藥行商届済證

住所
氏名
生年月

京都府

第三編　衛生　第二章　醫藥

縦四寸（曲尺）

表

左記ノ賣藥行商届済ナルコトヲ證ス

年　月　日

方	名	賣藥營業者	同上營業所	行商届済年月日

横五寸（曲尺）

裏

方名	賣藥營業者	同上營業所	行商届済年月日

〔京都營〕

表

營業所		營業資格	備考
主	住所		
從	氏名		
	生年月		

使用セル藥劑師住所氏名

方名　免許證番號　免許年月日　異動

備考　行商者ノ種類ヲ明ニスル爲メ其氏名ノ上ニ賣藥營業者賣藥請賣營業者又ハ此等ノ者ノ賣子タルコトヲ記載スヘシ

第二號樣式　賣藥營業者臺帳

（用紙美濃紙）

〔京都營〕

第三號樣式　賣藥請賣營業者臺帳

届出年月日（從來營業者ナルトキハ其旨）	營業所住所氏名

（用紙美濃紙）

〔京都營〕

第四號樣式　賣藥行商者臺帳

表

行商届濟證下附年月日	使用人 營業所住所氏名	生年月

裏

方名	賣藥營業者	同上營業所	行商届濟年月日	方名	賣藥營業者	同上營業所	行商届濟年月日

（用紙美濃紙）

〔京都營〕

●賣藥及製劑發賣製造禁止告示後取締方

明治二十九年十一月衛第五四七號

賣藥又ハ賣藥規則外製劑等ノ製造發賣禁止ノ節ハ其旨一般ニ告示可相成ニ付禁止後ノ該製劑ニシテ證リニ販賣スル者アルヘカラサル筈ノ處既ニ其之アルヲ認メ取締上甚タ不都合ノ儀ニ付自今核告示相成候節ハ各店舖ニ就キ取調右等ノ不取締無之樣嚴重視察可有之候也

●賣藥部外品取締規則

明治四十四年三月十七日京都府令第二十九號

第一條　本則ニ於テ賣藥部外品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル左ノ品類又ハ其類似品ニシテ藥品ヲ配伍シ人畜治病ノ目的ニアラサル製劑ヲ謂フ

一、防腐、防臭、淸澄、矯味、滋養、染髮、毛生、涅齒用製劑

二、齒磨

三、消毒石鹸
四、化粧品（練油、梳油、香油、香水ノ類ヲ除ク）
五、動物、昆蟲、驅除用製劑
賣藥部外品營業者ト稱スルハ賣藥部外品ノ製造又ハ請賣、行商ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條　賣藥部外品ヲ製造セントスル者ハ其劑名、配伍分量、製法、用法、用量、效用ヲ詳記シタル書面ニ原名ヲ添ヘ當廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但免許ヲ受ケタル者二個所以上ニ於テ製造シ又ハ販賣所ヲ設クルトキハ其個所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條　賣藥部外品製造營業者ハ製劑ノ容器又ハ其包被ニ劑名、用法、用量、效用及ヒ住所氏名ヲ明記スヘシ

第四條　賣藥部外品ヲ請賣又ハ行商セントスル者ハ其劑名ヲ記載シタル書面ニ製造營業者ノ免許鑑札寫ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但他府縣ニ於テ許可ヲ受ケタル製劑ニ係ルトキハ免許鑑札寫ヲ添ヘ、外國ヨリ輸入シタルモノハ製劑一包ヲ添附スヘシ
賣藥部外品製造、請賣營業者ニシテ自ラ行商セントスル者ハ所轄警察官署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ、賣子ヲシテ行商セシムル者亦同シ

第五條　賣藥部外品營業者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス許可以外ノ效用ヲ廣告スルコトヲ得ス

第六條　賣藥部外品製造營業者ハ臺帳ヲ備ヘ請賣又ハ行商者ノ住所氏名竝ニ契約年月日ヲ記載シ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第七條　免許鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第八條　警察官吏又ハ衞生技術員ハ賣藥部外品竝ニ其製造所、店舖又ハ免許鑑札ヲ檢查スルコトヲ得

賣藥部外品營業者ハ前項ノ檢查ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　賣藥部外品營業者本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキハ製劑ノ販賣ヲ禁止シ又ハ其營業ヲ停止シ若クハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十條　賣藥部外品製造營業者販賣禁止ノ命令ヲ受タルトキハ速ニ其劑名ヲ請賣、行商營業者ニ通知スヘシ
賣藥部外品請賣、行商營業者前項ノ通知ヲ受ケ其他販賣禁止ノ命令アリタルコトヲ知リタルトキハ其製劑ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第十一條　賣藥部外品製造營業者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ事實ノ生シタルトキヨリ十日以內ニ當廳ニ願出免許鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ受クヘシ

一、住所氏名ニ移動ヲ生シタルトキ
二、免許鑑札ヲ毀損、喪失シタルトキ
三、營業ノ讓與又ハ相續ニ係ルトキ但遺產相續ノ場合ノ外變方ノ連署ヲ要ス

賣藥部外品請賣、行商營業者前項第一號第二號ニ該當スルトキハ所轄警察官署ニ其手續ヲ爲スヘシ

第十二條　賣藥部外品營業者廢業、死亡、失踪又ハ他府縣ニ移住シタルトキハ十日以內ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ但死亡若クハ失踪ノ場合ハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ其手續ヲ爲スヘシ

第十三條　賣藥部外品營業者一ケ月以上休業シタルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ、其復業シタルトキ亦同シ

第十四條　賣藥部外品營業者一ケ年以上休業シ若クハ行衞不明トナリタルトキハ免許ノ效ヲ失フモノトス

第十五條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願屆ハ營業所々在地ノ所轄警察官

署ヲ經由スヘシ

第十六條　本則第二條又ハ第九條ノ命令ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留若クハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

第十七條　本則第三條乃至第七條、第十條乃至第十三條ニ違背シ又ハ第八條ノ檢查ヲ拒ミタル者ハ十五日以下ノ拘留若クハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

第十八條　賣藥部外品營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但其營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニアラス
賣藥部外品營業者ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルヽコトヲ得ス
法人ノ代表者又ハ其雇人其他從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ハ其代表者ヲ被告人トス

附　則

第十九條　本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ施行ス

第二十條　從來免許ヲ受ケタル賣藥規則外製劑營業者ハ本則施行ノ日ヨリ六十日以內ニ願出テ新タニ免許鑑札ヲ受クヘシ、其手續ヲ爲サヽル者ハ免許ノ效ヲ失フモノトス

第二十一條　明治十六年四月府甲第三十一號賣藥規則外製劑取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●賣藥部外品取締規則取扱手續

第一號樣式（用紙美濃紙）

明治四十四年三月十七日
京都府訓令第十三號

第一條　規則第二條ノ願出アリタルトキハ願書記載事項遺漏ナキヤヲ調査シ速ニ進達スヘシ

第二條　規則第四條ノ願出アリタルトキハ其劑名竝ニ製造營業者ノ實否ヲ調査シ免許鑑札ヲ交付スヘシ
外國ヨリ輸入シタル藥劑ニ係ルトキハ現品ヲ警察部ニ送付シ成績ノ通知ヲ受ケタル後許否スヘシ

第三條　規則第九條ノ處分ヲ要スト認ムルモノアルトキハ其事由ヲ詳具シ申報スヘシ

第四條　規則第十一條ノ願出アリタルトキ第一項ニ係ル場合ハ意見ヲ具シテ進達シ第二項ニ係ルトキハ其事由ヲ裏書セル免許鑑札ヲ交付シ其所轄外ニ涉ルモノハ相互通報スヘシ

第五條　規則第十二條ニ依リ免許鑑札ヲ返納シタルトキハ製造營業ニ關スルモノハ當廳ニ送付シ他ハ警察署限リ廢棄スヘシ

第六條　規則第十四條ニ依リ免許ノ效ヲ失ヒタル製造營業者アルトキハ其事由免許鑑札番號竝ニ名簿ニ登錄セル住所氏名ヲ報告スヘシ

第七條　警察署ニハ第一號樣式ニ依ル營業者名簿ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第八條　警察署長ハ第二號樣式ニ依ル賣藥部外品營業者表ヲ調製シ翌年一月三十日迄ニ當廳ニ提出スヘシ

第九條　免許其他ノ手數料徵收方法ハ別ニ之ヲ定ム

免許鑑札番號	免許年月日	劑名	住所、營業所、氏名、年齡	摘要
第　號	明治　年　月　日		住所、、、、番地 營業所、、、番地（製造又ハ請賣ノ場合） 製造人住所氏名（請賣又ハ行商ノ場合） 製造（請賣）（行商） 氏　名 年月日生	年月日免許ノ處何々ニヨリ免許鑑札毀損（又ハ喪失）年月日再渡 年月日何地ヨリ何地ヘ轉住 何々、、、、、、
第　號	免許年月日	劑名		摘要
第　號	明治　年　月　日	（前ニ同シ）	（前ニ同シ）	（前ニ同シ）

凡例

一名簿保存期限ハ第一種（永久）トス

一名簿ハ製造、請賣、行商ヲ合綴スルモ妨ケナシ此場合ハ部門ヲ分チ整理スヘシ

一製造請賣免許鑑札ハ其營業者ニ限リ效力アルモノトス

一製造營業者ニ關スル名簿ノ登錄ハ願人ニ交付スヘキ鑑札ノ送付ヲ受ケタルトキ之ヲ爲スヘシ

一新タニ免許鑑札（請賣、行商）ヲ交付スルトキハ名簿番號ト契印シ其書換又ハ再渡ニ係ルトキハ摘要欄ニ登錄シタル事由ノ部位ト契印スヘシ

〔京都警〕

一免許鑑札番號ハ名簿番號ト同一ニ爲スヘシ

一免許鑑札（請賣行商）ノ裏書ハ摘要欄登錄事項ト同一ニ爲スヘシ

一請賣行商營業者登錄ノ場合ハ住所其他ノ欄ニ「請賣ナルトキハ其住所、營業所及製造人ノ住所氏名」ヲ記載スヘシ

第二號樣式（用紙美濃紙）

種別	前年末現在 人員	方數	本年內ニ於ケル開業及異動 新規許可 人員	方數	出ノ部 入ノ部 廢業 人員	方數	本年末現在 人員	方數	備考
製造									出入欄「出」ノ部ハ所轄內ヨリ管內所轄外ヘ「入」ノ部ハ管內所轄外ヨリ所轄內ヘ移住シタルモノヲ記入スヘシ 管外ヘ移住シタルモノハ廢業欄ニ記入スヘシ
請賣									
行商									
合計									

〔京都警〕

第三款　阿片、毒物劇物

●阿片法施行細則

大正八年七月二十九日
京都府令第六十一號

大正七年二月京都府令第十一號阿片法施行細則左ノ通改正ス

第一條　阿片製造出願者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可セサルコトアルヘシ

一　阿片煙又ハ阿片ニ關スル法令ニ違背シ處罰セラレタル者

二　阿片製造ニ關シ相當ノ知識技能ヲ有セスト認ムル者

三　其ノ他不適當ト認ムル者

第二條　阿片製造人ハ毎年四月一日現在ノ罌粟栽培ノ場所及段別ヲ十日以內ニ届出ツヘシ

第三條　阿片製造人阿片ノ占有ヲ失ヒ又ハ奪ハレタルトキハ直ニ之ヲ届出ツヘシ

第四條　阿片製造人ハ毎年其ノ製造シタル阿片ヲ堅牢ナル容器ニ藏メ九月末日迄ニ納付スヘシ

第五條　阿片製造人廢業シ又ハ死亡シタルトキハ本人、戶主若ハ相續人ハ

未製ノ阿片ヲ管内ノ阿片製造人ニ譲渡スコトヲ得
前項ニ依リ譲渡ヲ爲シタルトキハ十日以内ニ其ノ數量及譲受人ヲ届出ツヘシ

第六條　醫藥用阿片販賣人ハ「醫藥用阿片販賣所」ト記載シタル縦二尺五寸横七寸ノ標札ヲ掲クヘシ

第七條　醫藥用阿片販賣人營業所ヲ他ノ警察署管内ニ變更シタルトキハ其ノ指定ノ效力ヲ失フモノトス

第八條　阿片法施行規則第二十二條ノ帳簿ハ第一號樣式ニ同第二十三條ノ届出ハ第二號樣式ニ依ルヘシ

第一號樣式（用紙美濃）

凡例　量目ノ欄ニハ一壜ノ容量即チ「五グラム」ヲ「二十五グラム」又ハ「四百五十グラム」入等ヲ記入スルモノトス
記載事項ハ事實ノ生スル毎ニ記入スルモノトス

年月日	受入	賣渡	拂下	殘高	受入先又ハ賣渡請求人		備考
	量目	壜數	量目	壜數	職業	住所氏名	
計							

〔京都警〕

第九條　本令ニ定ムルモノノ外必要ト認ムルトキハ特別ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　阿片ニ關スル法令ニ依リ書類ヲ提出セムトスルトキハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十一條　第三條、第五條第二項及第八條前段ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

凡例　記載方ハ第一號樣式ニ準スヘシ
前年ヨリ越高ノアリタルトキハ受入欄ニ記入シ其ノ旨備考ニ附記スヘシ

自大正　年四月
至大正　年三月　醫藥用阿片受拂表

年月日 | 受入 量目 | 受入 壜數 | 賣拂 量目 | 賣拂 壜數 | 殘高 量目 | 殘高 壜數 | 受入先又ハ賣渡請求人 職業 | 受入先又ハ賣渡請求人 住所氏名 | 備考

計

右之通相違無之候也

年　月　日

住所
醫藥用阿片販賣人　氏　名印

知事　宛

●阿片法施行細則取扱手續

大正十二年六月八日
京都府訓令第二十一號

第一條　阿片製造ノ出願アリタルトキハ阿片法施行細則第一條ノ事項及密賣ノ虞アル者ニ非サルヤ否ヤ調査ヲ遂ケ意見ヲ附シ進達スヘシ

第二條　阿片法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第八條及第九條ニ依ル出願アリタルトキハ用途ノ眞否竝數量ハ必要ノ限度ヲ超エサルヤ否ヤ調査シ支障ナシト認ムルトキハ證明ヲ與フヘシ
但シ五十グラムヲ超ユルトキハ意見ヲ附シ進達スヘシ

第一號樣式

第三條　規則第十二條ニ依ル出願アリタルトキハ前條ニ準シ調査スルノ外其ノ販賣ニ支障ノ有無ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

第四條　阿片製造人ニ對スル許可ノ取消又ハ醫藥用阿片販賣人ニ對スル指定取消ノ必要アリト認メタルトキハ直ニ報告スヘシ

第五條　毎年必要ノ時期ニ於テ阿片製造ノ場所ヲ巡視シ又規則第二十條乃至第二十二條ノ書類及帳簿ヲ檢査スヘシ

第六條　署ニハ第一號樣式阿片製造人名簿醫藥用阿片販賣人名簿及第二號樣式醫藥用阿片購入證明書簿ヲ備付スヘシ

第二號様式

指定又ハ許可年月日	年　月　日	住所	
指定又ハ許可番號	第　號	氏名	
		年齡	
		摘要	

職業	住所	
	氏名	
	年齡	

備考　（例）大正年月日五瓦入三堰調劑用トシテ購入ー證明ス
大正年月日二十五瓦入三堰調劑用トシテ購入證明出願ニ付進達ス

●毒物劇物營業取締細則

明治四十五年六月十四日
京都府令第四十八號

改正　大正二年京都府令第九二號

第一條　毒劇物營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ當廳ニ願出ヘシ
一　營業ノ場所
二　營業者ノ族籍住所氏名年齡及其毒劇物取扱ニ關スル經歷
三　毒物劇物營業取締規則第三條ニ揭クル者毒物劇物ノ營業ヲ爲サムトスルトキハ營業管理人ノ住所、氏名、年齡及毒物劇物取扱ニ關スル經歷但シ法人ナルトキハ尙其ノ定款
藥劑師、藥種商、製藥者ニシテ毒劇物營業ヲ爲サントスル者ノ屆書ニハ其營業ノ場所ヲ記シ免狀又ハ鑑札ノ寫ヲ添附スヘシ

第一條ノ二　前條第二項ニ揭クルモノニシテ毒物劇物ノ營業ヲ爲ス者其ノ營業ノ場所ヲ變更シタルトキハ十日以內ニ屆出ツヘシ

第二條　毒劇物營業者ニシテ支(分)店ヲ設ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ
一　支(分)店ノ場所
二　營業管理人ノ氏名年齡及其毒劇物取扱ニ關スル經歷

第三條　毒劇物營業者其名義又ハ營業、支(分)店ノ場所若ハ營業管理人ヲ變更セントスルトキハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ其營業者ノ名義又ハ營業管理人ノ變更ニ係ルトキハ後ノ營業者又ハ營業管理人ノ毒劇物取扱ニ關スル經歷ヲ記スヘシ

第四條　毒劇物營業者又ハ營業管理人ニシテ毒劇物取扱ノ經歷充分ナラスト認ムルトキハ其營業ヲ許可セサルコトアルヘシ

第五條　毒劇物營業者廢業又ハ支(分)店ヲ廢止シ若ハ改氏名、死亡、失踪シタルトキハ十日以內ニ他管下ニ轉住セントスルトキハ其以前ニ當廳ニ屆出ヘシ但死亡、失踪ニ係ルトキハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ其手續ヲ爲スヘシ

第六條　毒劇物營業者ハ左ノ雛形ノ標札ヲ其門戸ニ揭示スヘシ

曲尺一尺

毒劇物營業　氏名

【京都警】

第七條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願屆ハ營業所又ハ支(分)店所在地警察官署ヲ經由スヘシ

第八條　本則第一條ノ二第二條第三條第五條第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ毒物劇物營業取締規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
毒物劇物取締規則附則ノ規定ニ依リ當廳ニ屆出ヲ爲スヘキ場合ハ本則第一條ノ事項ヲ記スヘシ

●毒物劇物營業取扱手續

明治四十五年六月十四日
京都府訓令第二十六號

【京都警】

（用紙ハ美濃紙）

第一條　細則第一條及第二條ノ願屆ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ　警察署

一　願、屆書記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ナキヤ否
二　寫眞、白痴其他毒劇物ノ取扱ヲ爲シ得サル者ニアラサルヤ否
三　前各號ノ外參考トナルヘキ事實

第二條　警察署ニハ左ノ樣式ニ依リ臺帳ヲ備ヘ異動ヲ生スル毎ニ加除訂正シ其正確ヲ期スヘシ

第三條　警察署長ハ技術員ト共ニ時々營業所ニ臨檢シ規則違反ノ行爲ナキヤ否嚴重視察スヘシ但警察署長差支アルトキハ警部、警部補又ハ巡査部長ヲシテ代テ視察セシムルコトヲ得

營業所	何……番地
許可又ハ屆出年月日	明治何年何月何日許可
營業別	專業

摘要	營業所	住所ニ同シ
		住所族籍
		氏名
		年齡

第三節　雜

●醫師藥劑師藥種商製藥者産婆看護婦等團體組織ノ場合届出ノ件

明治三十一年一月二十九日
京都府令第十四號

改正　明治三一年京都府令第八八號

醫師、藥劑師、藥種商、製藥者、産婆、看護婦ニ於テ其業務上ニ關シ又ハ該業者其他一般人民ニ於テ公衆衛生ニ關シ團體ヲ組織シタルトキハ規則、團體名稱、設立年月日、事務所々在地名番戸、役員人名ヲ具シ所轄郡市役所ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ其改廢ノ場合亦同シ

但從來設立ノモノハ此際總テ届出ヘシ

●藥品監視員證雛形

明治二十三年二月六日
京都府告示第九號

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取締規則第三十八條監視員巡視ノ際ニハ左ノ雛形ノ證票ヲ携帶セシム

【京都縣】

（紙製）

（表）

藥品監視員之證

曲尺二寸二分

（裏）

京　都　府　廳印

●濟生會救療ノ件

大正元年十月
京都府告諭第三號

今般恩賜財團濟生會ノ依託ニヨリ本日ヨリ救療事業ヲ實施ス無告ノ窮民ニシテ疾病ニ罹リ醫療ヲ受クルノ途ナキモノハ所在ノ警察官吏又ハ郡市區町村長ニ申出テ救療ヲ受クヘシ

●恩賜財團濟生會救療規程

大正十一年八月十八日
京都府告示第三百四十三號

恩賜財團濟生會救療規程左ノ通定ム

第一條　本規程ニ於テハ貧困ニシテ他ニ醫療ノ途ナキ患者ニ限リ之ヲ救療スルモノトス

第二條　本會ノ救療ヲ受ケントスル者ハ本會診療所又ハ最寄警察官署若クハ京都府公同主事ニ申出テ別紙第一號樣式ノ治療券ノ交付ヲ受クヘシ前項ニヨリ受ケタル治療券ニシテ不用トナリタルトキハ直ニ之ヲ交付者ニ返付スヘシ

第三條　治療券ノ交付ヲ受ケタル者ハ本會診療所其他最寄病院又ハ醫師ニ之ヲ提出シテ治療ヲ受クヘシ但シ重症患者ニシテ病院又ハ醫師ニ至リ難キ者ハ特ニ醫師ノ來診治療ヲ受クルコトヲ得

第四條　治療券ハ交付ノ日ヨリ起算シ三十日間有效トス但シ期間ヲ經過シ繼續治療ヲ要スル患者ニ對シテハ更ニ治療券ヲ交付スルコトアルヘシ

第五條　患者ノ治療ハ本會ヨリ醫師會ニ囑託シ醫師會員ハ其ノ診察治療ニ從事ス

治療費ハ左ノ區分ニヨリ之ヲ支辨ス但シ疾病ノ種類ニヨリ又ハ特別ノ手術ヲ行ヒ此ノ制限ニ依リ難キ場合ニハ調査ノ上特ニ增額スルコトアルヘシ

一　藥治料　一日十錢（劑數ニ關係ナキモノトス散、水、丸、含嗽劑一切ヲ含ム）

一　入院料　一日七十錢（治療費賄費ヲ含ム）

一　往診車馬賃　片道十町以上ニ限リ實費

但一里五十錢以內トス

第六條　患者ヲ治療シタル病院醫師ハ每月別紙第二號樣式請求書ニ治療券ヲ添付シ翌月五日迄ニ關係警察署又ハ京都府公同主事ヲ經由シ本會ニ請求スルモノトス

附　則

第七條　本規程ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

恩賜財團濟生會救療患者報告

住所、戶主及戶主トノ續柄
患者　氏名、生年月日

病名

現症狀

濟第　號

第一號樣式

許可又ハ届出年月日　明治何年何月何日届出

營業別　藥劑師（藥種商）

摘要

氏名　年齡

本人及扶養義務者ノ資産竝ニ生活狀態（財産ノ種類價格ヲモ尙郡部ニ在リテハ戸數割負擔ノ等級ヲモ記入ノコト）

（入院ヲ必要トスル事由）救護ヲ要スル事由

職業及其收入	戸主		
	患者		
	其ノ他家族		
家族數	十五歲未滿	人	
	六十歲以上	人	
	其他	人	
特別治療ヲ要スルモノハ其事由竝ニ主治醫ト協議ノ大要		治療ノ場所	外來、往診、入院別
備考			

右（報告）（入院御承認相成度）候也

大正　年　月　日

京都府知事　殿

警察署長

第二號樣式

濟第　號

恩賜財團濟生會救療患者異動報告

恩賜財團濟生會

〔京都警〕

〔京都警〕

患者住所氏名		年齡	年　月　日
病名	救療開始年月日　大正　年　月　日	職業	全治、死亡、廢療、未治、繼續、其他（全治、死亡ト記入スルコト）
患者住所氏名		年齡	年　月　日
病名	救療開始年月日　大正　年　月　日	職業	全治、死亡、廢療、未治、繼續、其他（全治、死亡ト記入スルコト）
患者住所氏名		年齡	年　月　日
病名	救療開始年月日　大正　年　月　日	職業	全治、死亡、廢療、未治、繼續、其他（全治、死亡ト記入スルコト）

右報告候也

大正　年　月　日

京都府知事　殿

警察署長

第三號樣式

恩賜財團濟生會（外來、往診患者入院、入院患者繼續）治療ノ件

患者住所		氏名	年齡
病名	入院年月日（外來往診ハ治療券交付年月日）	大正　年　月　日	病院又ハ醫師（外來往診ニアリテハ入院セシメントスル治療所）

患者ノ狀態及生活狀態	
主治醫ノ意見	（入院繼續治療見込日數、外來、往診患者ニアリテハ入院治療見込日數其他詳細記載）
署長ノ意見	（現症狀ニ對シ繼續救療意見）

右患者前記ノ場所ニ於テ狀態調査スルニ未タ全治ニ至ラス（外來往診ニアリテハ）（且症狀重態ニ付特ニ入院治療ヲ必要ト被認候間御承認相成度及上申候也）尙繼續治療ヲ必要ト被認候間御承認相成度及上申候也

大正　年　月　日

京都府知事　殿

警察署長

第四號樣式

恩賜財團濟生會救療患者成績表

大正　年自月日至月日　警察署

患者名	男女別	年齡	病名	職業	救療方法	轉歸其他	救療日數
						月日（全治死亡廢療）	自月日至月日　日間
計	●						日

備考　一　救濟方法ハ入院、外來、往診ノ別

轉歸ハ全治、死亡、移療未治廢療等記入スルコト

〔京都警〕

一　救療日數ハ其半期間ニ於ケル救療實日數ヲ掲記スルコト（例ヘハ一月一日以前ヨリ引繼救療ノモノト雖一月一日ヨリ計算スルコト）

〔京都警〕

第五號樣式　治療券受渡簿

受渡月日	摘要	受高	拂高	在高

第六號樣式（用紙西洋紙縱五寸橫三寸）

表面

恩賜財團濟生會治療				
取扱署名	交附	治療所	受 住所	職業
	年　月　日			

本券を上記の治療所に持ち行く者は無料にて醫師の治療を受くることを得又治療所に行くことの出來ぬ者

京都府

券	
療者	戸主名及續柄
氏名	
年　月　日生	

は本券を差出して醫師の往診を乞ふことを得

裏面

病名	初診	入院承認	入院	廢療	退院	轉歸	施術數			記事
	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日				

投藥日數												往診度數			入院日數
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	
日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	月分	日分	月分	月日	月日	月日	
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	
日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	日分	合計	合計	合計	
日間															度

第七號樣式

受療者						戸主及保護者				
住所	職業及戸主トノ續柄	氏名	救療ヲ要スル事由	治療券交附		氏名	職業及家族數	資產種類及總額	戸主分	本人分
				年月日						

治療所	病名	初診	入院承認	入院	廢療	退院	轉歸	備考	保護者氏名及其資力	備考
		年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日			

〔京都警〕

第八號樣式

恩賜財團濟生會救療患者治療費請求書

警察署長

藥治料	往診車馬賃	入院料	何々	何々	合計	受療者	
圓	圓	圓	圓	圓	圓	救療日數	氏名
						自年月日死亡	
						至年月日（全治）（繼續）	

〔京都警〕

合計		

右御支拂相成度候也

大正　年　月　日

何郡市町村大字何々
醫師（病院長）　氏　名㊞

京都府知事　氏　名殿

參考　一　藥治料　一日　十　錢（散、水、丸、含嗽劑一切ヲ含ム）
　　　一　入院料　一日　七十錢（藥品、滋養、賄、治療材料共一切）

●恩賜財團濟生會救療規程取扱心得

大正十一年八月十八日
京都府訓令第三十四號
（郡長）　警察署長　市區町村長　診療所長

恩賜財團濟生會救療規程取扱心得左ノ通定ム

恩賜財團濟生會救療規程取扱心得

第一條　郡市區町村長及警察官吏ニ於テ規程第一條ニ該當セル者アリト認メタルトキハ之ヲ所轄警察官署長ニ其旨通報スヘシ

第二條　警察官署長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ規程第二條ノ申出アリタルトキハ救療ノ要否ヲ調査シ其ノ必要アリト認メタルトキハ可成最寄診療所病院醫師ヲ指定シ治療券ヲ交付シ附錄第一號樣式ニヨリ之ヲ報告スヘシ

受療者ニシテ異動ヲ生シタルトキハ附錄第二號樣式ニヨリ之ヲ報告スヘシ

第三條　重症患者又ハ大手術ヲ要スルモノニシテ主治醫ニ（病院ヲ包含ス以下之ニ同シ）於テ入院治療ヲ要スト認メタルトキハ警察官署長ハ附錄第一號樣式ニ準シ所定ノ事項ヲ記入シ入院治療ノ承認ヲ求クヘシ但シ急速ヲ要スル場合ニアリテハ便宜機宜ノ處置ヲ講シ其ノ旨速報スヘシ

第四條　入院患者ニシテ救療期間三十日ヲ經過スルモ未タ全治ニ至ラサルトキハ警察官署長ハ患者ノ狀態ヲ調査シ尙入院ノ必要アリト認ムルトキハ附錄第三號樣式ニヨリ繼續治療ノ承認ヲ受クヘシ

第五條　警察官署長ハ附錄第四號樣式治療券受渡簿及附錄第五號樣式受療者名簿ヲ備ヘ之ニ所定ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

第六條　警察官署長ハ規程第六條ニヨル請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ五日以內ニ內務部社會課ニ送付スヘシ

第七條　警察官署長ハ附錄第六號樣式ニヨル救療患者成績表ヲ每年前期（自七月一日至十二月三十一日）ハ一月二十日迄ニ後期（自一月一日至六月三十日）ハ七月十五日迄ニ之ヲ報告スヘシ

第八條　本心得ハ京都府公同主事取扱手續ニ之ヲ準用ス

〔京都警〕

附則

大正元年十月訓第二號恩賜財團濟生會救療實施規程ハ之ヲ廢止ス

●慈惠救助資金支出規程

大正十二年五月十八日
京都府訓令第十四號
內務部　警察部　京都市內各警察署

明治三十八年京都府訓令第百八十九號慈惠救助資金支給規程左ノ通改正シ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

慈惠救助資金支出規程

第一條　慈惠救助資金ノ支出方法ハ本規程ノ定ムルトコロニ依ル

第二條　行旅病人若ハ貧困者ノ應急救助ノ種類及金額ハ左ノ限度ニ依ルヘシ

一　食料　一日三食　一食金拾錢以內

二　旅費　宿泊料　一夜金壹圓五拾錢以內
　　汽車賃　汽船賃　車馬賃　艀艇賃ハ實費
　　但實費ヲ給スルニ當リ賃金ニ等差アルトキハ其最低價ニ依ル

三　治療費
　　醫師診察料　初回金貳拾五錢　次回以後　金拾五錢
　　醫師及產婆手術料　實費
　　藥價　內外用各一日金拾錢以內　治療ニ要スル必要品　實費

四　被服費
　　綿入　金參圓八拾錢以內
　　袷　金貳圓五拾錢以內
　　單衣　金壹圓參拾錢以內

但帯ハ著衣ノ料金內ヲ以テ支辨スルモノトス

五　諸雜品　實費

第三條　前條以外ノ社會救濟ニ要スル費用ノ支出方法ハ其ノ都度知事之ヲ定ム

〔京都警〕

●野鼠窒扶私菌使用ニ關スル件

明治三十八年八月
衞第四九八一號
（郡長）　郡部署長

從來野鼠驅除ノ目的ヲ以テ使用セル鼠窒扶私菌ハ人體ニ害ナキモノト認メラレ候處去ル四月二十五日埼玉縣北埼玉郡岩瀨村農會ニ於テ野鼠驅除方法ヲ施行スル爲メ同村役場ニテ該菌ニ鼠ノ嗜好品ヲ混シ驅鼠劑ヲ調製セリ然ルニ同月二十七日同村農會ノ評議會ヲ村役場ニ開キ其閉會後會食ノ爲メ副食物ヲ調理スルニ方リ曩ニ驅鼠劑調製用ニ供セル器具ヲ使用後充分清洗セス放置シ在リタルヲ其儘之レヲ使用シ調理セルモノヲ十數名ノ食膳ニ供シ且其殘餘ハ翌二十八日尙十數名ニテ分食シタルニ同日ヨリ喫食者一同腹痛ヲ感シ吐瀉ヲ起シ發熱甚タシク醫治ヲ受ケタルモ內二ハ遂ニ死亡シタリ右ハ鼠窒扶私菌ノ攝取ニ因リテ惹起セラレタルヤノ疑有之候ノミナラス近來獨逸帝國衞生院ニ於テ精密ナル研究ノ結果該菌ノ多量ヲ攝取スルトキハ腹痛下痢ヲ起シ殊ニ消化器ニ異常アルモノ又ハ小兒ニ在リテハ危害ヲ及ホスノ虞アルコトヲ確認セラレ居等ノ趣ヲ以テ注意方其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條該菌使用ニ關シテハ左記各號ニ據リ嚴重注意セシメラレ候樣致度依命此段及通牒候也

記

一　鼠窒扶私菌同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件等ハ一定ノ場所

ニ於テ散亂セサル樣取扱上注意セシムルコト

二　消化器ニ異常アル者若クハ小兒ヲシテ鼠窒扶私菌同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱ハシメサルコト

三　鼠窒扶私菌同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ因スル斃鼠同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱フモノハ其ノ取扱中食事喫煙ヲ爲シ若クハ汚染セル手指ヲ口邊ニ觸レシメサルコト

四　鼠窒扶私菌同菌含有ノ材料又ハ同菌ニ汚染セル物件等ヲ取扱ヒ若クハ之ニ接觸シタルモノハ石鹼及微溫湯ヲ以テ顏面手指等ヲ丁寧ニ洗淨セシムルコト

五　鼠窒扶私菌培養液容器又ハ同菌含有ノ材料調製ノ爲メ使用シタル器具等ハ使用後熱湯若クハ三十倍炭酸曹達（洗濯曹達）溶液ニ加熱シタルモノヲ以テ洗淨セシムルコト

●水質竝礦泉試驗手數料徵收規則

明治三十四年四月十六日
京都府令第四十四號

第一條　水質及礦泉ノ試驗ヲ請フ者ニハ醫務部衛生課ニ於テ試驗ヲ行ヒ其成績書ヲ交付ス此場合ニ於テハ左ノ定則ニ依リ試驗手數料ヲ徵收ス

水質

一　飲料適否鑑定　一個一回ニ付　金貳拾錢
　　定量分析　同　金壹圓

礦泉

一　定性分析　一個一回ニ付　金壹圓五拾錢
　　定量分析　同　金五圓

第二條　料金ハ總テ之ヲ前徵ス

免狀再渡手數料　金貳拾錢

第四條　按摩術（マッサージ術ヲ含ム）免許試驗出願者又ハ免許申請者ニシテ不具癈疾等ニ依リ他ニ生業ヲ營ミ難シト認ムル者ニ對シテハ前條ノ手數料ヲ免除スルコトアルヘシ

第五條　本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【京都書】

俱料金徵收後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

●衞生手數料徵收規則

明治四十五年一月十二日
京都府令第四號

第一條　看護婦其他免許試驗ヲ請フ者ニ對シテハ試驗前左ノ手數料ヲ徵收ス

一　看護婦免許試驗手數料　金壹圓
二　鍼術免許試驗手數料　金壹圓
三　灸術免許試驗手數料　金壹圓
四　按摩術（マッサージ術ヲ含ム）免許試驗手數料　金壹圓

第二條　免許試驗手數料ハ自己ノ都合ニヨリ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第三條　左記該當ノ業務ニ關シ免狀、鑑札ノ下付又ハ其書換若クハ再渡ヲ請フ者ニ對シテハ左ノ手數料ヲ徵收ス

一　賣藥部外品（明治三十八年五月法律第七十一號　賣藥稅法第十九條ノ賣藥類似品ヲ含ム）　一方ニ付　金貳拾錢
　　免許手數料　免許鑑札名義書換又ハ再渡手數料　一個ニ付金拾錢
　　請賣又ハ行商免許手數料　一方ニ付金拾錢
　　請賣行商免許鑑札名義書換又ハ再渡手數料　一個ニ付金拾錢
一　鍼術、灸術、按摩術（マッサージ術ヲ含ム）　金五拾錢
　　免許手數料　金貳拾錢
　　免許鑑札再渡手數料
一　看護婦　金五拾錢
　　許手數料

【京都書】

第三章　一般衞生

第一節　飲食物

●飲食物用器具取締規則施行細則

明治四十四年六月二十七日
京都府令第百七號

第一條　金屬性飲食物用器具ノ製造又ハ輸入販賣ノ業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ當廳ニ届出ツヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　製造所又ハ輸入販賣所ノ位置
二　器具ニ附スヘキ商號又ハ符號
三　製造又ハ輸入器具ノ種類名稱（輸入ニ係ルモノハ其輸出先ノ國名ヲ併記スルヲ要ス）

第二條　製造所、輸入販賣所ヲ廢止シ又ハ所主ノ名義ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ

第三條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ製造所又ハ輸入販賣所所在地ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第四條　本則第一條第二條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第五條　本則施行ノ際現ニ業ヲ營ム者ハ施行後三十日以内ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

●店頭露陳飲食物覆蓋取締ノ件

明治二十八年二月五日
京都府令第十二號

店頭ニ露陳シ又ハ行商スル左記ノ品類ハ蠅ノ黏棄及塵埃ノ汚染ヲ防クニ足ルヘキ適宜ノ覆蓋ヲ設クヘシ

違フ者ハ刑法違警罪ニ處セラルヘシ

一　菓子類
一　砂糖竝ニ其液滓及飴類
一　烹煮ノ魚鳥獸肉竝ニ貝豆類
一　烹染類
一　鮓子天麩羅類
一　餅饅頭團子類
一　麪包類
一　皮ヲ剝キタル果實
一　其他其儘食用ニ供スヘキ飲食物

●著色料販賣取締ノ件

明治三十三年七月四日
京都府令第六十二號

販賣ノ用ニ供スル飲食物（齒磨及小兒玩弄品繪雙紙錦繪色紙ヲ除ク）ニ著色料ヲ使用シ又ハ該品使用スヘキ著色料ヲ販賣セントスル者ハ原品（商標アルモノハ之ヲ附シ又其配合ニ係ル）ニ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ屆出ヘシ其配合分量竝製法竝住所氏名ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ物品ニ使用スヘキ著色料ニハ其容器又ハ包被ニ使用ノ目的ヲ明記スヘシ

本令ヲ犯シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●飲食物其他ノ物品取締ニ關シ警察署（警察分署）ニ委任條項

明治三十四年四月二十六日
京都府令第四十九號

改正　明治三十五年京都府令第一八號

第一條　警察署警察分署ハ明治三十三年法律第十五號ニ據リ物品檢查ノ必要ヲ認メタルトキハ同法二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第二條　警察署警察分署ハ明治三十三年法律第十五號第一條ニ據リ左記各號ノ物品ニ關シテハ廢棄處分ノ職權ヲ行フコトヲ得

一　明治三十三年（四月）內務省令第十五號牛乳取締規則第六條ノ容器ヲ用キタル牛乳又ハ乳製品同則第七條各號ノ牛乳同則第九條第一號ノ乳製品

二　明治三十三年（四月）內務省令第十七號有害性著色料取締規則第六條ノ飲食物及物品

三　明治三十三年（六月）內務省令第三十號清涼飲料水取締規則第五條第一號第二號ノ清涼飲料水

四　明治三十三年（七月）內務省令第三十七號氷雪營業取締規則第五條ノ氷雪

五　明治三十三年（十二月）內務省令第五十號飲食物用器具取締規則第七條ノ物品及第八條ノ飲食物

●飲食物其他ノ物品取締ニ關スル取扱心得

明治三十四年四月
衞訓第九號

本年四月府令第四十九號ヲ以テ飲食物其他ノ物品取締ニ關シ處分方委任相成候條左記ニ依リ取扱フヘシ

一　委任條項外ニ係ル飲食物其他ノ物品ニシテ規則違反ノ疑アルモノハ收去ノ上當廳ニ送致シ試驗ヲ求ムルコト

警察（分）署

〔京都警〕

二　飲食物其他ノ物品ヲ試驗ノ爲メ收去セシトスルトキハ官職氏名ヲ記シタル名刺ノ裏面ニ收去物品ノ名稱數量等ヲ明記シ物主ニ交付スルコト

三　委任條項ニ基キ廢棄處分ヲ爲シタルトキハ每一ケ月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ其住所氏名種類數量等ヲ報告スルコト

●飲食物其他衞生上試驗ヲ要スル爲メ收去シタル物品臺帳調製方

明治三十五年二月
衞訓示第二號

飲食物器具其他ノ物品ニシテ衞生上有害アリト認メ試驗ノ爲メ收去シタルトキハ左記樣式ノ臺帳ヲ製調シ其都度記入シ之レカ處分ノ結果ヲ判明ナラシムヘシ

收去物品表

署長印	收去年月日	品目	個數	一個ノ代價	處分方法	成績良否	所有者住所氏名	主任印
	年月日			圓 錢	月日第四部ヘ送付ノ儘又ハ月日所有者ヘ送付		郡區町村大字番戶　何某	
		藥罐一個						

●販賣ノ用ニ供スル飲食物其他衞生上試驗ヲ要スルモノ收去送付ノ場合明細書添付方

明治三十五年七月
衞發第二九三號

改正　明治三十五年衞發第二九三二號

販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若クハ營業上ニ使用スル飲食器具ニシテ衞生上有害ト認メ收去シ試驗ノ爲メ當部ヘ送付スル場合ハ左記明細書ヲ添付可有之此段及照會候也

（書式）

收去年月日	品目	個數	一個代價	現存ノ品數	製造ノ年月日	買入ノ年月日	製造者住所氏名	所有者住所氏名

●牛乳營業取締規則施行細則

明治四十一年十月六日
京都府令第六十九號

改正　明治四三年京都府令第一〇八號、大正三年第五號

第一條　牛乳搾取又ハ乳製品製造營業ノ認可ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ當廳ニ屆出ヘシ其移轉增築、改築若クハ構造ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一、搾取所又ハ製造所ノ位置、坪數、構造仕樣書及敷地內建物ノ位置竝ニ其距離ヲ示シタル平面圖
二、乳牛、種牡牛、犢牛ノ種類及其豫定頭數
三、乳製品ノ種類、製造方法及使用器械ノ種類
四、水質試驗成績書
五、落成期日
六、借地ニ係ルトキハ地主ノ承諾書

第二條　牛乳搾取所ハ左ノ場所ニ設置スルコトヲ得ス

一、離宮、御用邸、御陵ヲ距ル百八十間以內
二、御墓、學校、病院、兵營、公園及著明ナル社寺ヲ距ル六十間以內
三、京都市內
四、前各號ノ外人家稠密ノ場所其他公害アリト認ムル土地

第三條　牛乳搾取所ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ但第一號ノ制限ハ土地ノ狀況ニヨリ斟酌認可スルコトアルヘシ

一、牛舍ハ鄰地ヲ距ルコト三間以上、運動場ハ一間以上タルコト
二、牛舍ハ棟ノ高サ一丈以上トシ屋根ニ空氣拔ヲ設ク周壁ノ內面ハ土臺ヨリ高サ五尺以上ヲ板張リトシ土臺上八寸以上ノ所ニ適當ノ窓ヲ設クルコト
三、乳牛及種牡牛室ハ一頭每ニ幅五尺以上奧行八尺以上ノ區劃ヲ爲シ前方ニ四尺以上後方ニ二尺以上ノ餘地ヲ存スルコト
四、牛室ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ敷設シ其上ヲ厚サ一寸以上ノ板張トシ適當ノ勾配ヲ附スルコト但厚サ三寸以上ノ漆喰敲又ハ「コンクリート」ノ上ニ厚サ五分以上ノ「セメントモルター」若クハ厚サ三分以上ノ「アスハルト」ヲ敷設シタルモノハ板張ト爲スヲ要セス
五、尿樋ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ牛室ニ沿ヒ之ヲ設ケ尿汁ヲ舍外ノ尿溜ニ注流セシムル構造ト爲スコト
六、尿及汚水溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ牛舍ヲ距ル一間以上ノ位置ニ設ケ其周緣ハ地盤ヨリ五寸以上ノ高サトシ堅牢ナル覆蓋ヲ設クルコト
七、糞及不潔物置場ハ牛舍ヲ距ル二間以上ノ位置ニ設ケ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ高サ六尺以上ノ圍ヲ爲シ適當ノ雨除ヲ設ケ且ツ出入口ニ押戶ヲ箝メ汚物ノ散亂セサル構造ト爲スコト
八、牛舍內ニハ乳牛室ノ外別ニ種牡牛室、犢牛室及產室ヲ設クルコト
九、病室ハ別棟トシ牛舍ヲ距ル五間以上ノ場所ニ設ケ牛室ト同樣ノ構造ヲ爲シ且ツ牛舍ト病室ノ中間ニ木柵又ハ板塀ヲ設ケ區劃ヲ爲スコト但尿及汚水溜、糞及不潔物置場ハ專屬トシ第六號第七號ト同樣ノ構造ト爲スコト
十、牛乳取扱室ハ牛室ト區劃シ其坪數ヲ二坪以上トシ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ辷リ刃張リ天井及適當ノ排水溝ヲ設ケ內部ノ側壁ハ板張「ペンキ」塗トシ且ツ換氣ニ便ナル構造ト爲スコト
十一、運動場ハ飼養牛ノ頭數ニ應シ相當ノ面積ヲ有シ且ツ適當ノ排水溝ヲ設ケ汚水ノ潴溜セサル構造ト爲シ其周圍ニ堅牢ナル駒止柵ヲ設クルコト

前項ノ外當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ相當ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　乳製品製造所ノ構造ハ明治二十九年十月府令第四十五號製造場取締規則ニ準據スルノ外尙左ノ制限ニ從フヘシ

一、製造室ノ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ適當ノ排水溝ヲ設クルコト
二、製造室內部ノ側壁ハ板張「ペンキ」塗ト爲スコト
三、製造室ハ昆蟲類及塵埃ノ侵入ヲ防キ且ツ換氣ニ便ナル構造ト爲スコト
四、製造原料及製造品ノ貯藏ニ適スル構造ト爲スコト

第五條　第三條第四條ノ構造落成シタルトキハ當廳ニ屆出檢査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第六條　牛乳請賣營業ヲ爲サントスル者又ハ牛乳搾取營業者ニシテ別ニ販賣所ヲ設ケントスル者ハ五日以內ニ其場所ヲ當廳ニ屆出ヘシ

前項營業所ニ於ケル牛乳取扱室ノ構造ハ第三條第十號ノ規定ニ據ルヘシ

第七條　牛乳搾取所、乳製品製造所若クハ第六條ノ營業所ヲ賣買、讓與貸借シタルトキ又ハ死亡、失踪、廢業、休業、復業シ若クハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以內ニ當廳ニ屆出ヘシ但賣買讓與貸借ノ場合ハ雙方連署シ死亡失踪ニ係ルトキハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　牛乳搾取所ニハ第一號樣式ニ依リ牛籍簿ヲ備ヘ置キ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第九條　牛乳搾取所內ニハ乳牛及之ニ屬スル種牡牛竝ニ犢牛外飼養繫留スルコトヲ得ス

第十條　乳牛及種牡牛ニ增減アリタルトキハ其號名胤種、牝牡別、毛色、年齡、體尺、角形、產地特徵ヲ、出產シタルトキハ牝牡別毛色特徵出產月日及母牛ノ號名ヲ記シ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ但新タニ牽入レタル場合ハ獸醫ノ健康證明書、病死ニ係ルトキハ其檢案書ヲ添附スヘシ

第十一條　畜牛ハ日々清潔ニ洗拭シ且ツ適當ノ運動ヲ爲サシムヘシ

第十二條　糞尿ニ汚染シタル蓐藁ハ時々清潔ナルモノト交換スヘシ

第十三條　牛乳搾取所ハ常ニ清潔ニ掃除シ且ツ牛室內ハ時々清水ヲ以テ洗滌シ尿及汚水溜糞及不潔物置場ハ充溢セサル樣掃除スヘシ

第十四條　當該吏員ニ於テ疾病アリト認メタル畜牛ハ其耳朶ニ檢査番號ヲ記シタル耳環ヲ附セシムルコトアルヘシ

第十五條　畜牛疾病ニ罹リタルトキハ速ニ獸醫ノ診斷ヲ受ケ規則第五條第一號ニ該當スルトキハ其診斷書ヲ添ヘ卽時當廳ニ屆出ヘシ

第十六條　傳染性ノ疾病ニ罹レル畜牛ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ速ニ隔離スヘシ

第十七條　傳染性疾病ニ罹レル畜牛ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クルニアラサレハ他ニ移動スルコトヲ得ス

第十八條　疾病ノ爲メ一時搾乳ヲ停止セラレタル乳牛治癒シ再ヒ搾乳セントスルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　牛乳ノ容器竝ニ詰栓及布片ノ類ハ使用ノ都度熱湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第二十條　牛乳搾取ノ際ハ身體衣服ヲ清潔ニシ乳房及其周邊ヲ洗拭シ且ツ乳汁ハ篩又ハ綿布ノ類ニテ濾過スヘシ

第二十一條　牛乳ヲ配布スル容器ニハ左ノ區別ニ從ヒ搾取所販賣所若ハ請賣所ヲ明記シタル封緘票紙ヲ貼付スヘシ

全乳　白色票紙
脫脂乳　青色票紙
消毒全乳　赤色票紙
消毒脫脂乳　黃色票紙

第二十二條　牛乳ハ搾取所、請賣所、販賣所ニ於ケル取扱室以外ニ於テ詰替ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　當廳ノ認可ヲ受ケタルモノニアラサレハ消毒乳其他公認以外ノ名稱ヲ附シテ販賣スルコトヲ得ス

消毒乳ヲ販賣スル者ハ乳汁ノ取扱ニ關シ特ニ指示シタル事項ヲ遵守スヘシ

第二十四條　牛乳配達人ハ就業中左ノ標札ヲ携帶スヘシ

（木製）　竪三寸

表面

牛乳搾取販賣請賣營業者　住所氏名

横二寸

裏面

牛乳配達人　住所　氏名　年齡

〔京都書〕

第二十五條　全乳ノ脂肪量ハ百分中三、二分以上トス

第二十六條　乳製品製造所ハ常ニ清潔ニ掃除シ及ヒ器具器械ノ類ハ使用ノ都度清水ヲ以テ洗滌スヘシ

第二十七條　乳製品ニハ其容器ニ製造營業人ノ住所氏名竝ニ製造年月日ヲ標記スヘシ

第二十八條　乳製品製造所竝ニ牛乳取扱室ニハ所要品ノ外他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第二十九條　牛乳搾取高竝ニ乳製品製造高ハ第二號樣式ニ依リ取調ヘ翌月十日迄ニ當廳ニ届出ヘシ

第三十條　左ノ場合ニ於テハ認可ヲ取消シ又ハ移轉、改築、修繕ヲ命シ若クハ其營業ヲ停止スルコトアルヘシ

一　正當ノ事由ナクシテ落成期日ヲ經過シ竣成ノ見込ナシト認ムルトキ

二　休業六ケ月以上ニ渉リタルトキ

三　土地ノ狀況ニ依リ公害アリト認ムルニ至リタルトキ

四　本則ニ違背シ又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ

第三十一條　山羊乳搾取販賣又ハ請賣營業ヲ爲サントスルモノハ第二十五條ヲ除クノ外總テ本則ヲ適用ス但第三條ノ制限ハ澱酌認可スルコトアルヘシ

第三十二條　山羊乳ノ比重ハ、一〇二八乃至一〇三六トシ其脂肪量ハ百分中三、五分以上トス

第三十三條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願届ハ凡テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第三十四條　本則第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ規定ニ違背シ又ハ第三條第二項ノ命令若クハ第十六條第二十九條第三十二條ニ違背シ又ハ第三條第二項ノ命令若クハ第十六條第二十三條第二項ノ指示ニ違背シ又ハ第三條第二項ノ命令若クハ第十六條第二十三條第二項ノ指示ニ違背シ又ハ第十四條ニ依ル耳環ノ措入ヲ拒ミ若クハ第三十條ノ命令ニ違背シ又ハ停止ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

（第一號樣式）　用紙半紙

附則

第三十五條　本則施行ノ際現ニ牛乳營業又ハ乳製品製造營業ヲ爲スモノニシテ其構造本則第三條第四條第六條ノ規定ニ適合セサルモノハ明治四十二年五月三十日迄ニ移轉又ハ改造スヘシ

（第二號樣式）　用紙半紙

搾乳（乳製品製造）高届

畜牛月末現在頭數										乳汁搾取高									
乳牛（山羊）							種牡			販賣乳汁高及代價									
和洋雜計										全乳			脫脂乳			煉乳		脫脂粉乳	
										代價			代價			煉乳		脫脂粉乳	代價
牛										合			合			斤		斤	厘
山羊										〃			〃			〃		〃	〃

大正　年　月中

號名	嵐種	牝牡別	年齡	體尺	毛色	備考
角形	特徵	產地	原價	牽入年月日		

計															
								〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

右及御屆候也

年　月　日

知事宛

營業所

營業人　氏　名印

記載例

一、「ヨーグルト」「ケフヰーヤ」ハ煉乳欄ニ合記スヘシ

●牛乳營業取締規則施行細則取扱手續

明治四十二年一月十二日
京都府訓令第二號

警察署〔警察分署〕

第一條　細則第一條ノ屆出アリタルトキハ現場ニ臨檢シテ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一、屆出記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否

二、細則第二條ノ制限ニ牴觸セサルヤ否

三、細則第三條但書ニ依リ斟酌認可スヘキモノハ其理由

第二條　細則第五條ノ屆ヲ受ケタルトキハ現場ニ臨檢シテ其適否ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第三條　細則第六條ノ屆出アリタルトキハ現場ニ臨檢シテ其適否ヲ調査シ規定ニ適スルモノハ意見ヲ具シテ進達シ不適當ト認ムルモノハ構造規定ニ準據シ更ニ改修セシムヘシ

第四條　警察署警察分署ニハ牛(山羊)乳營業者臺帳(第一號樣式)竝ニ牛籍簿(第二號樣式)ヲ備付シ異動ノ都度加除スヘシ

〔京都警〕

第五條　耳環ヲ附シタル病牛ハ牛籍簿備考欄ニ耳環番號ヲ朱記シテ取締ニ便ニシ耳環ノ脫落若クハ喪失ニ係ルトキハ飼養者ノ住所氏名竝ニ病牛ノ號名及耳環番號ヲ速ニ報告スヘシ

第六條　細則第十五條ノ屆出アリタルトキハ速時臨檢シテ隔離其他ノ指揮ヲ爲シ其狀況ヲ卽報スヘシ前項隔離ノ場所他ノ警察署又ハ警察分署ノ所轄ニ係ルトキハ速ニ通報シテ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第七條　耳環ヲ附シ又ハ傳染性疾病ニ罹レル畜牛ノ移動ヲ認可スル場合其場所他ノ警察署又ハ警察分署ノ所轄ニ係ルトキハ速ニ通報スヘシ

第八條　細則第十八條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ獸醫ノ診斷ヲ受ケシメ支障ナシト認ムルモノニ限リ認可スヘシ

第九條　消毒乳、脫脂乳又ハ其他ノ名稱ヲ附シテ乳汁ヲ販賣セントスル者アルトキハ使用機械ノ種類竝ニ加工方法ヲ詳記セル書面ヲ徵シ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第十條　細則第三十條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ事由ヲ詳具シ申報スヘシ

第十一條　警察署長警察分署長ハ毎年一回以上營業所ニ臨檢シテ左記各號ノ視察ヲ爲シ尙警部又ハ巡査部長ヲシテ時々臨檢セシムヘシ

一　構造設備ニ關シ危險又ハ衛生上支障ノ點ナキヤ否

二　傳染性疾患者ヲシテ營業ニ干與セシメ居ラサルヤ否

三　掃除行屆キ居ルヤ否

四　尿及汚水溜、糞及不潔物置場ハ充溢シ居ラサルヤ否

五　畜牛ノ運動ハ適度ニ實行セシメアルヤ否

〔京都警〕

六　病牛隔離ノ狀況

七　搾取ヲ停止シタル乳牛ヨリ搾乳シ居ラサルヤ否

八　取扱室以外ニ於テ乳汁ヲ取扱ヒ居ラサルヤ否

九　乳汁容器、詰栓、濾過布竝ニ乳製品製造ニ要スル器具器械ハ清潔ニ取扱ヒ居ルヤ否

十　前各號ノ外取締上必要ト認ムル事項

第一號樣式（用紙半紙）

商號	何々牧場又ハ何々搾取所若クハ何々製造所	營業者	住所（原籍ト異ナル場合ハ併記スルコト）	氏名 年齡
		管理人	同前	
沿革	年　月　日認可 年　月　日何郡何町何村字何番地某ヨリ讓受 年　月　日何々增築又ハ改築認可 何々			

第二號樣式（用紙半紙）

號名	角形
胤種	特徵
牝牡別	產地
年齡	原價

體尺		牽入年月日
毛色		
備考	年月日何地何某ニリ買、讓受又ハ賣、讓渡 年月日出産母牛名（出産ノ場合）	

●牛乳容器ノ封緘牛乳取扱所構造設備ニ關スル件

明治三十七年五月
警衛辰第三五三四號

〔府令第二十三號牛乳營業取締規則施行細則中改正追加ニ係ル〕牛乳容器ノ封緘及牛乳取扱所構造設備ニ付市部各署衛生專務員協議會ニ於テ左ノ通決議候ニ付爲心得此段及通牒候也

一　牛乳容器ノ封緘ノ記載方ハ搾取所又ハ請賣所又ハ販賣所ノ住所氏名若クハ住所ト何々譬ヘハ新見（搾取所）又ハ中村等（請賣所）（販賣所）ト記載セシメ一見其配達元ヲ知得スルニ便ナラシムルコト

一　牛乳取扱所ノ構造設備ハ一區劃ヲ設ケシメ厠圃及不潔ノ場所トハ接近セシメス牛乳ニ關スル取扱ハ總テ取扱所内ニ於テシ譬ヒ空壜洗滌等ニ至ル迄モ所外ニ於テ爲サシメサル趣旨ニ付其ノ方法ニ基キ設備セシムルコト

●農乳搾取業取締規則

大正十五年九月二十八日
京都府令第百七十九號

〔京都警〕

農乳搾取業取締規則左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農乳搾取業取締規則

第一條　牛乳ヲ搾取販賣セムトスル者其ノ飼養スル乳牛二頭以内ナルトキハ其ノ構造設備ニ付キ本則ニ依リ知事ノ認可ヲ受クルニ於テハ明治四十一年十月京都府令第六十九號牛乳營業取締規則施行細則ハ本則ニ別段ノ定メナキ限リ之ヲ適用セズ但シ公害アリト認ムル土地ニハ認可ヲ與ヘザルコトアルヘシ

第二條　知事ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ牛舍ヨリ六百メートル以内ノ地ニ搾乳室及牛乳取扱室ヲ設備スベシ

前項ノ距離ハ土地ノ情況ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

第三條　牛舍、搾乳室及牛乳取扱室ハ互ニ區劃シ後方ニ汚水溝ヲ設ケ汚水ヲ屋外ニ築造スル汚水溜ニ疏通セシムルコトヲ要ス

第四條　牛舍、搾乳室及牛乳取扱室ノ地盤竝汚水溜ハ不滲透質材料ヲ以テ築造シ汚水溜ニハ覆蓋ヲ施スベシ

第五條　搾乳室及牛乳取扱室ハ二人以上共同シテ設置使用スルコトヲ妨ゲズ此ノ場合ニ於テハ前條ノ構造ニ準ジテ築造シタル乳牛繋留所ヲ附設スベシ

第六條　本則ニ依リ牛乳ノ搾取販賣ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付シ所轄警察署ヲ經由シテ知事ニ提出スベシ

其ノ設備ヲ移轉、改築、增築シ若ハ其ノ構造ヲ變更セムトスルトキ亦同ジ但シ此ノ場合ニ於テハ工事ニ關係ナキ書類ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一牛舍、搾乳室、牛乳取扱室及乳牛繋留所間ノ距離及搾乳室ヲ中心トスル周圍六百メートル内ノ土地ノ狀態ヲ知ルニ足ル見取圖

二牛舍、搾乳室、牛乳取扱室及乳牛繋留所ノ坪數竝其ノ構造仕樣書

三飼養乳牛ノ頭數

四工事落成期日

其ノ他人ノ搾乳室、牛乳取扱室及乳牛繋留所ヲ使用セムトスル者ニ在リテハ願書ニ牛舍ノ坪數竝其ノ構造仕樣書、前項第一號、第三號ノ書類及所有者ノ承諾書ヲ添付スベシ

知事必要アリト認ムルトキハ本條ニ規定スルモノノ外必要ナル書類ノ提出若ハ設備ヲ命ズルコトアルベシ

第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ハ正副二通提出スルコトヲ要ス

第七條　前條ノ工事落成シタルトキハ所轄警察署長ノ使用認可ヲ受クベシ

第八條　本則ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ搾乳ニ從事セシムル者ノ住所氏名及年齡ヲ所轄警察署ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆書ニハ醫師ノ健康證明書ヲ添付スベシ

第九條　搾乳室以外ニ於テ搾乳シ又ハ牛乳取扱室以外ニ於テ牛乳ノ詰替其ノ他ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條　本則ニ依リ搾取シタル牛乳ニハ其ノ封緘票紙ニ「農乳」ノ二字ヲ明記スベシ

第十一條　第六條第三項ノ命令ニ從ハザル者竝第七條及第八條乃至第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二條　本則ニ依リ認可ヲ得タル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラズ

本則ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ガルルコトヲ得ズ

第十三條　明治四十一年京都府令第六十九號牛乳營業取締規則施行細則第六條乃至第十三條、第十五條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條ノ規定及其ノ罰則ハ之ヲ本則ニ適用ス

第十四條　本則ニ依ル牛舍、搾乳室、牛乳取扱室及乳牛繋留所ハ前條ノ適用ニ關シ之ヲ牛乳搾取所ト看做ス

●牛羊乳檢査手續

明治三十六年二月
衛訓第九號

第一條　牛羊乳ノ檢査ハ搾取場、販賣所ニ就キ又ハ配達ノ途中ニ在ルモノニ對シ之ヲ行フ

第二條　配達途中ニ於ケル檢査ハ毎月一回若ハ二回、搾取場販賣所ニ就テノ檢査ハ必要ト認ムル場合之ヲ行フヘシ

第三條　搾取場、販賣所ニ就テ檢査スルトキハ搾乳ヲ他ニ搬出セサル前警察官吏及技師又ハ技術員現場ニ臨ミ之ヲ行ヒ其檢査ノ了ルマテ場所内ニ存在スル總テノ牛羊乳ハ他ニ搬出ヲ差止ヘシ

第四條　配達途中ノ牛羊乳ヲ檢査スルトキハ便宜ノ方法ヲ以テ巡査ニ祕密命令シ一齊ニ收去セシメ警察署若クハ分署ニ於テ檢査スヘシ

前項ノ收去量ハ約一合タルヘシ但シ檢査上必要アリタルトキハ此限リニアラス

〔京都警〕

第五條　牛羊乳ヲ收去スルトキハ第一號樣式ノ證書ヲ交付スヘシ但シ場合ニヨリ名刺裏面ニ第一號樣式ノ事項ヲ記シ收去證ニ換フルコトヲ得

前項ノ收去證ヲ携帶スル配達人ノ牛羊乳ハ當日他ニ於テ收去スヘカラス

第六條　收去シタル容器ハ封緘シ收去ノ場所年月日時營業者ノ住所氏名收去者ノ官氏名ヲ記シ添付スヘシ

第七條　牛羊乳ヲ檢査シタルトキハ第二號樣式ノ檢査臺帳ニ記入シ三號樣式ノ成績書ヲ製シ警察部ニ報告スヘシ

第八條　乳製品製造場及販賣所ハ時々巡檢シ檢査ノ必要ヲ認メタル時ハ第五條第六條第七條ヲ準用スヘシ

第九條　京都市内及桂、花園、下鴨、醍醐、向日町ノ各警察署分署部内ニ於ケル搾取場、販賣所ニ就テノ檢査ハ豫メ其日時ヲ警察部ニ通報シ技師又ハ技術員ノ派遣ヲ請求スヘシ

配達途中ニ於ケル檢査ハ署員中斯術ニ慣熟セル者ヲシテ先ツ試驗ヲ爲サシメ其成績不良ニシテ刑事訴追ニ付スヘキモノアルトキハ技師又ハ技術員ノ派遣ヲ請求スヘシ

第一號樣式（半紙四ツ切）

第二號樣式

牛羊乳檢査成績臺帖

檢査年月日時	檢査主任印	種別	色	臭味	反應	脂肪比重	良否	處分結果	營業者住所氏名

〔京都警〕

收去證

收去場所	品目數量	營業者住所氏名

右爲檢査收去ス
年月日時

署
官氏
名印

牛羊乳檢査成績表

檢査年月日時	種別	色	臭味	反應	脂肪比重	良否	處分結果	營業者住所氏名

何警察(分)署

〔京都警〕

備考

●乳牛診察ノ場合屆出ヘキ事項

明治三十三年八月七日
京都府令第七十三號

獸醫ニ於テ乳牛ヲ診察シタルトキ左記各號ノ場合ニ於テ其乳牛ノ所有者若クハ管理人ニ告知シ且乳牛ノ種別年齡毛色特徵檢査番號及乳牛ノ所有者住所氏名ヲ直チニ警察官吏ニ屆出ヘシ

一　牛疫、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性舌口瘡、狂犬病、結核、疝痛、黄胆「アタチノミコーゼ」氣腫疽、赤痢、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症中毒、亞布答、腐敗性子宮炎、其他熱性諸病ニ罹リタルモノト診斷シタルトキ

二　乳牛中ニ移行スヘキ毒藥劇藥ヲ服用セシメタルトキ

三　乳牛ニ「ツベルクリン」ヲ注射シタルトキ

前項ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●清涼飲料水營業取締規則施行細則

明治三十三年七月四日
京都府令第六十號

改正　明治三四年京都府令第一九號、三五年第一四號、四二年第三六號、四四年第九七號、四五年第四九號、大正三年第二號

第一條　清涼飲料水ノ製造營業認可ヲ受ケントスルモノハ製造ノ飲料及用水五合以上ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ屆出ヘシ但用水ハ製造場又ハ其附屬地内ニアル水タルヲ要ス但上水道ノ水ヲ使用スルモノハ用水ヲ添フルヲ要セス

第二條　前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ詳具スヘシ其事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

一　名稱
二　原料名及配合分量
三　製法
四　製造場ノ位置
五　製造器械ノ名稱及其個數
六　製造場ノ構造仕樣書及圖面
七　用水ノ種類及所在地名番號
八　落成期日

蒸汽力、電動力、石油發動機ノ類ヲ使用シ製造營業ヲ爲サントスルモノ

ハ明治二十九年(十月)府令第四十五號製造場取締規則ヲ遵守スヘシ

第三條　製造場ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出テ檢査ヲ受ケ其證ヲ得ルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第四條　製造場ノ地盤ハ不滲透質ノ材料若クハ厚板ヲ以テ敷設シ適當ノ排水溝ヲ設ケ且空氣ノ流通ニ便ナル裝置ヲ爲スヘシ

第五條　清涼飲料水ニハ第一條規定ノ用水ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第六條　炭酸含有ノ清涼飲料水製造ニ要スル炭酸瓦斯ハ適當ナル除害液ヲ貯ヘタル器中ヲ通過セシムヘシ

但既ニ精製シタル炭酸瓦斯ヲ使用スルモノハ此限リニ非ラス

第七條　清涼飲料水ノ容器ハ能ク洗淨シタル後沸騰水若クハ攝氏百度以上ノ水蒸汽中ニ三十分間以上熱スヘシ

第八條　製造器械ノ構造又ハ製造品ノ種類ニ依リ一定ノ製造場ヲ要セサルモノハ其製造方法ヲ詳具シ所轄警察官署ヲ經由シ別ニ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　製造場ハ倉庫又ハ物置等ニ兼用スヘカラス

第十條　製造場ヲ賣買、讓與、廢止又ハ相續人ノ營業繼續其他營業者ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ戸籍法ノ届出義務者ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ但賣買、讓與ニ係ルトキハ雙方連署スヘシ

第十一條　清涼飲料水ノ製造又ハ貯造ニ「タール」色素使用ノ許可ヲ受ケントスル者ハ原品ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ願出ヘシ

第十二條　清涼飲料水ノ封緘又ハ封緘票紙記載ノ製造年月日省略ノ許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ記シ所轄警察官署ニ願出ヘシ

第十三條　正當ノ事由ナクシテ左記各號ノ一ニ牴觸スルモノハ認可ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ

一　認可ノ日ヨリ三ケ月以内ニ工事ニ著手セサルトキ

二　落成期日ヲ經過シタルトキ

三　一ケ年以上休業シタルトキ

第十四條　二ケ月以上休業シタル製造場ニ於テ製造販賣ヲ開始セントスルトキハ所轄警察官署ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ

第十五條　清涼飲料水製造營業者ハ其年中製造シタル總量ヲ左記第一號樣式ニ依リ翌年一月末日迄ニ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

第十六條　本則第三條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十四條ニ違背シタルモノハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十七條　本則ハ「ラムネ」ニ關シテハ本令發布ノ日ヨリ施行シ其他ノ清涼飲料水ニ關シテハ本年九月一日ヨリ施行ス

第十八條　既ニ當廳ノ認可ヲ受ケ製造販賣ノ營業ヲ爲スモノハ各施行期日後一ケ月内ニ本則ニ依リ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

(第一號樣式)

清涼飲料水製造高届　　大正年中

リモナーデ(果實水)		合
沸騰リモナーデ(ラムネノ類サイダーノ類)		合
ソーダ水		合
雜類		合
合計		合

【京都警】

右及御届候也

年　月　日

住所

營業人　氏

名印

知事宛

記載例

一、リモナーデ(果實水)ノ欄ニハ蜜柑水「レモン」水、葡萄水、苺水、「アンズ」水、林檎水、梨水ノ類ヲ記入スヘシ

二、「サイダー」ノ類ニハ「シトロン」「オレンヂ」「シナルコ」「ジンジヤー」ノ類ヲ記入スヘシ

三、「ソーダ」水ノ欄ニハ平野水、箱根水ノ類ヲ記入スヘシ

四、雜類ニハ蜜柑蜜、「レモン」蜜、葡萄蜜ノ如キ果實蜜及薄荷水桂皮水ノ類ヲ記入スヘシ

●清涼飲料水營業取締規則施行細則取扱手續

明治四十二年五月十一日
京都府訓令第二十九號

改正　明治四四年京都府訓令第四二號

【警察署　警察分署】

第一條　細則第一條ノ届出ヲ受ケタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ但用水ハ警察官立會汲取ラシメタル上封印ヲ施シ届出人ヲシテ送達ノ手續ヲ爲サシムヘシ

一　記載事項ハ具備スルヤ且ツ事實相違ノ廉ナキヤ否

二　御陵墓トノ距離竝ニ公害ノ有無

第二條　細則第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ現場臨檢適否ヲ調査シ其適合セルモノハ第一號樣式ノ檢査證ヲ交付シ不適合ノモノハ改修セシムヘシ

第三條　細則第八條ニ依リ認可ヲ請フ者アルトキハ事實竝ニ支障ノ有無ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第四條　細則第十一條第十二條ニ依リ許可ヲ請フ者アルトキハ第十一條ニ係ルモノハ其儘進達シ第十二條ニ係ルモノハ其事實ヲ調査シ支障ナシト認ムルモノニ限リ許可スヘシ但許可シタルトキハ其年月日、許可ノ種別、營業人ノ住所氏名及容器ノ種類ヲ記シ報告スヘシ

第五條　細則第十三條ノ處分ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ報告スヘシ

第六條　警察署長警察分署長ハ巡査ヲシテ時々營業場所ニ臨檢セシメ違背ノ行爲ナキヤ否視察セシムヘシ

第七條　警察署警察分署ニハ第二號樣式ノ臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第一號樣式

表

第　號

住所族籍

氏

名

、、、水製造場檢査證

年　月　日

(用紙鳥ノ子紙)

裏

●何　警　察（分）　署印

竪　五寸
輻三寸五分

第二號樣式（用紙半紙）

製造品目	ラムネ（又ハ「モナヂ」ノ如ク）	住所	
備考	明治　年　月　日認可 同　年　月　日何郡市何町村字何々番地某ヨリ買受ク 同　年　月　日廢業 同　年　月　日失效命令 何々	營業人　氏名	

●清涼飲料水營業取締ニ關シ稅務官廳ト連絡ノ件

大正十五年六月十一日
京都府訓令第十一號

警察部　警察署

【京都警】

炭酸瓦斯ヲ含有スル清涼飲料ニ付テハ本年四月一日ヨリ清涼飲料稅法ニ依リ課稅セラレ從ツテ其ノ製造ニ關シテハ稅務官廳ノ免許監督ヲ要スルコト相成タルニ付テハ明治三十三年內務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則ニ依ル認可監督トノ間ニ連絡一致ヲ期スル爲爾今左ノ通取扱フヘシ

第一　警察署長ニ於テ清涼飲料水製造認可ノ屆出ヲ受ケタルトキハ所轄稅務署長ヨリノ協議又ハ通報ヲ待チテ左ノ通取扱フコト

（イ）所轄稅務署長ヨリ免許スヘキモノト認ムル旨ノ通報アリタルモノハ其ノ旨副申ノ上書類ヲ進達スルコト

（ロ）不免許ノ旨通報アリタルトキハ書類ハ進達スルヲ要セス警察署長ニ於テ本人ヘ却下スルコト

第二　警察署長ニ於テ清涼飲料水製造品目追加ノ屆出ヲ受ケタルトキハ左ノ通取扱フコト

（イ）追加品目カ稅法第二條ノ種類別ニ依リ從來製造ノ品目ト其ノ種類ヲ異ニスルトキハ第一ノ（イ）、（ロ）ニ準シ取扱フコト

（ロ）追加品目カ同種類ナルトキハ所轄稅務署長ヨリノ通報ヲ要セス直ニ進達スルコト

第三　警察部ハ清涼飲料水製造營業ニ關シ左ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ年月日及事由ヲ、第一ノ（イ）、第二ノ（イ）ノ場合ニシテ認可スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署長ニ通報又ハ回答スルコト

（イ）認可（第一ノ（イ）、第二ノ（イ）ヲ除ク）不認可ノ處分ヲ爲シタル場合

（ロ）廢業ノ屆出ヲ受ケタル場合

（ハ）認可ノ取消又ハ營業禁停止ノ處分ヲ爲シタル場合

（ニ）營業者カ處罰ヲ受ケタル場合

●氷雪營業取締規則施行細則

明治四十二年四月三十日
京都府令第三十九號

改正　明治四五年京都府令第五〇號、大正元年第二〇號、三年第六號、一〇年第四〇號

第一條　氷雪ノ採收、製造營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ且原水一升以上ヲ添ヘ當廳ノ認可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但上水道ノ水ヲ使用スルモノ及雪ノ採取ニ係ルモノハ原水ヲ添フルヲ要セス

一　採收場、製造場竝ニ其附屬貯藏場ノ位置
二　原水ノ種類（井、池、河川等ノ別）
三　採收場、製造場、貯藏場ノ圖面及ヒ其構造仕樣書
四　製造機械ノ種類
五　採收、製造、貯藏ノ方法
六　法人ナルトキハ其定款
七　落成期日

第二條　蒸汽力、電動力、水力、石油發動機ノ類ヲ使用スル製造場ハ本則ニ依ルノ外明治二十九年十月當府府令第四十五號製造場取締規則ニ據ルヘシ

第三條　氷雪ノ卸賣營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　營業所竝ニ其附屬貯藏場ノ位置
二　貯藏場ノ圖面及ヒ其構造仕樣書
三　貯藏ノ方法
四　法人ナルトキハ其定款
五　落成期日

【京都警】

第四條　採收場、製造場、貯藏場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　採收場（氷ノ採收場ニ限ル）ハ田畑若クハ溝渠ヨリ高ク汚水流入ノ虞ナキ土地ニシテ其氷池ノ深サハ水量三尺以上トシ周圍竝ニ底部ハ石、煉瓦其他不滲透質ノ材料又ハ厚板ヲ以テ造リ且底部ニハ適當ノ勾配ヲ付シ殘水ノ排除ニ便ナラシムルコト但厚板ヲ用ユルモノハ底部ト地盤トノ間二寸以上ノ空隙ヲ存スルコト

二　製造場內部ノ周壁ハ厚板張、屋根裏ハ二リ双厚板張、地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ造リ適當ノ排水溝ヲ設クルコト但石、煉瓦ノ構造ニ係ルモノハ周壁ヲ厚板張ト爲スヲ要セス

三　貯藏場ノ屋根裏ハ二リ双厚板張內部ノ周壁ハ二重板張ト爲シ其間隙ニハ木屑ヲ塡充シ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ造リ且適當ノ排水溝ヲ設クルコト但石、煉瓦ノ構造ニ係ルモノハ內部ノ周壁ヲ二重板張ト爲スヲ要セス

第五條　第一條又ハ第三條ノ認可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ當廳又ハ警察官署ノ檢查ヲ受クヘシ

第六條　採收場ハ人家、墓地、火葬場、斃牛馬埋却場、交通頻繁ナル道路ヲ距ル六十間以內ノ土地ニ新設スルコトヲ得ス
前項以外ノ土地ト雖モ公害アリト認ムルトキハ認可セサルコトアルヘシ

第七條　採收場、製造場、貯藏場ヲ賣買、讓與、廢止又ハ相續人ノ營業繼續其他營業者ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ戶籍法ノ屆出義務者ヨリ十日以內ニ當廳又ハ警察官署ニ屆出ヘシ但賣買、讓與ニ係ルトキハ雙方連署スルヲ要ス

第八條　氷雪ノ採收、製造ニ係ルモノハ其採收、製造營業者、他管下ヨリノ輸入ニ係ルモノハ其卸賣營業者ヨリ數量ヲ記シタル書面ニ原品一貫目

以上ヲ添ヘ當廳ニ差出シ飲食用適合ノ試驗成績書ヲ受クルニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス但他管下ヨリノ輸入ニ係ルモノハ其産地ヲ併記スヘシ

第九條　氷雪ノ貯藏ニ付テハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　採取場又ハ製造場ヲ異ニスル氷雪ヲ同一貯藏場ニ貯藏スルトキハ區劃ヲ設クヘシ

二　飲食用氷雪ハ飲食用不適合氷雪ト同一ノ貯藏場ニ貯藏スヘカラス

三　貯藏場ニハ其ノ出入口ノ看易キ場所ニ左ノ樣式ニ依リ標札ヲ掲クヘシ

飲食用（不適合）氷雪貯藏場
用材隨意 竪三尺 幅七寸

但シ右ニ準シ額仕立ト爲スモ妨ケス

第十條　飲食用不適合ノ氷雪ヲ他ニ使用ノ目的ヲ以テ販賣セントスルトキハ其數量、使用ノ目的ヲ詳記シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ氷雪ヲ販賣シタルトキハ別ニ帳簿ヲ備ヘ其ノ年月日、數量、使用ノ目的、賣渡先職業住所氏名ヲ記入スヘシ

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ認可ヲ取消シ若クハ營業ヲ停止シ又ハ採取場、製造場、貯藏場ノ移轉改造ヲ命スルコトアルヘシ

一　認可ノ日ヨリ六ケ月以內ニ工事ニ著手セサルトキ

二　本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ

三　公害アリト認ムルニ至リタルトキ

第十二條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ採取場、製造場、貯藏場所在地ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十三條　氷雪營業者ハ其年中製造又ハ採取シタル總量ヲ翌年一月末日迄ニ左記第一號樣式ニ依リ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

第十四條　本則第二條第五條第七條第八條第九條第十條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十五條　既設ノ採取場、製造場、貯藏場ニシテ本則第四條ノ構造制限ニ適合セサルモノハ明治四十三年六月三十日迄ニ改造スヘシ

但本則第一條ノ手續ニ準シ認可ヲ受クルヲ要ス

（第一號樣式）

氷雪製造（採取）高届　　大正　年中

氷	天然	貫
	人造	同
雪		同
合計		同

右及御届候也

年　月　日　　住所
營業人　氏　　名印

知事宛

●氷雪營業取締規則施行細則取扱手續

明治四十二年五月十一日
京都府訓令第二十八號

改正　大正元年京都府訓令第九號、一〇年第一〇號

警察署（警察分署）

第一條　細則第一條第三條ニ依リ認可ヲ請フ者アルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達又ハ許否スヘシ但原水ハ警察官立會汲取ラシメタル上封印ヲ施シ申請人ヲシテ送達ノ手續ヲ爲サシムヘシ

一　記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否

二　細則第二條第六條ノ制限ニ抵觸セサルヤ其他公害ナキヤ否

第二條　細則第一條第三條ニ依リ認可シタル工事落成シタルトキハ現場臨檢適否ヲ調査シ報告スヘシ但不適合ト認ムルモノハ改修セシムヘシ

第三條　細則第八條ニ依リ當廳ニ差出スヘキ原品ハ警察官立會封印ノ上差出人ヲシテ送達ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第四條　細則第十條ニ依リ認可ヲ請フ者アルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第五條　細則第十一條ノ處分ヲ要スルトキハ事由ヲ具シ報告スヘシ

第六條　警察署長警察分署長ハ時々巡査ヲシテ氷雪營業場所同貯藏場ニ臨檢セシメ違背ノ行爲ナキヤ否視察セシムヘシ

第七條　警察署警察分署ニハ左記樣式ノ氷雪採取、製造、卸賣營業者臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スヘシ

樣式（用紙半紙）

種別	氷雪採取（製造）（卸賣）　住所 營業人　氏　名

記

一齊取締月日	品名	數量	良否	不良ノ理由	製造者住所氏名	販賣者住所氏名

清涼飲料水竝氷雪取締成績報告

大正　年　月　日
何警察署

●清涼飲料水竝氷雪取締ノ件

大正十一年六月
衛訓第三號

警察署

一清涼飲料水竝氷雪取締ノ不隨適切ニ行ハレアルヘシト雖モ目下盛夏ニ向ヒ此等飲食物ノ需用激增ノ季節ニ入リ加之近時營業者ニシテ責任ヲ輕ンシ不良品ヲ製造販賣スルモノ漸ク多ク衛生上忽諸ニ付スヘカラサルモノアリ取締上一段ノ周到ヲ要スヘシ爾今夏季ニ於テハ特ニ此等營業者ニ對シ時々一齊取締ヲ勵行シテ不正業者及不良品ノ檢擧ニ勗メ其成績ハ左ノ樣式ニ依リ報告ヲ爲シ以テ夏季ノ保健及防疫衛生ニ一層ノ力ヲ致サルヘシ

備考	明治　年　月　日認可 明治　年　月　日何々營業（改築）認可 明治　年　月　日廢業（認可取消シ又ハ營業停止） 何々

計							

備考

本報告ハ各種品目毎ニ作製スルコト

第二節　汚物

●汚物掃除法施行細則

大正七年四月十九日
京都府令第三十三號

改正　大正一〇年京都府令第九九號

第一條　掃除義務者ニ於テ掃除ジタル塵芥及汚泥ハ掃除ノ都度速ニ其ノ容器ニ收容スヘシ、容器以外ニ堆積又ハ投棄スヘカラス

第二條　掃除義務者ニ於テ備付スヘキ塵芥容器ハ内容物ヲ合シ其ノ重量ヲ十貫匁以内トシ適當ノ覆蓋及把手ヲ付シ汚物ノ漏泄ヲ防クニ足ルヘキモノヲ用ウヘシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル掃除義務者ハ其ノ汚物ヲ市設ノ塵芥置場、塵芥燒却場又ハ汚泥置場ニ搬出スヘシ但シ警察官署ノ認可ヲ受ケタル方法ニ依リ處置スルハ此限ニアラス

一　三千坪以上ノ面積ヲ有スル土地ノ所有者

二　五百坪以上ノ面積ヲ有スル諸工場、畜禽飼養場其ノ他營業上多量ノ汚物ヲ生スル場所

三　食料品市場

第四條　掃除義務者市内ニ居住セサルトキハ管理者ヲ定メ連署ヲ以テ其住所氏名ヲ市役所ニ届出ツヘシ

第五條　溝渠ノ構造ハ鐵管、石、煉瓦又ハ釉藥ヲ施シタル陶器類ヲ以テ築造シ其ノ接合部ハ適當ノ物質ヲ用キ密著セシメ汚水ノ滲漏セサル構造トナスヘシ但シ「セメント」「モルタル」其ノ他不滲透質ノ材料ヲ以テ代用スルコトヲ得

第六條　井戸流、臺所流、湯殿ノ地盤ハ石、煉瓦其ノ他不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ汚水ノ滲漏セサル構造トナスヘシ

第七條　私人ニ於テ溝渠ヲ新設若ハ改造セムトスルトキハ著手前所轄警察官署ニ届出ツヘシ、工事落成シタルトキハ檢査ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第八條　左ニ揭クル汚水ハ公共溝渠ニ排出スヘカラス但シ警察官署ノ認可ヲ受ケ適當ノ除害方法ヲ施シタルモノハ此限ニ在ラス

一　劇毒藥性ノ物質ヲ含有スルモノ

二　甚シキ臭氣ヲ發スルモノ

三　多量ノ沈澱物ヲ混スルモノ

四　外科手術ニ依リ生シタルモノ

五　屍體解剖ニ依リ生シタルモノ

六　屍體湯灌ニ依リ生シタルモノ

前項ノ汚水ハ警察官署ノ認可ヲ受ケタル場所ニ投棄スヘシ

第九條　土地ノ狀況ニ依リ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排出シ難キトキハ警察官署ノ許可ヲ受ケ汚水溜ヲ設クルコトヲ得

汚水溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ堅牢ナル覆蓋ヲ設クヘシ

汚水溜ノ汚水ハ充溢セサルニ先チ之ヲ汲取リ無害ノ場所ニ投棄スヘシ

第十條　塵芥燒却場、塵芥置場、汚泥置場ハ離宮、御陵、御墓ヲ距ル百八十間以上、社寺、官公署、學校、病院、公園、名所、舊跡、人家稠密ノ場所及交通頻繁ナル道路ヲ距ル六十間以上ニシテ障害ナキ場所ニ非サレハ設置スルコトヲ得ス

第十一條　塵芥燒却場、塵芥置場、汚泥置場ノ周圍ニハ高サ九尺以上ノ墻塀ヲ設クヘシ

第十二條　塵芥燒却場、塵芥置場、汚泥置場ヲ設置セムトスルトキハ其ノ位置、坪數、構造仕樣書及圖面ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第十三條　塵芥、汚泥ヲ運搬スル容器ハ堅牢ニシテ適當ノ覆蓋ヲ有シ臭氣ノ發散又ハ汚物ノ滲漏セサルモノヲ用ウヘシ

第十四條　塵芥、汚泥ハ運搬途中其ノ容器ヲ換ヘ又ハ所定以外ノ場所ニ投棄シ若ハ宅地埋立等ニ使用スルコトヲ得ス

第十五條　私人ニ於テ汚物取扱營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ願出テ許可ヲ受クヘシ、工事落成シタルトキハ檢査ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

一　汚物ノ種類

二　置場又ハ燒却場ノ位置、坪數、構造仕樣書、圖面並周圍百八十間以内ノ見取圖

三　運搬容器ノ種類及構造仕樣書並圖面

四　汚物ノ處置方法

五　取扱料額

第十六條　汚物ノ蒐集運搬ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　容器ハ時々洗滌シ清潔ナラシムルコト

二　汚物ヲ飛散漏洩又ハ遺棄セサルコト

三　運搬途中ニ於テハ必ス覆蓋ヲ密閉スルコト

第十七條　便所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　飲料水（上水道ヲ除ク）ヨリ二間以上ノ距離ヲ存スルコト但シ特殊ノ構造ニシテ適當ト認ムルモノハ警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

二　敷地ハ地盤ヨリ三寸以上ヲ高クスルコト

三　屎尿壺ハ内外ニ釉藥ヲ施シタル甕其ノ他不滲透質ノ材料ヲ以テ築造スルコト

四　屎尿壺ノ周圍ハ漏斗狀ニシテ厚サ三寸以上ノ「セメント」「モルタル」「コンクリート」又ハ漆喰敲トナスコト

第十八條　便所ヲ新設若ハ改築セムトスルトキハ著手前警察官署ニ届出ツヘシ、工事落成シタルトキハ檢査ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第十九條　屎尿運搬容器ハ堅牢ニ作リ密閉シ得ヘキ覆蓋ヲ備ヘ臭氣ノ發散汚汁ノ滲漏セサルモノヲ用ウヘシ

第二十條　牛馬ノ屎尿及藁草ノ運搬容器ハ本則第十三條ノ制限ニ從フヘシ

第二十一條　市内人家稠密ノ場所ニ於テハ午後七時ヨリ午前十二時迄ノ間ニ非サレハ屎尿ノ汲取及運搬ヲ爲スコトヲ得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタル特種ノ容器ヲ使用スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　本則第一條第二條第三條第四條第七條第八條第九條第十三條

第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十一條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第二十三條　既設ノ塵芥燒却場、塵芥置場又ハ汚泥置場ニシテ本則ニ牴觸スルモノハ本則施行後六ケ月以内ニ改造スヘシ

本令ハ大正七年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年七月京都府令第五十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●汚物掃除法準用ノ件

明治四十一年六月三十日
京都府令第三十五號

改正　大正一四年京都府令第六四號

左ノ地域ニ對シ明治三十三年法律第三十一號汚物掃除法ノ全部ヲ準用ス

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

一紀伊郡　伏見町、柳原町
一天田郡　福知山町
一加佐郡　舞鶴町、新舞鶴町、餘部町
一與謝郡　宮津町
一葛野郡　西院村
　嵯峨町ノ内大字天龍寺
　同下嵯峨
一紀伊郡　深草町
一久世郡　宇治町ノ内
　大字宇治町小字蓮華、妙樂、壹番、大字宇治郷小字里尻、宇文字、戸ノ内、若森、矢落、塔川、東内、又振、山田、山本、紅齊
一何鹿郡　綾部町ノ内
　大字綾部町、大字本宮町、大字綾部村小字山塚、庵ノ上、南大坪、東馬場下、西馬場下、西綾部東石ケ坪、西石ケ坪、西馬場
　大字本宮村小字上正屋、下正屋、上番取、下番取、上溝口、大字神宮寺小字南馬場、坂本、重代

●水槽便所取締規則

大正十五年六月一日
京都府令第八十號

水槽便所取締規則左ノ通定ム

水槽便所取締規則

第一條　本令ニ於テ水槽便所ト稱スルハ水ヲ使用シテ屎尿ヲ處理シタルモノヲ公共ノ水路又ハ之ニ代ルヘキ施設ニ放流スル一切ノ設備ヲ謂フ

第二條　放流汚水ニシテ左ノ水路又ハ之ニ流入スル公共ノ水路若ハ之ニ代ルヘキ施設ニ放流スル設備トナセル水槽便所ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

一　京都市水道施設ニ至ル第一疏水、第二疏水、疏水本流及疏水支流

第三條　水槽便所ヲ設置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ第九號乃至第十四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　設置者ノ住所、氏名(法人ナルトキハ其ノ代表者)
二　敷地ノ位置、建物ノ總坪數及其ノ平面圖(居室又ハ事務室ニ在リテハ各室毎ニ其ノ面積ヲ記スコト)
三　建物使用ノ目的
四　建物内ニ常住スル人員
五　通勤者アルトキハ其ノ人員及一日平均一人ノ在留時間
六　外來者一月間ノ一日平均見積人員及其ノ平均一人ノ在留時間
七　便所使用人員(第五號、第六號ニ關シテハ二十四時間ヲ以テ一人當リト看做シ計算スルコト)
八　社寺、學校、病院、劇場、集會場、旅館、料理店、市場、屠場其ノ他多衆ノ集合ヲ目的トスル建物等ニ付テハ其ノ最大收容人員
九　便所ノ位置、構造及其ノ圖面(配置圖平面圖其ノ他主要斷面圖等ハ各縮尺二十分ノ一以上)
十　淨化及消毒裝置各槽ノ有效容積及其ノ構造仕樣書
十一　便器ノ數及其ノ構造仕樣書
十二　便器ヨリ屎尿ヲ腐敗槽ニ流導スル水ノ灌注裝置及用水槽ノ構造仕樣書竝用水補給ノ方法
十三　便器ヨリ各槽ヲ經テ放流場所ニ至ル間ニ設置スル導管ノ敷設設計竝導管ノ材料構造及其ノ内徑
十四　淨化作用及消毒方法
十五　汚水放流箇所ヨリ下流三百メートル以内ニ於ケル水路又ハ溝渠ノ類ノ見取圖
十六　設計者及工事請負人アレハ其ノ住所、氏名
十七　工事落成期日

前項第一號、第三號、第八號及第十七號ヲ變更シタルトキ又ハ第七號ノ人員ニシテ更ニ其ノ五分ノ一以上ヲ增加シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第四條　前條ノ工事落成シタルトキハ知事ニ屆出テ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　水槽便所ニハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一　淨化及消毒裝置ハ腐敗槽、酸化槽、消毒槽ニ區分シ酸化槽ハ二以上ヲ設ケ其ノ一ハ必ス撒水式又ハ點滴式濾過床ト爲スヘシ其ノ鴨川(東高瀬川合流地點ヨリ下流ヲ除ク)及高野川ヨリ三百メートル以内ノ地域ニ設置スルモノニシテ此二川又ハ此二川ニ注入スル水路ニ放流スルモノナルトキハ更ニ一ノ酸化槽ヲ設置スヘシ
二　使用人員一人ニ對シ二十五リツトル以上ノ水ヲ灌注シ得ヘキ水槽ヲ設クルコト但シ水道布設地ニシテ水ノ灌注裝置ヲ水道管ニ直結シ自働的ニ用水ヲ補給シ得ル構造ニ依ルモノハ此設備ヲ省略スルコトヲ得
三　排臭、送氣ヲ完全ニスルコト
四　放流口ニハ鎖鑰ヲ具ヘタル水門ヲ設クルコト

第六條　腐敗槽、酸化槽及消毒槽ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　地盤及壁ハ厚サ二デシメートル以上ノ「コンクリート」又ハ煉瓦ノ類ヲ以テ築造シ内部ハ厚サ二センチメートル以上ノ不滲透質材料ヲ以テ塗布スルコト
二　腐敗槽ノ深サハ水平面下ニ於テ一メートル以上其ノ有效容積ハ千五百立方デシメートル以上トナシ使用人員三十人ヲ超ユルトキハ一人ニ對シ五十立方デシメートル以上ヲ增スコト但シ腐敗槽ノ容積五千立方デシメートル以上ノモノニ在リテハ淨化支障ナシト認ムル場合ニ限リ此割合ニ依ラサルコトヲ得
三　酸化槽内ノ撒水式又ハ點滴式濾過床ノ高サハ一メートル以上其ノ容積ハ七百五十立方デシメートル以上トナシ一日間ニ灌注スル汚水量ト同一以上ノ有效容積トナスコト
四　灌注裝置及汚水排出ニ要スル導管ノ接合部ハ液ノ漏泄セサル樣充分密著セシムルコト
五　各槽ノ上蓋ニハ容易ニ開閉シ得ヘキ直徑五デシメートル以上ノ大サヲ有スル檢査孔ヲ設クルコト

第七條　第五條第一號ノ樣式ニ依ラサルモノト雖モ其ノ汚水ヲ第八條ノ標

準以上ノ程度ニ淨化シ且消毒シ得ヘシト認ムルモノハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ第三條ニ準シ願出ツヘシ

第八條　水槽便所若ハ水槽便所ノ設備ヲ有スル建築物ノ所有者又ハ占有者ハ左ノ各號ノ標準ニ適合シ且消毒シタル汚水ニ非サレハ之ヲ放流スルコトヲ得ス

一　放流汚水ハ微ニ濁渇スルモ殆ト臭氣ヲ放タサルコト

二　放流汚水ハ亞硝酸又ハ硝酸ノ反應著明ナルコト

三　放流汚水ハ「メチーレンブラウ」脫色試驗ニ於テ五時間以內ニ脫色セサルコト

四　放流汚水ノ四時間ニ於ケル酸素吸收量ハ十萬分中一・五分以下タルコト

五　放流汚水ハ蛋白性「アムモニア」ヲ含有スルコトアルモ十萬分中〇・三分以下タルコト

六　放流汚水ハ原汚水ニ對シ酸素吸收量及蛋白性「アムモニア」ノ含量ニ於テ四五・〇パーセント以上ノ減少率ヲ示スコト

第九條　水槽便所ノ所有者若ハ占有者ハ便所使用人員一人毎ニ一日二十五リツトル以上ノ水ヲ便器ニ灌注スヘシ

第十條　水槽便所及其ノ放流汚水ハ檢查ノ結果其ノ構造、設備又ハ放流汚水ニシテ本令ニ適合セサルモノアリト認ムルトキハ所有者又ハ占有者ニ對シ使用、放流ヲ禁止シ若ハ構造、設備ノ修繕、改築、變更、掃除ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ依リ汚水ノ放流ヲ禁止シタルトキハ所轄警察官署長直ニ其ノ放流口ノ水門ヲ閉鎖シ鎖鑰ヲ施シ之ニ封印ヲ行フ

第十一條　前條ニ依リ汚水ノ放流ヲ禁止シタルトキハ所有者又ハ占有者ハ汚水ノ充溢セサル樣汲取ヲ爲スヘシ

第十二條　本令第十條ニ依リ便所ノ使用ヲ禁止シタルトキハ所有者又ハ占有者ハ之ニ代ルヘキ設備ヲ爲セル便所ヲ使用スヘシ

第十三條　腐敗槽ハ所轄警察官署長立會ノ上每年一回以上掃除ヲ行ヒ沈澱物ヲ除去スヘシ

前項ノ沈澱物ハ所轄警察官署長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第十四條　水槽便所ノ所有者又ハ占有者ニ變更ヲ生シタルトキハ十日以內ニ知事ニ屆出ツヘシ其ノ使用若ハ設備ヲ廢止シ又ハ再使用ヲ開始セムトスルトキ亦同シ

第十五條　本令第三條第一項及第八條ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　本令第三條第二項、第四條、第九條、第十一條乃至第十四條、第二十一條第一項ニ違反シ又ハ第十條ノ處分ヲ拒ミ若ハ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十七條　水槽便所ノ設置者、所有者若ハ占有者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス法人ニシテ其ノ代表者又ハ其ノ他ノ從業者本令ニ違反シタルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

第十八條　本令ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ所轄警察官署長ヲ經由スヘシ

附則

第十九條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條　本令ニ依リ水槽便所設置ノ許可ヲ受ケタルモノハ市街地建築物法施行規則第十二條ニ依リ汚物處理槽ノ設置ヲ承認シタルモノト看做ス

第二十一條　本令施行前市街地建築物法令ニ依リ許可シタル便所ノ構造ニシテ水ヲ使用シテ屎尿ヲ處理スル設備トナセルモノ及其ノ他ノ便所ニシテ同樣ノ設備トナセルモノハ大正十五年八月三十一日迄ニ本令第三條ニ準シ知事ニ屆出ツヘシ

前項ノ設備ニシテ本令第八條ノ標準程度以上ニ淨化サレ且消毒サルルコトノ承認ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ許可シタルモノト看做ス

●水槽便所取締規則施行手續

大正十五年六月一日
京都府訓令第九號

警察部　警察署

水槽便所取締規則施行手續左ノ通定ム

水槽便所取締規則施行手續

第一條　所轄警察官署長ニ於テ水槽便所ニ關スル願書ヲ受理シタルトキハ水槽便所取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第三條、第五條乃至第七條記載ノ該當事項ヲ調査シ意見ヲ附シ遞達スヘシ

第二條　規則第四條ノ認可ヲ爲ストキハ第一號樣式ノ認可證ヲ交付スヘシ

第三條　警察官署長ハ第二號樣式ノ臺帳ヲ備ヘ時々署員ヲシテ管內水槽便所ノ實況ヲ視察セシメ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認ムルトキハ直ニ事實ヲ詳具シ知事ニ報告スヘシ

一　放流汚水ノ渾濁シ又ハ臭氣ヲ放ツトキ

二　構造、設備ノ破損スルモ尙之ヲ使用スルモノアルトキ

三　前各號ノ外規則ニ違反スル者アリタルトキ

第四條　規則第十條第二項ノ場合ニハ第三號樣式ノ鉛封印ヲ施シ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

第五條　規則第十三條ニ依ル腐敗槽ノ掃除ハ時期ヲ愈ラサル樣留意シ沈澱物ノ處分ニ關シテハ土地ノ狀況ニ鑑ミ衞生上支障ノ有無ヲ調査シ適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第六條　規則第二十一條第一項ノ屆出ヲ受理シタルトキハ直ニ實地調査ヲ爲シ意見ヲ附シ遞達スヘシ

第七條　規則第二十一條第二項ノ承認ヲ與フルトキハ第四號樣式ノ承認證ヲ交付スヘシ

第一號樣式

住所
氏名

年月日許可水槽便所ノ使用ヲ認可ス

年月日

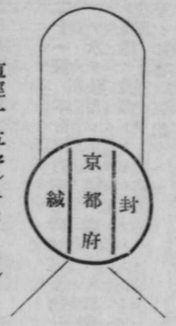
知事

第二號樣式

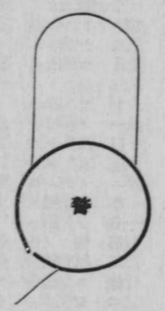
位置		
所有者又ハ占有者		
許可ノ年月日		
使用人員		
備考		

第三號樣式

表面



裏面



直徑一・五センチメートル

【京都警】

第四號樣式

市郡町村地番

何某　設置
　　占有

便所

右水槽便所取締規則第二十一條第一項ノ届出ニ依リ同條第二項ノ承認ヲ與フ

年　月　日

知事

●掃除監視吏員定員竝俸給額ニ關スル件

大正七年四月十二日
京都府令第二十九號

改正　大正八年京都府令第七五號、九年第五〇號、一三年第一二號

明治四十一年十二月京都府令第百十四號掃除監視吏員定員竝俸給ニ關スル件左ノ通改正ス

第一條　市竝汚物掃除法ヲ準用シタル町村ハ掃除監視吏員ヲ設置スヘシ

掃除監視吏員ノ定員及俸給額ハ別表ニ依ル但シ最高額ヲ受ケ二年以上ヲ經過シ成績優良ナル者ニハ特ニ月額貳拾圓以内ヲ增給スルコトヲ得

第二條　汚物掃除法ヲ準用シタル町村ハ專任ノ掃除監督長及掃除監督ヲ置カサルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ掃除監督長ノ職務ハ町村長、掃除監督ノ職務ハ町村長ノ選任シタル町村吏員之ヲ行フ

掃除監視吏員竝俸給額表

區別	定員	俸給額
掃除監督長	一人	市　月俸　五十圓以上百二十圓以下
掃除監督	五人以上十五人以下	市　月俸　二十圓以上九十五圓以下
掃除巡視	三十人以上七十人以下	市　月俸　九百圓以上千三百圓以下
掃除監督	一人	町村　年俸　二十圓以上百十圓以下

【京都警】

●京都市内屎尿運搬禁止區域

大正六年七月三日
京都府令第三十號

明治三十七年八月京都府令第二十九號京都市内屎尿運搬禁止區域ノ件左ノ通改定ス

京都市内左記道路ニ於テハ屎尿ヲ運搬スルコトヲ得ス但該道路ニ沿ヒタル場所ニ於テ汲取タル屎尿ヲ最モ近キ他ノ道路ニ出ツル迄運搬スルハ此限リニアラス

本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　烏丸通　今出川以南京都停車場以北
二　丸太町通　西堀川以東寺町以西
三　二條通　西堀川以東烏丸以西
四　二條離宮東馬場　丸太町以南押小路以北
五　三條通　烏丸以東蹴上以西
六　四條通　烏丸以東小堀以西
七　小堀通　富永町以南四條以北
八　寺町通　丸太町以南五條以北
九　三哲通　烏丸以東東洞院以西

●胞衣出産汚穢物ニ關スル件

明治二十年三月
京都府諭告第二號

從來出産ノ節胞衣ヲ邸内或ハ床下ニ埋藏シ汚穢物ハ河溝或ハ山野ニ投棄スルノ習慣有之衞生上極メテ有害ニ付自今其無害ノ地ヲ選定シ燒却若クハ埋却候樣致スヘシ

第三節　屠畜　獸肉

●屠場法施行細則

明治四十二年十二月
京都府令第百七號

改正　明治四四年京都府令第一六一號、一五年第一三一號

第一條　屠場ヲ設立セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

其第一號第二號第四號及ヒ第十號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但第八號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ屆出ツヘシ

一　位置（郡、市、町村、字、番地）

二　敷地、建物ノ坪數竝ニ敷地内建物、血液溜、汚水溜、汚物溜、用水等ノ位置ヲ示シタル圖面及ヒ其構造仕樣書

三　隣地ノ種目竝ニ最近ノ離宮、御用邸、御陵墓、社寺、學校、兵營、公園、水道、水源、人家、道路、河川、鐵道、墓地等ノ距離ヲ示シタル圖面

四　血液、汚水、汚物ノ處置方法

五　一日ノ屠殺豫定數

六　水質試驗成績書

七　市町村ノ設立ナルトキハ收支豫算決議書ノ謄本

八　法人ナルトキハ其定款

九　借地ナルトキハ其民有地ニ屬スルモノハ地主ノ承諾書、官有地ニ屬スルモノハ使用許可書ノ寫

十　落成期日

第二條　第一條ノ許可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ當廳ニ屆出テ檢査ヲ受クルニアラサレハ之レヲ使用スルコトヲ得ス

第三條　屠場主カ屠殺、解體ヲ爲サヽル屠場ニ於テ屠畜業ヲ爲サントスル者ハ屠場主連署シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　私設屠場ノ廢止、屠畜業ノ廢業又ハ屠場主、屠畜業者住所氏名ヲ變更シタルトキハ本人ヨリ其死亡ニ係ルトキハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ十日以内ニ當廳ニ屆出ツヘシ但屠畜業者ノ廢業、死亡ニ係ルトキハ屠場主連署スヘシ

第五條　屠場主又ハ屠畜業者ハ所屬屠夫ノ人員及ヒ其監督方法ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第六條　屠場主又ハ屠場業者、屠夫ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其氏名ヲ翌日屠畜檢査開始前所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第七條　屠場主又ハ屠畜業者ハ所屬屠夫ノ外屠殺解體ニ從事セシムルコトヲ得ス但家族雇人ニシテ特ニ屠畜檢査員ノ承認ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第八條　屠場主又ハ屠畜業者ハ所屬屠夫從業中清潔ニシテ且ツ標識アル一定ノ被服ヲ著用セシムヘシ

第九條　屠場主又ハ屠畜業者ハ斃畜及ヒ其筋肉、内臟類ノ取扱ヲ爲シ又ハ家族、雇人ヲシテ之ヲ爲サシムヘカラス

第十條　屠夫ノ技能不熟練又ハ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ其從業ヲ差止メ若クハ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　屠場主又ハ屠畜業者ハ屠殺ノ日時ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　屠場主又ハ屠畜業者ハ屠殺、解體スヘキ獸畜ノ種類、頭數ヲ其當日檢査開始前所轄警察官署ニ屆出且ツ檢査終了一時間前迄ニ屠場内ニ牽入レ又ハ牽入レ置カシムヘシ

前項ノ屆出ヲ爲サス又ハ規定ノ時間迄ニ牽入レサル獸畜ニ對シテハ當日檢査ヲ與ヘサルコトアルヘシ但臨時屠殺、解體ノ必要ヲ生シ特ニ所轄警察官署ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニアラス

第十三條　屠場主又ハ屠畜業者ハ開場中必ス屠場ニ出頭シ警察官吏又ハ屠畜檢査員ノ指示ニ從ヒ場内ノ取締ヲ爲スヘシ但屠場主又ハ屠畜業者支障アルトキハ代人ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　屠場主又ハ屠畜業者ハ屠場内ノ清潔及ヒ消毒ニ從事セシムル爲メ相當ノ掃除夫ヲ置キ且ツ標識アル一定ノ被服ヲ著用セシムヘシ

〔京都警〕

屠畜檢査員ノ承認ヲ得ルニアラサレハ掃除夫ヲシテ食料ニ供スル筋肉、内臟類ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十五條　屠場内ニハ警察官吏又ハ屠畜檢査員ノ承認ヲ得タル者ノ外立入リ又ハ立入ラシムヘカラス

第十六條　屠場内ニハ屠殺（解體ヲ含ム）若クハ運搬用ノ外獸畜ヲ牽入レ又ハ牽入レシムヘカラス

第十七條　屠殺スヘキ獸畜ニハ其當日勞役ヲ課スヘカラス

第十八條　筋肉ノ運搬容器ハ堅牢ナル覆蓋ヲ設ケ其内部ハ亞鉛板張リトシ底部ニ簀ヲ入レ且ツ筋肉ノ露出又ハ液汁ノ漏洩ヲ防クヘキ裝置ヲ爲シ使用ノ都度清潔ニ洗滌スヘシ皮、骨、内臟類ノ運搬容器モ亦同シ

第十九條　屠場主又ハ屠畜業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可又ハ認可ヲ取消シ若クハ業務ヲ停止スルコトアルヘシ

一　屠場設立ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三ケ月以内ニ工事ニ著手セス又ハ落成期日ヲ經過シ竣成ノ見込ナシト認ムルトキ

二　構造設備ノ變更若クハ改修ヲ命セラレ其指定期間内ニ落成セシメサルトキ

三　休業六ケ月以上ニ渉リタルトキ

四　屠場法令ニ違背シ其他不都合ノ行爲アリト認ムルトキ

第二十條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願屆ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十一條　本則第一條ニ違背シタル者又ハ第十九條ノ停止ヲ犯シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十一條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條ニ違背シタル者又ハ第十條ノ命令ニ應セサル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ拾五圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十二條　明治四十二年一月以後ニ於テ設立ノ許可ヲ受ケタル屠場ハ新ニ本則第一條ノ手續ヲ爲スヲ要セス但第四號ノ事項ニ關シテハ本則施行後十日以内ニ其處置方法ヲ定メ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　從來許可ヲ受ケタル屠畜營業者ハ本則施行ノ日ヨリ其效ヲ失フモノトス

●屠場法令取扱手續

明治四十二年十二月二十八日
京都府訓令第五十三號

〔郡役所〕警察署〔警察分署〕

第一條　細則第一條ニ依リ屠場設立又ハ其變更ノ願出ヲ受ケタルトキハ實地臨檢左ノ事項（變更ニ係ルモノハ其所要ノ事項）ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ但屠場ノ構造設備ニシテ省略許可ノ必要アリト認ムルモノハ其理由ヲ詳記スヘシ

一　離宮、御用邸、御陵墓ヲ距ル五町以上ノ土地ナルヤ否

二　社寺、學校、病院、兵營、公園、水道水源ヲ距ル二町以上ノ土地ナルヤ否

三　風教上若クハ衛生上支障ナキ土地ナルヤ否

四　獸畜ノ牽入、筋肉部ノ搬出及ヒ給水、排水上便宜ノ土地ナルヤ否

五　屠場ノ構造ハ其設備標準（明治三十九年六月内務省令第十七號）ニ牴觸セサルヤ否

六　血液、汚水、汚物等ノ處置方法ハ適當ナリヤ否

七　願書記載中不實ノ事項ハナキヤ否

八　前各號ノ外參考トナルヘキ事項

第二條　細則第二條ニ依リ工事落成ノ屆出ヲ受ケタルトキハ實地臨檢許可ノ通リ落成シ居ルヤ否ヲ調査シ報告スヘシ

第三條　法律第九條ニ依リ市町村設立屠場廢止ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其理由ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第四條　規則第二條ニ依リ屠場主名義變更ノ屆出ヲ受ケタルトキハ故障ノ有無ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第五條　規則第四條ニ依リ屠場使用料又ハ屠殺料ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ進達スヘシ

第六條　細則第三條ニ依リ屠畜業ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ屠場主ニ於テ屠殺、解體ヲ爲ササルヤ否ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第七條　細則第四條ニ依リ私設屠場ノ廢止其他ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其旨報告スヘシ

第八條　細則第五條ニ依リ屠夫ノ人員及ヒ監督方法ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ其適否ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第九條　細則第十一條ニ依リ屠殺ノ日時ニ關スル屆出ヲ受ケタルトキハ大祀、令節、國祭ノ日ヲ除キ認可スヘシ

第十條　細則第十二條第二項但書ニ依ル臨時屠殺、解體ハ事情止ヲ得スト認ムルモノニ限リ認可スヘシ

第十一條　細則第十九條ニ依リ許可、認可ノ取消シ又ハ業務停止ノ必要アリト認ムルトキハ其理由ヲ具シ報告スヘシ

第十二條　警察官吏及ヒ屠畜檢査員ハ屠殺又ハ解體ノ當日屠場ニ出張シ左ノ各號ニ依リ屠畜檢査竝ニ場内ノ取締ヲ爲スヘシ

一　屠畜ニ關スル檢査ハ別ニ定ムル檢査心得ニ依リ嚴正ニ之ヲ行フコト

二　屠場内及ヒ屠殺、解體用ノ器具器械竝ニ屠殺ニ從事スルモノノ著衣等ハ清潔ナルヤ否

三　屠肉運搬容器ハ屠肉ノ露出、液汁ノ漏洩又ハ不潔ノコトナキヤ否

四　各種ノ屠室、内臟檢査室又ハ繫留所等ヲ互ニ混用スルコトナキヤ否

五　屠殺、解體ニ關係ナキモノ、場内ニ出入スルコトナキヤ否

六　前各號ノ外屠場法令ニ違背スル行爲ナキヤ否

第十三條　警察官署長ハ時々屠場ニ臨檢シ屠畜檢査竝ニ場内取締ノ適當ニ行ハルヽヤ否ヲ監視スヘシ

●屠畜檢査心得

明治四十三年一月十一日
京都府訓令第二號

第一條　生體檢査ノ場合ハ嚴密ニ其疾病ノ有無ヲ診斷シ左ノ區別ニ依リ處置スヘシ

一　診斷上異狀ナシト認ムル獸畜ニハ五枚（豚ハ三枚）ノ木製又ハ金屬製ノ番號札ヲ添附シ健康獸繫留所ニ繫留シ順次屠場ニ牽入レシムルコト

二　診斷上左ニ該當スル疾病ニ罹レリト認ムル獸畜ハ屠殺ヲ禁スルト同時ニ右方臀部ニ規定ノ烙印ヲ爲シ且ツ其病名、種別、年齡、毛色、特徵及ヒ所有者ノ住所氏名ヲ當廳ニ即報スルコト但（イ）ニ屬スル獸畜ナルトキハ屠場法施行規則第九條ニ據ルノ外獸疫豫防法令、畜牛結核病豫防法令ニ據リ處置スルヲ要ス

（イ）鼻疽、重症結核病

（ロ）トリヒノーザス

（ハ）膿毒、敗血、尿毒等ノ諸症

（ニ）黄疸、腺疫、强直症、疥癬、榮養不良、下痢諸症、惡性腫瘍「フレグモーヂ」ニシテ症狀增進セルモノ其他熱性諸症及ヒ内外諸症ノ爲メ體溫異常ヲ呈スルモノ

第二條　屠肉及ヒ内臟類檢査ノ場合ハ牛、馬、羊ニ在リテハ肺臟心臟肝臟一組、頭舌一組、縱隔膜一組、胃十二指腸一組、豚ニ在リテハ肺臟膜膵心臟十二指腸舌一組、旋毛蟲檢査用肉一組トシ檢査臺ニ排列シ且ツ生體檢査ノ場合ニ添附シタル番號札ヲ附シタル上嚴密ニ檢査シ左ノ區別ニ依リ處置スヘシ但肺臟心臟肝臟膵臟舌頸凹咽背縱隔膜及ヒ氣管支ノ諸淋巴腺ハ剖檢スルヲ要ス

一　檢査上異狀ナシト認メ食用ニ供スル屠肉内臟類ニハ規定ノ檢印ヲ押捺スルコト

二　檢査上左ニ該當スル屠肉、内臟類ヲ檢出シタルトキハ其部分ニ對シ消毒ノ上棄却セシムルコト其（イ）ニ屬スルモノハ一定ノ場所ニ於テ燒却セシムルヲ要ス但化製センストスルトキハ嚴重ナル取締ノ下ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

（イ）結核結節

（ロ）寄生蟲、仔蟲及ヒ其卵

（ニ）惡性腫瘍

（ホ）著明ナル充血若ハ出血斑又ハ炎症狀ヲ呈スルモノ

（ヘ）氣腫、水腫

（ト）中毒症狀

（チ）（イ）乃至（ト）以外ニ於テ食用ニ供スヘカラスト認ムルモノ

第一條　屠場ニ於テ屠畜檢査ヲ受クル者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

市部	郡部
牛　馬　一頭ニ付　金五拾錢	一頭ニ付　金壹圓
犢、羊、豚　一頭ニ付　金貳拾五錢	一頭ニ付　金五拾錢

第二條　手數料ハ檢査前之ヲ徵收ス

附　則

第三條　本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條　明治四十三年京都府告示第二百三十七號ハ之ヲ廢止ス

●屠畜獸肉乳獸檢査獸醫派遣方

明治三十年九月
訓示第二〇四號

衛生課　市部警察（分）署　山科、下鴨、桂警察署
花園警察分署

其署部内屠畜獸肉乳獸等ニ關スル檢査ハ衛生課ニ於テ主管シ同課付屬獸醫ヲシテ施行セシムヘシ警察署警察分署ニ於テ臨時右檢査ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ獸醫派遣方ヲ衛生課ニ請求スヘシ

●獸肉販賣取締規則

明治二十八年二月七日
京都府令第十三號

第一條　本則ニ於テ獸肉ト稱スルハ食料ニ供スル獸類ノ筋肉及内臟ヲ謂フ

第二條　獸肉ハ管内屠獸場ノ檢印アルモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス

管外ヨリ輸入シタルモノハ第一號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出檢査ヲ受クヘシ

但野獸肉ハ此限ニ非ス

第三條　毒殺若クハ病死ノ野獸肉ハ販賣スルコトヲ得ス

第四條　獸肉ヲ販賣又ハ請賣スル者ハ第三號行商スル者ハ第四號雛形ノ目標ヲ製シ第二號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ烙印ヲ受クヘシ

但シ販賣若クハ請賣者ハ店頭ニ掲ケ行商者ハ携帶スヘシ

第五條　獸肉販賣者改氏名廢業轉居又ハ賣肉ノ種別ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ツヘシ

第六條　二種以上ノ獸肉ヲ販賣スルトキハ其肉ニ各獸名ヲ表示スヘシ

但購買者ノ承諾ナクシテ二種以上ノ者ヲ混合シテ販賣スルコトヲ得ス

第七條　獸肉ハ清潔ナル麻布綿布其他相當ノモノヲ以テ塵埃及ヒ蚊蠅ヲ防クヘシ

第八條　獸肉置場ハ空氣ノ流通善ク地盤ハ洗滌シ得ヘキ構造トナシ該置場及肉俎其他使用器具ハ清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第九條　獸肉運搬ハ清潔ナル蓋付ノ容器ヲ用ヰ且血液ノ漏逸ヲ防クヘキ備ヲナスヘシ

第十條　警察官吏ハ獸醫立會臨時獸肉ヲ檢査シ食用ニ適セスト認ムルトキハ其販賣ヲ差止ムルコトアルヘシ

第十一條　第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法違警罪ニヨリ處分セラルヘシ

附則

第十二條　從來ノ獸肉販賣者ノ獸肉置場ニシテ本則第八條ニ牴觸スルトキハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ改築スヘシ

〔京都警〕

（第一號書式）

何府縣下屠殺何肉輸入ニ付御屆

牝牡何肉　　何百何片

右何（府縣）何郡市區何町村何號屠獸場ニ於テ本月　日屠殺シタル何肉何郡市區何町村營業人何某ヨリ購求販賣仕候間御檢査被成下度此段御屆仕候也

年　月　日　　住所　　氏　　名

何警察（分）署長

警部何　　某殿

（第二號書式）

獸肉販賣（請賣）（行商）御屆

右私儀何肉販賣（請賣）（行商）仕度候ニ付目標御烙印被成下度此段御屆仕候也

年　月　日　　住所　　販賣人　請賣人　行商人　　氏　　名

何警察（分）署長

警部何　　某殿

（第三號雛形）

所轄警察署烙印

（木製）

印　何肉販賣店

住所　氏　　名

竪三尺　横八寸

（第四號雛形）

所轄警察署烙印

（木製）

印　獸肉行商者

住所　氏　　名

竪五寸　横三寸

〔京都警〕

第四節　斃獸　化製

●斃牛馬取締規則

明治四十二年一月六日
京都府令第一號

第一條　本則ニ於テ斃牛馬ト稱スルハ明治二十九年法律第六十號獸疫豫防法及ヒ明治三十四年法律第三十五號畜牛結核病豫防法規定以外ノ疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ斃死シタル牛馬ヲ謂フ

第二條　斃牛馬ハ本則ニ依リ當廳ノ許可ヲ受ケタル斃牛馬埋却場以外ニ於テ埋却若クハ燒却シ又ハ斃牛馬解體場以外ニ於テ解體スルコトヲ得ス但特ニ解體ノ許可ヲ受ケタル化製場ニ於テ解體化製スルハ此限ニアラス

第三條　斃牛馬埋却場ヲ新設シ又ハ其取擴ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ但町村又ハ大字ノ共同ニアラサレハ許可セス

一　位置（郡、町、村、字、番地）

二　敷地ノ地種、地目、段別

三　敷地ノ周圍六十間以内ノ土地高低見取略圖

四　敷地境界ノ裝置（板塀木柵又ハ生垣等ノ別）

第四條　斃牛馬解體場ヲ新設セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　位置（郡、町、村、字、番地）

二　敷地ノ周圍六十間以内ノ土地高低見取略圖

三　敷地、建物ノ坪數及ヒ敷地内建物ノ位置ヲ示シタル平面圖竝其構造仕樣書

四　解體後ニ於ケル生皮、生骨ノ處置方法

五　落成期日

第五條　斃牛馬解體場ノ構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　敷地ノ周圍ニハ適當ノ墻塀ヲ設ケ外部ヨリ見透サヽル裝置ト爲シ且其出入口ニハ堅牢ナル錠前ヲ施スコト

二　解體室ノ地盤ハ石、煉瓦又ハ漆喰敲ト爲シ適當ノ勾配ヲ附スルコト

三　解體室内部ノ周壁ハ厚板又ハ亞鉛板ヲ以テ高サ六尺以上ノ腰張ヲ爲スコト

四　解體室ニハ出入口ノ外適當ノ窓ヲ設クルコト

五　汚物溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ敷地内適當ノ場所ニ設ケ錠前附ノ錠蓋ヲ爲スコト

六　解體室ヨリ汚物溜ニ通スル汚水溝ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スルコト

前項ノ外隨時必要ト認ムル設備ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　第四條ノ許可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ所轄警察官署ノ檢査ヲ受クヘシ

第七條　斃牛馬埋却場又ハ斃牛馬解體場ハ左ノ場所ニ設置スルヲ得ス但土地ノ狀況又ハ構造ノ模樣ニ依リ第二號ノ制限ハ御墓ヲ除クノ外斟酌許可スルコトアルヘシ

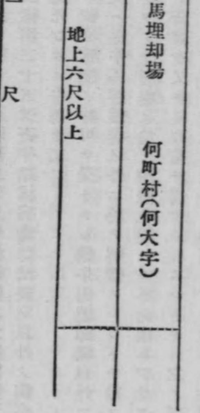
一　離宮、御用邸、御陵ヲ距ル百八十間以内ノ土地
二　御墓、學校、病院、兵營、人家、鐵道、公園、著名ノ社寺、交通頻繁ナル道路河川及ヒ飲料水ヲ距ル六十間以内ノ土地

前項以外ノ土地ト雖公害アリト認ムルトキハ許可セサルコトアルヘシ

第八條　斃牛馬埋却場ニハ第一號雛形ノ標杭ヲ建テ斃牛馬解體場ニハ第二號雛形ノ標札ヲ掲クヘシ

第一號

第二號



第九條　斃牛馬埋却場ニハ管理人ヲ置キ其住所氏名ヲ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第十條　斃牛馬ヲ埋却、燒却又ハ解體セントスル者ハ其日時、場所、種類、牝牡別、頭數ヲ記シ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ斃牛馬所在地ノ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其解體ニ係ルトキハ買入先キヲ附記スヘシ但疾病以外ノ事故ニ依リ二十四時間以内ニ斃死シタル場合ハ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スルヲ要セス

第十一條　斃牛馬ヲ埋却スル壙穴ノ深サハ八尺以上トスヘシ但燒却ニ係ルトキハ其壙穴ノ深サヲ三尺迄短縮スルコトヲ得

第十二條　解體シタル斃牛馬ノ筋肉、内臟、血液ノ類ハ警察官吏ノ指揮ニ依リ一定ノ日時汚物溜ニ入レ置キタル後ニアラサレハ斃牛馬解體場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十三條　斃牛馬解體場主ハ屠畜營業及ヒ獸肉販賣營業ヲ爲シ又ハ其家族、雇人ヲシテ之ヲ爲サシムヘカラス

第十四條　斃牛馬埋却場又ハ斃牛馬解體場ハ常ニ清潔ニ掃除スヘシ

第十五條　斃牛馬解體場ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消シ又ハ移轉、改築、修繕ヲ命シ若クハ其業務ヲ停止スルコトアルヘシ

一　正當ノ事由ナク落成期日ヲ經過シタルトキ
二　休業一年以上ニ渉リタルトキ
三　土地ノ狀況ニ依リ公害アリト認ムルニ至リタルトキ
四　本則ニ違背シ又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ

第十六條　斃牛馬埋却場、斃牛馬解體場ヲ廢止シ又ハ斃牛馬解體場ヲ賣買、讓與貸借セントスルトキハ雙方連署十日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ

第十七條　羊、豕、犬ニシテ明治二十九年法律第六十號獸疫豫防法規定以外ノ疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ斃死シタル場合ハ本則第二條第十條第十二條ヲ適用ス

第十八條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十九條　本則ニ違背シ又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

【京都書】

第二十條　斃牛馬解體場主カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキ、畜主カ未成年者ナルトキハ第十九條ノ罰則ヲ法定代理人ニ適用ス

附　則

第二十一條　既ニ許可ヲ受タル斃牛馬埋却場又ハ斃牛馬解體場ニシテ其構造設備第五條ノ制限ニ適合セサルモノ又ハ第七條規定ノ距離ヲ有セサルモノハ明治四十二年十二月三十一日迄ニ改造又ハ移轉スヘシ

●斃牛馬取締規則取扱手續

明治四十二年一月二十六日
京都府訓令第四號

第一條　規則第三條、第四條ノ書類ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ遲遲スヘシ

一　記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否
二　規則第七條ノ制限ニ牴觸セサルヤ否
三　規則第七條但書ニ依リ斟酌許可スヘキモノハ其理由

第二條　規則第四條ニ依リ許可シタル工事落成シタルトキハ現場ニ臨檢シテ其適否ヲ調査シ規定ニ適合スルモノハ使用セシメ不適合ノモノハ構造却定ニ依リ更ニ改修セシムヘシ

第三條　警察署、警察分署ニハ左記樣式ニ依リ斃牛馬埋却場及斃牛馬解體場臺帳ヲ備ヘ異動ヲ生スル毎ニ加除訂正スヘシ

樣式（用紙半紙）

位置	何郡何町村大字何々何番地

第四條　規則第十條ノ認可ヲ爲ストキハ獸疫又ハ結核病ノ爲メニ斃死シタルモノニアラサルヤ否ヲ確メ認可シタル上尚左記ニ依リ取扱フヘシ但埋却、燒却又ハ解體スヘキ場所他ノ警察署、警察分署ノ區域ニ係ルトキハ其旨通報スヘシ

一　埋却又ハ燒却ノ場合ハ規則ニ依リ其壙穴ヲ堀鑿セシメタル上埋却セシメ容易ニ發堀シ得サル樣措置セシムルコト
二　解體ノ場合ハ其筋肉、内臟、血液ノ類ハ汚物溜ニ混入セシメタル上覆蓋ヲ爲サシメ且其上ニ封印ヲ施シ置キ夏季ニアリテハ七日間冬季ニアリテハ十四日間ヲ經過シタル後封印ヲ撤去シ搬出セシムルコト

第五條　規則第十五條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ事由ヲ具シ申報スヘシ

第六條　規則第十六條ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ進達スヘシ

第七條　斃牛馬埋却場、斃牛馬解體場ハ受持巡査ヲシテ時々臨檢左ノ各號ヲ視察セシムヘシ

一　斃牛馬解體場ノ構造設備等毀損又ハ朽廢シ居ラサルヤ否
二　斃牛馬埋却場ヲ發堀シテ其死體ヲ又ハ斃牛馬解體場内汚物溜ノ封印ヲ破毀シ筋肉、内臟、血液ヲ盜ニ他ニ搬出スルカ如キコトナキヤ否
三　斃牛馬解體場内ハ清潔ニ掃除シアルヤ否
四　其他規則違犯ノ行爲ナキヤ否

種別	斃牛馬埋却場又ハ斃牛馬解體場ノ別ヲ記入ス	設置人	何町村大字名（私人ノ設置ニ係ル場合ハ其住所氏名年齢）
		管理人	住所（原籍ノ異ナルモノハ併記スルヲ要ス）　氏名　年齢
摘要	年月日　指令第　號許可 年月日　何々増築又ハ擴張許可 其他何々（主ナル變更假ヘハ場主、管理人ノ異動、賣買、讓與等ノ事項ハ凡テ記入スルモノトス）		

●斃牛馬ニ關スル獸醫診斷書式

明治三十一年一月訓示第九號

斃牛馬取締規則〔第八條〕ノ屆書ニ添付スル獸醫ノ診斷書ハ自今別紙樣式ニ準據セシムヘシ

號	斃牛馬診斷番號ヲ云フ		
診斷書		府郡町村字番戸族籍　畜主何某	
病名	炭疽熱ノ類	體尺	三尺三寸ノ類
胤體	和洋雜種牛類	角形特徴	側長角左角尖缺損類 腹部左眼白色後左白ノ類
		用役	農用ノ類

〔京都警〕

〔京都警〕

牝牡	牝ノ類	發病日時	何月何日午前後何時ノ類
毛色	黑白斑ノ類	斃死日時	同
年齢	三歳ノ類	診斷日時	
右診斷候也		備考	何年何月何日何縣何郡何村馬喰何誰ヨリ買受クノ類

明治何年何月何日

京都府何郡何町村字何々何番戸族籍

獸醫何　某㊞

●化製場取締規則

明治四十二年十一月三十日
京都府令第百二號

改正　明治四四年京都府令第一六〇號

第一條　本則ニ於テ化製場ト稱スルハ魚介鳥獸ノ皮革筋肉內臟血液其他ノ部分ヲ原料トシ精皮、精骨、脂肪、膠、肥料ノ類ヲ製造スルモノニシテ煮沸、乾燥、浸漬等ニ依リ惡臭又ハ有害瓦斯ヲ發散シ若クハ汚水ヲ生スル場所ヲ謂フ

第二條　化製場ヲ新設セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但未成年者ニアリテハ法定代理人連署スヘシ

一　名稱
二　位置（郡町村字番地）
三　敷地建物ノ坪數及ヒ敷地內建物、汚水溝、汚水溜ノ位置ヲ示シタル平面圖竝ニ其構造仕樣書
四　化製方法及ヒ原料ノ種類竝ニ一ヶ年ノ化製見込高
五　惡臭、有害瓦斯又ハ汚水ノ除害方法
六　燃料ヲ要スルモノハ其種類及ヒ一日ノ消費高
七　職工ノ員數（男女別）及ヒ始業竝ニ終業時間
八　法人ナルトキハ其定款
九　落成期日

前各號ノ外蒸汽力、電動力、石油發動機若クハ水力ヲ使用シ又ハ煙突、避雷針ヲ設クルモノハ明治二十九年京都府令第四十五號製造場取締規則ニ據ルヘシ

第三條　化製場ハ左ノ場所ニ設置スルコトヲ得ス但第二號ノ制限ハ御墓ヲ除クノ外土地ノ狀況又ハ構造ノ模樣其他化製品ノ種類ニ依リ斟酌許可スルコトアルヘシ

一　離宮、御用邸、御陵ヲ距ル百八十間以內ノ土地
二　御墓、學校、病院、兵營、人家、著名ノ社寺、公園、鐵道、交通頻繁ナル道路、河川及飲料水ヲ距ル六十間以內ノ土地

三　京都市内

前項以外ノ土地ト雖モ公害アリト認ムルトキハ許可セサルコトアルヘシ

第四條　化製場ノ構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ但撲殺解體ヲ爲サヽルモノハ第九號、乾燥シタル原料ノミヲ使用スルモノハ第四號ノ設備ヲ省略スルコトヲ得

一　敷地ノ周圍ニハ適當ノ墻垣ヲ設ケ外部ヨリ透見シ得サル裝置ト爲シ且ツ閉鎖シ得ヘキ門戸ヲ設クルコト

二　建物ノ屋根ハ不燃質ノ材料ヲ以テ葺クコト

三　化製室ヲ區劃シテ原料置場ヲ設ケ且ツ屋根ニ適當ノ臭氣拔ヲ設クルコト但乾燥シタル原料ハ化製場內ニ置クコトヲ得

四　化製室內部ノ周壁ハ石、煉瓦又ハ亞鉛板ヲ以テ構造シ若クハ厚サ八分以上ノ板ヲ以テ高サ六尺以上ノ腰張ヲ爲スコト但板張ノ部分ハ「ペンキ」塗ト爲スヲ要ス

五　化製室ノ地盤ハ石、煉瓦又ハ厚サ三寸以上ノ「コンクリート」若クハ漆喰敲トシ且ツ適當ノ勾配ヲ附スルコト但石又ハ煉瓦ノ敷設ニ係ルモノハ其繼目ヲ「セメント」ニテ塡充シ「コンクリート」若クハ漆喰敲ニ係ルモノハ「セメント」ノ上塗ヲ爲スコト

六　汚水溝ハ內外ニ釉藥ヲ施シタル土管又ハ厚サ三寸以上ノ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スルコト

七　汚水溜ハ化製室ノ外部ニ設ケ石、煉瓦又ハ厚サ三寸以上ノ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造シ其周緣ハ地盤ヨリ五寸以上ヲ高クシ且ツ堅牢ナル覆蓋ヲ設クルコト

八　漬骨溜、漬皮溜及ヒ血液溜ハ厚サ三寸以上ノ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造シ且ツ堅牢ナル覆蓋ヲ設クルコト但桶ニ浸漬シテ屋外ニ置クモノハ其地盤ヲ不滲透質ノ材料ニテ敷設スルコト

九　解體室ノ構造ハ本條第四號第五號第六號及ヒ第七號ニ據ルノ外其入口ニ堅牢ナル錠前ヲ設クルコト

十　糞及ヒ不潔物置場ハ建物ヲ距ル二間以上ノ位置ニ設ケ地盤ハ厚サ三寸以上ノ不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ高サ六尺以上ノ堅牢ナル板圍ヲ爲シ適當ノ雨除ヲ設ケ且ツ出入口ニ押戸ヲ拵メ汚物ノ散亂セサル構造ト爲スコト

十一　煮沸ニ依リ惡臭ヲ發散スルモノハ高サ二十尺以上ノ臭氣拔ヲ設クルコト

前各號ノ外必要アリト認ムルトキハ臨時設備ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　本則第二條ニ依リ許可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ當廳ニ屆出テ檢査ヲ受クルニアラサレハ之レヲ使用スルコトヲ得ス

第六條　化製原料ヲ運搬スル容器ハ堅牢ナル覆蓋ヲ設ケ其內部ヲ亞鉛板張トシ原料ノ露出若クハ汚液ノ漏洩セサル裝置ト爲スヘシ

第七條　化製場主ハ居畜又ハ獸肉販賣業ニ從事スルコトヲ得ス

第八條　化製場主ハ住所氏名ノ詳カナラサル者ト化製原料ヲ賣買授受スルコトヲ得ス

第九條　化製場ニ於テ撲殺解體ヲ爲サントスルトキハ豫メ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十條　食料ニ供スル目的ヲ以テ筋肉又ハ內臟類ヲ化製場外ニ搬出スヘカラス

第十一條　化製場外ニ於テ原料又ハ汚物ノ類ヲ乾燥スヘカラス但除毛シタル生皮ニ限リ特ニ警察官署ノ認可ヲ得テ一定ノ場所ニ乾燥スルコトヲ得

第十二條　化製場ハ常ニ淸潔ニ掃除シ汚水溜ハ時々汲取リ充溢セシムヘカラス

〔京都警〕

第十三條　化製場ヲ賣買讓與貸借シタルトキハ雙方連署シ、廢業休業復業又ハ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ本人ヨリ死亡失踪ニ係ルトキハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ十日內ニ當廳ニ屆出ツヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ又ハ移轉改築修繕ヲ命シ若クハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

一　正當ノ事由ナクシテ落成期日ヲ經過シ竣成ノ見込ナシト認ムルトキ

二　休業六ケ月以上ニ渉リタルトキ

三　土地ノ狀況ニ依リ公害アリト認ムルニ至リタルトキ

四　本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ

第十五條　化製場主ハ臺帳ヲ供ヘ原料ノ種類量目買入先及ヒ既成品販賣先竝ニ其年月日ヲ記入スヘシ

第十六條　化製場主ハ其營業ニ關シ警察官署ノ命令シタル事項ヲ遵守スヘシ

第十七條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ化製場所在地所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十八條　化製場ニハ左記雛形ノ標札ヲ門戶ニ揭出スヘシ

何々化製場	竪三尺
年月日許可	橫一尺
住所	
氏名	

第十九條　本則第二條ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處シ第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條第十七條第十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ拾五圓以下ノ科料ニ處ス

第二十條　化製場主カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法定代理人ニ適用ス但其營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニアラス

化製場主ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其代表者ヲ被告人トス、法人ノ代表者又ハ其雇人、從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキ亦同シ

附　則

第二十一條　既設ノ化製場ニシテ其構造本則ノ規定ニ適合セサルモノハ明治四十五年十一月三十日迄ニ移轉若クハ改造スヘシ

◉化製場取締規則取扱手續

明治四十二年十二月二十四日
京都府訓令第五十一號

第一條　規則第二條ノ願出ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一　願書記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否

二　規則第三條ノ制限ニ牴觸セサルヤ否

第二條　規則第五條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ現場ニ臨檢シテ其適否ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第三條　規則第九條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ撲殺解體ノ際現場ニ臨檢シ相當ノ取締ヲ爲スヘシ

第四條　規則第十一條ノ届出ヲ受ケタルトキハ周圍ノ狀況ヲ調査シ公害ナシト認ムルモノニ限リ之ヲ認可スヘシ

第五條　規則第十三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ臺帳整理ノ上速ニ進達スヘシ

第六條　規則第十四條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ事實調書ニ意見ヲ詳具シ申報スヘシ

第七條　警察署警察分署ニハ左記樣式ノ臺帳ヲ備付シ異動ノ都度加除スヘシ

第八條　化製場ニハ時々臨檢シテ左記各號ノ取締ヲ爲スヘシ

位置	何郡町村大字何々小字何々何番地
名稱	何々化製場
場主又ハ代表者	住所（原籍ト異ナルモノハ併記スルヲ要ス）　氏名　年齡
摘要	年月日指令第　號許可 年月日指令第　號何々變更許可 年月日何々異動ノ件届出 其他何々

一　化製場ノ構造設備ニシテ本則ノ制限ニ違反シ危險又ハ衞生上支障ノ點ナキヤ否

二　化製原料ヲ運搬スル容器ハ規則ニ適合セルヤ否

三　化製場主又ハ其代理人、戸主、家族、同居者、雇人、從業者屠畜若クハ獸肉販賣ニ從事スルモノナキヤ否

四　食料ニ供スル目的ヲ以テ筋肉又ハ内臟類ヲ化製場ヨリ搬出スルコトナキヤ否

五　化製場ノ掃除行屆キ居ルヤ否

前各號ノ外取締上必要ト認ムル事項

第五節　墓地　埋火葬

●墓地及埋葬取締細則

明治四十二年一月十五日
京都府令第七號

改正　大正元年京都府令第一九號、九年第一五號

第一條　墓地ヲ新設又ハ擴張セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

一　新設又ハ擴張ヲ要スル理由

二　土地一筆限調書（郡、市、町村、字、番地、地種、地目、段別、地價）

三　周圍六十間以内ノ土地高低見取略圖

四　周圍境界　裝置（塀塀、木柵、生垣等ノ別）

第二條　火葬場ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但土地ノ狀況ニ依リ簡易ノ構造裝置ト雖モ特ニ許可スルコトアルヘシ

【京都警】

一　設置ヲ要スル理由

二　土地一筆限調書（郡、市、町村、字、番地、地種、地目、段別、地價）

三　周圍百二十間以内ノ土地高低見取略圖

四　敷地、建物ノ坪數及ヒ敷地内建物ノ配置竝灰捨場ノ位置ヲ示シタル平面圖

五　建物中火葬室、汚物燒却室ノ構造材料（石、煉瓦等ノ別）及ヒ其正面圖、側面圖、隣面圖

六　建物及ヒ墻塀ノ構造仕樣書

七　煙突ノ圖面及ヒ其仕樣書（明治二十九年京都府令第四十五號製造場取締規則ニ據ル）

八　一年間ノ燒屍豫定數

九　火葬料及ヒ莊嚴料ノ定額

十　落成期日

第三條　墓地及ヒ火葬場ハ市町村ノ設置ニアラサレハ之ヲ許可セス但已ヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ限リ私人ニ許可スルコトアルヘシ

第四條　墓地及ヒ火葬場ハ新ニ左ノ場所ニ設置スルコトヲ得ス但シ既設ノ墓地又ハ火葬場ノ擴張ニ關シテハ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ斟酌許可スルコトアルヘシ

一　離宮、御用邸、御陵ヲ距ル百八十間以内ノ土地

二　御墓、學校、病院、兵營、公園、人家、鐵道、河川、著名ノ神社、交通頻繁ナル道路及ヒ飲料水ヲ距ルコト墓地ニ在リテハ六十間以内火葬場ニ在リテハ百二十間以内ノ土地

前項以外ノ土地ト雖モ公害アリト認ムルトキハ許可セサルコトアルヘシ

第五條　第二條ノ許可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ當廳ノ檢査ヲ受クヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ又ハ改葬、移轉、改築修繕ヲ命シ若クハ埋葬又ハ火葬ヲ停止スルコトアルヘシ

一　正當ノ事由ナク火葬ヲ停止シ又ハ落成期日ヲ經過シタルトキ

二　公害アリト認ムルニ至リタルトキ

三　本則ニ違背シ又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ

第七條　墓地、火葬場ヲ廢止シ又ハ火葬場ヲ賣買、讓渡、貸借セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ市町村ノ設置ニ係ルモノハ當廳ノ許可ヲ受ケ私人ノ設置ニ係ルモノハ現住職、檀徒總代連署五日以内ニ當廳ニ届出ヘシ但寺院ノ設置ニ係ルモノハ現住職、檀徒總代連署スヘシ

一　廢止又ハ賣買、讓與、貸借ノ理由

二　廢止ニ係ルトキハ土地一筆限調書（郡、市、町村、字、番地、地種、地目、段別）及ヒ其廢止後ノ變換地目

第八條　市町村ノ設置ニ係ル墓地ハ其市町村内ニ本籍ヲ有シ若クハ居住シ又ハ其市町村内ニ於テ死亡シタル者ノ埋葬ヲ火葬場ハ其市町村ノ設置ニ係ルト否トヲ問ハス何人タリト雖モ之カ火葬ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　墓地及ヒ火葬場ニハ管理者ヲ置キ其住所、氏名、年齡ヲ五日以内ニ墓地又ハ火葬場所在地ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ其異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第十條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスル者ハ左ノ書面ヲ添ヘ市町村長ニ届出認許證ヲ受クヘシ

一　主治醫ノ死亡診斷書

二　醫療ヲ受クル暇ナクシテ死亡シタルトキハ醫師ノ死體檢案書

三　妊娠四ケ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死產證書

四　變死ニ係ルトキハ檢視官ノ檢視調書ノ抄本

五　在監人ノ死亡ニ係ルトキハ監獄官ノ認印アル監獄醫ノ死亡證書寫

【京都警】

前項ノ認許證ハ埋葬又ハ火葬前之ヲ墓地又ハ火葬場管理者ニ交付スヘシ

第十一條　墓地及火葬場管理者ハ葬主ヨリ受領シタル認許證ノ餘白ヘ埋葬又ハ火葬ノ別及ヒ其年月日ヲ記入編綴シ警察官吏ノ求メアリタルトキハ提示スヘシ但保存期限ハ一ケ年トス

第十二條　壙穴ノ深サ六尺以上ニ達シ難キ土質ニ在リテハ所轄警察官署ノ認可ヲ得テ一尺以内ヲ短縮スルコトヲ得

第十三條　既設ノ墓地ト雖モ人家稠密ノ場所ヲ距ル六十間以内ノ土地ニ在リテハ火葬遺骨ノ外埋葬スルコトヲ得ス但特殊ノ事由アリト認ムルモノニ限リ本條ノ距離ヲ有セサルモ特ニ許可スルコトアルヘシ

第十四條　火葬ハ死屍ノ灰燼スルニ至ル迄火葬場管理者又ハ其代理者之ヲ監視スヘシ

第十五條　改葬ヲ爲サントスルトキハ埋葬ノ年月日及ヒ其事由ヲ具シ墓地所在地所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

但其許可書ハ現埋葬墓地及ヒ改葬スヘキ墓地ノ管理者ニ呈示スヘシ

第十六條　墓地及ヒ火葬場管理者ハ臺帳ヲ備ヘ葬主竝ニ死者ノ住所氏名及ヒ埋葬又ハ火葬ノ年月日時ヲ記入シ閲覽ヲ請フ者アルトキハ之ヲ開示スヘシ

第十七條　墓地及ヒ火葬場ハ常ニ清潔ニ掃除スヘシ

第十八條　誌銘傳贊ヲ記シタル碑表ヲ建設セントスル者ハ其建設スヘキ場所ヲ記シタル書面ニ文案竝圖面ヲ添ヘ建設地所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ墓地又ハ火葬場所在地所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十條　本則ニ違背シ又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　墓地火葬場主又ハ葬主カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ第二十條ノ罰則ヲ法定代理人ニ適用ス

墓地火葬場主カ法人ナルトキハ第二十條ノ罰則ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

附　則

第二十二條　明治八年八月號外第二十九號、明治八年九月違第四百二號、明治九年一月番外第四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●墓地及埋葬取締細則取扱手續

明治四十二年二月二日
京都府訓令第六號

〔郡役所〕警察署〔警察分署〕市役所町村役場

第一條　細則第一條第二條ノ書類ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ但墓地又ハ火葬場敷地ノ民有地ニ係ルモノハ土地一筆限調書ニ所轄稅務署ノ證印ヲ受ケシムヘシ

一　記載事項ハ具備スルヤ且事實相違ノ廉ナキヤ否

二　細則第四條ノ制限ニ牴觸セサルヤ否

三　細則第二條但書ニ依リ特ニ許可スル必要アルモノハ其理由

四　私人ノ設置ニ係ルトキハ細則第三條但書ニ依リ已ヲ得サル事由アリト認メ得ルヤ否

第二條　細則第五條ニ依リ工事落成ノ届出ヲ受ケタルトキハ其書類ニ係ルモノハ進達シ口頭ニ係ルモノハ報告スヘシ

第三條　細則第六條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ其事由ヲ具シ申報スヘシ

第四條　細則第七條ノ書類ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ但墓地又ハ火葬場敷地ノ民有地ニ係ルモノハ土地一筆限調書ニ所轄稅務署ノ證印ヲ受ケシムヘシ

町村設置ノ火葬場ヲ賣買讓與セントスル場合ハ郡參事會ノ許可書寫ヲ添附セシムヘシ

第五條　細則第十條ノ届出ヲ受ケタルトキハ左記樣式ノ認許證ヲ交付スヘシ

第六條　壙穴ノ深サ細則第十二條ノ規定ニ達シ難キモノハ實地ニ臨檢シ事實止ヲ得スト認ムルモノニ限リ認可スヘシ

第七條　細則第十三條規定ノ距離ヲ有セサル既設ノ墓地ニ埋葬セントスル者アルトキハ特殊ノ事由アリヤ否ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第八條　細則第十五條ニ依リ改葬ノ書類ヲ受ケタルトキハ傳染病ノ流行セサルトキノ外不都合ナシト認ムルモノニ限リ許可スヘシ

第九條　細則第十八條ノ書類ヲ受ケタルトキハ誌銘傳贊等ヲ調査シ不都合ナシト認ムルモノニ限リ許可スヘシ但建設地ノ官有地ニ係ルトキハ當廳ニ稟議スヘシ

第十條　墓地、火葬場ハ次席警部、巡査部長又ハ受持巡査ヲシテ時々臨檢左ノ各號ヲ視察セシムヘシ

一　墓地、火葬場ノ掃除行届キ居ルヤ否

二　火葬場ノ構造破損シ又ハ設備不完全ノ爲メ危害ヲ生スルノ虞ナキヤ否

三　細則第十條ノ認許證ヲ受ケスシテ埋葬又ハ火葬ヲ爲シ且濫ニ改葬ヲ爲ス等ノコトナキヤ否

四　埋葬、火葬ノ認許證又ハ臺帳ノ整理行届キ居ルヤ否

前項ノ外必要ト認ムル事項

認可證樣式（用紙ハ半紙二ツ切トス）

（此ノ點線ヨリ裏ヘ折返ス）

認許證

何府縣何國何市郡何町村字番地
（何所寄留又ハ何某方止宿）身分
届出人　氏　　名

印紙

病死（變死）（傳染病死）住所氏名年齡（死産ナレハ何ケ月胎兒）

右（何日午前）（後）（何時後）（直ニ）埋（火）葬認許候事

年　月　日

市町村長　氏　　名印

●墓地火葬場新設實地檢査立會方

明治十八年八月
本甲第一二八號

墓地及火葬場新設願出候節ハ實地檢査ノ爲メ衞生課員出張所轄警察署又ハ分署ヘ立會ヲ求メ候筈ニ付此場合ハ其求ニ應シ出張セシメ差閊ノ有無意見具申可致候也

●御苑内埋葬者通拔禁止ノ件

明治十四年十二月一日
京都府甲第二百二十九號

當地御苑内埋葬者通拔候テハ不都合ニ付自今右等ノ義無之樣可致此旨布達

候事

第六節　公園

●京都府公園管理竝使用規則

大正十一年十二月二十七日
京都府告示第六百二十七號

京都府公園管理竝使用規則左ノ通相定ム

第一條　府ニ於テ維持經營スル公園ノ管理竝使用ハ本則ノ定ムル所ニ據ルヘシ

第二條　公園ノ土地工作物等ハ其ノ目的ヲ損セサル範圍ニ於テ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第三條　前條ノ使用ヲ爲サムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　使用ヲ許可セラレタル者ニ對シ使用料ヲ徵收ス但シ公益ノ爲使用スル者ニ對シテハ之ヲ免除スルコトヲ得

第五條　使用許可期間ハ五箇年以內トス但シ期間滿了ニ至リ之ヲ更新スルコトヲ得

第六條　知事ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ許可ヲ取消シ使用ヲ禁止若ハ停止シ又ハ工作物ノ改造撤廢其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得但シ之ニ依リテ生シタル使用者ノ損害ニ付テハ其ノ責ニ任セス

一　府ニ於テ必要アリト認メタルトキ

二　公益上必要アリト認メタルトキ

三　本則若ハ本則施行細則又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

附　則

第七條　本則施行細則ハ知事之ヲ定ム

第八條　本則ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七節　溫泉　鑛泉

●溫泉、鑛泉取締規則

昭和二年二月二十五日
京都府令第二十一號

溫泉、鑛泉取締規則左ノ通定ム

第一條　本令ニ於テ溫泉、鑛泉ト稱スルハ地下ヨリ湧出スル泉水ニシテ浴用又ハ飮用ニ依リ醫治效能ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　本令ハ溫泉、鑛泉地域ニ之ヲ適用ス

前項ノ地域ハ別ニ指定シ之ヲ告示ス

第三條　溫泉、鑛泉ヲ試掘セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ第三號、第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　本籍、住所、氏名、生年月日、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名及定款

二　目的

三　場所

四　同一溫泉、鑛泉地域內ニ於ケル溫泉、鑛泉トノ距離

五　試掘方法、深サ、口徑、構造裝置ノ詳細及其ノ圖面

六　附近五百メートル以內ノ見取圖

七　他人ノ所有地ニ係ルトキハ其ノ地主ノ承諾書

八　試掘終了期日

第四條　前條ノ許可ヲ受ケタル者試掘ヲ中止シ又ハ試掘終了シタルトキハ其ノ旨十日以內ニ知事ニ屆出ツヘシ

第五條　溫泉、鑛泉地域ニ於テ池井、溝渠其ノ他土地ヲ深サ二メートル以上掘鑿セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ法令ニ依リ特別ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　溫泉、鑛泉ヲ使用シ又ハ存置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ第二號、第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ第三條ノ許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ第一、第二、第三、第六及第七號ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　本籍、住所、氏名、生年月日、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名及定款

二　目的

三　場所及溫泉、鑛泉名

四　一分時ノ湧出量、地下溫泉、鑛泉路ノ深サ、長サ及口徑

五　溫度、定量分析表竝效能書

六　同一溫泉、鑛泉地域內ニ於ケル溫泉、鑛泉トノ距離

七　附近五百メートル以內ノ見取圖

八　他人ノ所有地ニ係ルトキハ其ノ地主ノ承諾書

第七條　地下溫泉、鑛泉路ノ浚渫、修繕又ハ特別ノ施設ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　溫泉、鑛泉名、場所、深サ、長サ及口徑

二　方法、裝置ノ詳細及其ノ圖面

三　同一溫泉、鑛泉地域內ニ於ケル溫泉、鑛泉トノ距離

四　工事終了期日

前項ノ工事終了シタルトキハ五日以內ニ知事ニ屆出ツヘシ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第三條、第五條、第六條、第七條ノ許可ヲ取消シ又ハ原形ニ復セシメ若ハ工事ノ變更ヲ命ズルコトアルヘシ

一　既設ノ溫泉、鑛泉ニ影響ヲ及ボシ又ハ及ボスノ虞アリト認ムルトキ

二　許可事項ニ違反シテ工事ヲ爲シタルトキ

三　許可後二箇月以內ニ工事ニ著手セザルトキ

四　衛生上危害ヲ生ジ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

第九條　公益上必要ト認ムルトキハ溫泉、鑛泉ノ湧出量ヲ制限シ又ハ停止シ其ノ他ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ溫泉、鑛泉ノ所有者、使用者、管理者又ハ試掘出願者ヨリ十日以內ニ知事ニ屆出ツヘシ但シ第四號ノ場合ハ戶籍法ニ依ル屆出義務者又ハ淸算人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一　溫泉、鑛泉ノ使用若ハ存置ヲ廢止シタルトキ

二　溫泉、鑛泉涸渴シタルトキ又ハ涸渴後更ニ湧出シタルトキ

三　溫泉、鑛泉ノ所有者、使用者、管理者又ハ試掘出願者ニ變更ヲ生ジタルトキ

四　前號ノ者死亡シ又ハ法人解散シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テ賣買、讓渡ニ係ルトキハ双方連署スヘシ

第十一條　本令ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第十二條　第三條乃至第七條及第十條、第十五條又ハ本令ニ基ク命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十三條　溫泉、鑛泉ノ所有者、使用者、管理者又ハ試掘出願者ガ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス法人ニ

シテ其ノ代表者又ハ其ノ他ノ從業者本令ニ違反シタルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

附　則

第十四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條　本令施行ノ際現ニ温泉、鑛泉ヲ存置若ハ使用スル者又ハ試掘中ノ者ハ本令施行後三十日以内ニ第三條、第七條ニ準ジ許可ヲ受クベシ

●温泉、鑛泉取締規則施行手續

昭和二年二月二十五日
京都府訓令第十六號

警察部　警察署

温泉、鑛泉取締規則施行手續左ノ通定ム

温泉、鑛泉取締規則施行手續

第一條　警察署長ニ於テ温泉、鑛泉取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第三條、第六條、第七條第一項ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スベシ

温泉、鑛泉臺帳樣式（用紙美濃紙）

表

温泉、鑛泉名		
湧出ノ場所		
許可年月日		
使用又ハ存置ノ別		
一分時ノ湧出量	温度	
土地所有者ノ住所氏名		
温泉、鑛泉ノ所有者、使用者、管理者ノ住所氏名生年月日		
備考		

一　願書記載事項ハ具備シ且事實相違ナキヤ

二　規則第八條第一號及第四號ニ該當事實ノ有無

三　利害關係者ノ有無若シ有リトセバ其ノ事實詳細

四　其ノ他許否上參考トナルベキ事項

第二條　警察署長ニ於テ規則第五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ規則第八條第一號、第四號該當ノ事實ナキヤヲ調査シ支障ナシト認ムル場合ニ限リ許可スベシ

第三條　警察署長ハ規則第八條及第九條ニ該當スル事實アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ詳具シ報告スベシ

第四條　警察署長ニ於テ規則第四條、第七條第二項、第十條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ其ノ事由又ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スベシ

第五條　警察部及警察署ニハ左ノ樣式ノ温泉、鑛泉臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度整理スベシ

第六條　警察署長ハ時々署員ヲシテ温泉、鑛泉地域ヲ巡視セシメ規則違反ノ有無ヲ視察セシムベシ

〔京都警〕

裏

醫治效能	定量分析

〔京都警〕

第八節　理髪

●理髪營業取締規則

大正十四年一月二十三日
京都府令第三號

理髪營業取締規則左ノ通改正ス

理髪營業取締規則

第一條　本令ニ於テ理髪營業トハ毛髪、鬚髯ヲ剃剪シ又ハ結髪ヲ業トスルモノヲ謂フ

第二條　理髪營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日

二　營業ノ種別

三　當廳ノ理髪試驗合格證寫又ハ指定セル理髪學校、理髪講習所等ノ卒業證書寫若ハ第三十二條ノ證明寫

四　營業場ノ位置竝其ノ構造仕樣書

五　精神病及傳染性疾患竝癲癇ノ有無ニ關スル醫師ノ診斷書

前項第四號ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ノ檢査ヲ受クヘシ

第三條　家族、徒弟又ハ傭人ヲシテ業務ニ從事セシムルトキハ本籍、氏名、生年月日及前條第一項第五號ノ診斷書ヲ添付シ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第四條　結髪ヲ業トスル者ニシテ毛髪、鬚髯ヲ剃剪ノ業ヲ爲サムトスルトキハ第二條第一項第五號ヲ除キ許可ヲ受クヘシ毛髪、鬚髯ノ剃剪ヲ業トスル者ニシテ結髪ノ業ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第五條　理髪試驗ハ每年六月之ヲ行フ

理髪試驗ヲ受ケムトスル者ハ別記樣式ノ願書ニ二年以上ノ修業證明書及手札形寫眞ヲ添付シ四月中ニ提出スヘシ

第六條　理髪試驗ハ毛髪、鬚髯ノ剃剪及結髪ノ二種トシ各左ノ科目ニ付之ヲ行フ但シ他ノ府縣ニ於テ施行シタル理髪試驗ニ合格シタル者及指定セル理髪學校、理髪講習所等ヲ卒業シタル者ニハ其ノ一部ヲ省略スルコトアルヘシ

一　解剖、生理ノ大意

二　衞生及傳染病ノ大意
三　理髮營業ニ關スル法令ノ大意
四　消毒法ノ大意
五　技術

前項ノ試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付ス

第七條　不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムトシタル者又ハ試驗ニ關スル規定ニ違反シタル者ハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ事實試驗合格決定後ニ發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第八條　理髮學校、理髮講習所等ニシテ當廳ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ願出ツヘシ

一　經營者又ハ代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日法人ニ在リテハ定款又ハ寄附行爲
二　名稱、設立年月日
三　學則
四　敷地建物ノ位置及平面圖、敎室ノ數、其ノ坪數竝生徒定員
五　維持ノ方法
六　實習方法及實習用器具、器械標本等ノ目錄
七　各敎師ノ擔當科目
八　現在生徒ノ學期別人員
九　經費及最近二年間ノ豫算額竝卒業生ノ成績表
十　敎師、職員ノ履歷書

前項第三號乃至第五號ノ事項竝經營者、代表者、敎師及職員ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ但シ經營者、代表者變更ノ場合ハ繼承者ト連署スヘシ

第一項第二號第六號第七號ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ經營者、代表者ノ本

〔京都營〕

籍、住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以內ニ屆出ツヘシ

第九條　指定セル理髮學校、理髮講習所等ニ於テ學期試驗又ハ卒業試驗ヲ施行セムトスルトキハ試驗期日十日前ニ屆出ツヘシ

當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ試驗問題ノ提出又ハ其ノ變更ヲ命シ又ハ官吏ヲ立會ハシムルコトアルヘシ

第十條　指定セル理髮學校、理髮講習所等ハ卒業試驗終了後卒業者ノ本籍、住所、氏名、生年月日及試驗成績表ヲ十日以內ニ屆出ツヘシ

第十一條　指定セル理髮學校、理髮講習所等ニシテ管理及維持ノ方法不適當又ハ成績不良ナリト認ムルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條　營業場ノ地盤ハ不滲透質材料又ハ防濕方法ヲ施シタル厚板ヲ以テ造リ且洗場ヲ設ケ汚水排除ノ設備ヲ爲スヘシ

前項ハ結髮ノミヲ業トスルモノニ適用セス

第十三條　營業者、家族、徒弟、傭人ニシテ傳染性疾患ニ罹リ傳染ノ虞アルトキ若ハ精神異狀、癲癇其ノ他作業上危險ト認ムヘキ事由アルトキハ作業ニ從事スルコトヲ得ス

第十四條　警察官署長ハ必要ト認ムルトキハ營業者、家族、徒弟、傭人ニ對シ指定シタル醫師ノ診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十五條　營業場ノ構造ヲ變更セムトスルトキ又ハ所轄警察官署ノ區域內ニ於テ營業場ヲ移轉セムトスルトキハ第二條第一項第一號第四號ヲ準シ許可ヲ受クヘシ

本籍、住所、氏名、從業者ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ五日以內ニ屆出ツヘシ

營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ義務者ヨリ十日以內ニ屆出ツヘシ

第十六條　營業場ニハ客ノ見易キ場所ニ本令第十七條竝理髮料ヲ掲示スヘ

シ

第十七條　就業中ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一　營業場ハ常ニ清潔ニシ毛髮ハ一定ノ容器ニ收容スルコト
二　營業場ハ適當ナル換氣ノ方法ヲ行フコト
三　作業中ハ清潔ナル白地筒袖ノ被服ヲ著用スルコト
四　手指ノ爪ハ常ニ短剪、圓滑ニ爲シ居ルコト
五　一客ノ作業著手前ニ手指ヲ洗淨スルコト
六　椅子及枕ニハ白布ヲ覆ヒ常ニ清潔ナラシムルコト
七　枕當及首卷ハ白紙ヲ用ヒ一客每ニ取換フルコト
八　毛除覆肩掛ハ白布ヲ用ヒ常ニ清潔ナラシムルコト
九　營業用器具及附屬品ノ類ニシテ身體ニ直接シタルモノハ其ノ都度消毒ヲ行フコト
十　傳染性疾患者又ハ其ノ疑アル者ノ作業ヲ終リタルトキハ前號ニ依ルノ外直ニ其ノ手指、作業服及毛除覆ノ消毒ヲ爲スコト
十一　剃毛用石鹼ハ一客每ニ新ナルモノヲ用フルコト
十二　客ノ求メアルニアラサレハ耳內ヲ剃リ又ハ掃除ヲ爲ササルコト
十三　鼻腔ヲ剃リ又ハ掃除ヲ爲ササルコト
十四　顏面作業中ハ呼吸器ヲ使用スルコト
十五　物品ノ購買ヲ勸誘シ又ハ掲示スル料金以外ヲ請求シ若ハ其ノ暗示ヲ爲ササルコト

第十八條　消毒方法ハ左ノ七種トス

一　「フオルマリン」水消毒
「フオルマリン」水（「フオルマリン」一分水三十四分混和液）ヲ用ニ臨ミ有蓋ノ容器ニ容レ之ニ浸漬シタル後淨水ヲ以テ洗滌スルコト
二　「クレゾール」水消毒
「クレゾール」水（「クレゾール」石鹼液三分水九十七分振盪混和液）中ニ浸漬シタル後淨水ヲ以テ洗滌スルコト
三　酒精消毒
稀酒精（日本藥局方）中ニ浸漬スルコト
四　「フオルムアルデヒード」消毒
密閉セル消毒函內ノ容積三粉立方ニ對シ「フオルマリン」二「グラム」ヲ水分ト共ニ蒸發セシメタル後放置スルコト
五　蒸氣消毒
流通蒸氣ニシテ檢溫器ヲ裝置シ攝氏百度以上ノ蒸氣中ニ放置スルコト
六　煮沸消毒
沸騰點ニ達シタル熱湯中ニ浸漬スルコト
七　火焰消毒
瓦斯又ハ酒精火焰中ヲ數回通過セシムルコト

前項以外ノ方法ニ依リ消毒ヲ行ハムトスルトキハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　作業中ト雖當該官吏ノ臨檢又ハ之ニ對スル供述ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條　營業者ハ警察官署ノ區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ數警察官署ノ區域ヲ通シテ一組合ヲ設クルコトヲ得結髮業者ハ前項ニ準シ別ニ組合ヲ設クルコトヲ得

第二十一條　營業者ハ營業場所在地ノ組合ニ加入スヘシ

第二十二條　組合ハ左ノ事項ニ付規約ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　組合ノ名稱竝事務所ノ位置

〔京都營〕

二　役員ノ選任、解任方法及權限
三　組合ノ事業ニ關スルコト
四　會議ニ關スルコト
五　理髪料ニ關スルコト
六　經費豫算竝其ノ徵收ニ關スルコト
七　組合財産管理ニ關スルコト
八　違約者處分ニ關スルコト
九　組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第二十三條　組合會議ヲ開カムトスルトキハ會議ニ附スヘキ事項及其ノ日時、場所ヲ十日前ニ屆出ツヘシ但シ緊急ノ場合ハ此ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

會議ニ於テ議決シタル事項及役員ノ選任、解任ハ十日以內ニ屆出ツヘシ

第二十四條　組合ノ議決若ハ役員ノ選任、解任又ハ施行スル事項カ法令若ハ規約ニ違反シ又ハ公害アリト認ムルトキハ其ノ議決若ハ選任、解任ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止停止、若ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條　試驗願及組合ニ關スル屆ハ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ニ提出スヘシ但シ組合ニシテ數警察官署ノ區域ニ渉ルモノハ事務所所在地ノ警察官署ヲ經由スヘシ

當府管內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルモノノ試驗願ニ限リ直接當廳ニ提出スルコトヲ得

第二十六條　本令ニ違反シ若ハ他人ニ名義ヲ假シ又ハ公安、風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ若ハ禁止スルコトアルヘシ

第二十七條　第二條第一項、第三條、第四條、第十三條、第十五條第一項第二項、第十六條、第十七條、第十九條ニ違反シ若ハ第二條第二項ノ檢查ヲ受ケスシテ營業場ヲ使用シタル者、第十四條ノ命令ヲ拒ミタル者又ハ前條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

營業者ハ家族、徒弟、傭人ニシテ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

第二十八條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條　大正三年京都府令第二十一號理髪營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第三十條　第二條第一項第四號及第十二條第一項前段ノ規定ハ市街地建築物法施行細則ニ依ル申請又ハ屆出ヲ爲スヘキ場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十一條　警察官署長ハ土地ノ狀況ニ依リ當分ノ內第二條第一項第三號ヲ省略シ其ノ履歷ヲ審査シ許可スルコトヲ得

第三十二條　本令公布ノ際現ニ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可シタルモノト看做ス

前項ノ營業者ハ本令施行ノ日ヨリ二月以內ニ所轄警察官署ニ願出テ其ノ證明ヲ受クヘシ

第一項ニ該當スルモノニシテ營業場ナキ者營業場ヲ設ケムトスルトキハ第二條第一項第四號ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條　本令公布前認可ヲ受ケタル組合ハ本令施行ノ日ヨリ三月以內ニ本令ニ依リ認可ヲ受クヘシ

前項ノ期間內ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

【京都警】

理髪營業取締規則施行手續左ノ通定ム

大正十四年一月二十三日
京都府訓令第二號

警察署

理髪營業取締規則施行手續

第一條　理髪營業取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調查シ許否スヘシ

一　規則第二條第一項第三號ノ證書寫若ハ證明寫ハ本證ト相違ナク且營業ノ種別ニ適合スルヤ

二　營業場ハ規則第十二條ノ規定ニ適合スルヤ

三　規則第二條第一項第三號ノ診斷書ハ要旨ヲ具備シ且支障ナキヤ

四　自ラ業務ニ從事スルモノニ相違ナキヤ又ハ營業禁停止中ノ者ニアラスヤ

規則第四條、第十五條第一項及第三十二條第三項ノ願出アリタルトキハ其ノ必要ノ事項ニ付調查シ處理スヘシ

第二條　規則第五條又ハ第十八條第二項若ハ組合ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ內容ヲ調查シ意見ヲ附シ速ニ進達スヘシ

第三條　規則第二條第一項ニ依リ拒否シタルトキハ五日以內ニ其ノ事由ヲ具申スヘシ

第四條　規則第二十三條第三項及第二十五條ノ處分ヲ要スト認ムルトキハ其ノ事實ヲ調查シ具申スヘシ

第五條　警察官署ハ第一號樣式ノ理髪營業者從業者名簿及理髪營業者從業者除名簿ヲ調製シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

第六條　規則第三十一條ニ依ル願出アリタルトキハ左ノ事項ヲ具備スルニアラサレハ許可スルコトヲ得ス

一　營業場ノ位置ハ市、町及市ニ接續スル村ニ非サルコト

理髪試驗願

本籍
住所
氏名
生年月日

右理髪（　）試驗相受度規定書類相添此段願出候也

年　月　日

右
氏
名　印

京都府知事宛

凡例

括弧內ハ毛髪、鬚髯剃剪又ハ結髪ト記入スルコト

●理髪營業取締規則施行手續

第三編　衛生　第三章　一般衛生

【京都警】

二　履歴書ノ内容ハ理髪業ニ關シ二年以上ノ經歷ヲ有シ且理髪ニ關シ相當衛生上ノ知識ヲ有スルコト

三　營業者ナキ場合附近住民ハ困難ノ狀況ニアルコト

第一號樣式

營業種別	
營業許可年月日	
營業禁停止處分	
廢業年月日	

營業場所	
營業主氏名	
從業開始年月日	
從業廢止年月日	

凡例

理髪營業者從業者名簿ト表記シ差紙式トスルコト

營業ノ種別ニ區分シ營業者ノ次ニ其ノ從業者ヲ登載スルコト

〔京都營〕

營業者本籍、住所	
營業所	
營業者氏名	
生年月日	

本籍	
氏名	
生年月日	

第七條　規則第三十二條第二項ニ依ル願出アリタルトキハ調査ノ上第二號樣式ノ證明ヲ交付スヘシ

廢業及從業禁止屆出アリタルトキハ所定欄ニ簡單ナル事由及年月日ヲ朱記シ理髪營業者從業者除名簿ニ差替フルコト

第二號樣式

〔京都營〕

第　號

	本籍
	住所
	氏名　生年月日

右ハ大正十四年一月府令第三號理髪營業取締規則第三十二條ノ規定ニ依ル理髪（　）營業者タルコトヲ證明ス

年　月　日

警察署長　官　氏　名印

凡例

番號ハ署名頭字ヲ附シ交付ノ順序ニ依リ記入スルコト

括弧内ニハ毛髪、鬚髯剃剪又ハ結髪ト記入スルコト

第九節　保健奬勵

●保健衞生事業奬勵規程

大正十二年八月三日
京都府令第八十二號

改正　大正一五年京都府令第一二八號

保健衞生事業奬勵規程左ノ通定ム

保健衞生事業奬勵規程

第一條　市町村ニ於テ保健衞生上必要ナル施設ヲ爲スモノニ對シテハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　前條ニ依リ奬勵金ヲ交付スヘキ事業ノ種類左ノ如シ

一　飲料水及下水設備ノ改良事業

二　人體寄生蟲ノ調査及驅除事業

三　前各號ノ外必要ト認ムル施設

第三條　奬勵金交付ノ歩合ハ事業支出精算額ノ三分ノ一以内トス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ制限ニ拘ラス交付スルコトアルヘシ事業ニ付支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ之ヲ控除シタル支出精算額ニ對シ之ヲ交付ス

第四條　奬勵金ヲ受ケムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シ毎年五月十五日迄ニ知事ニ申請シ承認ヲ受クヘシ

一　事業ノ施設ヲ要スル事由

二　詳細ナル事業計畫書但シ事業カ工事ノ施行ヲ要スルモノナルトキハ工事計畫說明書、工事全部ニ係ル設計書、當該年度起業ニ係ル設計書及之ニ伴フ實測平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖、特ニ構造ヲ示スヘキ必要アルモノハ其ノ構造圖、工事著手及竣工豫定期日ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ

三　收支豫算

第五條　前條ニ依リ奬勵金交付ノ承認ヲ受ケタルモノハ其ノ事業ニ著手シ又ハ完成シ又ハ竣工シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第六條　第四條ニ依リ奬勵金交付ノ承認ヲ受ケタル事業ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ左記樣式ニ依リ奬勵金交付申請書ヲ毎年六月三十日迄ニ知事ニ提出スヘシ

第七條　奬勵金交付ノ承認ヲ受ケタル事業ニシテ其ノ計畫ヲ變更セムトスルトキハ本則第四條ニ準シ更ニ承認ヲ受クヘシ

第八條　知事ハ奬勵金交付ヲ承認シタル事業ニ就キ實地調査ヲ爲サシメ又ハ必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ奬勵金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命シ若ハ指令ヲ取消シ又ハ奬勵金ヲ減額スルコトアルヘシ

一　事業ニ付不正ノ行爲アリト認メタルトキ

二　事業ヲ廢シ又ハ停止シタルトキ

三　他ノ法令ニ據リ奬勵金又ハ補助金ヲ受ケタルトキ

樣式

保健衞生事業奬勵金交付申請書

一金　　圓　　錢也

但シ何々事業ニ關スル支出精算額三分ノ一

右奬勵金交付相成度支出精算書（寄附金又ハ收入アルトキハ其ノ明細書）添付此段及申請候也

年　月　日　　市町村長名印

知事　宛

何々事業費支出精算書

一金　　圓　　錢也　何々事業費支出精算總額

內譯

一金　　圓　　錢也　但シ何々工事用材料何々何貫匁一貫匁何圓等算出ノ基礎ヲ詳細記載スルコト

一金　　圓　　錢也　但シ何々工事人夫何名一日何圓延人員何名

一金　　圓　　錢也　但シ何々事業備品何々何個一個何圓何錢

以下之ニ倣フ

以上

何々事業費收入明細書

一金　　圓　　錢也　寄附及收入金總額

內譯

一金　　圓　　錢也　但シ年月日及寄附者ノ住所氏名寄附ノ理由等ヲ記載スルコト

一金　　圓　　錢也　但シ何々ニ依ル不用物品何々拂下代金

以下之ニ倣フ

以上

第十節　雜

●飼犬取締規則

大正三年十二月二十八日
京都府令第七十四號

改正　大正一一年京都府令第九一號

第一條　飼犬（狆ヲ含ム以下同シ）ニ關スル届出ハ所轄警察官署管內ニ屬スル警部補派出所、巡査派出所若ハ巡査駐在所ニ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ届出ハ所轄警察官署管內ニ屬スル警部補派出所、巡査派出所若ハ巡査駐在所ニ之ヲ爲スヘシ

第二條　犬ノ飼養者ハ其ノ飼養ノ日ヨリ七日以內ニ左ノ事項ヲ届出ツヘシ但シ生後六十日以內ノモノハ此ノ限ニ在ラス

一　飼養者ノ住所氏名及職業

一　犬ノ種類、牝牡別、年齡、毛色及特徵

一　飼養ノ場所カ飼養者ノ住所ト異ルトキハ其場所

飼養者ハ其ノ住所氏名又ハ飼養ノ場所ニ變更ヲ生シタルトキハ同一期間內ニ届出ヲ爲スヘシ

第三條　飼養者ハ左ノ場合ニ於テハ七日以內ニ届出ヲ爲スヘシ

一　飼養ヲ止メタルトキ

一　所在不明トナリタルトキ及之ヲ發見シタルトキ

一　斃死シタルトキ

第四條　狂犬病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル飼犬若ハ所有者ナキ犬ヲ發見シタル者ハ直ニ届出ヲ爲スヘシ

犬ニ咬傷セラレタルトキ亦同シ

第五條　飼犬ニハ飼養者ノ住所及氏名ヲ記載シタル頸環ヲ附スヘシ

前項ノ規定ニ從ハサルモノハ警察官吏ニ於テ之ヲ所有者ナキ犬ト看做スコトアルヘシ

第六條　人畜ヲ咬傷シ或ハ漫ニ咆哮狂驅スルノ癖アル飼犬ハ飼養者ニ於テ鎖ヲ以テ之ヲ繫留シ又ハ口綱ヲ嵌メ置クヘシ

前項ノ規定ニ依リタルモノト雖警察官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキハ相當ノ處置ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　警察官署ニ於テ逸走シタル飼犬ト認メタルトキハ五日以上警察官署ニ繫留シ明治三十二年三月法律第八十七號遺失物法ニ依リテ之ヲ處分ス

第八條　狂犬病發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ飼養者ニ於テ飼犬ヲ鎖ニテ繫留スヘシ但シ使用上必要アル飼犬ハ口綱ヲ施シ綱ヲ附シテ牽キ行クコトヲ得

前項適用ノ時期、區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第九條　本則第二條第三條若ハ第五條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

本則第六條第一項ノ規定若ハ第二項ノ命令ニ違反シ又ハ第八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ拘留又ハ壹圓以上ノ科料ニ處ス

附　則

第十條　本則ハ大正四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　（削除）

第十二條　本則施行前ヨリ引續キ犬ヲ飼養セムトスル者ハ施行ノ日ヨリ七日以內ニ本則ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

●飼犬取締規則執行手續

大正四年二月二十三日
京都府訓令第四號

第一條　警察官署ニ於テハ飼犬名簿ヲ別表樣式ニ從ヒテ作成シ備ヘ置クヘシ

第二條　規則第二條ノ屆出アリタルトキハ番號ヲ追ヒテ之ヲ飼犬名簿ニ記入スヘシ

規則第一條第二項ニ依リ屆出アリタルトキハ遲滯ナク所轄警察官署ヘ報告スヘシ

第三條　規則第三條ノ屆出アリタルトキハ之ヲ飼犬名簿ニ朱記スヘシ

第四條　規則第四條第一項ノ屆出アリタルトキハ屆出受領警察官吏ハ直ニ適當ノ處置ヲ爲シ且遲滯ナク當廳ヘ報告シ其ノ指揮ヲ俟ツヘシ

規則第四條第二項ノ屆出アリタルトキハ狂犬病ノ疑アラハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　規則第五條ノ規定ニ適應セサル頸環ヲ用フルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ適法ナルモノニ改メシムヘシ但シ飼養者不明ナル場合ハ規則第七條ニ依リ處分スヘシ

第六條　規則第六條第二項ノ命令及規則第七條ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ當廳ヘ報告スヘシ

第七條　本手續第二條及第三條ノ屆出第五條ニ關スル命令及第六條ノ報告ハ統計ニヲ表シ當分ノ內月報ト爲スヘシ

本手續第四條ノ處置又ハ規則第六條第二項ノ命令ヲ爲シタルトキハ之ヲ飼犬名簿ニ朱記スヘシ

飼犬名簿標式（用紙半紙）

第　號	屆出事由	年　月　日	摘要
飼養	飼養		犬ニ關スル事項
飼養止			種類
斃死			牝牡別
行衞不明			年齡
發見			毛色
飼養者ノ住所氏名及職業			特徵
飼養場所			變更
規則第四條ニ關スル事項			變更
規則第六條ニ關スル事項			

〔京都警〕

●飼犬取締規則施行地域

大正四年一月二十六日
京都府告示第六十號

改正　大正四年京都府告示第三二五號、第四八五號

一京都市
一愛宕郡田中村、下鴨村、大宮村、野口村、鞍馬口村
一葛野郡衣笠村、朱雀野村、大內村
一紀伊郡柳原町、東九條村、深草村、伏見町、堀內村
一愛宕郡白川村、修學院村、松ヶ崎村、上賀茂村、鷹ヶ峰村、雲ヶ畑村、岩倉村、八瀨村、大原村、靜市野村、鞍馬村、花脊村、久多村
一葛野郡太秦村、西院村、七條村、京極村、桂村、川岡村、松尾村、梅津村、醍醐村、花園村、小野鄕村、中川村、梅ヶ畑村
一乙訓郡一圓
紀伊郡向島村、竹田村、吉祥院村、上鳥羽村、下鳥羽村、橫大路村、納所村

一字治郡	一圓
一綴喜郡	一圓
一南桑田郡	一圓
一天田郡	一圓
一加佐郡	一圓
久世郡	一圓
相樂郡	一圓
船井郡	一圓
何鹿郡	一圓
與謝郡	一圓

●傳染病豫防法及同施行規則ニ依ル犬ノ繫留地域

大正十三年八月十三日
京都府令第六十七號

狂犬病豫防ノ爲メ家畜傳染病豫防法第十六條及同法施行規則第十二條ニ依リ當分ノ內左記地域ニ於ケル犬ノ所有者又ハ保管者ハ之ヲ繫留スヘシ、但シ豫防注射完了後十四日ヲ經過シ其後一年以內ノモノハ此限ニ在ラス

本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

記

一宇治郡	一圓
一京都市	一圓
一天田郡	一圓
一葛野郡	一圓
一愛宕郡	一圓
一紀伊郡	一圓
久世郡ノ內淀町、御牧村、宇治町	一圓
乙訓郡	一圓
一南桑田郡	龜岡町
一船井郡	園部町
一何鹿郡	綾部町
一加佐郡	舞鶴町、新舞鶴町、中舞鶴町
一與謝郡	宮津町
一綴喜郡	八幡町、井手村
一相樂郡	木津町

●犬ノ抑留ニ關スル事務取扱手續

大正十二年十二月七日
京都府訓令第三十九號

改正　大正一五年京都府訓令第五六號

狂犬病豫防ノ爲犬ノ抑留ニ關スル事務取扱手續

犬ノ抑留ニ關スル事務取扱手續左ノ通之ヲ定ム

第一條　犬ノ抑留ニ關スル各事項ヲ周知セシムル爲メ施行ノ日ヨリ三日前ニ各警察官署前ニ掲示スヘシ

第二條　犬ノ抑留ノ期日ハ捕獲施行四日前迄ニ警察部ヨリ通知スヘシ

第三條　犬捕獲人夫ハ警察部ニ於テ指定シ關係警察官署ニ通知スヘシ

第四條　犬ノ抑留ヲ施行スル警察官署ハ第一號ニヨル掲示事項ノ外犬ノ所有者又ハ保管者ノ住所氏名ヲ記載シタル頸環ヲ附スルコト及飼犬ノ所在不明トナリタルモノハ速ニ届出ツヘキコトヲ併セ掲示スヘシ

第五條　犬ノ抑留中ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲ派シ捕獲人夫ヲ指揮シ左ノ各項ニ注意ヲ爲スコトヲ要ス

(イ)　頸環ヲ附シタル犬ヲ捕獲シタル場合飼主ニ於テ返還ヲ請求シタルトキハ故ナク距絶セシメサルコト

(ロ)　捕獲人夫監督者ハ常ニ人夫ト同行シ人夫ノ作業ニ注意セシムルコト

(ハ)　捕獲ニ際シ野犬邸宅内ニ逃ケ入リタル場合ト雖其ノ家人ノ許諾アルニ非サレハ立入ルヘカラス成ルヘク家人ノ助力ヲ求メ捕獲ノ目的ヲ遂スルコトニ努ムヘシ

第六條　警察官署長ハ警察部ヨリ配布シタル左ノ樣式ノ標札ヲ野犬捕獲人夫ニ捕獲從事中携帶セシムヘシ但シ捕獲施行引續キ二日以上ニ亙ルトキハ每日引上ケ更ニ携帶セシムヘシ

〔京都警〕

表面

野犬捕獲人夫之證

寸法　横二寸　縦三寸五分　厚三分

裏面

京都府警察部印

第七條　市部ニ於テ捕獲シタル犬ハ左ノ樣式送致書ヲ調製シ一頭每ニ其ノ番號ヲ附シ京都府細菌檢査所ニ運搬スヘシ

郡部ニ於テ捕獲シタル犬ハ其ノ署管内ノ適當ナル場所ニ繫留スヘシ

〔京都警〕

川端警察署　中立賣警察署　西陣警察署
松原警察署　堀川警察署　五條警察署
七條警察署　下鴨警察署　太秦警察署
伏見警察署　向日町警察署　醍醐警察署
井手警察署　宇治警察署　家畜防疫委員

樣式

送致番號	犬ノ種類	牝牡ノ別	毛色特徴	捕獲ノ場所及日時	備考

〔京都警〕

第八條　捕獲シタル犬ハ左ノ各號ニ據リ措置スヘシ

一　捕獲シタル犬ノ種類、性、年齢、毛色及特徴之ヲ捕ヘタル場所及日時竝其ノ抑留ノ場所ヲ警察官署前及京都府細菌檢査所前ニ捕獲ノ日ヨリ三日間掲示スルコト

二　第一號ニヨリ繫留シタル犬ニ對シ其ノ期間ヲ經過スルモ届出ナキモノハ野犬ト看做シ措置スルコト

樣式

捕獲犬臺帳(報告)

施行月日	捕獲場所	捕獲犬總頭數	同上牝牡ノ別	同上措置頭數			斃死數
				飼養者ニ引渡數	細菌檢査所送致數	逃走數	

何警察署

三　繫留期間中所有者又ハ保管者ヨリ其ノ飼犬ナルコトヲ申出タルトキハ調査シ該當セル場合ハ受領書ヲ徴シ繫留期間中ノ飼養料ヲ納付セシメタル上引渡スコト

第九條　各警察官署ハ左ノ樣式ニ依リ捕獲犬臺帳ヲ備付ケ捕獲犬ノ送致ヲ終リタル日ヨリ三日以内ニ同樣式ニヨリ警察部長ニ報告スヘシ

第十條　捕獲犬化製場所轄警察官署ハ捕獲犬送致ノ通知ニ接シタルトキハ警察官吏ヲ化製場ニ派遣シ左記ノ事務ニ從事セシメ其ノ結果ヲ京都府細菌檢査所ニ通知スヘシ

一　警察官吏ハ捕獲犬收容運搬車カ到着シタルトキハ封印ヲ檢査シタル上收容車ヲ開キ犬ヲ送致書ニ照合シ直ニ死體ヲ引渡サシムルコト

第十一條　細菌檢査所ニ於テ抑留シタル犬ニ對スル處分ヲ每月左記樣式ニ